



製品を使っているときやわからないことがあったときに使うマニュアルです。



画像に位置情報を記録するには

スマートフォンで取得した位置情報を画像撮影時に記録できます。



タッチフォーカス

静止画または動画撮影時、ピントを合わせる被写体をタッチ操作で選択できます。



DSC-RX100M6 : サポート情報

カメラ本体の基本情報や対応アクセサリの情報、困ったときのQ&Aなどを説明しています。(別ウィンドウで開きます。)

各部の名称/画面表示

[各部の名称](#)

基本的な操作

[コントロールホイールの使いかた](#)

[コントロールリングの使いかた](#)

[MENUの使いかた](#)

[Fn（ファンクション）ボタンの使いかた](#)

[クイックナビの使いかた](#)

[キーボードの使いかた](#)

画面表示

[モニターに表示されるアイコン一覧](#)

[画面表示を切り換える（撮影/再生）](#)

[DISPボタン（背面モニター/ファインダー）](#)

準備

[本体と付属品を確認する](#)

バッテリー（電池）を充電する

[バッテリーを本機に入れる/取り出す](#)

[バッテリーをカメラに入れたまま充電する](#)

[パソコンに接続して充電する](#)

[バッテリーの使用時間と撮影可能枚数](#)

[外部電源で本機を使う](#)

[バッテリーについてのご注意](#)

[充電についてのご注意](#)

メモリーカード（別売）を入れる

[メモリーカードを本機に入れる/取り出す](#)

[使用できるメモリーカード](#)

[メモリーカードについてのご注意](#)

[日付と時刻を設定する](#)

[カメラ内ガイド](#)

撮影

[静止画を撮影する](#)

フォーカス（ピント）を合わせる

[フォーカスモード](#)

オートフォーカス

- [フォーカスエリア](#)
- [位相差AFについて](#)
- [フォーカススタンダード](#)
- [縦横フォーカスエリア切換（静止画）](#)
- [AF/MFコントロール](#)
- [瞳AF](#)
- [AF時の顔優先設定](#)
- [中央ボタン押しロックオンAF](#)
- [フォーカスエリア登録機能（静止画）](#)
- [登録フォーカスエリア消去（静止画）](#)
- [プリAF（静止画）](#)
- [AF補助光（静止画）](#)
- [フォーカスエリア自動消灯](#)
- [コンティニュアスAFエリア表示](#)
- [位相差AFエリア表示](#)

マニュアルフォーカス

- [マニュアルフォーカス](#)
- [ダイレクトマニュアルフォーカス（DMF）](#)
- [ピント拡大](#)
- [MFアシスト（静止画）](#)
- [ピント拡大時間](#)
- [ピント拡大初期倍率（静止画）](#)
- [ピーキング設定](#)

ドライブ機能を使う（連写/セルフタイマー）

- [ドライブモード](#)
- [連続撮影](#)
- [セルフタイマー](#)
- [セルフタイマー（連続）](#)
- [連続ブラケット](#)

[1枚ブラケット](#)

[ブラケット撮影時のインジケータ](#)

[ホワイトバランスブラケット](#)

[DROブラケット](#)

[ブラケット設定](#)

画面を見ながら自分を撮る

[自分撮りセルフタイマー](#)

タッチ機能を使う

[タッチ操作](#)

[タッチパネル/タッチパッド](#)

[タッチ撮影設定：タッチシャッター](#)

[タッチ撮影設定：タッチフォーカス](#)

[タッチパッド設定](#)

静止画の画像サイズ/画質を選ぶ

[JPEG画像サイズ（静止画）](#)

[JPEG画質（静止画）](#)

[横縦比（静止画）](#)

[ファイル形式（静止画）](#)

[パノラマ: 画像サイズ](#)

[パノラマ: 撮影方向](#)

撮影モードを変える

[モードダイヤルの機能一覧](#)

[おまかせオート](#)

[プレミアムおまかせオート](#)

[オートモードを切り替える（オートモード）](#)

[シーン認識について](#)

[プログラムオート](#)

[絞り優先](#)

[シャッタースピード優先](#)

[マニュアル露出](#)

[バルブ撮影](#)

[スイングパノラマ](#)

[シーンセレクション](#)

[呼び出し（撮影設定1/撮影設定2）](#)

[動画：露出モード](#)

[HFR（ハイレームレート）：露出モード](#)

露出/測光をコントロールする

[露出補正](#)

[露出設定ガイド](#)

[測光モード](#)

[マルチ測光時の顔優先](#)

[スポット測光位置](#)

[AEロック](#)

[シャッター半押しAEL（静止画）](#)

[露出基準調整](#)

[ゼブラ設定](#)

明るさ/コントラストを自動補正する

[Dレンジオブティマイザー（DRO）](#)

[オートHDR](#)

ISO感度を選ぶ

[ISO感度](#)

[ISO AUTO低速限界](#)

ズームする

[本機で利用できるズームの種類](#)

[ズームする](#)

[ズーム設定](#)

[ズーム倍率について](#)

[ズームスピード](#)

[スマートテレコンバーター](#)

[リングのズーム機能](#)

ホワイトバランス

- └ [ホワイトバランス](#)
- └ [AWB時の優先設定](#)
- └ [「カスタムセット」で基準の白を取り込む](#)

画像の仕上がりを設定する

- └ [クリエイティブスタイル](#)
- └ [ピクチャーエフェクト](#)
- └ [美肌効果（静止画）](#)
- └ [オートフレーミング（静止画）](#)
- └ [色空間（静止画）](#)

シャッターの設定

- └ [メモリーカードなしリリース](#)
- └ [シャッター方式（静止画）](#)

手ブレを補正する

- └ [手ブレ補正（静止画）](#)

ノイズリダクション

- └ [長秒時NR（静止画）](#)
- └ [高感度NR（静止画）](#)

顔検出

- └ [登録顔優先](#)
- └ [スマイルシャッター](#)
- └ [個人顔登録（新規登録）](#)
- └ [個人顔登録（優先順序変更）](#)
- └ [個人顔登録（削除）](#)

フラッシュを使う

- └ [フラッシュを使う](#)
- └ [赤目軽減発光](#)
- └ [フラッシュモード](#)
- └ [調光補正](#)

動画撮影

[動画を撮影する](#)

[シャッターボタンで動画撮影](#)

[動画の記録フォーマットについて](#)

[記録方式（動画）](#)

[記録設定（動画）](#)

[スーパースローモーション撮影をする（ハイフレームレート設定）](#)

[動画を撮りながら静止画を撮る（デュアル記録）](#)

[画質\(デュアル記録\)](#)

[画像サイズ\(デュアル記録\)](#)

[オートデュアル記録](#)

[プロキシ記録](#)

[音声記録](#)

[マイク基準レベル](#)

[風音低減](#)

[ピクチャープロファイル](#)

[ガンマ表示アシスト](#)

[オートスローシャッター（動画）](#)

[AF駆動速度（動画）](#)

[AF被写体追従感度（動画）](#)

[手ブレ補正（動画）](#)

[TC/UB設定](#)

[TC/UB表示切換](#)

[MOVIE\(動画\)ボタン](#)

[マーカー表示（動画）](#)

[マーカー設定（動画）](#)

[4K映像の出力先（動画）](#)

再生

画像を見る

[静止画を再生する](#)

[再生画像を拡大する（拡大）](#)

[記録画像を自動的に回転させる（記録画像の回転表示）](#)

[画像を回転する（回転）](#)

[パノラマ画像を再生する](#)

[拡大の初期倍率](#)

[拡大の初期位置](#)

[動画を再生する](#)

[モーションショットビデオ](#)

[モーションショットビデオ設定](#)

[音量設定](#)

[動画から静止画作成](#)

[一覧表示で再生する（一覧表示）](#)

[静止画と動画を切り換える（ビューモード）](#)

[連写グループ表示](#)

[スライドショーで再生する（スライドショー）](#)

画像を加工する

└ [ビューティーエフェクト](#)

プロテクト（保護）する

└ [画像を保護する（プロテクト）](#)

レーティング（ランク分け）を設定する

└ [レーティング](#)

└ [レーティング設定\(カスタムキー\)](#)

プリント指定する（DPOF）

└ [プリント指定する（プリント指定）](#)

画像を削除する

└ [表示中の画像を削除する](#)

└ [不要な画像を選んで削除する（削除）](#)

└ [削除確認画面](#)

テレビで見る

└ [HDMIケーブルを使ってテレビで見る](#)

カメラのカスタマイズ

よく使う設定を登録する

- 登録 ([撮影設定1/撮影設定2](#))

ボタンにお好みの機能を割り当てる

- [カスタムキー \(静止画/動画/再生\)](#)
- [ファンクションメニュー設定](#)

ダイヤルの機能をカスタマイズする

- [Av/Tvの回転方向](#)
- [ホイールロック](#)

MENUをカスタマイズする (マイメニュー)

- [項目の追加](#)
- [項目の並べ替え](#)
- [項目の削除](#)
- [ページの削除](#)
- [全て削除](#)

撮影前/撮影後に画像を確認する

- [オートレビュー](#)
- [ライブビュー表示](#)

モニター/ファインダーの設定

- [グリッドライン](#)
- [FINDER/MONITOR](#)
- [モニター明るさ](#)
- [ファインダー明るさ](#)
- [ファインダー色温度](#)
- [ファインダー収納時の機能](#)
- [表示画質](#)
- [モニター自動OFF](#)
- [ブライトモニタリング](#)

メモリーカードの設定

- [フォーマット](#)
- [ファイル番号](#)

[ファイル名設定](#)

[メディア残量表示](#)

[記録フォルダー選択](#)

[フォルダー新規作成](#)

[フォルダー形式](#)

[管理ファイル修復](#)

本体の設定

[電子音](#)

[日付書き込み（静止画）](#)

[タイルメニュー](#)

[モードダイヤルガイド](#)

[パワーセーブ開始時間](#)

[HDMI設定：HDMI解像度](#)

[HDMI設定：24p/60p出力切換（動画）](#)

[HDMI設定：HDMI情報表示](#)

[HDMI設定：TC出力（動画）](#)

[HDMI設定：レックコントロール（動画）](#)

[HDMI設定：HDMI機器制御](#)

[HDMI設定：HDMI音声出力（動画）](#)

[USB接続](#)

[USB LUN設定](#)

[USB給電](#)

[PCリモート設定：静止画の保存先](#)

[PCリモート設定：RAW+J時のPC保存画像](#)

[日時設定](#)

[エリア設定](#)

[著作権情報](#)

[バージョン表示](#)

[認証マーク表示](#)

[デモモード](#)

カメラを初期設定に戻す

- └ [設定リセット](#)

ネットワーク機能を使う

スマートフォンで本機を操作する

- └ [PlayMemories Mobileについて](#)
- └ [Android搭載スマートフォンで操作する（NFCワンタッチリモート）](#)
- └ [Android搭載スマートフォンで操作する（QRコード）](#)
- └ [Android搭載スマートフォンで操作する（SSID）](#)
- └ [iPhoneまたはiPadで操作する（QRコード）](#)
- └ [iPhoneまたはiPadで操作する（SSID）](#)

スマートフォンに画像を転送する

- └ [スマートフォン転送機能：スマートフォン転送](#)
- └ [スマートフォン転送機能：転送対象（プロキシー動画）](#)
- └ [Android搭載スマートフォンにワンタッチで転送する（NFCワンタッチシェアリング）](#)

パソコンに画像を転送する

- └ [パソコン保存](#)

テレビに画像を転送する

- └ [テレビ鑑賞](#)

スマートフォンから位置情報を取得する

- └ [位置情報連動設定](#)

ネットワークの設定を変更する

- └ [飛行機モード](#)
- └ [Wi-Fi設定：アクセスポイント簡単登録](#)
- └ [Wi-Fi設定：アクセスポイント手動登録](#)
- └ [Wi-Fi設定：MACアドレス表示](#)
- └ [Wi-Fi設定：SSID・PWリセット](#)
- └ [機器名称変更](#)
- └ [ネットワーク設定リセット](#)

パソコンでできること

[パソコンの推奨環境](#)

[Mac用ソフトウェアについて](#)

パソコンへ画像を取り込んで活用する

- [PlayMemories Homeでできること](#)
- [PlayMemories Homeをインストールする](#)
- [本機とパソコンを接続する](#)
- [PlayMemories Homeを使わずに画像をパソコンに取り込む](#)
- [パソコンとの接続を切断する](#)

RAW画像を現像する/リモート撮影する (Imaging Edge)

- [Imaging Edgeについて](#)

動画のディスクを作成する

- [作成するディスクを決める](#)
- [ハイビジョン画質でブルーレイディスクを作成する](#)
- [ハイビジョン画質でDVD \(AVCHD記録ディスク\) を作成する](#)
- [標準画質でDVDを作成する](#)

MENU一覧

[MENUの使いかた](#)

撮影設定1

- [ファイル形式 \(静止画\)](#)
- [JPEG画質 \(静止画\)](#)
- [JPEG画像サイズ \(静止画\)](#)
- [横縦比 \(静止画\)](#)
- [パノラマ: 画像サイズ](#)
- [パノラマ: 撮影方向](#)
- [長秒時NR \(静止画\)](#)
- [高感度NR \(静止画\)](#)
- [色空間 \(静止画\)](#)
- [オートモードを切り替える \(オートモード\)](#)
- [シーンセレクション](#)
- [ドライブモード](#)
- [ブラケット設定](#)

[呼び出し（撮影設定1/撮影設定2）](#)

[登録（撮影設定1/撮影設定2）](#)

[フォーカスモード](#)

[フォーカスエリア](#)

[縦横フォーカスエリア切換（静止画）](#)

[AF補助光（静止画）](#)

[中央ボタン押しロックオンAF](#)

[AF時の顔優先設定](#)

[プリAF（静止画）](#)

[フォーカスエリア登録機能（静止画）](#)

[登録フォーカスエリア消去（静止画）](#)

[フォーカスエリア自動消灯](#)

[コンティニュアスAFエリア表示](#)

[位相差AFエリア表示](#)

[露出補正](#)

[ISO感度](#)

[ISO AUTO低速限界](#)

[測光モード](#)

[マルチ測光時の顔優先](#)

[スポット測光位置](#)

[シャッター半押しAEL（静止画）](#)

[露出基準調整](#)

[フラッシュモード](#)

[調光補正](#)

[赤目軽減発光](#)

[ホワイトバランス](#)

[AWB時の優先設定](#)

[Dレンジオブティマイザー（DRO）](#)

[オートHDR](#)

[クリエイティブスタイル](#)

[ピクチャーエフェクト](#)

[ピクチャープロファイル](#)

[美肌効果（静止画）](#)

[ピント拡大](#)

[ピント拡大時間](#)

[ピント拡大初期倍率（静止画）](#)

[MFアシスト（静止画）](#)

[ピーキング設定](#)

[個人顔登録（新規登録）](#)

[個人顔登録（優先順序変更）](#)

[個人顔登録（削除）](#)

[登録顔優先](#)

[スマイルシャッター](#)

[オートフレーミング（静止画）](#)

[自分撮りセルフタイマー](#)

撮影設定2

[動画：露出モード](#)

[HFR（ハイフレームレート）：露出モード](#)

[記録方式（動画）](#)

[記録設定（動画）](#)

[スーパースローモーション撮影をする（ハイフレームレート設定）](#)

[画質\(デュアル記録\)](#)

[画像サイズ\(デュアル記録\)](#)

[オートデュアル記録](#)

[プロキシー記録](#)

[AF駆動速度（動画）](#)

[AF被写体追従感度（動画）](#)

[オートスローシャッター（動画）](#)

[音声記録](#)

[マイク基準レベル](#)

[風音低減](#)

[手ブレ補正（動画）](#)

[マーカー表示（動画）](#)

[マーカー設定（動画）](#)

[シャッターボタンで動画撮影](#)

[シャッター方式（静止画）](#)

[メモリーカードなしリリース](#)

[手ブレ補正（静止画）](#)

[ズーム設定](#)

[ズームスピード](#)

[リングのズーム機能](#)

[DISPボタン（背面モニター/ファインダー）](#)

[FINDER/MONITOR](#)

[ゼブラ設定](#)

[グリッドライン](#)

[露出設定ガイド](#)

[ライブビュー表示](#)

[オートレビュー](#)

[カスタムキー（静止画/動画/再生）](#)

[ファンクションメニュー設定](#)

[Av/Tvの回転方向](#)

[タッチ撮影設定：タッチシャッター](#)

[タッチ撮影設定：タッチフォーカス](#)

[MOVIE\(動画\)ボタン](#)

[ホイールロック](#)

[電子音](#)

[日付書き込み（静止画）](#)

ネットワーク

[スマートフォン転送機能：スマートフォン転送](#)

[スマートフォン転送機能：転送対象（プロキシー動画）](#)

- [パソコン保存](#)
- [テレビ鑑賞](#)
- [スマートフォン操作設定](#)
- [飛行機モード](#)
- [Wi-Fi設定：アクセスポイント簡単登録](#)
- [Wi-Fi設定：アクセスポイント手動登録](#)
- [Wi-Fi設定：MACアドレス表示](#)
- [Wi-Fi設定：SSID・PWリセット](#)
- [Bluetooth設定](#)
- [位置情報連動設定](#)
- [機器名称変更](#)
- [ネットワーク設定リセット](#)

再生

- [画像を保護する（プロテクト）](#)
- [画像を回転する（回転）](#)
- [不要な画像を選んで削除する（削除）](#)
- [レーティング](#)
- [レーティング設定\(カスタムキー\)](#)
- [プリント指定する（プリント指定）](#)
- [ビューティーエフェクト](#)
- [動画から静止画作成](#)
- [再生画像を拡大する（拡大）](#)
- [拡大の初期倍率](#)
- [拡大の初期位置](#)
- [モーションショットビデオ設定](#)
- [スライドショーで再生する（スライドショー）](#)
- [静止画と動画を切り換える（ビューモード）](#)
- [一覧表示で再生する（一覧表示）](#)
- [連写グループ表示](#)
- [記録画像を自動的に回転させる（記録画像の回転表示）](#)

セットアップ

[モニター明るさ](#)

[ファインダー明るさ](#)

[ファインダー色温度](#)

[ガンマ表示アシスト](#)

[音量設定](#)

[タイルメニュー](#)

[モードダイヤルガイド](#)

[削除確認画面](#)

[表示画質](#)

[モニター自動OFF](#)

[パワーセーブ開始時間](#)

[ファインダー収納時の機能](#)

[タッチ操作](#)

[タッチパネル/タッチパッド](#)

[タッチパッド設定](#)

[デモモード](#)

[TC/UB設定](#)

[HDMI設定：HDMI解像度](#)

[HDMI設定：24p/60p出力切換（動画）](#)

[HDMI設定：HDMI情報表示](#)

[HDMI設定：TC出力（動画）](#)

[HDMI設定：レックコントロール（動画）](#)

[HDMI設定：HDMI機器制御](#)

[HDMI設定：HDMI音声出力（動画）](#)

[4K映像の出力先（動画）](#)

[USB接続](#)

[USB LUN設定](#)

[USB給電](#)

[PCリモート設定：静止画の保存先](#)

[PCリモート設定 : RAW+J時のPC保存画像](#)

[日時設定](#)

[エリア設定](#)

[著作権情報](#)

[フォーマット](#)

[ファイル番号](#)

[ファイル名設定](#)

[記録フォルダー選択](#)

[フォルダー新規作成](#)

[フォルダー形式](#)

[管理ファイル修復](#)

[メディア残量表示](#)

[バージョン表示](#)

[認証マーク表示](#)

[設定リセット](#)

マイメニュー

[項目の追加](#)

[項目の並べ替え](#)

[項目の削除](#)

[ページの削除](#)

[全て削除](#)

使用上のご注意/本機について

[使用上のご注意](#)

[お手入れについて](#)

[静止画の記録可能枚数](#)

[動画の記録可能時間](#)

[海外でACアダプター/バッテリーチャージャーを使う](#)

[AVCHD規格について](#)

[ライセンスについて](#)

[商標について](#)

故障かな？と思ったら

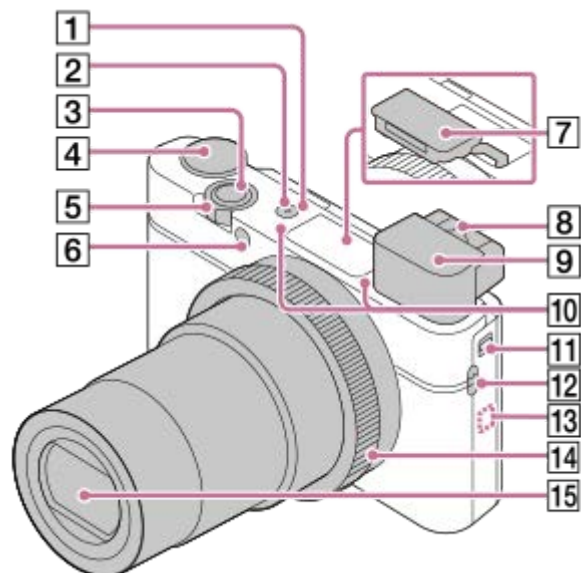
[困ったときにすること](#)

[自己診断表示](#)

[警告表示](#)

4-737-296-01(2) Copyright 2018 Sony Corporation

各部の名称



1. ON/OFF（電源）ボタン

2. 電源/充電ランプ

3. シャッターボタン

4. モードダイヤル

AUTO（オートモード）/P（プログラムオート）/A（絞り優先）/S（シャッタースピード優先）/M（マニュアル露出）/MR（登録呼び出し）/（動画）/HFR（ハイフレームレート）/（スイングパノラマ）/SCN（シーンセレクション）

5. 撮影時：W/T（ズーム）レバー

再生時：（一覧表示）レバー/再生ズームレバー

6. セルフタイマーランプ/AF補助光

7. フラッシュ

- フラッシュの近くに指を置かないでください。
- フラッシュを発光させるときは、（フラッシュポップアップ）スイッチをスライドしてフラッシュ部を上げてください。使わないときは手で押して元に戻してください。

8. 視度調整レバー

- ファインダー内の画像がはっきり見えるように視度調整レバーを動かしてください。

9. ファインダー

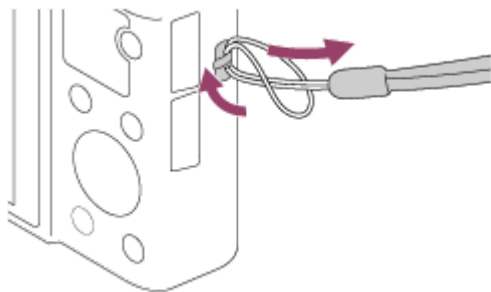
- ファインダーに目を近づけるとファインダー表示に切り替わり、目を離すとモニター表示に戻ります。

10. マイク

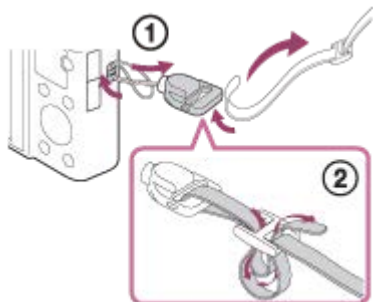
11. ファインダーポップアップスイッチ

12. ストラップ取り付け部

- 落下防止のため、リストストラップを取り付け、手を通してご使用ください。

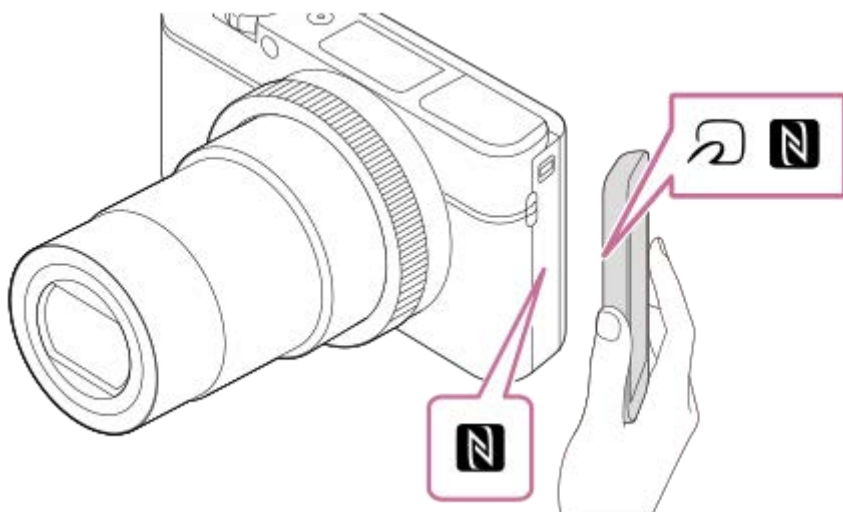


- ショルダーストラップ（別売）を使うには、付属のストラップアダプターをストラップ取り付け部（2箇所）にそれぞれ取り付けてください。



13. **N**（Nマーク）

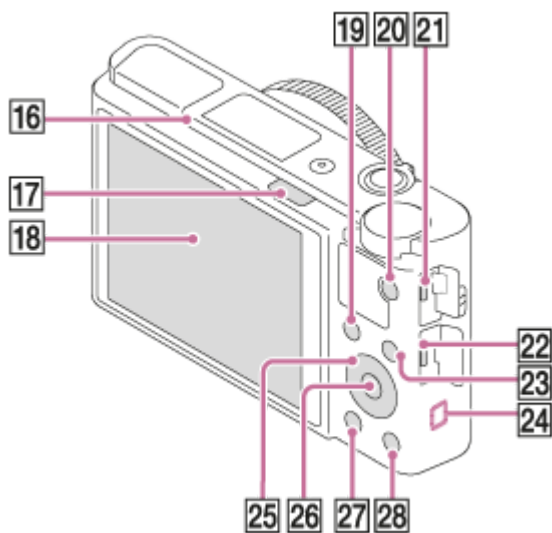
NFC機能搭載のスマートフォンと本機を無線接続するときにタッチします。
一部のおサイフケータイ対応のスマートフォンはNFCに対応しています。詳しくはスマートフォンの取扱説明書でご確認ください。



- NFC(Near Field Communication)は近距離無線通信技術の国際標準規格です。

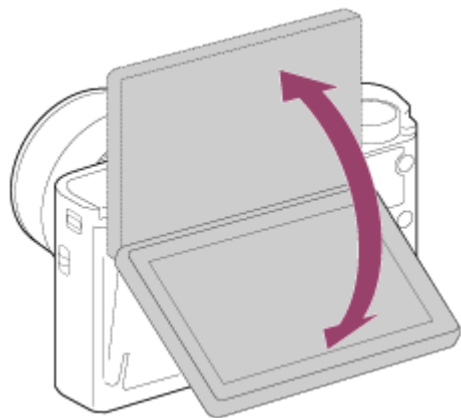
14. コントロールリング

15. レンズ



- 16. アイセンサー
- 17.  (フラッシュポップアップ) スイッチ
- 18. モニター
(タッチ操作時：タッチパネル/タッチパッド)

- モニターを見やすい角度に調整して、自由なポジションで撮影できます。

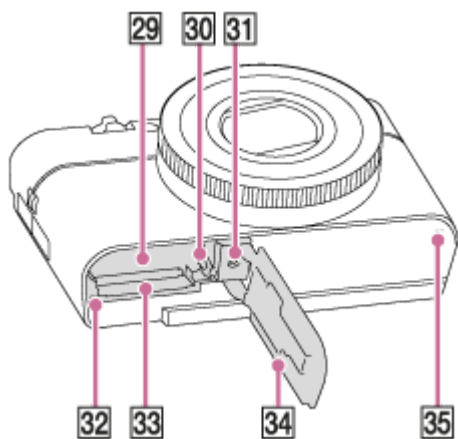


取り付ける三脚によってはモニターの角度が調整できなくなる場合があります。その場合、一度三脚ネジを緩めてからモニターの角度を調整してください。

- 19. 撮影時：Fn (ファンクション) ボタン
再生時：  (スマートフォン転送) ボタン
- 20. MOVIE (動画) ボタン
- 21. マルチ/マイクロUSB端子

- この端子にはマイクロUSB規格に対応した機器をつなぐことができます。
- マルチ/マイクロUSB端子対応アクセサリについて詳しくは、専用サポートサイトでご確認ください。
<https://www.sony.jp/support/r/cyber-shot/connect/>

- 22. HDMIマイクロ端子
- 23. MENUボタン
- 24. Wi-Fi/Bluetoothアンテナ (内蔵)
- 25. コントロールホイール
- 26. 中央ボタン
- 27.  (再生) ボタン
- 28. C/  (カスタム/削除) ボタン



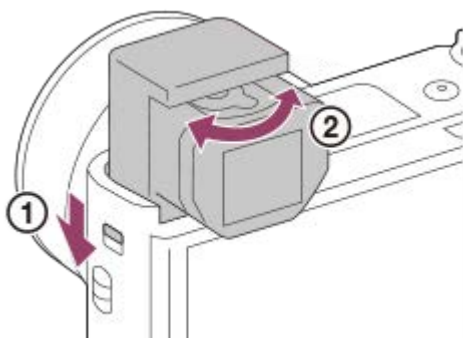
- 29. バッテリー挿入口
- 30. バッテリーロックレバー
- 31. 三脚用ネジ穴

- ネジの長さが5.5mm未満の三脚を使う。5.5mm以上の三脚ではしっかり固定できず、本機を傷つけることがあります。

- 32. アクセスランプ
- 33. メモリーカード挿入口
- 34. バッテリー/メモリーカードカバー
- 35. スピーカー

ファインダーで撮る

1. ファインダーポップアップスイッチを下げ、ファインダーを上げる。

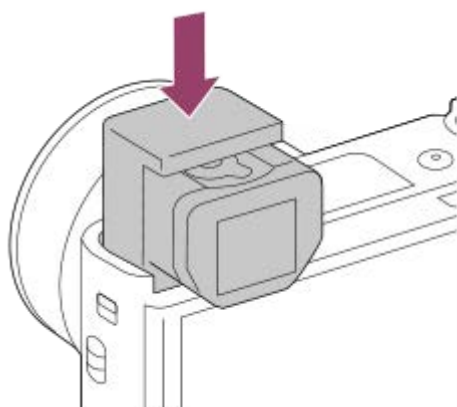


- 電源が切れているときにポップアップさせると、電源が入ります。
- ファインダーを本体に収納したときに電源を切るかを設定するには、MENU→（セットアップ）→［ファインダー収納時の機能］で希望の設定を選んでください。

2. 視度調整レバーを回して、ファインダー内の画像がはっきりと見えるように調整する。

ファインダーを収納するには

ファインダーの上部を押し下げてください。



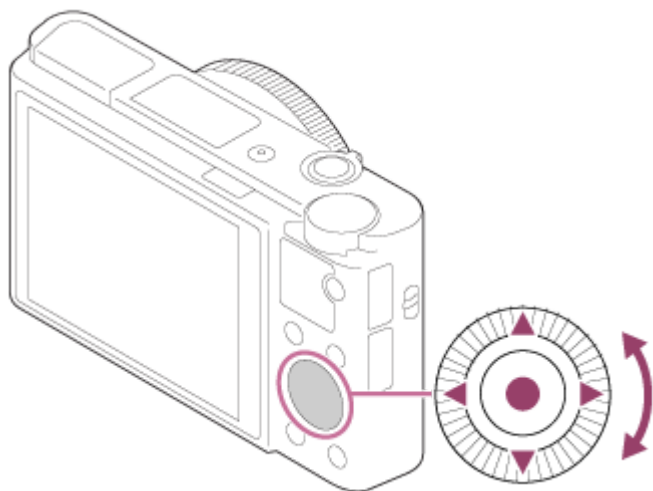
ご注意

- ファインダーを上げるときに、ファインダー部を押さえないようにしてください。
- ファインダーを収納するときは、接眼部が途中で引っかからないよう、ファインダーをゆっくりと押し下げてください。

4-737-296-01(2) Copyright 2018 Sony Corporation

デジタルスチルカメラ
DSC-RX100M6

コントロールホイールの使いかた



- コントロールホイールを回したり上下左右を押したりすると、選択枠を動かすことができます。選んだ項目はコントロールホイールの中央を押すと決定されます。
- コントロールホイールの上/下/左/右ボタンにはDISP（画面表示切換）、（露出補正）、（ドライブモード）、（フラッシュモード）が割り当てられています。また、コントロールホイールの左/右ボタン、中央には好みの機能を割り当てることができます。
- 再生時にコントロールホイールの左/右ボタンを押す、またはコントロールホイールを回すことで再生画面を送ることができます。

関連項目

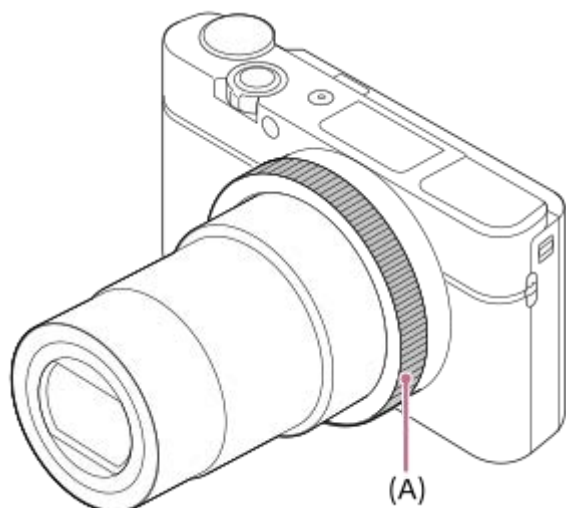
- [フォーカススタンダード](#)
- [カスタムキー](#)（静止画/動画/再生）

デジタルスチルカメラ
DSC-RX100M6

コントロールリングの使いかた

コントロールリング (A) を回して、撮影モードごとに必要な設定を即座に変更できます。

MENU→2 (撮影設定2) → [ カスタムキー] または [ カスタムキー] → [コントロールリング] で、よく使う機能をコントロールリングに割り当てることができます。



画面には以下のようにアイコンと機能名が表示されます。

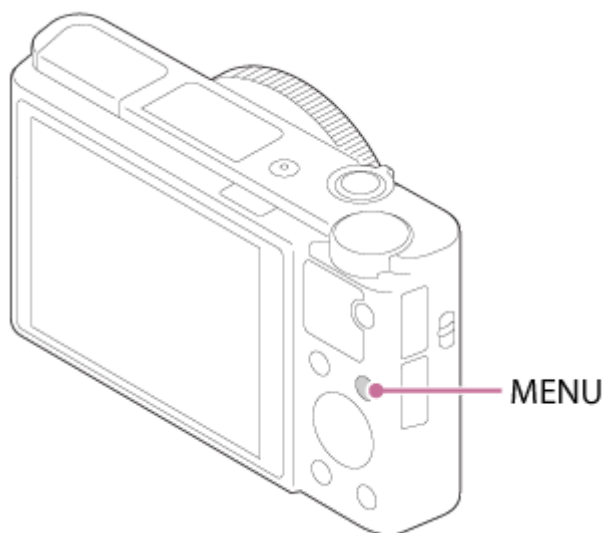
例)

 ZOOM : コントロールリングを回したとき、ZOOM (ズーム) が働きます。

MENUの使いかた

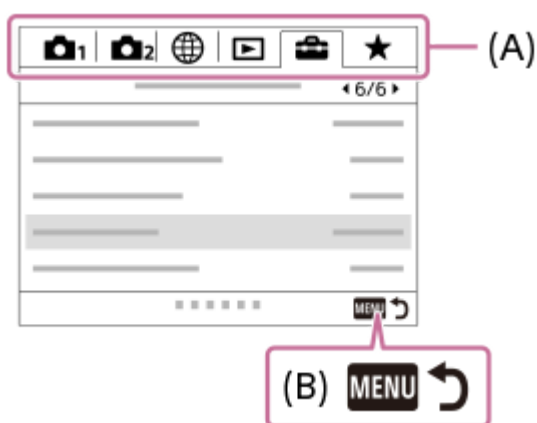
撮影、再生、操作方法など、カメラ全体に関する設定を変更したり、カメラの機能を実行します。

1 MENUボタンを押して、メニュー画面を表示する。



2 コントロールホイールの上/下/左/右を押す、またはコントロールホイールを回して設定したい項目を選び、中央を押す。

- 画面上部のアイコン (A) を選んでコントロールホイールの左/右を押すと、他のMENUへ移動できます。
- MENUボタン (B) を押すと一つ前の画面へ戻ります。



3 設定値を選択して、中央を押して決定する。

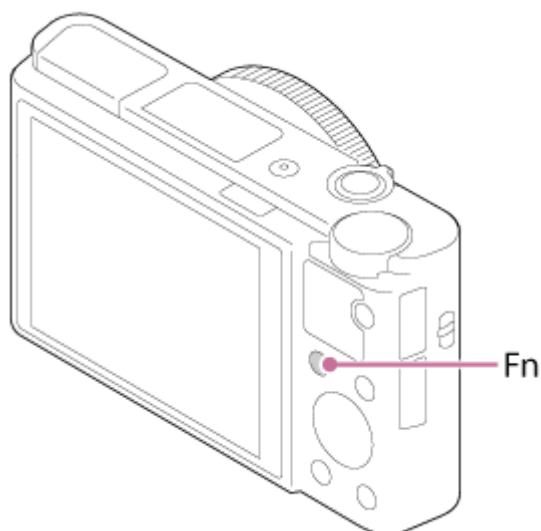
関連項目

- [タイトルメニュー](#)
- [項目の追加](#)

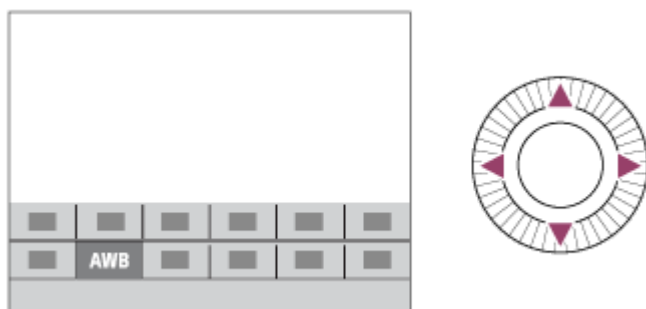
Fn（ファンクション）ボタンの使いかた

撮影時にFn（ファンクション）ボタンを押して、あらかじめ登録したよく使う機能呼び出すことができます。呼び出す機能は12個まで登録できます。

- 1 コントロールホイールのDISPボタンを押して【ファインダー撮影用】画面以外にし、Fn（ファンクション）ボタンを押す。

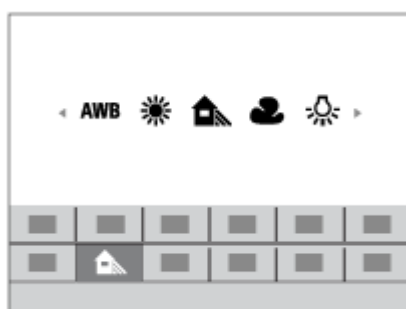


- 2 コントロールホイールの上/下/左/右を押して、設定する機能を選ぶ。



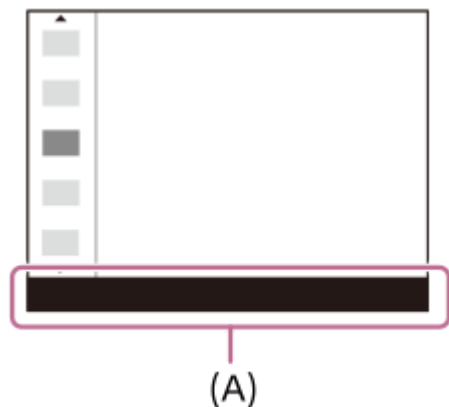
- 3 コントロールホイールを回して希望の設定を選び、中央を押す。

- 一部の機能は、コントロールリングを回して微調整値の設定もできます。



専用画面で設定するには

手順2で、設定する機能を選んでコントロールホイールの中央を押すと、その項目設定の専用画面になります。操作ガイド **(A)** に従って設定してください。



関連項目

- [ファンクションメニュー設定](#)

クイックナビの使いかた

クイックナビはファインダー使用時に適した機能で、変更したい項目をダイレクトに操作できます。

- 1 MENU → 2 (撮影設定2) → [DISPボタン] → [背面モニター] を選ぶ。
- 2 [ファインダー撮影用] に ✓ マークを付け、[実行] を選ぶ。
- 3 コントロールホイールのDISP (画面表示切換) ボタンを押して、[ファインダー撮影用] 画面にする。
- 4 Fn (ファンクション) ボタンを押して、クイックナビ画面にする。
 - 表示内容や表示位置は目安であり、実際とは異なる場合があります。

オートモード/シーンセレクション時



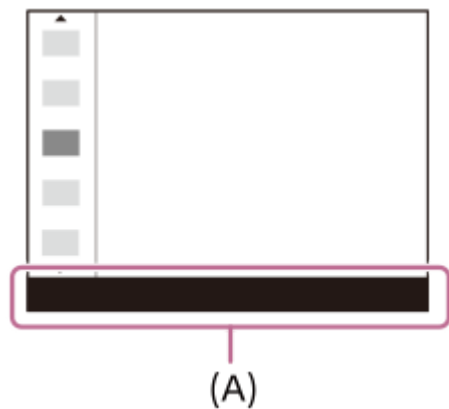
P/A/S/M/スイングパノラマ時



- 5 コントロールホイールの上/下/左/右を押して、設定する機能を選ぶ。
- 6 コントロールホイールを回して希望の設定にする。

専用画面で設定するには

手順5で、設定する機能を選んでコントロールホイールの中央を押すと、その項目設定の専用画面になります。操作ガイド (A) に従って設定してください。



ご注意

- クイックナビ画面でグレーになっている項目は、変更できません。
- [クリエイティブスタイル] や [ピクチャープロフィール] などでは、専用画面に入らないと操作できない設定もあります。

関連項目

- [画面表示を切り換える（撮影/再生）](#)

キーボードの使いかた

文字入力が必要な場合は、キーボード画面が表示されます。



コントロールホイールでカーソルを希望のキーに移動させて、中央を押して決定します。

1. 入力ボックス

入力した文字が表示されます。

2. 文字種切り換え

押すたびに、アルファベット/数字/記号に切り換えられます。

3. キーボード

押すたびに、表示されている文字が順番に表示されます。

例：「abd」と入力したい場合

「abc」のキーを1回押して「a」を表示→カーソル移動（5）の「➡」を押す→「abc」のキーを2回押して「b」を表示→「def」のキーを1回押して「d」を表示

4. 確定

入力内容を確定します。

5. カーソル移動

入力ボックス内のカーソルを左右に移動します。

6. 削除

カーソルの直前の文字を削除します。

7. ↑

アルファベットの大文字/小文字を切り換えます。

8. ↵

空白をあけます。

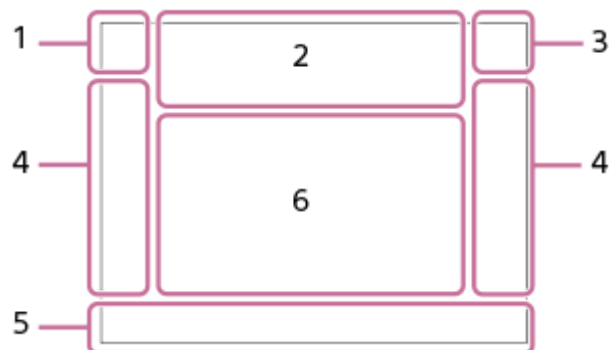
- 途中で入力をやめる場合は、[キャンセル]を選択してください。

モニターに表示されるアイコン一覧

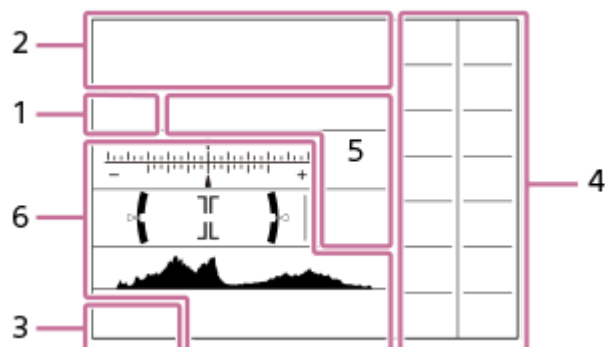
表示内容や表示位置は目安であり、実際とは異なる場合があります。

撮影画面のアイコン

モニター撮影用



ファインダー撮影用



1. 撮影モード/シーン認識マーク

📷 📷+ 📷 P P* A S M 📷 📷 P 📷 A 📷 S 📷 M 📷 P 📷 A 📷 S 📷 M

撮影モード

1 2 3 M1 M2 M3 M4

登録番号

🌙 📷 📷 📷 📷 📷 📷 📷 📷 📷 📷 📷 📷 📷 📷 📷

シーン認識マーク

📷 📷 📷 📷 📷 📷 📷 📷 📷 📷 📷 📷 📷 📷 📷

シーンセレクション

2. カメラの設定

📷 NO CARD

メモリーカード

100

撮影可能枚数

|||||3

データ書き込み中/書き込み残り枚数

キャプチャー

静止画取り込み中

📷

静止画撮影不可



オートデュアル記録

3:2 **4:3** **16:9** **1:1**

静止画の画像横縦比

20M / 18M / 17M / 13M / 10M / 7.5M / 6.5M / 5.0M / 4.2M / 3.7M / VGA

WIDE **STD**

静止画の画像サイズ

RAW

RAW記録

X.FINE FINE STD

JPEG画質

XAVC S 4K XAVC S HD AVCHD

動画の記録方式

100 **60** **50** **25** **16** **FX** **FH**

動画の記録設定

120p 60p 60i 30p 24p

動画のフレームレート

100px **60px** **50px** **25px** **16px**

プロキシ記録

240fps 480fps 960fps

HFR撮影時のフレームレート



フラッシュ充電表示

VIEW

設定効果反映Off



AF補助光



手ブレ補正オフ/オン、手ブレ警告



スマートズーム/ 全画素超解像ズーム/デジタルズーム

×2.0

スマートテレコンバーター

PC

PCリモート



ブライトモニタリング



重ね合わせ実行表示



動画音声記録オフ



マイク基準レベル 低



風音低減オン



著作権情報書き込みオン



HFR 録画タイミング

Assist Assist Assist Assist
S-Log2 S-Log3 HLG 709 HLG 2020

ガンマ表示アシスト



タッチシャッター



フォーカス解除



ロックオンAF解除

スポットフォーカス

スポットフォーカス中



NFC有効



Bluetooth接続中/未接続



スマートフォン接続中/未接続



位置情報取得中/位置情報取得無効



飛行機モード



温度上昇警告

20秒

残り録画可能時間（温度上昇時）



管理ファイルフル警告/管理ファイルエラー警告

3. バッテリー



バッテリー容量



バッテリー残量警告



USB給電中

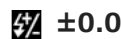
4. 撮影設定



ドライブモード



フラッシュモード/赤目軽減



調光補正



フォーカスモード



フォーカスエリア

JPEG RAW RAW+J

ファイル形式



測光モード



ホワイトバランス（オート、プリセット、水中オート、カスタム、色温度、カラーフィルター）



Dレンジオブティマイザー /オートHDR



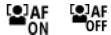
クリエイティブスタイル /コントラスト、彩度、シャープネス



スマイル検出感度インジケータ



ピクチャーエフェクト



AF時の顔優先



スマイルシャッター

PP1 - PP10

PP
OFF

ピクチャープロファイル



シャッター方式

5. フォーカス表示/露出設定



フォーカス

1/250

シャッタースピード

F3.5

絞り値



露出補正/メータードマニユアル

ISO400

ISO AUTO

ISO感度



AEロック

6. ガイド表示/その他

● ロックオンAF

● ロックオンAF解除

ロックオンAF用ガイド表示

● フォーカス解除

フォーカス解除用ガイド表示

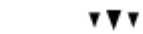
● 撮影スタンバイ

● 撮影設定

HFR撮影用ガイド表示

▼ **Av/Tv切り換え**

絞り/シャッタースピード切り換え用ガイド表示



ブラケットインジケータ



スポット測光サークル

C:32:00

自己診断表示



露出設定ガイド



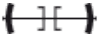
シャッタースピードインジケータ



絞りインジケータ



ヒストグラム



水準器

STBY REC

動画の録画スタンバイ/録画中

0:12

動画の撮影時間（分：秒）



コントロールリングの機能



コントロールホイールの機能



ロックコントロール

00:00:00:00

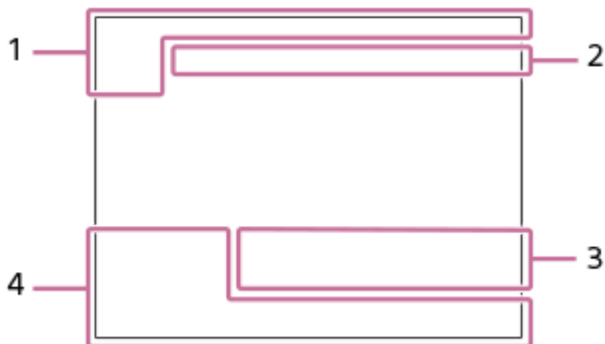
タイムコード（時：分：秒：フレーム）

00 00 00 00

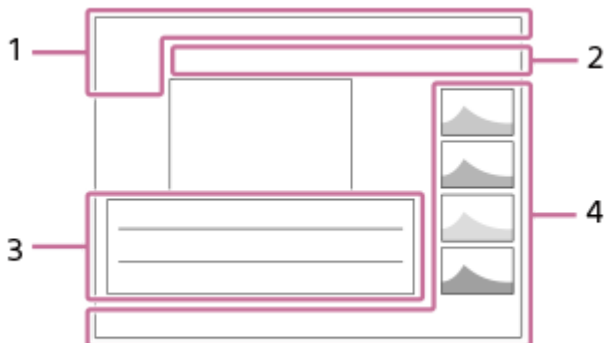
ユーザービット

再生画面のアイコン

1枚再生画面



ヒストグラム画面



1. 基本情報



ビューモード



レーティング



プロテクト

DPOF

DPOF（プリント）指定



オートフレーミング画像

3/7

画像番号/ビューモード内画像枚数



NFC有効



バッテリー容量



連写グループ



プロキシー動画あり

2. カメラの設定

「撮影画面のアイコン」をご覧ください。

3. 撮影時の設定



ピクチャーエフェクトエラー



オートHDRエラー

HLG

HDR記録（Hybrid Log-Gamma）

その他のアイコンについては、「撮影画面のアイコン」をご覧ください。

4. 画像の情報



90°44'55"N

233°44'55"W

緯度・経度情報



著作権情報あり

2018-1-1 10:37PM

撮影日時



100-0003

フォルダー番号-ファイル番号



ヒストグラム（輝度/R/G/B）

画面表示を切り換える（撮影/再生）

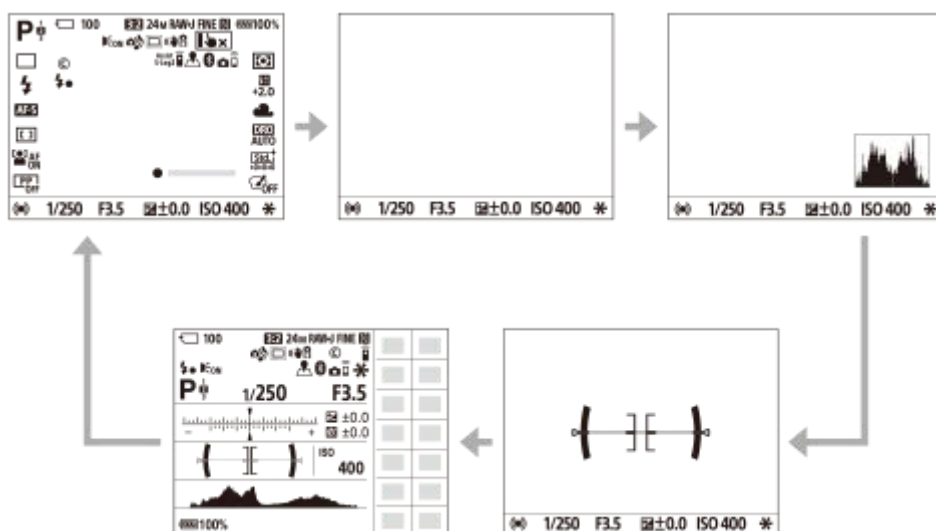
表示される画面表示を切り換えます。

1 DISP（画面表示）を押す。

- ファインダー表示を変更する場合には、ファインダーをのぞきながらDISPボタンを押してください。
- DISPボタンを押すたびに、画面表示が切り替わります。
- 表示内容や表示位置は目安であり、実際とは異なる場合があります。

撮影時（モニター）

全情報表示 → 情報表示 なし → ヒストグラム → 水準器 → ファインダー撮影用 → 全情報表示



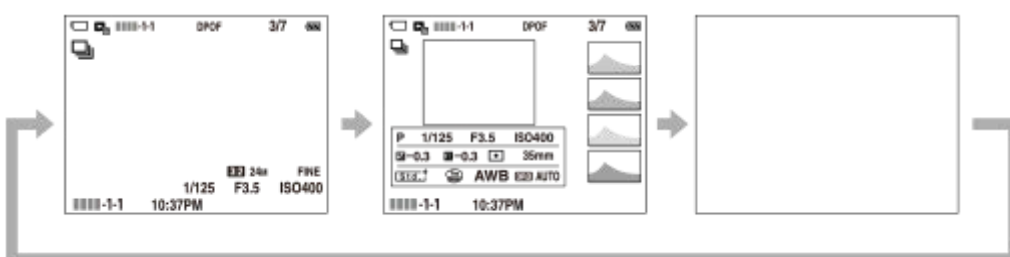
撮影時（ファインダー）

水準器 → 情報表示 なし → ヒストグラム → 水準器



再生時（モニター/ファインダー）

情報表示 あり → ヒストグラム → 情報表示 なし → 情報表示 あり



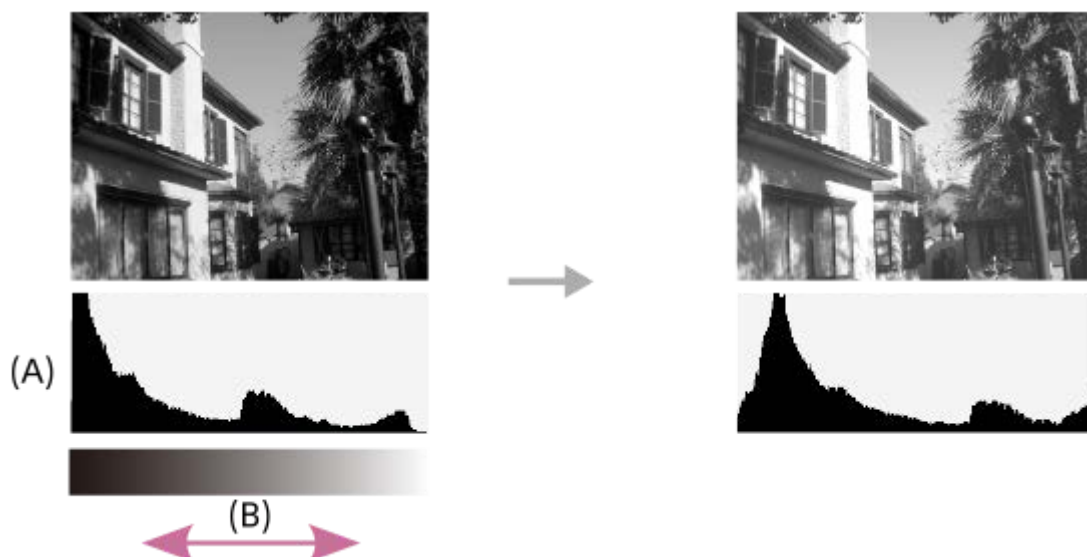
- 画像に白とびまたは黒つぶれの箇所がある場合、ヒストグラム画面の画像の該当箇所が点滅します（白とび黒つぶれ警告）。
- 再生時の設定は、［オートレビュー］でも反映されます。

ヒストグラム

ヒストグラムとは輝度分布のことで、どの明るさの画素がどれだけ存在するかを表します。左に行くほど暗く、右は明るいことを表しています。

露出補正をかけると、ヒストグラムもそれに応じて変化します。

ヒストグラムの左右両端のデータは、白とび/黒つぶれした部分があることを表しています。このような部分は、撮影後、画像をパソコンで補正しても再現することはできません。必要に応じて露出補正をしてから撮影してください。



(A) : 画素数

(B) : 明暗

ご注意

- 撮影時のファインダー表示とモニター表示はそれぞれ独立して設定できます。ファインダーの画面表示はファインダーをのぞいた状態で設定してください。
- パノラマ撮影時は［ヒストグラム］が表示できません。
- ヒストグラムは、撮影結果ではなく、画面で見ている画像のヒストグラムになります。絞り値などにより結果が異なります。
- 撮影時と再生時のヒストグラムは、下記のとおり大きく異なります。
 - －フラッシュ発光したとき
 - －夜景などの低輝度な被写体のとき
- 動画撮影時は、［ファインダー撮影用］が表示できません。

ヒント

- お買い上げ時の設定では、以下は表示されません。
 - －グラフィック表示
 - －モニター消灯
 - －全情報表示（ファインダー使用時）

DISPボタンで表示できる内容を変更するときは、MENU → 2（撮影設定2） → [DISPボタン] から設定を変更してください。

関連項目

- [DISPボタン（背面モニター/ファインダー）](#)

DISPボタン（背面モニター/ファインダー）

撮影時に、DISP（画面表示切換）で選択できる画面表示モードを設定します。

- 1 MENU→ 2（撮影設定2）→ [DISPボタン] → [背面モニター] または [ファインダー] → 希望の設定を選び、[実行] を選んで決定する。
✓ がついている項目が選択できるモードになる。

メニュー項目の詳細

グラフィック表示：

基本的な撮影情報を表示する。シャッタースピードと絞りをグラフィカルに表示する。

全情報表示：

撮影情報を表示する。

情報表示 なし：

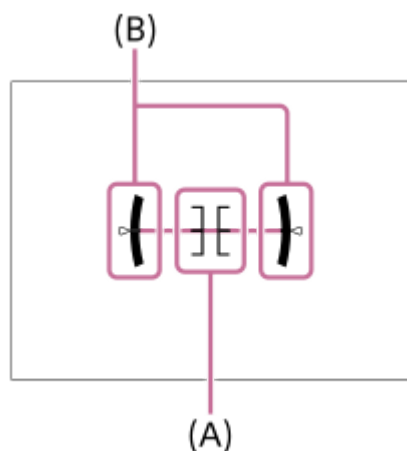
撮影情報を表示しない。

ヒストグラム：

画像の明暗をグラフ（ヒストグラム）で表示する。

水準器：

カメラの前後方向（A）、水平方向（B）の傾きを指標で示す。水平、平衡状態のときは、表示が緑色になる。



ファインダー撮影用*：

モニターには被写体を表示せず、撮影情報のみを表示する。ファインダー撮影用の表示設定。

モニター消灯*：

撮影時は常にモニターが消灯するが、再生時やMENU操作時はモニターを使用できる。ファインダー撮影用の表示設定。

* [背面モニター] の設定時のみ選択できる画面表示モードです。

ご注意

- 本機を前または後に大きく傾けると、水準器の誤差が大きくなります。
- 水準器で傾きがほぼ補正された状態でも $\pm 1^\circ$ 程度の誤差が生じることがあります。

- [画面表示を切り換える（撮影/再生）](#)

4-737-296-01(2) Copyright 2018 Sony Corporation

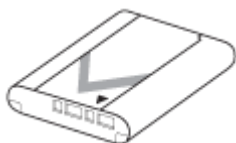
デジタルスチルカメラ
DSC-RX100M6

本体と付属品を確認する

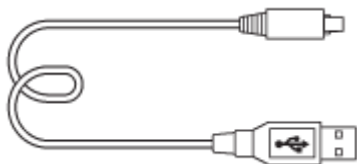
万一、不足の場合はお買い上げ店にご相談ください。

() 内の数字は個数です。

- カメラ (1)
- リチャージャブルバッテリーパックNP-BX1 (1)



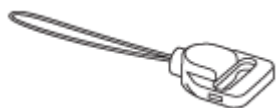
- マイクロUSBケーブル (1)



- ACアダプター (1)
- リストストラップ (1)



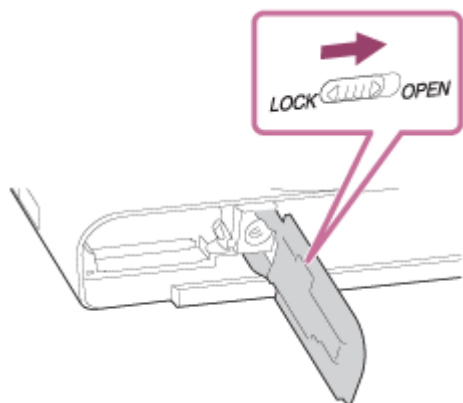
- ストラップアダプター (2)



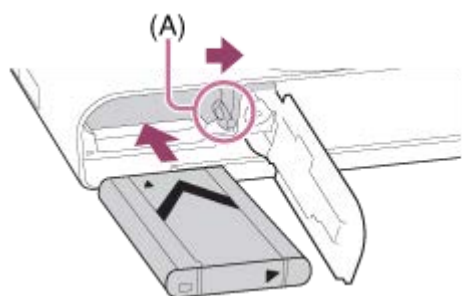
- 取扱説明書 (1)
- 保証書 (1)
- Wi-Fi/NFCワンタッチ機能ガイド (1)

バッテリーを本機に入れる/取り出す

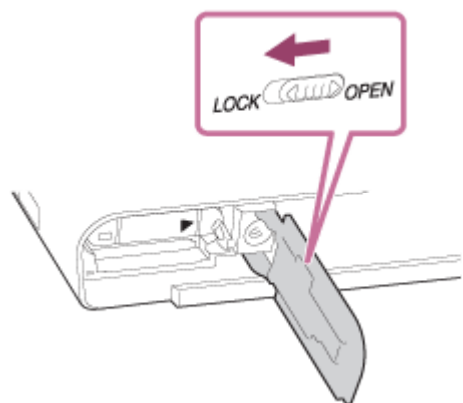
- ① バッテリー/メモリーカードカバーを開ける。



- ② バッテリーの端でロックレバー (A) を押しながら入れ、バッテリーがロックされるまで押し込む。

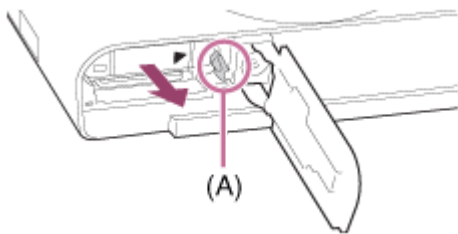


- ③ カバーを閉じる。



バッテリーを取り出すには

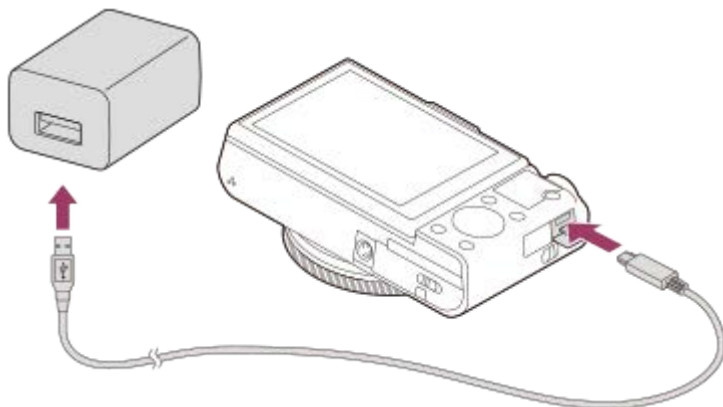
アクセスランプが点灯していないことを確認してから電源を切り、ロックレバー (A) をずらしてバッテリーを引き出します。このとき、バッテリーが落下しないよう、注意してください。



4-737-296-01(2) Copyright 2018 Sony Corporation

バッテリーをカメラに入れたまま充電する

- 1 本機の電源を切る。
- 2 バッテリーを入れた本機とACアダプター（付属）をマイクロUSBケーブル（付属）でつなぎ、ACアダプターをコンセントに差し込む。



カメラの充電ランプ（オレンジ色）

点灯：充電中

消灯：充電終了

点滅：充電エラー、または温度が適切な範囲にないための充電一時待機

- 充電時間の目安（満充電）：充電にかかる時間は約150分です。
- バッテリーを使い切ってから、温度25℃の環境下で充電したときの時間です。使用状況や環境によっては長くなります。
- 充電が完了すると、充電ランプが消えます。
- 充電ランプが点灯後すぐに消える場合は満充電です。

ご注意

- 充電ランプが点滅し充電が完了しなかった場合は、一度バッテリーやUSBケーブルを取りはずし、再度装着してください。
- ACアダプターをコンセントにつないでもカメラの充電ランプが点滅する場合は、充電に適した温度範囲外にあるため一時待機状態になっています。充電に適した温度範囲に戻れば充電可能です。バッテリーの充電は周囲の温度が10℃～30℃の環境で行ってください。
- ACアダプター/チャージャーは、お手近なコンセントをお使いください。不具合が生じたときはすぐにコンセントからプラグを抜き、電源を遮断してください。充電ランプがある機種は、ランプが消えても電源からは遮断されません。
- 充電中に本機の電源を入れると、コンセントから給電され本機を使用できますが、充電はされません。
- お買い上げ直後や長期間バッテリーを放置した場合、一度目の充電では充電ランプが速い点滅になる場合があります。その場合は一度バッテリーやUSBケーブルを取りはずし、再度充電してください。
- 充電終了直後またはそれに近い状態のバッテリーを未使用のまま、何度も充電を繰り返さないでください。バッテリーの性能に影響します。
- 充電が終わったら、ACアダプターをコンセントから抜いてください。
- 必ずソニー製純正のバッテリー、付属のマイクロUSBケーブル、ACアダプターをお使いください。

関連項目

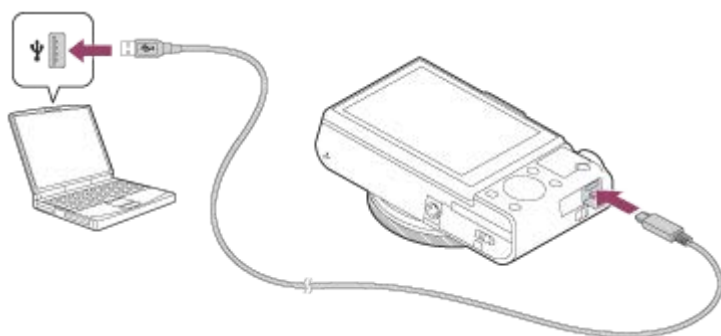
- [バッテリーについてのご注意](#)
- [充電についてのご注意](#)
- [海外でACアダプター/バッテリーチャージャーを使う](#)

4-737-296-01(2) Copyright 2018 Sony Corporation

パソコンに接続して充電する

マイクロUSBケーブルを使って、パソコンからの充電も可能です。

- 1 本機の電源を切った状態で、パソコンのUSB端子と本機をつなぐ。



ご注意

- 電源を接続していないノートパソコンと本機を接続した場合、ノートパソコンの電池が消耗していきます。長時間放置しないでください。
- 本機をUSB接続したままパソコンの起動、再起動、スリープモードからの復帰、終了操作を行わないでください。本機が正常に動作しなくなることがあります。これらの操作は、パソコンから本機を取りはずしてから行ってください。
- すべてのパソコンでの動作を保証するものではありません。
- 自作のパソコンや改造したパソコン、ハブ経由での充電は保証できません。
- 同時に使うUSB機器によっては、正常に動作しないことがあります。

関連項目

- [バッテリーについてのご注意](#)
- [充電についてのご注意](#)

バッテリーの使用時間と撮影可能枚数

		使用時間	枚数
静止画撮影	モニターモード時	—	約240枚
			約310枚（モニター自動OFF（2秒））
	ファインダーモード時	—	約220枚
実動画撮影	モニターモード時	約40分	—
	ファインダーモード時	約40分	—
連続動画撮影	モニターモード時	約75分	—
	ファインダーモード時	約70分	—

ご注意

- 使用時間や撮影枚数は満充電された状態での目安です。使用方法によって時間や枚数は減少する場合があります。
- 使用時間や撮影可能枚数は、お買い上げ時の設定で、以下の条件にて撮影した場合です。
 - 温度が25℃
 - 当社製のSDXCメモリーカード（U3）（別売）使用時
- 静止画撮影時の数値は、CIPA規格により、以下の条件で撮影した場合です。
（CIPA：カメラ映像機器工業会、Camera & Imaging Products Association）
 - 30秒ごとに1回撮影
 - 10回に一度、電源を入/切する。
 - 2回に一度、フラッシュを発光する。
 - 1回ごとにズームをW側、T側に交互に最後まで動かす。
- 動画撮影時の数値はCIPA規格により、以下の条件で撮影した場合です。
 - 動画画質：XAVC S HD 60p 50M
 - 実動画撮影：撮影、ズーム、撮影スタンバイ、電源入/切を繰り返す。
 - 連続動画撮影：連続撮影の制限（29分）により撮影が終了したときは、再度MOVIE（動画）ボタンを押して撮影を続ける。ズームなどのその他の操作はしない。

外部電源で本機を使う

付属のACアダプターを使うと、撮影/再生時もバッテリーの消費を抑えてコンセントから電力を供給しながら使用できます。

- 1 バッテリーを本機に入れる。
- 2 マイクロUSBケーブル（付属）とACアダプター（付属）で、本機とコンセントをつなぐ。

ご注意

- バッテリーの残量がないと動作しません。充電したバッテリーを本機に入れてください。
- 外部電源で本機を使用する場合は、USB給電中を表すアイコン（）がモニターに表示されていることをご確認のうえ、本機をご使用ください。
- 給電しながらのご使用中は、本機からバッテリーを取りはずさないでください。バッテリーを取りはずすと本機の電源が切れます。
- アクセスランプが点灯しているときはバッテリーを取りはずさないでください。メモリーカード内のデータが破損するおそれがあります。
- 電源を入れて使用している間は、ACアダプターと接続していてもバッテリーへの充電はされません。
- ACアダプターと接続して使用していても、ご使用の条件によっては、補助的にバッテリーの電源を使用する場合があります。
- USB給電中はマイクロUSBケーブルを抜かないでください。マイクロUSBケーブルを抜くときは、本機の電源を切ってから抜いてください。
- USB給電中は、本体内の温度上昇により連続動画撮影時間が短くなることがあります。
- 外部電源としてモバイルチャージャーをご使用する際には、満充電であることを確認してからお使いください。また、ご使用中はモバイルチャージャーの残量にご注意ください。

バッテリーについてのご注意

バッテリー使用上のご注意

- 本機指定のバッテリーをご使用ください。
- 使用状況や環境によっては、残量表示は正しく表示されません。
- バッテリーは防水構造ではありません。水などにぬらさないようにご注意ください。
- 高温になった車の中や炎天下などの気温の高い場所に放置しないでください。

バッテリーの充電について

- 初めてお使いになるときは、バッテリー（付属）を必ず充電してください。
- 充電したバッテリーは、使わなくても少しずつ放電しています。撮影機会を逃さないためにも、ご使用前に充電してください。
- 本機指定外のバッテリーを充電しないでください。バッテリーの液漏れ、発熱、破裂、感電の原因となり、やけどやけがをするおそれがあります。
- 充電ランプが点滅し充電が完了しなかった場合は、一度バッテリーやUSBケーブルを本機から取りはずし、再度装着してください。
- 周囲の温度が10℃～30℃の環境で充電してください。これ以外では、効率のよい充電ができないことがあります。
- 電源に接続していないノートパソコンと本機を接続した場合、ノートパソコンの電池が消耗していきます。長時間充電しないでください。
- 本機をUSB接続したままパソコンの起動、再起動、スリープモードからの復帰、終了操作を行わないでください。本体が正常に動作しなくなることがあります。これらの操作は、パソコンから本機を取りはずしてから行ってください。
- 自作のパソコンや改造したパソコンでの充電は保証できません。
- 充電終了後はACアダプターをコンセントからはずす、もしくは本体からUSBケーブルを抜いてください。そのまま取り付けていると、バッテリーの寿命を損なうことがあります。

バッテリーの残量について

- モニター上に、バッテリー残量を表すアイコンが表示されます。



A : 残量多い
B : 残量なし

- 正しい残量を表示するのに約1分かかります。
- 使用状況や環境によっては、正しく表示されません。
- 電源を入れたまま一定時間操作しないと、自動で電源が切れます（オートパワーオフ）。
- バッテリー残量が表示されない場合は、DISP（画面表示切換）を押して表示してください。

充電にかかる時間（満充電）

充電にかかる時間は、付属のACアダプターで約150分です。

これはバッテリーを使い切ってから、温度25℃の環境下で充電したときの時間です。使用状況や環境によっては、長くなります。

バッテリーの上手な使いかた

- 周囲の温度が低いとバッテリーの性能が低下するため、使用できる時間が短くなります。より長い時間ご使用いただくために、バッテリーをポケットなどに入れて温かくしておき、撮影の直前、本機に取り付けることをおすすめします。ポケットの中に鍵などの金属物が入っている場合は、ショートしないようご注意ください。
- フラッシュ撮影や連続撮影、電源の入り切りなどを頻繁にしたり、モニターを明るく設定すると、バッテリーの消費が早くなります。
- 撮影には予備バッテリーを準備して、事前に試し撮りをしてください。
- バッテリーの端子部が汚れると、電源が入らなかったり、充電ができないなどの症状が出る場合があります。このような場合は柔らかい布や綿棒などで軽く拭いて汚れを落としてください。

バッテリーの保管方法について

バッテリーを長持ちさせるためには、長時間使用しない場合でも、1年に1回程度充電して本機で使い切り、その後本機からバッテリーを取りはずして、湿度の低い涼しい場所で保管してください。

バッテリーの寿命について

- バッテリーには寿命があります。使用回数を重ねたり、時間が経過するにつれバッテリーの容量は少しずつ低下します。使用できる時間が大幅に短くなった場合は、寿命と思われますので新しいものをご購入ください。
- 寿命は、保管方法、使用状況や環境、バッテリーパックごとに異なります。

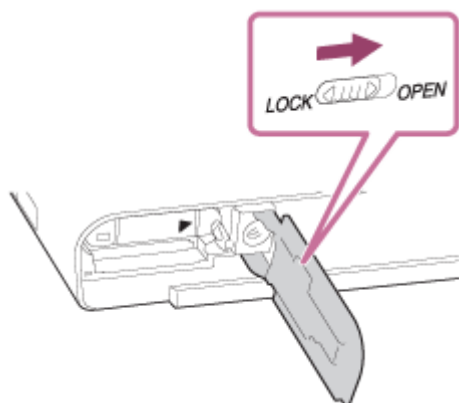
充電についてのご注意

- 付属のACアダプターは本機専用です。故障のおそれがあるため、他の電子機器に接続して使用しないでください。
- 必ずソニー製純正のACアダプターを使用してください。
- 充電中に本機の充電ランプが点滅した場合はバッテリーを取りはずし、もう一度同じバッテリーを本機に入れてください。再びランプが点滅した場合はバッテリーの異常、または指定以外のバッテリーが挿入されている可能性があります。指定のバッテリーかどうか確認してください。
指定のバッテリーを入れている場合は、バッテリーを取りはずし、新品のバッテリーなど別のバッテリーを挿入して充電が正常に行われるか確認してください。充電が正常に行われる場合は、バッテリーの異常が考えられます。
- ACアダプターを本機とコンセントに接続しても充電ランプが点滅する場合は、充電に適した温度範囲外にあるため、充電の一時待機状態になっています。充電に適した温度範囲に戻れば充電を再開しランプも点灯します。バッテリーの充電は周囲温度が10℃～30℃の環境で行うことをおすすめします。

メモリーカードを本機に入れる/取り出す

メモリーカード（別売）を本機に入れる手順を説明します。

1 バッテリー/メモリーカードカバーを開ける。

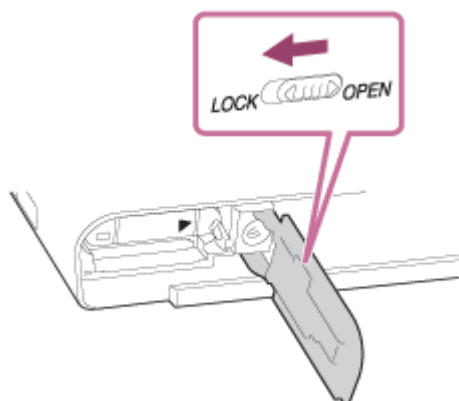


2 メモリーカードを入れる。



- 切り欠き部をイラストの向きに合わせ、「カチッ」と音がするまで奥に差し込む。正しく挿入しないと故障の原因になります。

3 カバーを閉じる。

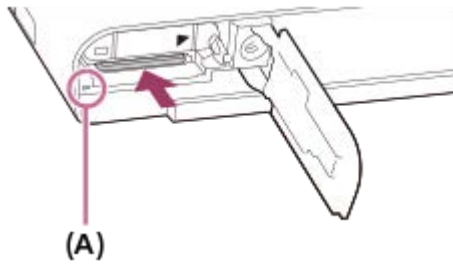


ヒント

- メモリーカードの動作を安定させるために、本機ではじめてお使いになるメモリーカードは、まず、本機でフォーマット（初期化）することをおすすめします。

メモリーカードを取り出すには

カバーを開けて、アクセスランプ **(A)** が点灯していないことを確認し、メモリーカードを一度押します。



関連項目

- [使用できるメモリーカード](#)
- [メモリーカードについてのご注意](#)
- [フォーマット](#)

使用できるメモリーカード

microSDメモリーカード、メモリースティック マイクロを本機でお使いの場合は、必ず専用のアダプターに入れてお使いください。

SDメモリーカード

記録方式		対応メモリーカード
静止画		SD、SDHC、SDXCカード
AVCHD		SD、SDHC、SDXCカード（Class4以上またはU1以上）
XAVC S	4K 60Mbps* HD 50Mbps以下* HD 60Mbps	SDHC、SDXCカード（Class10またはU1以上）
	4K 100Mbps* HD 100Mbps	SDHC、SDXCカード（U3）
	ハイフレームレート*	SDHC、SDXCカード（Class10またはU1以上）

* プロキシ記録時を含む

メモリースティック

記録方式		対応メモリーカード
静止画		メモリースティック PRO デュオ、メモリースティック PRO-HG デュオ
AVCHD		メモリースティック PRO デュオ（Mark2）、メモリースティック PRO-HG デュオ
XAVC S	4K 60Mbps* HD 50Mbps以下* HD 60Mbps	メモリースティック PRO-HG デュオ
	4K 100Mbps* HD 100Mbps	—
	ハイフレームレート*	メモリースティック PRO-HG デュオ

* プロキシ記録時を含む

ご注意

- SDHCメモリーカードにXAVC Sで長時間撮影した場合は、4GBのファイルに分割されます。PlayMemories Homeでパソコンに取り込むことで、1つのファイルとして扱うことができます。
- メモリーカード上の管理ファイルを修復する場合は、バッテリーを十分に充電をしてから実行してください。

- [メモリーカードについてのご注意](#)
- [静止画の記録可能枚数](#)
- [動画の記録可能時間](#)

4-737-296-01(2) Copyright 2018 Sony Corporation

メモリーカードについてのご注意

- 長期間、画像の撮影・消去を繰り返しているとメモリーカード内のファイルが断片化（フラグメンテーション）して、動画記録が途中で停止してしまう場合があります。このような場合は、パソコンなどに画像を保存したあと、本機で「フォーマット」を行ってください。
- アクセスランプ点灯中は、絶対にメモリーカードを取り出したり、USBケーブルを抜いたり、バッテリーを取りはずしたり、電源を切らないでください。メモリーカードのデータが壊れることがあります。
- データ保護のため必ずバックアップをお取りください。
- すべてのメモリーカードの動作を保証するものではありません。
- SDXCメモリーカードに記録した映像は、exFATに対応していないパソコンやAV機器などに、本機とUSBケーブルで接続して取り込んだり再生することはできません。接続する機器がexFATに対応しているかを事前にご確認ください。

対応していない機器に接続した場合、フォーマット（初期化）を促す表示が出る場合がありますが、決して実行しないでください。内容がすべて失われます。

（exFATは、SDXCメモリーカードで使用されているファイルシステムです。）

- 水にぬらさないでください。
- 強い衝撃を与えたり、曲げたり、落としたりしないでください。
- 以下のような場所での使用や保管は避けてください。
 - 高温になった車の中や炎天下などの気温の高い場所
 - 直射日光のあたる場所
 - 湿気の多い場所や腐食性のものがある場所
- 強い磁気のそばにメモリーカードを近づけたり、静電気や電氣的ノイズの影響を受ける場所で使用した場合、データが壊れることがあります。
- 端子部には手や金属で触れないでください。
- 小さいお子さまの手の届くところに置かないようにしてください。誤って飲みこむおそれがあります。
- 分解したり、改造したりしないでください。
- 長時間使用した直後のメモリーカードは熱くなっています。ご注意ください。
- パソコンでフォーマットしたメモリーカードは、本機での動作を保証しません。本機でフォーマットしてください。
- お使いのメモリーカードと機器の組み合わせによっては、データの読み込み/書き込み速度が異なります。
- メモエリアに書き込むときは、あまり強い圧力をかけないでください。
- メモリーカード本体およびメモリーカードアダプターにラベルなどを貼らないでください。
- 書き込み禁止スイッチや誤消去防止スイッチが「LOCK」になっていると画像の記録や消去などができなくなります。この場合はロックを解除してください。
- メモリースティック マイクロ、microSDメモリーカードを本機でお使いの場合
 - 必ず専用のアダプターに入れてお使いください。アダプターに装着されていない状態で挿入されると、メモリーカードが取り出せなくなる可能性があります。
 - メモリーカードをメモリーカードアダプターに入れるときは、正しい挿入方向をご確認のうえ、奥まで差し込んでください。差し込みかたが不十分だと正常に動作しない場合があります。
- メモリースティック PRO デュオとメモリースティック PRO-HG デュオについて
 - マジックゲート搭載のメモリースティックです。“マジックゲート”とは、暗号化技術を使って著作権を保護する技術です。
本機ではマジックゲート機能が必要なデータの記録/再生はできません。
 - パラレルインターフェースを利用した高速データ転送に対応しております。

- 使用可能なメモリーカードについての最新情報は、以下のページをご確認ください。

メモリースティック対応表

<http://www.sony.jp/rec-media/memorystick/compatibility/>

SDカード対応表

<http://www.sony.jp/rec-media/sd/compatibility/>

日付と時刻を設定する

初めて電源を入れたときや初期化を行ったあと、または内蔵の充電式バックアップ電池が消耗しているときには、日時設定の画面が表示されます。

1 本機の電源を入れる。

日時設定を要求する画面になる。

2 モニターの表示で【実行】が選ばれていることを確認し、コントロールホイールの中央を押す。

3 【東京/ソウル】が選ばれていることを確認し、中央を押す。

4 コントロールホイールの上/下を押す、またはホイールを回して【日時】を選び、中央を押す。

サマータイム：

日本では、サマータイムは【切】にする。

表示形式：

日付表示順を選ぶ。

5 コントロールホイールの上/下/左/右で希望の設定を選び、中央を押す。

- 【日時】を設定する場合、真夜中は12:00AM、正午は12:00PMとなります。
- 【日時】を設定する場合は、上/下を押して数値を変更してください。

6 手順5ですべて設定し、【実行】を選んで中央を押す。

設定した日時の保持について

本機は日時や各種の設定を電源の入/切やバッテリーの有無に関係なく保持するために、充電式バックアップ電池を内蔵しています。

内蔵バックアップ電池を充電するには、本機に充電されたバッテリーを入れ、電源を切ったまま24時間以上放置してください。

バッテリー充電のたびにリセットされる場合は、内蔵充電式バックアップ電池が消耗している場合があります。相談窓口にお問い合わせください。

ヒント

- 日時設定を完了したあとに日時やエリアを合わせ直したい場合は、MENU→（セットアップ）→【日時設定】または【エリア設定】で設定してください。

ご注意

- 日時設定をキャンセルした場合は電源を入れると毎回日時設定画面が表示されます。

関連項目

- [日時設定](#)

- [エリア設定](#)
- [コントロールホイールの使いかた](#)

4-737-296-01(2) Copyright 2018 Sony Corporation

デジタルスチルカメラ
DSC-RX100M6

カメラ内ガイド

〔カメラ内ガイド〕機能を割り当てたキーを押すと、選択中のメニュー、Fn（ファンクション）の機能、設定に関する説明をカメラの画面に表示します。

あらかじめ、〔カスタムキー〕または〔カスタムキー〕で希望のキーに〔カメラ内ガイド〕を割り当ててください。

- 1 MENU→2（撮影設定2）→〔カスタムキー〕または〔カスタムキー〕→希望のキーに〔カメラ内ガイド〕の機能を設定する。

- 〔カメラ内ガイド〕を割り当てられないキーもあります。

- 2 説明を見たいメニューやFnの項目を選択し、〔カメラ内ガイド〕の機能を割り当てたキーを押す。

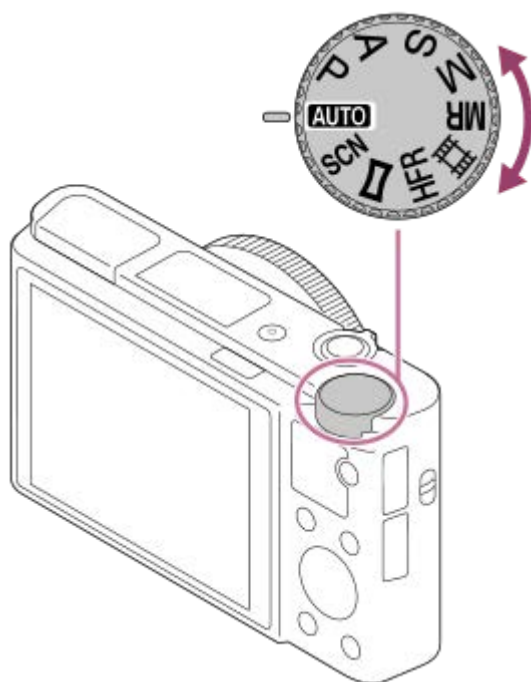
その項目の説明が表示される。

関連項目

- [カスタムキー](#)（静止画/動画/再生）

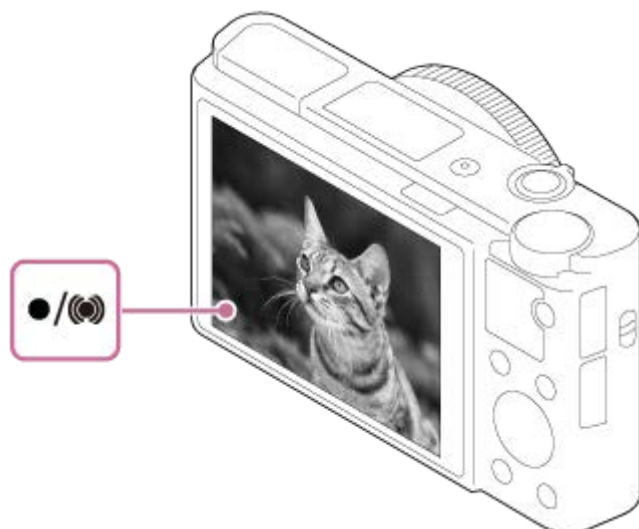
静止画を撮影する

- 1 モードダイヤルを回して、好みの撮影モードを選ぶ。



- 2 モニターを見やすい角度に調節して、本機を構える。または、ファインダーをのぞいて、本機を構える。
- 3 W/T（ズーム）レバーを動かして、被写体の大きさを決める。
- 4 シャッターボタンを半押しして、ピントを合わせる。

ピントが合うと「ピピッ」という音がして、フォーカス表示（● など）が点灯する。



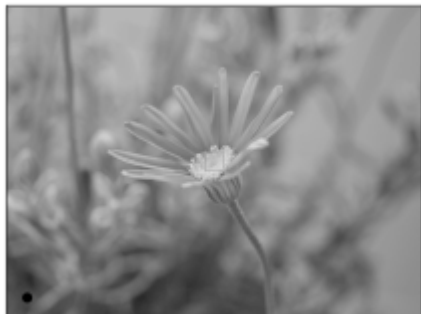
- ピントが合う最短距離はレンズ先端からW側約8cm、T側約100cmです。

5 シャッターボタンを深く押し込む。

フォーカスを固定して好みの構図で撮影するには（フォーカスロック）

オートフォーカス時に、希望の被写体にピントを固定して撮影します。

1. MENU→1（撮影設定1）→ [フォーカスモード] → [シングルAF] または [AF制御自動切り換え] を選ぶ。
2. ピントを合わせたい被写体にフォーカスエリアを合わせ、シャッターボタンを半押しする。



ピントが固定される。

- ピントが合いにくい場合は、[フォーカスエリア] を [中央] または、[フレキシブルスポット] にします。

3. シャッターボタンを半押ししたまま、撮りたい構図に戻す。



4. シャッターボタンを押し込んで撮影する。

ヒント

- 自動でピントを合わせられない場合は、フォーカス表示が点滅し、「ピピッ」と電子音が鳴りません。構図を変えたり、フォーカス設定を変えるなどしてください。なお、[コンティニューアスAF] に設定している場合は、が点灯し、ピントが合ったときの電子音は鳴りません。
- 撮影後、データ書き込み中を示すアイコンがモニターに表示されます。アイコンが表示されている間は、メモリーカードを抜かないでください。

ご注意

- [フォーカスモード] を [AF制御自動切り換え] に設定していても、被写体が動いているとカメラが判断した場合は、フォーカスロックできません。

関連項目

- [モードダイヤルの機能一覧](#)
- [ズームする](#)
- [静止画を再生する](#)
- [オートレビュー](#)

- フォーカスモード
- フォーカスエリア

4-737-296-01(2) Copyright 2018 Sony Corporation

デジタルスチルカメラ
DSC-RX100M6

フォーカスモード

被写体の動きに応じてピント合わせの方法を選べます。

① MENU →  1 (撮影設定1) → [フォーカスモード] → 希望の設定を選ぶ。

メニュー項目の詳細

AF-S (シングルAF) :

ピントが合った時点でピントを固定する。動きのない被写体で使う。

AF-A (AF制御自動切り換え) :

被写体の動きに応じて、シングルAFとコンティニュアスAFが切り替わる。シャッターボタンを半押しすると、被写体が静止していると判断したときはピント位置を固定し、被写体が動いているときはピントを合わせ続ける。連続撮影時は、2枚目以降自動的にコンティニュアスAFに切り替わります。

AF-C (コンティニュアスAF) :

シャッターボタンを半押ししている間中、ピントを合わせ続ける。動いている被写体にピントを合わせるときに使う。
[コンティニュアスAF] では、ピントが合ったときの電子音は鳴りません。

DMF (ダイレクトマニュアルフォーカス) :

オートフォーカスでピントを合わせたあと、手動で微調整できる。最初からマニュアルフォーカスでピントを合わせるよりもすばやくピント合わせができ、マクロ撮影などに便利です。

MF (マニュアルフォーカス) :

ピント合わせを手動で行う。オートフォーカスで意図した被写体にピントが合わないときには、マニュアルフォーカスで操作してください。

- ダイレクトマニュアルフォーカスやマニュアルフォーカスを選び手動でピントを合わせるときは、コントロールリングを回します。

フォーカス表示

● 点灯 :

ピントが合って固定されている。

● 点滅 :

ピントが合っていない。

(●) 点灯 :

ピントが合っている。被写体の動きに合わせてピント位置が変わる。

(●) 点灯 :

ピント合わせの途中。

ピントが合いにくい被写体

- 被写体が遠くて暗い
- 被写体のコントラストが弱い
- ガラス越しの被写体
- 高速で移動する被写体
- 鏡や発光物など反射、光沢のある被写体
- 点滅する被写体
- 逆光になっている被写体
- ビルの外観など、繰り返しパターンの連続するもの
- フォーカスエリアの中に距離の異なるものが混じっているとき

ヒント

- マニュアルフォーカスやダイレクトマニュアルフォーカスで無限遠にピントを合わせるときは、充分遠くにある被写体にピントが合っていることをモニターやファインダー上で確認してください。

ご注意

- 動画撮影時またはモードダイヤルが **HFR** のときは、フォーカスモードは [コンティニユアスAF] または [マニュアルフォーカス] になります。

関連項目

- [ダイレクトマニュアルフォーカス \(DMF\)](#)
- [マニュアルフォーカス](#)
- [MFアシスト \(静止画\)](#)
- [位相差AFについて](#)

4-737-296-01(2) Copyright 2018 Sony Corporation

フォーカスエリア

ピント合わせの位置を変更します。ピントが合いにくいときなどに使います。

① MENU→ 1 (撮影設定1) → [フォーカスエリア] →希望の設定を選ぶ。

メニュー項目の詳細

ワイド :

モニター全体を基準に、自動ピント合わせをする。静止画撮影でシャッターボタンを半押ししたときには、ピントが合ったエリアに緑色の枠が表示される。

ゾーン :

モニター上でピントを合わせたいゾーンの位置を選ぶと、その中で自動でピントを合わせる。

中央 :

モニター中央付近の被写体に自動ピント合わせをする。フォーカスロックと併用して好きな構図で撮影が可能。

フレキシブルスポット :

モニター上の好きなところにフォーカス枠を移動し、非常に小さな被写体や狭いエリアを狙ってピントを合わせる。フレキシブルスポット画面で、コントロールホイールを回して、フォーカス枠のサイズを変更できる。

拡張フレキシブルスポット :

フレキシブルスポットの周囲のフォーカスエリアをピント合わせの第2優先エリアとして、選んだ1点でピントが合わせられない場合に、この周辺のフォーカスエリアを使ってピントを合わせる。

ロックオンAF :

シャッターボタンを半押しすると、選択されたAFエリアから被写体を追尾する。フォーカスモードが[コンティニュアスAF] のときのみ選択可能。[フォーカスエリア] 設定画面で[ロックオンAF] にカーソルを合わせて、コントロールホイールの左/右でロックオンAFの開始エリアを変更できる。追尾開始エリアをゾーン、フレキシブルスポットまたは拡張フレキシブルスポットにすると、好きなところに追尾開始エリアを移動することもできる。

フレキシブルスポット画面で、コントロールホイールを回して、フォーカス枠のサイズを変更できる。

フォーカスエリアの移動方法

- [フォーカスエリア] が [ゾーン]、[フレキシブルスポット] または [拡張フレキシブルスポット] のときに、[フォーカススタンダード] が割り当てられているボタンを押すと、コントロールホイールの上/下/左/右でフォーカス枠の位置を変更しながら撮影できます。フォーカス枠を中央に移動するには、移動中に  ボタンを押してください。コントロールホイールを使って撮影設定などを変更する場合は、[フォーカススタンダード] を割り当てたボタンを押してください。
- タッチ操作で、モニターのフォーカス枠をドラッグしすばやく移動させることができます。あらかじめ、[タッチ操作] を [入] に設定してください。

ご注意

- 以下の場合、[フォーカスエリア] は [ワイド] に固定されます。
 - － [おまかせオート]
 - － [プレミアムおまかせオート]
 - － [シーンセレクション]
 - － スマイルシャッター使用時
 - － モードダイヤルが  (動画) で [オートデュアル記録] を [入] にしている場合
- 連続撮影時やシャッターボタンを一気に押し込んだときなどには、フォーカスエリアが点灯しないことがあります。
- モードダイヤルが  (動画) になっているときや動画撮影中は、[フォーカスエリア] の [ロックオンAF] は選択できません。
- フォーカス枠の移動中は、コントロールホイールとカスタムボタンに割り当てられた機能を実行できません。

関連項目

- [タッチ操作](#)
- [縦横フォーカスエリア切換（静止画）](#)
- [フォーカスエリア登録機能（静止画）](#)

4-737-296-01(2) Copyright 2018 Sony Corporation

デジタルスチルカメラ
DSC-RX100M6

位相差AFについて

使用するオートフォーカスエリア内に位相差AF測距点があると、位相差AFとコントラストAFをかけたオートフォーカスになります。

ご注意

- 絞り値がF8より大きいときは、位相差AFを使用できません。コントラストAFのみになります。
- [ 記録方式] が [XAVC S HD] で [ 記録設定] が [120p] のときは、位相差AFを使用できません。コントラストAFのみになります。

フォーカススタンダード

希望のカスタムキーに「フォーカススタンダード」を割り当てると、フォーカス枠の位置をすばやく移動するなど、フォーカスエリア設定に応じて便利な機能呼び出せます。

- 1 MENU →  2（撮影設定2） → [ カスタムキー] → 希望のキーに「フォーカススタンダード」の機能を設定する。
 - 動画撮影時に「フォーカススタンダード」を使うときは、MENU →  2（撮影設定2） → [ カスタムキー] で希望のキーに「フォーカススタンダード」を設定してください。
- 2 「フォーカススタンダード」を割り当てたキーを押す。
 - 「フォーカスエリア」と「中央ボタン押しロックオンAF」の設定によってキーを押したときにできることが変わります。

「フォーカスエリア」が「ゾーン」、「フレキシブルスポット」、「拡張フレキシブルスポット」のとき：
キーを押すと、コントロールホイールの上/下/左/右でフォーカス枠の位置を移動できる。

「フォーカスエリア」が「ワイド」または「中央」のとき：

- 「中央ボタン押しロックオンAF」が「入」のときは、キーを押すと「中央ボタン押しロックオンAF」が起動する。コントロールホイールの中央を押すと、画面中央の被写体を検出して追尾が開始される。追尾中にもう一度キーを押すと、追尾を解除する。

ご注意

- 「左ボタン」、「右ボタン」には「フォーカススタンダード」を設定できません。

関連項目

- [カスタムキー（静止画/動画/再生）](#)
- [フォーカスエリア](#)
- [中央ボタン押しロックオンAF](#)

デジタルスチルカメラ
DSC-RX100M6

縦横フォーカスエリア切換（静止画）

カメラのポジション（横位置/縦位置）ごとに、〔フォーカスエリア〕とフォーカス枠の位置を使い分けるかどうかを設定することができます。人物のポートレートやスポーツシーンの撮影時など、カメラのポジションを頻繁に変えながら撮影したい場合に便利です。

① MENU → 1（撮影設定1） → 縦横フォーカスエリア切換 → 希望の設定を選ぶ。

メニュー項目の詳細

しない：

横位置撮影時と縦位置撮影時で、〔フォーカスエリア〕の設定とフォーカス枠の位置を使い分けない。

フォーカス位置のみ：

横位置撮影時と縦位置撮影時で、フォーカス枠の位置を使い分ける。〔フォーカスエリア〕の設定は使い分けない。

フォーカス位置+フォーカスエリア：

横位置撮影時と縦位置撮影時で、〔フォーカスエリア〕の設定とフォーカス枠の位置を使い分ける。

〔フォーカス位置+フォーカスエリア〕の例



(A) 縦位置：〔フレキシブルスポット〕（左上）

(B) 横位置：〔フレキシブルスポット〕（右上）

(C) 縦位置：〔ゾーン〕（左下）

- カメラのポジションは、横位置、縦位置（シャッターボタン側が上）、縦位置（シャッターボタン側が下）の3通りで区別されます。

ご注意

- 縦横フォーカスエリア切換 の設定を変えると、ポジションごとの設定は引き継がれません。
- 縦横フォーカスエリア切換 を〔フォーカス位置+フォーカスエリア〕または〔フォーカス位置のみ〕に設定していても、下記の場合は、〔フォーカスエリア〕とフォーカス枠の位置はポジションごとに変更されません。
 - 撮影モードが〔おまかせオート〕、〔プレミアムおまかせオート〕、〔動画〕、〔ハイフレームレート〕
 - シャッターボタン半押し中
 - 動画撮影中
 - デジタルズーム使用中
 - オートフォーカス動作中
 - 連続撮影中
 - セルフタイマーのカウントダウン中
 - ピント拡大中
- カメラを縦位置に構えたまま電源を入れ、直後に撮影すると、最初の1枚のみ横位置のフォーカス設定、または前回のフォーカス設定で撮影されます。
- レンズが上や下を向いている状態では、カメラは縦横を判別しません。

関連項目

- [フォーカスエリア](#)

4-737-296-01(2) Copyright 2018 Sony Corporation

デジタルスチルカメラ
DSC-RX100M6

AF/MFコントロール

撮影中にカメラのホールディングを崩すことなく、オートフォーカスとマニュアルフォーカスを簡単に切り換えることができます。

- ① MENU→2（撮影設定2）→[カスタムキー]または[カスタムキー]→希望のボタン→[押す間AF/MFコントロール]または[再押しAF/MFコントロール]を選ぶ。

メニュー項目の詳細

押す間AF/MFコントロール：

ボタンを押し続けている間、フォーカスが切り替わる。

再押しAF/MFコントロール：

ボタンを再度押すまで、フォーカスが切り替わる。

ご注意

- コントロールホイールの[左ボタン]、[右ボタン]には、[押す間AF/MFコントロール]を設定できません。

関連項目

- [カスタムキー](#)（静止画/動画/再生）

瞳AF

ボタンを押している間、人物の目にピントを合わせます。

- 1 MENU→2（撮影設定2）→カスタムキー→希望のキーに「瞳AF」の機能を設定する。
- 2 人物の顔に本機を向け、「瞳AF」の機能を割り当てたキーを押す。
- 3 キーを押したままシャッターボタンを押す。

ヒント

- 目にピントが合うと、目に枠が表示されます。フォーカスモードが「シングルAF」のとき、または「AF制御自動切り換え」で被写体が動いていないときは、一定時間で枠が消えます。

ご注意

- 人物の顔を検出できない場合、「瞳AF」は使用できません。
- 「フォーカスモード」を「マニュアルフォーカス」に設定しているときなど、状況によっては使用できない場合があります。
- 以下のときは、「瞳AF」がうまく働かないことがあります。
 - － メガネ（サングラス）をかけた状態
 - － 前髪がかかった状態
 - － 低照度、逆光時
 - － 目を閉じた状態
 - － 影がかかった状態
 - － ピントが大きくずれた状態
 - － 被写体の動きが大きいとき
- 被写体の動きが大きいときは、目の枠の表示がずれることがあります。
- モードダイヤルが （動画）または **HFR** のときや動画撮影中は、「瞳AF」は使用できません。

関連項目

- [カスタムキー（静止画/動画/再生）](#)
- [AF時の顔優先設定](#)

AF時の顔優先設定

オートフォーカス時に、カメラが検出した人物の顔に優先してピントを合わせるかどうかを設定します。

1 MENU→ 1 (撮影設定1) → [AF時の顔優先設定] → [AF時の顔優先] →希望の設定を選ぶ。

メニュー項目の詳細

入：
カメラが検出した顔に優先してピントを合わせる。

切：
顔検出は行わずにピントを合わせる。

顔検出枠表示

[AF時の顔優先] が [入] のときに、顔検出枠を表示するかどうかを設定できます。

1. MENU→ 1 (撮影設定1) → [AF時の顔優先設定] → [顔検出枠表示] →希望の設定を選ぶ。

入：
[AF時の顔優先] が [入] のときに顔検出枠を表示する。

切：
顔検出枠を表示しない。

顔検出枠について

- 顔を検出すると、灰色の顔検出枠が表示され、オートフォーカス可能と判断されると枠が白色になります。
- [個人顔登録] で優先順位を設定している場合、被写体の中で一番優先順位が高い顔が自動で選択され顔検出枠が白色になります。それ以外の登録されている顔の検出枠は赤紫色になります。



ヒント

- [AF時の顔優先設定] が [入] でフォーカスモードが [シングルAF] のときに目にピントが合うと、目に枠が表示されます。目に表示された枠は一定時間で消えます。

ご注意

- 以下のときは、顔検出機能は使えません。
 - 光学ズーム以外のズーム
 - [スイングパノラマ]
 - [ピクチャーエフェクト] が [ポストリゼーション]
 - ピント拡大時
 - [シーンセレクション] が [風景]、[夜景]、[夕景]

- 動画撮影時で [ 記録設定] が [120p] のとき
- ハイフレームレート撮影時

- 最大8人の顔を検出できます。
- [顔検出枠表示] を [切] にしていても、ピントが合った顔には緑色のフォーカス枠が表示されます。
- 撮影モードが [おまかせオート]、[プレミアムおまかせオート] の場合、[AF時の顔優先] は [入] になります。
- 状況によっては、顔が検出できなかったり、顔以外を誤検出することがあります。

関連項目

- [個人顔登録（新規登録）](#)
- [個人顔登録（優先順序変更）](#)

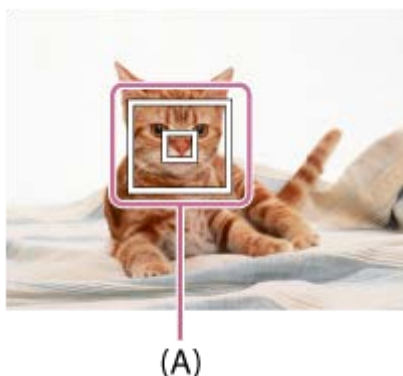
中央ボタン押しロックオンAF

コントロールホイールの中央を押すことで画面中央にある被写体を検出し、その被写体を追尾し続けます。

1 MENU→1（撮影設定1）→〔中央ボタン押しロックオンAF〕→〔入〕を選ぶ。

2 ターゲット枠（A）を被写体に合わせて、コントロールホイールの中央を押す。

- 追尾を解除する場合は、もう一度中央を押します。



3 シャッターボタンを押し込み撮影する。

ヒント

- お好みのキーに〔フォーカススタンダード〕の機能を割り当てておくと、〔フォーカスエリア〕が〔ワイド〕または〔中央〕のときにそのキーを押すことで、〔中央ボタン押しロックオンAF〕を起動したり被写体の検出をやり直したりできます。
- モニター撮影時は、タッチ操作で追尾する被写体を選べます。あらかじめタッチパネル操作を有効にし、MENU→2（撮影設定2）→〔タッチ撮影設定〕→〔タッチフォーカス〕を選んでください。

ご注意

- 以下のときは、〔中央ボタン押しロックオンAF〕機能がうまく働かないことがあります。
 - － 動きが速すぎる被写体
 - － 小さすぎる、または大きすぎる被写体
 - － 被写体と背景のコントラストが弱い場合
 - － 暗いシーン
 - － 明るさが変わるシーン
- 以下のときは、ロックオンAF機能は働きません。
 - － 〔スイングパノラマ〕
 - － 〔シーンセレクション〕が〔手持ち夜景〕、〔人物ブレ軽減〕
 - － 〔スマートテレコンバーター〕使用時
 - － マニュアルフォーカス
 - － デジタルズーム中
 - － 動画モード、かつ〔手ブレ補正〕が〔インテリジェントアクティブ〕のとき
 - － 動画撮影時で、〔記録設定〕が〔120p〕のとき
 - － ハイフレームレート撮影時

関連項目

- [フォーカススタンダード](#)
- [タッチ操作](#)

4-737-296-01(2) Copyright 2018 Sony Corporation

フォーカスエリア登録機能（静止画）

カスタムキーを使って、フォーカス枠をあらかじめ登録した位置に一時的に移動させることができます。動きの予想が可能なスポーツシーンなどの撮影時に、状況に応じてフォーカスエリアをすばやく移動させることができ便利です。

フォーカスエリアを登録するには

1. MENU → 1（撮影設定1） → [フォーカスエリア登録機能] を [入] にする。
2. フォーカスエリアを希望の位置に設定して、Fn（ファンクション）ボタンを長押しする。

登録したフォーカスエリアを呼び出すには

1. MENU → 2（撮影設定2） → [カスタムキー] → 希望のキーを選び、[押す間登録フォーカスエリア] を選ぶ。
2. 撮影画面で [押す間登録フォーカスエリア] 機能を割り当てたボタンを押しながら、シャッターボタンを押して撮影する。

ヒント

- [フォーカスエリア登録機能] でフォーカス枠を登録すると、登録したフォーカス枠が画面上で点滅します。
- [再押し登録フォーカスエリア] を割り当てると、ボタンを押し続けなくても登録したフォーカス枠が維持されます。

ご注意

- 以下のときは、フォーカスエリアの登録はできません。
 - －モードダイヤルが （動画）または **HFR**
 - －[タッチフォーカス] 実行中
 - －デジタルズーム使用中
 - －[ロックオンAF] 実行中
 - －ピント合わせ中
 - －フォーカスロック中
- [左ボタン]、[右ボタン] には [押す間登録フォーカスエリア] を設定できません。
- 以下のときは、登録したフォーカスエリアの呼び出しはできません。
 - －モードダイヤルが **AUTO**（オートモード）、（動画）または **HFR**
- [フォーカスエリア登録機能] を [入] に設定すると、[ホイールロック] は [切] に固定されます。

関連項目

- [フォーカスエリア](#)
- [カスタムキー](#)（静止画/動画/再生）

デジタルスチルカメラ
DSC-RX100M6

登録フォーカスエリア消去（静止画）

〔 フォーカスエリア登録機能〕で登録したフォーカス枠の位置情報を消去します。

① MENU →  1（撮影設定1） → 〔 登録フォーカスエリア消去〕を選ぶ。

関連項目

- [フォーカスエリア登録機能（静止画）](#)

デジタルスチルカメラ
DSC-RX100M6

プリAF（静止画）

シャッター半押し前に、カメラが自動でピントを合わせます。ピント合わせの動作中は、画面が揺れることがあります。

1 MENU→1（撮影設定1）→プリAF→希望の設定を選ぶ。

メニュー項目の詳細

入：

シャッター半押し前に、カメラが自動でピントを合わせる。

切：

カメラが自動でピント合わせをしない。

AF補助光（静止画）

AF補助光とは、暗所でフォーカスを合わせるための補助光です。シャッターボタンを半押ししてフォーカスがロックされるまでの間、自動的に補助光が発光して、フォーカスを合わせやすくします。

1 MENU→ 1（撮影設定1）→ AF補助光 →希望の設定を選ぶ。

メニュー項目の詳細

オート：

暗所でAF補助光が自動発光する。

切：

AF補助光を使用しない。

ご注意

- 以下のときは、 AF補助光 は発光されません。
 - － 撮影モードが「動画」または「ハイフレームレート」
 - － スイングパノラマ
 - － 「フォーカスモード」が「コンティニュアスAF」のとき、または「AF制御自動切り換え」で被写体が動いているとき（フォーカス表示  または  が点灯しているとき）
 - － ピント拡大中
 - － 「シーンセレクション」が下記のとおり
 - － 「風景」
 - － 「スポーツ」
 - － 「夜景」
 - － 「ペット」
 - － 「打ち上げ花火」
- AF補助光は明るい光です。安全上問題ありませんが、至近距離で直接人の目に当たらないようにお使いください。

デジタルスチルカメラ
DSC-RX100M6

フォーカスエリア自動消灯

フォーカスエリア表示を常に表示するか、ピントが合ったあと一定時間経過後に非表示にするかを設定します。

① MENU→1 (撮影設定1) → [フォーカスエリア自動消灯] →希望の設定を選ぶ。

メニュー項目の詳細

入：

フォーカスエリア表示を合焦後一定時間経過後に非表示にする。

切：

フォーカスエリア表示を常に表示する。

デジタルスチルカメラ
DSC-RX100M6

コンティニュアスAFエリア表示

コンティニュアスAF時に、フォーカスエリアで［ワイド］または［ゾーン］を選んでいるとき、ピントが合ったフォーカスエリアを表示するかしないかを設定します。

1 MENU→1（撮影設定1）→［コンティニュアスAFエリア表示］→希望の設定を選ぶ。

メニュー項目の詳細

入：

ピントが合ったフォーカスエリアを表示する。

切：

ピントが合ったフォーカスエリアを表示しない。

ご注意

- ［フォーカスエリア］が以下の場合は、ピントを合わせたあと、エリアのフォーカス枠が緑色に点灯します。
 - －［中央］
 - －［フレキシブルスポット］
 - －［拡張フレキシブルスポット］

デジタルスチルカメラ
DSC-RX100M6

位相差AFエリア表示

位相差AFのエリアを表示するかしないかを設定します。

1 MENU→ 1 (撮影設定1) → [位相差AFエリア表示] → 希望の設定を選ぶ。

メニュー項目の詳細

入：

位相差AFのエリアを表示する。

切：

位相差AFのエリアを表示しない。

ご注意

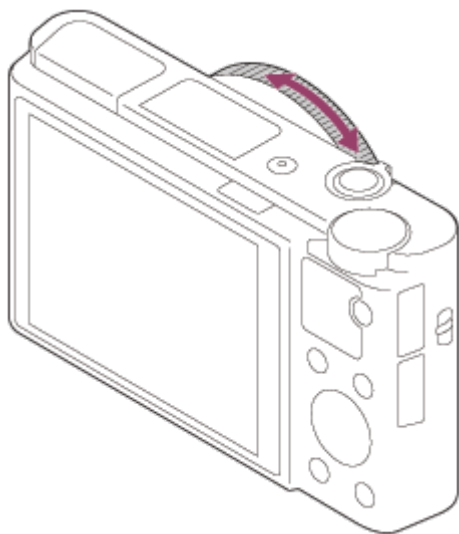
- 絞り値がF8より大きいときは、位相差AFを使用できません。コントラストAFのみになります。
- [ 記録方式] が [XAVC S HD] で [ 記録設定] が [120p] のときは、位相差AFを使用できません。コントラストAFのみになります。
- 動画撮影時は、位相差AFエリアは表示されません。

マニュアルフォーカス

オートフォーカスが効きにくいときは、手動でピントを合わせると便利です。

① MENU→1（撮影設定1）→〔フォーカスモード〕→〔マニュアルフォーカス〕を選ぶ。

② コントロールリングを左右に回して、被写体が最もはっきり見えるようにする。



- コントロールリングを回すと、画面にフォーカス距離が表示されます。

③ シャッターボタンを押し込んで撮影する。

ご注意

- ファインダー使用時は、視度調整が正しくないと、ファインダー上の正確なピントが得られません。
- 〔フォーカスモード〕を選び直すと、手動で設定したフォーカスの距離は解除されます。

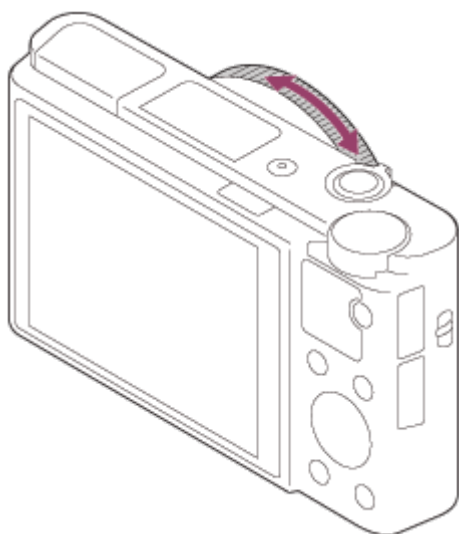
関連項目

- [ピント拡大](#)
- [ピーキング設定](#)
- [MFアシスト（静止画）](#)

ダイレクトマニュアルフォーカス（DMF）

オートフォーカスでピントを合わせたあと、手動で微調整できます。最初からマニュアルフォーカスでピントを合わせるよりもすばやくピント合わせができ、マクロ撮影などに便利です。

- 1 MENU→1（撮影設定1）→〔フォーカスモード〕→〔DMF〕を選ぶ。
- 2 シャッターボタンを半押ししてピントを合わせる。
- 3 シャッターボタンを半押ししたまま、コントロールリングを回してピントを調整する。



- コントロールリングを回すと、画面にフォーカス距離が表示されます。

- 4 シャッターボタンを押し込んで撮影する。

関連項目

- [ピーキング設定](#)

ピント拡大

撮影前の画像を拡大してピントの確認ができます。

〔 MFアシスト〕とは違い、コントロールリングを回さずに画像を拡大できます。

- 1 MENU→ 1（撮影設定1）→〔ピント拡大〕を選ぶ。
- 2 コントロールホイールの中央を押して画像を拡大し、コントロールホイールの上/下/左/右で拡大位置を調整する。
 - 中央を押すたびに、拡大倍率は切り替わります。
 - 拡大表示する初期倍率は、MENU→ 1（撮影設定1）→〔 ピント拡大初期倍率〕で設定できます。
- 3 ピントの確認をする。
 - （削除）ボタンを押すと拡大位置が中央に戻ります。
 - フォーカスモードが〔マニュアルフォーカス〕の場合は、拡大表示中にピントの調整を行えます。シャッターボタンを半押しすると拡大表示は解除されます。
 - 拡大表示する時間は、MENU→ 1（撮影設定1）→〔ピント拡大時間〕で設定できます。
- 4 シャッターボタンを押し込み撮影する。

タッチ操作でピント拡大を行うには

モニターをタッチして被写体を拡大表示し、ピントの調整を行うことができます。あらかじめ、〔タッチ操作〕を〔入〕に設定し〔タッチパネル/タッチパッド〕を適切に設定してください。モニター撮影時は、フォーカスモードが〔マニュアルフォーカス〕のときに、ピントを合わせたい場所をダブルタップして〔ピント拡大〕ができます。ファインダー撮影時は、モニターをダブルタップすると画面中央に枠が表示され、ドラッグで枠の位置を移動できます。コントロールホイールの中央を押すと、画像を拡大表示します。

ヒント

- ピント拡大時、タッチパネルをドラッグして拡大位置を動かすことができます。
- ピント拡大を終了したい場合は、もう一度モニターをダブルタップしてください。シャッターボタンを半押ししても終了できません。

関連項目

- [MFアシスト（静止画）](#)
- [ピント拡大時間](#)
- [ピント拡大初期倍率（静止画）](#)
- [カスタムキー（静止画/動画/再生）](#)
- [タッチ操作](#)

MFアシスト（静止画）

マニュアルフォーカス撮影やダイレクトマニュアルフォーカス撮影でピント合わせをするときに、画像を自動で拡大表示してピントを合わせやすくします。

- 1 MENU→1（撮影設定1）→ [ MFアシスト] → [入] を選ぶ。
- 2 コントロールリングを回してピントを合わせる。
 - 画像が拡大される。コントロールホイールの中央を押して、さらに拡大することもできる。

ヒント

- 拡大表示する時間は、MENU→1（撮影設定1）→ [ピント拡大時間] で設定できます。

ご注意

- 動画撮影のとき、 [ MFアシスト] 機能は使用できません。 [ピント拡大] 機能を使用してください。

関連項目

- [マニュアルフォーカス](#)
- [ダイレクトマニュアルフォーカス（DMF）](#)
- [ピント拡大時間](#)

デジタルスチルカメラ
DSC-RX100M6

ピント拡大時間

[ MFアシスト] または [ピント拡大] 機能で拡大表示する時間を設定します。

1 MENU →  1 (撮影設定1) → [ピント拡大時間] → 希望の設定を選ぶ。

メニュー項目の詳細

2秒：

拡大表示を2秒間行う。

5秒：

拡大表示を5秒間行う。

無制限：

拡大時間を無制限にする。シャッターボタンの操作で解除される。

関連項目

- [ピント拡大](#)
- [MFアシスト \(静止画\)](#)

デジタルスチルカメラ
DSC-RX100M6

ピント拡大初期倍率（静止画）

「ピント拡大」を使って画像を拡大するときに、最初に表示する倍率を設定します。フレーミングをしやすい設定を選んでください。

1 MENU→1（撮影設定1）→ピント拡大初期倍率→希望の設定を選ぶ。

メニュー項目の詳細

x1.0 :

撮影画面と同じ倍率で表示する。

x5.3 :

5.3倍に拡大する。

関連項目

- [ピント拡大](#)

デジタルスチルカメラ
DSC-RX100M6

ピーキング設定

マニュアルフォーカス撮影や、ダイレクトマニュアルフォーカス撮影のときに、ピントが合った部分の輪郭を強調するピーキングの設定をします。

1 MENU→1（撮影設定1）→【ピーキング設定】→希望の設定項目を選ぶ。

メニュー項目の詳細

ピーキング表示：

ピーキング表示をするかどうかを設定する。

ピーキングレベル：

ピントが合った部分の輪郭を強調するレベルを設定する。

ピーキング色：

ピントが合った部分の輪郭を強調する色を選ぶ。

ご注意

- 画像のシャープな部分をピントが合ったと判断するため、被写体によって強調表示効果が異なります。
- HDMI接続時は、接続先の機器にはピーキングが表示されません。

関連項目

- [マニュアルフォーカス](#)
- [ダイレクトマニュアルフォーカス（DMF）](#)

ドライブモード

1枚撮影、連写、ブラケット撮影など、撮影の目的に合わせて使用してください。

1 コントロールホイールの / (ドライブモード) → 希望の設定を選ぶ。

- MENU →  1 (撮影設定1) → [ドライブモード] でも設定できます。

2 コントロールホイールの左/右で希望のモードを選ぶ。

メニュー項目の詳細

 1枚撮影：

通常の撮影方法。

 連続撮影：

シャッターボタンを押している間、連続撮影する。

 セルフタイマー：

シャッターボタンを押してから指定した秒数が経過した後にセルフタイマーで撮影する。

 セルフタイマー（連続）：

シャッターボタンを押してから指定した秒数が経過した後にセルフタイマーで指定枚数を連続撮影する。

BRK C **連続ブラケット：**

シャッターボタンを押し続けることで、露出を段階的にずらして画像を撮影する。

BRK S **1枚ブラケット：**

露出を段階的にずらして、指定した枚数の画像を1枚ずつ撮影する。

BRK WB **ホワイトバランスブラケット：**

選択されているホワイトバランス・色温度/カラーフィルターの値を基準に、段階的にずらして、合計3枚の画像を記録する。

BRK DRO **DROブラケット：**

Dレンジオプティマイザーの値を段階的にずらして、合計3枚の画像を記録する。

ご注意

- 撮影モードが[シーンセレクション]で[スポーツ]を選んでいるときは、1枚撮影できません。

関連項目

- [連続撮影](#)
- [セルフタイマー](#)
- [セルフタイマー（連続）](#)
- [連続ブラケット](#)
- [1枚ブラケット](#)
- [ホワイトバランスブラケット](#)
- [DROブラケット](#)

連続撮影

シャッターボタンを押している間、連続して撮影します。

1 コントロールホイールの / (ドライブモード) → [連続撮影] を選ぶ。

- MENU →  1 (撮影設定1) → [ドライブモード] でも設定できます。

2 コントロールホイールの左/右で希望のモードを選ぶ。

メニュー項目の詳細

 連続撮影: Hi /  連続撮影: Mid /  連続撮影: Lo

	📷 シャッター方式	
	メカシャッター	オート/電子シャッター
連続撮影: Hi	—	最高24枚/秒*
連続撮影: Mid	最高10枚/秒*	最高10枚/秒*
連続撮影: Lo	最高3枚/秒	最高3枚/秒

* 絞り値がF8より大きいときは、フォーカスは1枚目の撮影時の位置に固定されます。

ヒント

- 連続撮影中にピントと露出を合わせ続けるには、以下の設定に変更してください。
 - [フォーカスモード] を [コンティニュアスAF] にする。
 - [ シャッター半押しAEL] を [切] または [オート] にする。

ご注意

- 以下のときは、連続撮影ができません。
 - 撮影モードが [スイングパノラマ]
 - 撮影モードが [シーンセレクション] の [スポーツ] 以外
 - [ピクチャーエフェクト] が以下のとき: [ソフトフォーカス] [絵画調HDR] [リッチトーンモノクロ] [ミニチュア] [水彩画調] [イラスト調]
 - [DRO/オートHDR] が [オートHDR]
 - [ISO感度] を [マルチショットNR] に設定しているとき
 - [スマイルシャッター] 使用時
- [ シャッター方式] を [メカシャッター] にしている場合は、連続撮影の速度を [連続撮影: Hi] に設定できません。
- フラッシュ発光時は連続撮影の速度が低下します。

関連項目

- [フォーカスモード](#)

- シャッター半押しAEL（静止画）
- シャッター方式（静止画）

4-737-296-01(2) Copyright 2018 Sony Corporation

デジタルスチルカメラ
DSC-RX100M6

セルフタイマー

シャッターボタンを押してから指定した秒数が経過した後にセルフタイマーで撮影します。5秒/10秒セルフタイマーは撮影者も一緒に写真に写るときに、2秒セルフタイマーはシャッターボタンを押したときのブレを軽減するときに使います。

1 コントロールホイールの / (ドライブモード) → [セルフタイマー] を選ぶ。

- MENU →  1 (撮影設定1) → [ドライブモード] でも設定できます。

2 コントロールホイールの左/右で希望のモードを選ぶ。

3 ピントを合わせてシャッターボタンを押す。

セルフタイマーランプが点滅して電子音が鳴り、指定の秒数後に撮影が開始される。

メニュー項目の詳細

シャッターボタンを押してから撮影されるまでの秒数を設定する。

 10 セルフタイマー: 10秒

 5 セルフタイマー: 5秒

 2 セルフタイマー: 2秒

ヒント

- セルフタイマーのカウントを中止するには、もう一度シャッターボタンを押すか、コントロールホイールの  /  を押します。
- セルフタイマーを解除するには、コントロールホイールの  /  を押して  (1枚撮影) を選びます。
- セルフタイマー作動中の電子音を消すには、[電子音] を [切] にしてください。
- ブラケットモードでセルフタイマー撮影するには、ドライブモードでブラケットを選択したうえで、MENU →  1 (撮影設定1) → [ブラケット設定] → [ブラケット時のセルフタイマー] を選んでください。

ご注意

- 以下のときは、セルフタイマーを使えません。
 - － 撮影モードが [スイングパノラマ]
 - － [シーンセレクション] の [スポーツ]
 - － [スマイルシャッター]

関連項目

- [電子音](#)

セルフタイマー（連続）

シャッターボタンを押してから指定した秒数が経過した後にセルフタイマーで指定枚数を連続撮影します。設定した枚数の中からお気に入りの1枚を選べます。

1 コントロールホイールの / （ドライブモード）→ [セルフタイマー（連続）] を選ぶ。

- MENU→  1（撮影設定1）→ [ドライブモード] でも設定できます。

2 コントロールホイールの左/右で希望のモードを選ぶ。

3 ピントを合わせてシャッターボタンを押す。

セルフタイマーランプが点滅して電子音が鳴り、指定の秒数後に撮影が開始される。指定した枚数が連続撮影される。

メニュー項目の詳細

例えば、[セルフタイマー(連続): 10秒後 3枚] を選択すると、シャッターボタンを押して10秒後に、3枚連写する。

 **セルフタイマー(連続): 10秒後 3枚**

 **セルフタイマー(連続): 10秒後 5枚**

 **セルフタイマー(連続): 5秒後 3枚**

 **セルフタイマー(連続): 5秒後 5枚**

 **セルフタイマー(連続): 2秒後 3枚**

 **セルフタイマー(連続): 2秒後 5枚**

ヒント

- セルフタイマーのカウントを中止するには、もう一度シャッターボタンを押すか、コントロールホイールの  /  を押します。
- セルフタイマーを解除するには、コントロールホイールの  /  を押して （1枚撮影）を選びます。

連続ブラケット

露出を自動的に標準/暗い/明るいの順でずらして撮影します（ブラケット撮影）。撮影した後に、イメージに合った明るさの画像を選ぶことができます。

1 コントロールホイールの / （ドライブモード）→ [連続ブラケット] を選ぶ。

- MENU →  1（撮影設定1）→ [ドライブモード] でも設定できます。

2 コントロールホイールの左/右で希望のモードを選ぶ。

3 ピントを合わせて撮影する。

- 基準の露出は1枚目で設定されます。
- 撮影が終わるまでシャッターボタンを押し続けます。

メニュー項目の詳細

例えば、[連続ブラケット: 0.3EV 3枚] を選択すると、0.3EVずつ、+側と-側にそれぞれ露出値をずらして3枚ブラケット撮影する。

ご注意

- オートレビューには最後の1枚が表示されます。
- [マニュアル露出] で [ISO AUTO] のときはISO感度を変えて露出値をずらしします。[ISO AUTO] 以外の設定ではシャッタースピードを変えて露出値をずらしします。
- 露出値を補正しているときは、補正された露出値を基準に露出をずらしします。
- 撮影モードが以下の場合は、ブラケット撮影できません。
 - － [おまかせオート]
 - － [プレミアムおまかせオート]
 - － [シーンセレクション]
 - － [スイングパノラマ]
- フラッシュ発光時は [連続ブラケット] を選んでいても、調光量をずらして撮影するフラッシュブラケットになります。1枚ずつシャッターボタンを押して撮影してください。

関連項目

- [ブラケット設定](#)
- [ブラケット撮影時のインジケーター](#)

1枚ブラケット

露出を自動的に標準/暗い/明るいの順でずらして撮影します（ブラケット撮影）。撮影した後に、イメージに合った明るさの画像を選ぶことができます。

1枚ずつシャッターボタンを押して撮影するので、撮影ごとにピントや構図を合わせたいときなどに便利です。

1 コントロールホイールの / （ドライブモード）→ [1枚ブラケット] を選ぶ。

- MENU→  1（撮影設定1）→ [ドライブモード] でも設定できます。

2 コントロールホイールの左/右で希望のモードを選ぶ。

3 ピントを合わせて撮影する。

- 1枚ずつシャッターボタンを押して撮影します。

メニュー項目の詳細

例えば、[1枚ブラケット: 0.3EV 3枚] を選択すると、0.3EVずつ、+側と-側にそれぞれ露出値をずらして1枚ずつ3枚ブラケット撮影する。

ご注意

- [マニュアル露出] で [ISO AUTO] のときはISO感度を変えて露出値をずらします。[ISO AUTO] 以外の設定ではシャッタースピードを変えて露出値をずらします。
- 露出値を補正しているときは、補正された露出値を基準に露出をずらします。
- 撮影モードが以下の場合は、ブラケット撮影できません。
 - － [おまかせオート]
 - － [プレミアムおまかせオート]
 - － [シーンセレクション]
 - － [スイングパノラマ]

関連項目

- [ブラケット設定](#)
- [ブラケット撮影時のインジケータ](#)

デジタルスチルカメラ
DSC-RX100M6

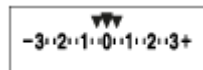
ブラケット撮影時のインジケーター

ファインダー

定常光*ブラケット

段数0.3段 3枚

露出補正±0.0段



モニター（全情報表示またはヒストグラムするとき）

定常光*ブラケット

段数0.3段 3枚

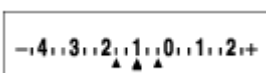
露出補正±0.0段



フラッシュブラケット

段数0.7段 3枚

調光補正-1.0段

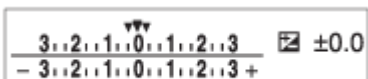


モニター（ファインダー撮影用のとき）

定常光*ブラケット（上段）

段数0.3段 3枚

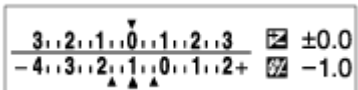
露出補正±0.0段



フラッシュブラケット（下段）

段数0.7段 3枚

調光補正-1.0段



* 定常光：自然光や電球・蛍光灯など、フラッシュ光以外の総称。フラッシュ光が一瞬だけ光るのに対し、常に一定して存在する光なのでこう呼ばれます。

ご注意

- ブラケット撮影時には、ブラケット撮影枚数分の指標がブラケットインジケーターに表示されます。
- 1枚ブラケットの場合、撮影を開始すると、撮影済みの指標が順に消えていきます。

ホワイトバランスブラケット

選択されているホワイトバランス・色温度/カラーフィルターの値を基準に、段階的にずらして、合計3枚の画像を記録します。

- 1 コントロールホイールの  /  (ドライブモード) → [ホワイトバランスブラケット] を選ぶ。
 - MENU →  1 (撮影設定1) → [ドライブモード] でも設定できます。
- 2 コントロールホイールの左/右で希望のモードを選ぶ。
- 3 ピントを合わせて撮影する。

メニュー項目の詳細

 **ホワイトバランスブラケット: Lo :**

ホワイトバランスの変化が小さい (10MK⁻¹* の幅で) 3枚の画像を記録する。

 **ホワイトバランスブラケット: Hi :**

ホワイトバランスの変化が大きい (20MK⁻¹* の幅で) 3枚の画像を記録する。

* MK⁻¹ : 色温度変換フィルターの色温度変換能力を示すために用いられる単位 (ミレッドと同じ値) 。

ご注意

- オートレビューには最後の1枚が表示されます。

関連項目

- [ブラケット設定](#)

DROブラケット

Dレンジオプティマイザーの値を段階的にずらして、合計3枚の画像を記録します。

- 1 コントロールホイールの  /  (ドライブモード) → [DROブラケット] を選ぶ。
 - MENU →  1 (撮影設定1) → [ドライブモード] でも設定できます。
- 2 コントロールホイールの左/右で希望のモードを選ぶ。
- 3 ピントを合わせて撮影する。

メニュー項目の詳細

DROブラケット: Lo :

Dレンジオプティマイザーの値の変化が小さい3枚 (Lv1、Lv2、Lv3) の画像を記録する。

DROブラケット: Hi :

Dレンジオプティマイザーの値の変化が大きい3枚 (Lv1、Lv3、Lv5) の画像を記録する。

ご注意

- オートレビューには最後の1枚が表示されます。

関連項目

- [ブラケット設定](#)

ブラケット設定

ブラケットモード時のセルフタイマー撮影や、露出ブラケット/ホワイトバランスブラケットの撮影順序を設定します。

1 コントロールホイールの / (ドライブモード) → ブラケットを選ぶ。

- MENU →  1 (撮影設定1) → [ドライブモード] でも設定できます。

2 MENU → 1 (撮影設定1) → [ブラケット設定] → 希望の設定を選ぶ。

メニュー項目の詳細

ブラケット時のセルフタイマー :

ブラケット撮影時にセルフタイマー撮影を行うかどうか設定する。セルフタイマー撮影を行う場合、撮影までの秒数を設定する。

(OFF/2秒/5秒/10秒)

ブラケット順序 :

露出ブラケット、ホワイトバランスブラケットの撮影順序を設定する。

(0 → - → + / - → 0 → +)

関連項目

- [連続ブラケット](#)
- [1枚ブラケット](#)
- [ホワイトバランスブラケット](#)
- [DROブラケット](#)

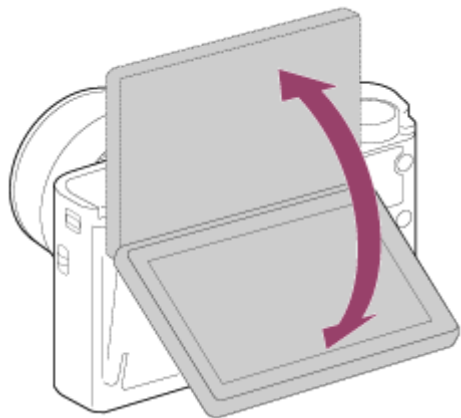
デジタルスチルカメラ
DSC-RX100M6

自分撮りセルフタイマー

モニターを回転させて、画面をチェックしながら撮影できます。

① MENU→1（撮影設定1）→〔自分撮りセルフタイマー〕→〔入〕を選ぶ。

② モニターを上側へ約180度回転させてレンズを自分に向ける。



③ シャッターボタンを押す。
3秒後にセルフタイマーで撮影します。

ヒント

- 3秒セルフタイマー以外のドライブモードを使用したい場合は、モニターを上側へ約180度回転させる前に〔自分撮りセルフタイマー〕を〔切〕に設定してください。

デジタルスチルカメラ
DSC-RX100M6

タッチ操作

モニターのタッチ操作を有効にするかどうかを設定します。

1 MENU→（セットアップ）→［タッチ操作］→希望の設定を選ぶ。

メニュー項目の詳細

入：
タッチ操作を有効にする。

切：
タッチ操作を無効にする。

関連項目

- [タッチ撮影設定：タッチシャッター](#)
- [タッチ撮影設定：タッチフォーカス](#)
- [タッチパッド設定](#)
- [タッチパネル/タッチパッド](#)

タッチパネル/タッチパッド

モニター撮影時のタッチ操作をタッチパネル操作と呼び、ファインダー撮影時のタッチ操作をタッチパッド操作と呼びます。タッチパネル操作またはタッチパッド操作の、どちらを有効にするかを設定します。

1 MENU→ (セットアップ) → [タッチパネル/タッチパッド] → 希望の設定を選ぶ。

メニュー項目の詳細

タッチパネル+タッチパッド：

モニター撮影時のタッチパネル操作と、ファインダー撮影時のタッチパッド操作を有効にする。

タッチパネル操作のみ：

モニター撮影時のタッチパネル操作のみを有効にする。

タッチパッド操作のみ：

ファインダー撮影時のタッチパッド操作のみを有効にする。

関連項目

- [タッチ操作](#)

タッチ撮影設定：タッチシャッター

モニター撮影時、タッチした場所に自動でピントを合わせて静止画を撮影できます。
あらかじめ、MENU→（セットアップ）→[タッチ操作]を[入]に設定してください。

1 MENU→2（撮影設定2）→[タッチ撮影設定]→[タッチシャッター]を選ぶ。

2 撮影画面で、モニターのをタッチする。

アイコンの左側にあるマークがオレンジ色に変わる。

- 解除するときは、もう一度をタッチしてください。

3 ピントを合わせたい被写体をタッチする。

タッチした被写体にピントが合うと、静止画が撮影される。

ヒント

- 他にも、次の機能がタッチ操作で撮影できます。
 - － タッチシャッターで連続撮影する
[ドライブモード]が[連続撮影]のとき、画面をタッチし続けている間、連続して撮影します。
 - － タッチシャッターでスポーツのシーンを連続撮影する
[シーンセレクション]が[スポーツ]のとき、画面をタッチし続けている間、連続して撮影します。
 - － タッチシャッターで連続ブラケット撮影する
露出を自動的に標準/暗い/明るいの順でずらして撮影します。[ドライブモード]が[連続ブラケット]のとき、撮影が終わるまで画面をタッチし続けて撮影します。撮影したあとに、イメージにあった明るさの画像を選ぶことができます。

ご注意

- 以下のとき、[タッチシャッター]は使えません。
 - － ファインダー撮影時
 - － 撮影モードが[動画]
 - － 撮影モードが[ハイフレームレート]
 - － 撮影モードが[スイングパノラマ]
 - － [スマイルシャッター]使用時
 - － [フォーカスモード]が[マニュアルフォーカス]
 - － [フォーカスエリア]が[フレキシブルスポット]
 - － [フォーカスエリア]が[拡張フレキシブルスポット]
 - － デジタルズーム中
 - － 全画素超解像ズーム中

関連項目

- [タッチ操作](#)
- [タッチパネル/タッチパッド](#)

タッチ撮影設定：タッチフォーカス

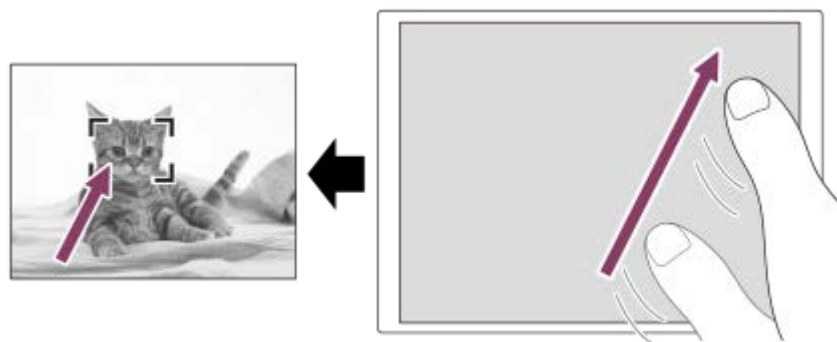
静止画または動画撮影時、ピントを合わせる被写体をタッチ操作で選択できます。あらかじめ、MENU→（セットアップ）→[タッチ操作]を[入]に設定してください。

- ① MENU→2（撮影設定2）→[タッチ撮影設定]→[タッチフォーカス]を選ぶ。

静止画撮影時にピントを合わせたい位置を指定する

モニターにタッチして希望の場所にピントを合わせます。

1. [フォーカスエリア]を[フレキシブルスポット]または[拡張フレキシブルスポット]以外にする。
2. MENU→1（撮影設定1）→[中央ボタン押しロックオンAF]→[切]を選ぶ。
3. モニターにタッチする。
 - モニター撮影時は、ピントを合わせたい被写体にタッチします。
 - ファインダー撮影時は、ファインダーをのぞきながらモニターをタッチしてドラッグすると、ピント合わせの位置を移動できます。



- シャッターボタンを半押しすると枠内にピントが合います。撮影するにはそのままシャッターボタンを押し込んでください。
- タッチ操作によるピント合わせを解除するには、モニター撮影時は、xをタッチするか、またはコントロールホイールの中央を押してください。ファインダー撮影時は、コントロールホイールの中央を押してください。

動画撮影時にピントを合わせたい位置を指定する（スポットフォーカス）

タッチした被写体にピントを合わせます。ファインダー撮影時は、スポットフォーカスは使用できません。

1. [フォーカスエリア]を[フレキシブルスポット]または[拡張フレキシブルスポット]以外にする。
2. MENU→1（撮影設定1）→[中央ボタン押しロックオンAF]→[切]を選ぶ。
3. 録画開始前もしくは録画中にピントを合わせたい被写体をタッチする。
 - タッチすると一時的にマニュアルフォーカスになり、コントロールリングでピントを調整できます。
 - スポットフォーカスを解除したい場合は、xをタッチするか、またはコントロールホイールの中央を押してください。

ヒント

- タッチフォーカス機能のほかに、以下のようなタッチ操作が可能です。
 - － [フォーカスエリア]が[フレキシブルスポット]または[拡張フレキシブルスポット]のときは、タッチ操作でフォーカス枠を移動できます。
 - － [フォーカスモード]が[マニュアルフォーカス]のときは、モニターをダブルタップするとピント拡大の操作が行えます。

ご注意

- 以下のとき、タッチフォーカス機能は使えません。
 - － 撮影モードが [スイングパノラマ]
 - － [フォーカスモード] が [マニュアルフォーカス]
 - － デジタルズーム中

関連項目

- [タッチ操作](#)
- [タッチパネル/タッチパッド](#)

4-737-296-01(2) Copyright 2018 Sony Corporation

タッチパッド設定

ファインダー撮影時のタッチパッド操作に関する設定を行います。

1 MENU→ (セットアップ) → [タッチパッド設定] →希望の設定項目を選ぶ。

メニュー項目の詳細

縦持ち時の操作：

縦位置でのファインダー撮影時に、タッチパッド操作を有効にするかどうかを設定する。縦位置での撮影時に鼻などがモニターに触れることによる誤操作を防ぐことができる。

位置指定方法：

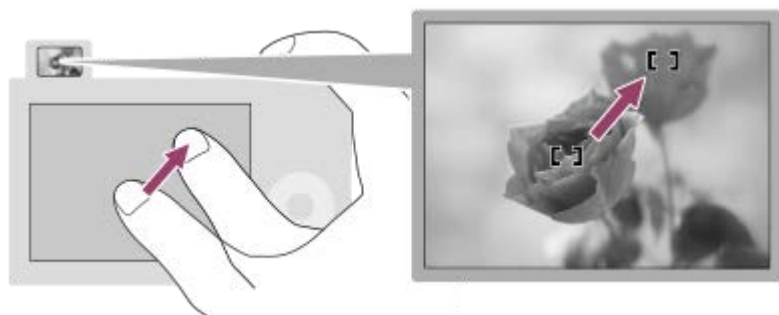
画面でタッチした位置にフォーカス枠を移動する [絶対位置] か、ドラッグの方向と移動量で希望の場所までフォーカス枠を移動する [相対位置] かを設定する。

操作エリア：

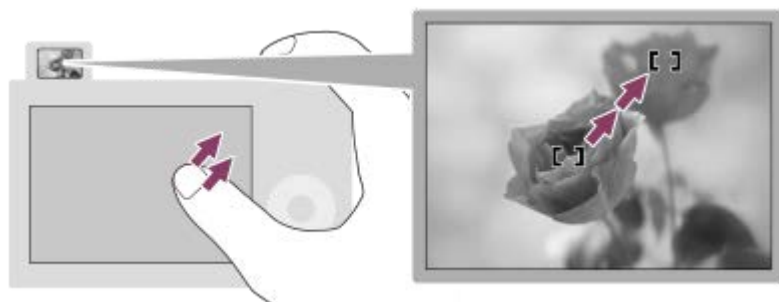
タッチパッド操作で使用するエリアを設定する。操作エリアを制限することで、鼻などがモニターに触れることによる誤操作を防ぐことができる。

位置指定方法について

[絶対位置] に設定すると、フォーカス枠の位置をタッチ操作で直接指定できるため、離れた位置にフォーカス枠をすばやく移動することができます。



[相対位置] に設定すると、広範囲に指を動かすことなく操作しやすい場所でタッチパッド操作ができます。



ヒント

- [位置指定方法] が [絶対位置] のときのタッチパッド操作では、[操作エリア] で設定されているエリアを画面全体と見なします。

JPEG画像サイズ（静止画）

画像サイズが大きいほど、大きな用紙にも精細にプリントできます。小さくすると、たくさん撮影できます。

① MENU→1（撮影設定1）→JPEG画像サイズ→希望の設定を選ぶ。

メニュー項目の詳細

[ 横縦比] が3:2のとき	
L : 20M	5472×3648画素
M : 10M	3888×2592画素
S : 5.0M	2736×1824画素

[ 横縦比] が4 : 3のとき	
L : 18M	4864×3648画素
M : 10M	3648×2736画素
S : 5.0M	2592×1944画素
VGA	640×480画素

[ 横縦比] が16 : 9のとき	
L : 17M	5472×3080画素
M : 7.5M	3648×2056画素
S : 4.2M	2720×1528画素

[ 横縦比] が1 : 1のとき	
L : 13M	3648×3648画素
M : 6.5M	2544×2544画素
S : 3.7M	1920×1920画素

ご注意

- [ファイル形式] で [RAW]、[RAW+JPEG] を選ぶと、RAW画像の画像サイズはL相当となります。

関連項目

- [横縦比（静止画）](#)

デジタルスチルカメラ
DSC-RX100M6

JPEG画質（静止画）

〔 ファイル形式〕で〔RAW+JPEG〕または〔JPEG〕を選んだときの、JPEG画像の画質を設定します。

① MENU→ 1（撮影設定1）→〔 JPEG画質〕→希望の設定を選ぶ。

メニュー項目の詳細

エクストラファイン/ファイン/スタンダード：

〔エクストラファイン〕、〔ファイン〕、〔スタンダード〕の順に圧縮率が高くなるため、データ量が小さくなる。1枚のメモリーカードに記録できる枚数は増えるが、画質は劣化する。

関連項目

- [ファイル形式（静止画）](#)

デジタルスチルカメラ
DSC-RX100M6

横縦比（静止画）

① MENU →  1（撮影設定1） → [ 横縦比] → 希望の設定を選ぶ。

メニュー項目の詳細

3:2 :

35mm判フィルムと同じ横縦比。

4:3 :

ハイビジョン非対応のテレビでの観賞に適した横縦比。

16:9 :

ハイビジョンテレビでの鑑賞に適した横縦比。

1:1 :

横と縦の比率が同じ。

ファイル形式（静止画）

静止画を記録するときのファイル形式を設定します。

① MENU→1（撮影設定1）→ファイル形式 →希望の設定を選ぶ。

メニュー項目の詳細

RAW：

現像処理前のデータが記録される。専門的な用途に合わせて、パソコンで加工するときに選ぶ。

RAW+JPEG：

RAW画像とJPEG画像が同時に記録される。閲覧用にはJPEG画像、編集用にはRAW画像を使うなど、両方の画像を記録したい場合に便利。

JPEG：

画像がJPEG形式で記録される。

RAWについて

- 本機で撮影したRAW画像を開くにはImaging Edgeが必要です。このソフトウェアを使えば、RAW画像を開いたあと、JPEGやTIFFのような一般的なフォーマットに変換したり、ホワイトバランス、彩度、コントラストなどを再調整することができます。
- RAW形式の画像には、[オートHDR]、[ピクチャーエフェクト]を設定できません。
- 本機で撮影するRAW画像は圧縮RAW形式で記録されます。

ご注意

- パソコンでの加工を予定していない場合は、JPEG形式で記録することをおすすめします。
- RAW画像には、DPOF（プリント予約）指定できません。

関連項目

- [JPEG画質（静止画）](#)

デジタルスチルカメラ
DSC-RX100M6

パノラマ: 画像サイズ

スイングパノラマの画像サイズを設定します。[パノラマ: 撮影方向]によって、画像サイズは異なります。

1 MENU→1 (撮影設定1) → [パノラマ: 画像サイズ] →希望の設定を選ぶ。

メニュー項目の詳細

[パノラマ: 撮影方向] が [上] または [下] のとき

標準 : 3872×2160

ワイド : 5536×2160

[パノラマ: 撮影方向] が [左] または [右] のとき

標準 : 8192×1856

ワイド : 12416×1856

関連項目

- [スイングパノラマ](#)
- [パノラマ: 撮影方向](#)

デジタルスチルカメラ
DSC-RX100M6

パノラマ: 撮影方向

スイングパノラマ撮影時にカメラを動かす方向を設定します。

1 MENU→1 (撮影設定1) → [パノラマ: 撮影方向] →希望の設定を選ぶ。

メニュー項目の詳細

右:
左から右に向かって撮影する。

左:
右から左に向かって撮影する。

上:
下から上に向かって撮影する。

下:
上から下に向かって撮影する。

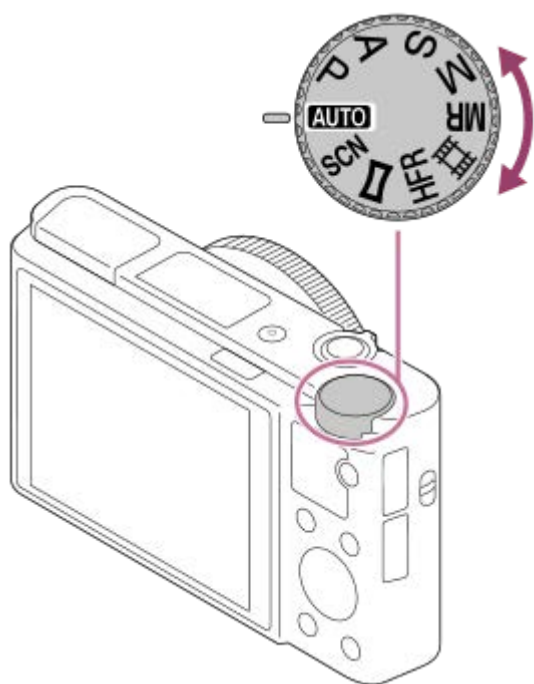
関連項目

- [スイングパノラマ](#)

モードダイヤルの機能一覧

被写体や撮影の目的に合わせて、撮影モードを変えることができます。

1 モードダイヤルを回して、希望の撮影モードを選ぶ。



設定できる機能

AUTO（オートモード）：

本機が適切だと判断した値で設定され、被写体や環境を選ばずに、手軽に撮影できる。

P（プログラムオート）：

露出（シャッタースピードと絞り）は本機が自動設定するが、その他の設定は自分で調整できる。

A（絞り優先）：

背景をぼかしたいときなど、絞り値を設定して撮影する。

S（シャッタースピード優先）：

動きの速いものを撮るときなど、シャッタースピードを設定して撮影する。

M（マニュアル露出）：

露出（シャッタースピードと絞り）を調節して、好みの露出で撮影する。

MR（登録呼び出し）：

あらかじめ登録しておいた、よく使うモードや数値の設定を呼び出して撮影できる。

（動画）：

動画の露出モードを設定して撮影する。

HFR（ハイレームレート）：

記録フォーマットより高いフレームレートで撮影することで、なめらかなスーパースロー映像を記録できる。

（スイングパノラマ）：

画像を合成してパノラマ画像を撮影できる。

SCN（シーンセレクション）：

撮りたい被写体や環境に合ったモードを選べると、被写体に適した設定で撮影できる。

関連項目

- [おまかせオート](#)
- [プレミアムおまかせオート](#)
- [プログラムオート](#)
- [絞り優先](#)
- [シャッタースピード優先](#)
- [マニュアル露出](#)
- [呼び出し（撮影設定1/撮影設定2）](#)
- [動画：露出モード](#)
- [スーパースローモーション撮影をする（ハイフレームレート設定）](#)
- [HFR（ハイフレームレート）：露出モード](#)
- [スイングパノラマ](#)
- [シーンセレクション](#)

おまかせオート

カメラまかせでシーン認識をして撮影します。

- 1 モードダイヤルを **AUTO** にする。
- 2 MENU→ 1（撮影設定1）→ [オートモード] → [おまかせオート] を選ぶ。

- 3 被写体にカメラを向ける。

シーンを認識すると、シーン認識マークが表示される。



- 4 ピントを合わせて撮影する。

ご注意

- 光学ズーム以外でのズーム撮影時は、シーン認識は働きません。
- 状況により、シーンはうまく認識されない場合があります。
- [おまかせオート] の場合、多くの機能が自動設定となり、自分で変更できません。

関連項目

- [オートモードを切り替える（オートモード）](#)
- [シーン認識について](#)
- [モードダイヤルガイド](#)

プレミアムおまかせオート

カメラまかせでシーン認識をして撮影します。特に暗いシーンや逆光のシーンをよりきれいに撮影します。

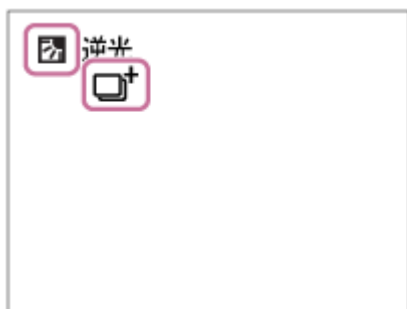
暗いシーンや逆光のシーンでは、必要に応じて複数枚撮影し重ね合わせ処理をすることにより、おまかせオートよりも高画質に仕上げます。

1 モードダイヤルを **AUTO**（オートモード）にする。

2 MENU→ 1（撮影設定1）→[オートモード]→[プレミアムおまかせオート]を選ぶ。

3 被写体にカメラを向ける。

シーンを認識すると、シーン認識マークが表示される。必要に応じて（重ね合わせ）が表示される。



4 ピントを合わせて撮影する。

ご注意

- 重ね合わせ撮影をするときは、通常よりも記録処理に時間がかかります。このとき、（重ね合わせアイコン）が表示され、シャッター音が複数回聞こえることがありますが、記録される画像は1枚です。
- （重ね合わせアイコン）が表示されているときは、複数枚の撮影が終わるまでカメラを動かさないようにしてください。
- 光学ズーム以外でのズーム撮影時は、シーン認識は働きません。
- 状況によっては、シーンはうまく認識されない場合があります。
- [📷ファイル形式] が [RAW] または [RAW+JPEG] のときは重ね合わせ撮影は行われません。
- [プレミアムおまかせオート] の場合、多くの機能が自動設定となり、自分で変更できません。

関連項目

- [オートモードを切り替える（オートモード）](#)
- [モードダイヤルガイド](#)
- [シーン認識について](#)

デジタルスチルカメラ
DSC-RX100M6

オートモードを切り替える（オートモード）

本機には「おまかせオート」と「プレミアムおまかせオート」の2つのオート撮影モードが搭載されています。被写体やお好みに合わせて、オートモードを切り替えて撮影できます。

- 1 モードダイヤルを **AUTO** にする。
- 2 MENU →  1（撮影設定1） → 「オートモード」 → 希望の設定を選ぶ。

メニュー項目の詳細

おまかせオート：

カメラまかせでシーン認識をして撮影したいときに使う。

プレミアムおまかせオート：

カメラまかせでシーン認識をして撮影したいとき、特に暗いシーンや逆光のシーンをよりきれいに撮影したいときに使う。

ご注意

- 「プレミアムおまかせオート」では、重ね合わせ処理をするため、記録処理に時間がかかります。このとき、（重ね合わせアイコン）が表示され、シャッター音が複数回聞こえることがありますが、記録される画像は1枚です。
- 「プレミアムおまかせオート」で （重ね合わせアイコン）が表示されているときは、複数枚の撮影が終わるまでカメラを動かさないようにしてください。
- 「おまかせオート」、「プレミアムおまかせオート」の場合、多くの機能が自動設定となり、自分で変更できません。

関連項目

- [おまかせオート](#)
- [プレミアムおまかせオート](#)

デジタルスチルカメラ
DSC-RX100M6

シーン認識について

〔おまかせオート〕や〔プレミアムおまかせオート〕では、シーン認識が働きます。

これは、本機が自動的に撮影状況を認識して撮影する機能です。

シーン認識

シーンを認識すると上段に下記のマークとガイドが表示されます。

-  (人物)
-  (赤ちゃん)
-  (夜景&人物)
-  (夜景)
-  (逆光&人物)
-  (逆光)
-  (風景)
-  (マクロ)
-  (スポットライト)
-  (低照度)

状況を認識すると下段に下記のマークが表示されます。

-  (三脚)
-  (歩き) *
-  (動き)
-  (動き(明るい))
-  (動き(暗い))

*  (歩き) は、〔 手ブレ補正〕が〔アクティブ〕、または〔インテリジェントアクティブ〕に設定されているときのみ認識されます。

関連項目

- [おまかせオート](#)
- [プレミアムおまかせオート](#)

プログラムオート

露出（シャッタースピードと絞り）は本機が自動設定します。

〔ISO感度〕などの撮影機能を好みの設定に変更できます。

- 1 モードダイヤルをP（プログラムオート）にする。
- 2 撮影機能を希望の設定にする。
- 3 ピントを合わせて撮影する。

プログラムシフト

フラッシュを使用していないときに、カメラが設定した適正露出のままシャッタースピードと絞り（F値）の組み合わせを変更できます。

コントロールホイールを回し、絞り値とシャッタースピードの組合せを選んでください。

- コントロールホイールを回すと、モニターの表示が「P」から「P*」に変わります。
- 解除するには、撮影モードを〔プログラムオート〕以外にするか、本機の電源を切ってください。

ご注意

- 撮影する環境の明るさによって、プログラムシフトができない場合があります。
- 撮影モードを「P」以外にするか、電源を切ると設定は解除されます。
- 明るさが変わるとシャッタースピードと絞り（F値）はプログラムシフトの組み合わせを保持したまま変化します。

絞り優先

ピントの合う範囲や背景のぼかし具合を変えて撮影できます。

- ① モードダイヤルをA（絞り優先）にする。
- ② コントロールホイールで希望の数値を選ぶ。
 - 絞り値を小さくする：被写体の前後がぼける。
絞り値を大きくする：被写体の前後までくっきりとピントが合う。
 - 設定した絞り値で適正露出にならないと本機が判断した場合は、シャッタースピードが点滅します。この場合は、絞り値を変更してください。
- ③ ピントを合わせて撮影する。

適正露出になるように、シャッタースピードが自動的に設定される。

ご注意

- モニターの画像の明るさは、実際に撮影される画像と異なる場合があります。

シャッタースピード優先

シャッタースピードを調整し、動きを止めて写したり、軌跡を写したりするなど動くものの表現を変えた撮影ができます。

- 1 モードダイヤルをS（シャッタースピード優先）にする。
- 2 コントロールホイールで希望の数値を選ぶ。
 - 設定したシャッタースピードで適正露出にならないと本機が判断した場合は、絞り値が点滅します。この場合は、シャッタースピードを変更してください。
- 3 ピントを合わせて撮影する。

適正露出になるように、絞り値が自動的に設定される。

ヒント

- シャッタースピードを遅くするときは手ブレを防ぐために三脚のご使用をおすすめします。
- 室内スポーツを撮影するときは、ISO感度を高くしてください。

ご注意

- シャッタースピード優先モードでは、手ブレ警告アイコンは表示されません。
- [ シャッター方式] が [電子シャッター] 以外で、[ 長秒時NR] を [入] にしているときは、シャッタースピードを1/3秒または1/3秒より遅くして撮影（長時間露光）すると、シャッターを開けていた時間と同時間のノイズ軽減処理をします。処理中は撮影できません。
- モニターの画像の明るさは、実際に撮影される画像と異なる場合があります。

関連項目

- [長秒時NR（静止画）](#)

マニュアル露出

絞り値とシャッタースピードの両方を調節して、自分の好みの露出で撮影できます。

- 1 モードダイヤルをM（マニュアル露出）にする。
- 2 コントロールホイールの下を押し、シャッタースピードか絞り値を選び、コントロールホイールを回して、値を選ぶ。
 - マニュアル露出モードでも [ISO 感度] を [ISO AUTO] に設定できます。調整した絞り値とシャッタースピードで適正露出になるように、ISO 感度が変化します。
 - [ISO 感度] を [ISO AUTO] に設定したとき、設定した値で適正露出にならないと本機が判断した場合は、ISO 感度の表示が点滅します。この場合はシャッタースピードまたは絞り値を変更してください。
 - [ISO 感度] が [ISO AUTO] 以外の場合、「MM」（メータードマニュアル）*で露出値を確認できます。
 - +側：明るく写る。
 - 側：暗めに写る。
 - 0：本機が判断した適正露出。

* 適正露出に対するアンダー/オーバーを示します。モニターでは数値で、ファインダーでは測光インジケータで表示されます。
- 3 ピントを合わせて撮影する。

ヒント

- [ カスタムキー] または [ カスタムキー] で [押す間AEL] または [再押しAEL] を割り当てて、そのキーを押し、コントロールリングまたはコントロールホイールを回すと、設定した露出のまま、シャッタースピードと絞り値の組み合わせを変更できます。（マニュアルシフト）

ご注意

- [ISO 感度] を [ISO AUTO] にしたときは、メータードマニュアルは表示されません。
- メータードマニュアルの測光範囲を超えている場合は、メータードマニュアルの値が点滅します。
- マニュアル露出モードでは、手ブレ警告アイコンは表示されません。
- モニターの画像の明るさは、実際に撮影される画像と異なる場合があります。

バルブ撮影

長時間露光で、動きの軌跡を撮影できます。
星の軌跡や、花火の光が尾を引くような写真を撮る場合に適しています。

- 1 モードダイヤルをM（マニュアル露出）にする。
- 2 コントロールホイールの下を押し、シャッタースピードを選び、〔BULB〕が出るまでコントロールホイールを左に回す。
- 3 コントロールホイールの下を押し、絞り値（F値）を選び、コントロールホイールを回して、値を選ぶ。
- 4 シャッターボタンを半押ししてピントを合わせる。
- 5 必要な時間、シャッターボタンを押し続けて撮影する。
シャッターボタンを押し続けている間、シャッターが開いたままになる。

ヒント

- 打ち上げ花火などのときは、マニュアルフォーカスにしてピントを無限遠にしてください。
- 画質を低下させずにバルブ撮影を行うためには、本機の温度が下がった状態で撮影を開始することをおすすめします。
- 画像がブレやすくなるため、三脚やシャッターボタンのロック機能を持つ対応リモートコマンダー（別売）のご使用をおすすめします。リモートコマンダーはマルチ/マイクロUSB端子での接続に対応したものをお使いください。

ご注意

- 露光時間が長いほど、画面内のノイズが目立ちやすくなります。
- 撮影後はシャッターが開いていた時間分だけ、ノイズ軽減処理が行われます。処理中は撮影できません。
- 以下の場合はシャッタースピードを〔BULB〕に設定できません。
 - －〔スマイルシャッター〕
 - －〔オートHDR〕
 - －〔ピクチャーエフェクト〕が〔絵画調HDR〕または〔リッチトーンモノクロ〕
 - －〔マルチショットNR〕
 - －〔ドライブモード〕が以下のとき
 - －〔連続撮影〕
 - －〔セルフタイマー（連続）〕
 - －〔連続ブラケット〕
 - －〔シャッター方式〕が〔電子シャッター〕

シャッタースピードを〔BULB〕に設定しているときに上記機能を使用すると、シャッタースピードは一時的に30秒になります。

関連項目

- [マニュアル露出](#)

デジタルスチルカメラ
DSC-RX100M6

スイングパノラマ

カメラを動かす間に複数の画像を撮影し、合成して1枚のパノラマ画像を撮影します。



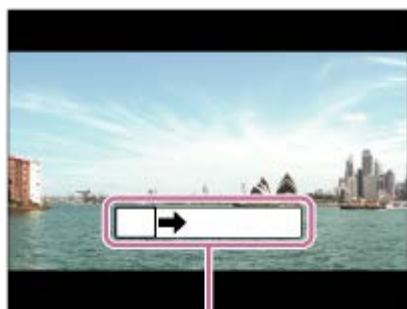
- 1 モードダイヤルを  (スイングパノラマ) にする。
- 2 被写体にカメラを向ける。
- 3 シャッターボタンを半押しした状態で、構図の端にカメラを向ける。
 - 撮影前にコントロールホイールで撮影方向を変更できます。



(A)

(A) 撮影されない部分

- 4 シャッターボタンを深く押し込む。
- 5 モニター上の矢印方向に、ガイドの終わりまで、カメラを動かす。



(B)

ご注意

- 一定時間内にパノラマ撮影画角に満たなかった場合、足りない部分はグレーで記録されます。この場合はカメラを速く動かすと最後まで記録されます。
- [パノラマ: 画像サイズ] で [ワイド] を選んでいる場合、一定時間内にパノラマ撮影画角に満たない場合があります。その場合は、[パノラマ: 画像サイズ] を [標準] にして撮影することをおすすめします。
- 複数の画像を合成するため、つなぎ目がなめらかに記録できない場合があります。
- 蛍光灯など、ちらつきのある光源がある場合、合成された画像の明るさや色合いが一定ではなくなります。
- パノラマ撮影される画角全体と、AEロック/フォーカスロックしたときの画角とで、明るさやピント位置などが極端に異なる場合、うまく撮影できないことがあります。このようなときは、AEロック/フォーカスロックする場所を変えて撮影してください。
- 以下の場合はスイングパノラマ撮影に適していません。
 - 動いている被写体
 - 主要被写体とカメラの距離が近すぎる
 - 空、砂浜、芝生など、似たような模様が続く被写体
 - 波や滝など、常に模様が変化する被写体
 - 太陽や電灯など、周囲との明るさの差が大きい被写体
- 以下の場合はスイングパノラマ撮影が中断されることがあります。
 - カメラを動かす速度が速すぎる、または遅すぎる場合
 - プレ過ぎた場合
- パノラマ撮影中は連続撮影となり、シャッター音が撮影終了まで鳴り続けます。
- パノラマ撮影では、以下の機能が使用できません。
 - スマイルシャッター
 - AF時の顔優先設定
 - マルチ測光時の顔優先
 -  オートフレーミング
 - DRO/オートHDR
 - ピクチャーエフェクト
 - ピクチャープロファイル
 -  美肌効果
 -  長秒時NR
 - ロックオンAF
 - ズーム
 - ドライブモード
 - ブライトモニタリング
- パノラマ撮影では、以下の機能は設定値が固定されます。
 - [ISO感度] は [ISO AUTO] に固定
 - [フォーカスエリア] は [ワイド] に固定
 - [ 高感度NR] は [標準] に固定
 - [フラッシュモード] は [発光禁止] に固定

関連項目

- [パノラマ: 画像サイズ](#)
- [パノラマ: 撮影方向](#)

デジタルスチルカメラ
DSC-RX100M6

シーンセレクション

撮影状況に合わせて用意された設定で撮影できます。

- 1 モードダイヤルをSCN（シーンセレクション）にする。
- 2 コントロールホイールを回して希望の設定を選ぶ。

メニュー項目の詳細



ポートレート：

背景をぼかして、人物を際立たせる。肌をやわらかに再現する。



スポーツ：

高速なシャッタースピードで動く物が止まったように撮れる。シャッターボタンを押し続けると連続撮影する。



マクロ：

花や料理などに近づいて撮るときに適している。



風景：

風景を手前から奥までくっきりと鮮やかな色で撮る。



夕景：

夕焼けや朝焼けなどの赤を美しく撮る。



🌙 夜景：

暗い雰囲気損なわずに、夜景を撮る。



🖐️ 手持ち夜景：

三脚を使わずにノイズが少ない夜景を撮る。連写を行い、画像を合成して被写体ブレや手ブレ、ノイズを軽減して記録する。



👤 夜景ポートレート：

フラッシュを発光して、夜景を背景に手前の人物を撮る。フラッシュは自動ではポップアップしないので手でポップアップしてから撮影してください。



👤 人物ブレ軽減：

室内で人物撮影する場合、フラッシュを使わずにブレを軽減する。連写を行い、画像を合成して被写体ブレやノイズを軽減して記録する。



🐱 ペット：

ペットを最適な設定で撮影する。



🍴 料理：

料理を明るく美味しそうに撮影する。



🔥 打ち上げ花火：

打ち上げ花火をきれいに撮影する。



ISO 高感度：

静止画撮影時は暗いところでも、フラッシュを使わずにブレを軽減しながら撮影し、動画撮影時は暗いシーンを明るく撮影する。



ヒント

- ほかのシーンにしたいときは、撮影画面でコントロールホイールを回して選び直せます。

ご注意

- 以下の設定のときはシャッタースピードが遅くなり、画像がブレやすくなるため、三脚などのご使用をおすすめします。
 - － [夜景]
 - － [夜景ポートレート]
 - － [打ち上げ花火]
- [手持ち夜景]、[人物ブレ軽減] のときは、シャッター音が4回鳴りますが、記録される画像は1枚です。
- [RAW]、[RAW+JPEG] 時に [手持ち夜景]、[人物ブレ軽減] にすると、[📁 ファイル形式] は一時的に [JPEG] になります。
- [手持ち夜景]、[人物ブレ軽減] にしても、以下の場合はノイズを軽減する効果が弱くなります。
 - － 動きの大きな被写体
 - － 主要被写体とカメラの距離が近すぎる
 - － 空、砂浜、芝生など、似たような模様が続く被写体
 - － 波や滝など、常に模様が変化する被写体
- [手持ち夜景]、[人物ブレ軽減] 時は、蛍光灯など、ちらつきのある光源がある場合、ブロック状のノイズが発生することがあります。
- [マクロ] を選んでも、被写体に近づける距離は変わりません。ピントが合う最短距離はレンズの最短撮影距離をご覧ください。

関連項目

- [フラッシュを使う](#)

呼び出し（撮影設定1/撮影設定2）

よく使うモードやカメラの設定の組み合わせを〔**MR** 1/2の登録〕であらかじめ登録しておき、呼び出して使うことができます。

- 1 モードダイヤルをMR（登録呼び出し）にする。
- 2 コントロールホイールの左/右またはホイールを回して好みの番号を選択→コントロールホイールの中央を押して決定する。
 - MENU → 1（撮影設定1）→〔**MR** 1/2の呼び出し〕で呼び出すこともできます。

ヒント

- メモリーカードに登録された設定を呼び出すには、モードダイヤルをMR（登録呼び出し）にして、コントロールホイールの左/右で好みの番号を選択してください。
- 他の同型名の機種でメモリーカードに登録された設定を、本機で呼び出すこともできます。

ご注意

- 撮影に関する設定を行ったあとで〔**MR** 1/2の呼び出し〕を行うと、呼び出された〔**MR** 1/2の登録〕の値が優先され、最初に行った設定が無効になる場合があります。モニターで設定値を確認してから撮影してください。

関連項目

- [登録（撮影設定1/撮影設定2）](#)

デジタルスチルカメラ
DSC-RX100M6

動画：露出モード

動画撮影時の露出モードを設定できます。

- 1 モードダイヤルを  (動画) にする。
- 2 MENU →  2 (撮影設定2) → [ 露出モード] → 希望の設定を選ぶ。
- 3 MOVIE (動画) ボタンを押して撮影を開始する。
 - 撮影を終了するには、もう一度MOVIEボタンを押します。

メニュー項目の詳細

 **プログラムオート：**
露出（シャッタースピードと絞り）は本機が自動設定する。

 **絞り優先：**
絞りを手動設定する。

 **シャッタースピード優先：**
シャッタースピードを手動設定する。

 **マニュアル露出：**
露出（シャッタースピードと絞り）を手動設定する。

HFR（ハイフレームレート）：露出モード

撮りたい被写体や効果に合わせて、HFR撮影時の露出モードを選んで撮影します。

- 1 モードダイヤルを**HFR**（ハイフレームレート）にする。
- 2 MENU→2（撮影設定2）→[**HFR** 露出モード]→希望の設定を選ぶ。

メニュー項目の詳細

HFR プログラムオート：

露出（シャッタースピードと絞り）は本機が自動設定する。

HFR 絞り優先：

絞りを手動設定する。

HFR シャッタースピード優先：

シャッタースピードを手動設定する。

HFR マニュアル露出：

露出（シャッタースピードと絞り）を手動設定する。

関連項目

- [スーパースローモーション撮影をする（ハイフレームレート設定）](#)

露出補正

通常は、露出が自動的に設定されます（自動露出）。自動露出で設定された露出値を基準に、+側に補正すると画像全体を明るく、-側に補正すると画像全体を暗くできます（露出補正）。

- 1 コントロールホイールの （露出補正）→コントロールホイールの左/右を押す、またはホイールを回して希望の補正値を選ぶ。

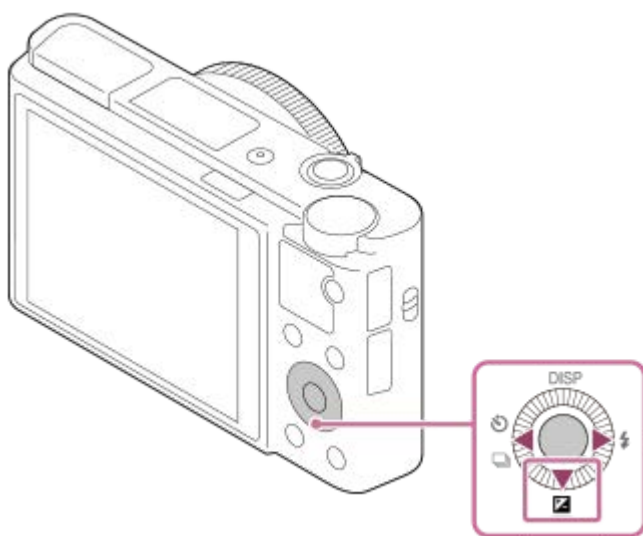
+（オーバー）側：

画像が明るくなる。

-（アンダー）側：

画像が暗くなる。

- MENU→ 1（撮影設定1）→[露出補正]でも設定できます。

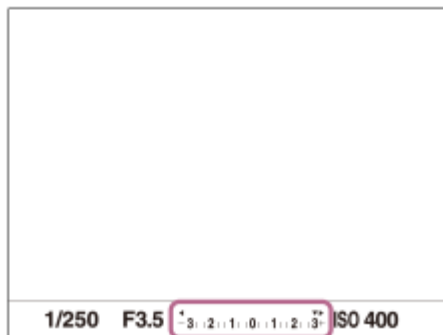


- -3.0EV～+3.0EVの範囲で設定できます。
- 設定した露出補正値は撮影画面で確認できます。

モニター表示



ファインダー表示



ご注意

- 撮影モードが以下のときは、露出補正できません。
 - － [おまかせオート]
 - － [プレミアムおまかせオート]
 - － [シーンセレクション]
- [マニュアル露出] 時は、[ISO感度] が [ISO AUTO] のときのみ露出補正できます。
- 動画撮影時は－2.0EVから+2.0EVの範囲で調整できます。
- 被写体が極端に明るいときや暗いとき、またはフラッシュ撮影時は、十分な効果が得られないことがあります。

関連項目

- [連続ブラケット](#)
- [1枚ブラケット](#)
- [ゼブラ設定](#)

デジタルスチルカメラ
DSC-RX100M6

露出設定ガイド

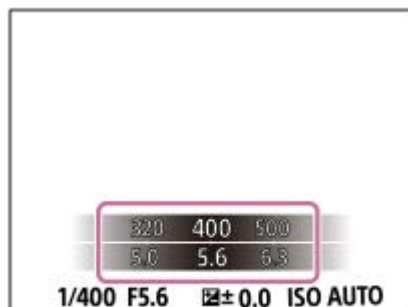
撮影画面で露出設定を変更したときに表示するガイドの設定をする。

① MENU→2（撮影設定2）→〔露出設定ガイド〕→希望の設定を選ぶ。

メニュー項目の詳細

切：
ガイドを表示しない。

入：
ガイドを表示する。



測光モード

本機が自動で露出を決めるとき、モニターのどの部分で光を測るか（測光）を設定します。

1 MENU→1（撮影設定1）→〔測光モード〕→希望の設定を選ぶ。

メニュー項目の詳細

マルチ：

複数に分割したモニターを各エリアごとに測光し、画面全体の最適な露出を決定する（マルチパターン測光）。

中央重点：

モニターの中央部に重点をおきながら、全体の明るさを測光する（中央重点測光）。

スポット：

スポット測光サークル内のみで測光する。画面内の特定の場所を部分的に測光したいときに適している。測光サークルの大きさを〔スポット：標準〕と〔スポット：大〕から選択できる。測光サークルの位置は〔スポット測光位置〕の設定によって異なる。

画面全体平均：

画面全体を平均的に測光する。構図や被写体の位置によって露出が変化しにくい。

ハイライト重点：

画面内のハイライト部分を重点的に測光する。被写体の白とびを抑えて撮影したいときに適している。

ヒント

- 〔スポット〕を選んでいる場合、〔フォーカスエリア〕を〔フレキシブルスポット〕または〔拡張フレキシブルスポット〕にして、〔スポット測光位置〕を〔フォーカス位置連動〕にすると、スポット測光位置をフォーカスエリアに連動させることができます。
- 〔マルチ〕を選んでいる場合、〔マルチ測光時の顔優先〕を〔入〕にすると、カメラが検出した人物の顔の情報を基準に測光を行います。
- 〔測光モード〕を〔ハイライト重点〕に設定して〔Dレンジオブティマイザー〕や〔オートHDR〕を使用すると、明暗の差を細かな領域に分けて分析し、明るさやコントラストが自動補正されます。撮影状況に合わせてご使用ください。

ご注意

- 以下の撮影モードのときは、〔測光モード〕は〔マルチ〕に固定されます。
 - － 〔おまかせオート〕
 - － 〔プレミアムおまかせオート〕
 - － 〔シーンセレクション〕
 - － 光学ズーム以外のズーム
- 〔ハイライト重点〕を選択しているとき、撮りたい被写体よりも明るい物が画面内にあると、被写体が暗く写ることがあります。

関連項目

- [AEロック](#)
- [スポット測光位置](#)
- [マルチ測光時の顔優先](#)
- [Dレンジオブティマイザー（DRO）](#)
- [オートHDR](#)

マルチ測光時の顔優先

〔測光モード〕を〔マルチ〕に設定しているときに、カメラが検出した人物の顔を基準に測光するかどうかを設定します。

1 MENU→1（撮影設定1）→〔マルチ測光時の顔優先〕→希望の設定を選ぶ。

メニュー項目の詳細

入：

カメラが検出した顔情報を基準に測光を行う。

切：

顔検出は行わずに〔マルチ〕で測光を行う。

ご注意

- 撮影モードが〔おまかせオート〕、〔プレミアムおまかせオート〕の場合、〔マルチ測光時の顔優先〕は〔入〕になります。

関連項目

- [測光モード](#)

スポット測光位置

〔フォーカスエリア〕が〔フレキシブルスポット〕または〔拡張フレキシブルスポット〕のときに、スポット測光位置をフォーカスエリアに連動させるかどうかを設定します。

1 MENU→1（撮影設定1）→〔スポット測光位置〕→希望の設定を選ぶ。

メニュー項目の詳細

中央：

スポット測光位置がフォーカスエリアに連動せず、常に中央で測光する。

フォーカス位置連動：

スポット測光位置がフォーカスエリアに連動する。

ご注意

- 〔フォーカスエリア〕が〔フレキシブルスポット〕または〔拡張フレキシブルスポット〕以外の場合は、スポット測光位置は中央に固定されます。
- 〔フォーカスエリア〕が〔ロックオンAF:フレキシブルスポット〕または〔ロックオンAF:拡張フレキシブルスポット〕の場合は、スポット測光位置がロックオンAF開始位置に連動しますが、被写体の追尾には連動しません。

関連項目

- [フォーカスエリア](#)
- [測光モード](#)

AEロック

逆光や窓際などでの撮影で、背景と被写体に大きな明暗の差がある場合は、被写体が適正な明るさになる箇所で測光し、露出を固定して撮影します。被写体の明るさを抑えたいときは被写体よりも明るい箇所で測光し、被写体をより明るく写したいときは被写体よりも暗い箇所で測光し、画面全体の露出を固定します。

- 1 MENU→2（撮影設定2）→ [ カスタムキー] または [ カスタムキー] →希望のキーに[再押しAEL]を設定する。
- 2 露出を合わせる箇所に、ピントを合わせる。
- 3 [再押しAEL]を設定したボタンを押す。
露出が固定され、（AEロックマーク）が表示される。
- 4 撮影したい被写体にピントを合わせ直し、撮影する。
 - 露出固定を解除するときは、もう一度[再押しAEL]を設定したボタンを押す。

ヒント

- [ カスタムキー] または [ カスタムキー] で[押す間AEL]を選ぶと、ボタンを押している間だけ露出を固定することができます。[左ボタン]、[右ボタン]には[押す間AEL]は設定できません。

ご注意

- 光学ズーム以外のズームを使用しているときは、[押す間スポットAEL] または [再押しスポットAEL] は使えません。

シャッター半押しAEL（静止画）

シャッターボタンを半押ししたときに露出固定を行うかどうかを設定します。
ピント合わせと露出固定を別々に行いたいときに便利です。

1 MENU→ 1（撮影設定1）→ シャッター半押しAEL →希望の設定を選ぶ。

メニュー項目の詳細

オート：

〔フォーカスモード〕を〔シングルAF〕にしているとき、シャッターボタンを半押ししてオートフォーカス後、露出固定を行う。〔フォーカスモード〕を〔AF制御自動切り換え〕にしているときは、被写体が動いているとカメラが判断した場合や、連続撮影をしている場合に、露出の固定を解除します。

入：

シャッターボタンを半押ししたときに、露出固定を行う。

切：

シャッターボタンを半押ししたときに、露出固定を行わない。ピント合わせと露出固定を別々に行いたいときに使う。
〔連続撮影〕中も露出を合わせ続けます。

ご注意

-  カスタムキー または  カスタムキー で〔再押しAEL〕が割り当てられている場合は、〔再押しAEL〕を割り当てたボタンによる操作が優先されます。

露出基準調整

カメラの適正露出値の基準を、測光モードごとに調整することができます。

1 MENU→ 1 (撮影設定1) → [露出基準調整] → 設定したい測光モードを選ぶ。

2 希望の基準値を選ぶ。

- -1段～+1段の範囲で、1/6段の設定幅で選べます。

測光モード

各モードについて設定した基準値は、MENU→ 1 (撮影設定1) → [測光モード] で同じモードを選択したときの自動露出に反映される。

マルチ/ 中央重点/ スポット/ 画面全体平均/ ハイライト重点

ご注意

- [露出基準調整] を変更しても、露出補正の設定値は変更されません。
- スポットAEL実行時は、[スポット] の露出基準を使用して露出値が固定されます。
- M.M (メータードマニュアル) の明るさ基準レベルも、[露出基準調整] の設定に合わせて変わります。
- 画像のExif情報には、[露出基準調整] の値が露出補正值とは別に記録されます。露出基準の変更分は、露出補正值に加算されません。
- ブラケット撮影の途中で[露出基準調整] を行くと、ブラケット撮影の枚数カウントはリセットされます。

関連項目

- [測光モード](#)

ゼブラ設定

画面に映る画像の中で、設定した輝度レベル（IRE）部分に表示するしま模様（ゼブラ）の設定を行います。ゼブラは、明るさを調節するときの目安にすると便利です。

1 MENU→ **2**（撮影設定2）→【ゼブラ設定】→希望の設定項目を選ぶ。

メニュー項目の詳細

ゼブラ表示：

ゼブラを表示するかどうかを設定する。

ゼブラレベル：

ゼブラの輝度レベルを設定する。

ヒント

- 【ゼブラレベル】の設定値には、輝度レベルを表す数値以外に、露出確認用と白とび確認用の設定を登録することができます。お買い上げ時には【カスタム1】には露出確認用、【カスタム2】には白とび確認用の設定が登録されています。
- 露出確認用として使用する場合は、ゼブラ表示する輝度レベルの基準値と、その範囲数値を指定します。指定された範囲の輝度部分がゼブラ表示されます。
- 白とび確認用として使用する場合は、ゼブラ表示する輝度レベルの下限值を指定します。指定した数値以上の輝度部分がゼブラ表示されます。

ご注意

- HDMI接続時は、接続先の機器にはゼブラが表示されません。

デジタルスチルカメラ
DSC-RX100M6

Dレンジオブティマイザー（DRO）

被写体や背景の明暗の差を細かな領域に分けて分析し、最適な明るさと階調の画像にします。

- 1 MENU→1（撮影設定1）→ [DRO/オートHDR] → [Dレンジオブティマイザー] を選ぶ。
- 2 コントロールホイールの左/右を押して、希望の設定を選ぶ。

メニュー項目の詳細



Dレンジオブティマイザー：オート：

本機が自動で調整する。



Dレンジオブティマイザー：Lv1 ～ Dレンジオブティマイザー：Lv5：

撮影画像の階調を画像の領域ごとに最適化する。Lv1（弱）～Lv5（強）で最適化レベルを選ぶ。

ご注意

- 以下の場合、[Dレンジオブティマイザー] は [切] に固定されます。
 - － 撮影モードが [スイングパノラマ]
 - － マルチショットNR
 - － [ピクチャーエフェクト] が [切] 以外するとき
 - － [ピクチャープロフィール] が [切] 以外するとき
- [シーンセレクション] が以下の設定のときは、[DRO/オートHDR] は [切] に固定されます。
 - － [夕景]
 - － [夜景]
 - － [夜景ポートレート]
 - － [手持ち夜景]
 - － [人物ブレ軽減]
 - － [打ち上げ花火]

上記以外の [シーンセレクション] では、[Dレンジオブティマイザー：オート] に固定されます。

- [記録設定] が [120p 100M]、[120p 60M] のときは、[DRO/オートHDR] は [切] に設定されます。
- [Dレンジオブティマイザー] 動作時は、ノイズが目立つ場合があります。特に補正効果を強めるときは、撮影後の画像を確認しながらレベルを選んでください。

オートHDR

露出の異なる3枚の画像を撮影し、適正露出の画像とアンダー画像の明るい部分、オーバー画像の暗い部分を合成することにより階調豊かな画像にします（HDR：High Dynamic Range）。適正露出画像と合成された画像の2枚が記録されます。

1 MENU→1（撮影設定1）→ [DRO/オートHDR] → [オートHDR] を選ぶ。

2 コントロールホイールの左/右を押して、希望の設定を選ぶ。

メニュー項目の詳細

 オートHDR: 露出差オート：

本機が自動で調整する。

 オートHDR: 露出差1.0EV ～ オートHDR: 露出差6.0EV：

被写体の明暗差に応じて露出差を設定する。1.0EV（弱）～6.0EV（強）で最適化レベルを選ぶ。

例：2.0EVでは、-1.0EVの画像、適正露出の画像、+1.0EVの画像の3枚が合成される。

ヒント

- 一度の撮影で3回シャッターが切られるため、以下に注意してください。
 - 動きや点滅発光などが無い被写体のときに設定する。
 - 構図が変わらないように撮影する。

ご注意

- [ ファイル形式] が、[RAW] または [RAW+JPEG] のときは設定できません。
- 撮影モードが以下のときは、[オートHDR] を設定できません。
 - [おまかせオート]
 - [プレミアムおまかせオート]
 - [スイングパノラマ]
 - [シーンセレクション]
- 以下の場合は、[オートHDR] を設定できません。
 - [マルチショットNR] のとき
 - [ピクチャーエフェクト] が [切] 以外のとき
 - [ピクチャープロファイル] が [切] 以外のとき
- 撮影後、処理が終わるまで次の撮影はできません。
- 被写体の輝度差の状況や撮影環境によっては思い通りの効果を得られないことがあります。
- フラッシュ発光時は、効果がほとんど得られません。
- コントラストが低いシーンや、大きな手ブレ、被写体ブレが発生した場合は、良好なHDR画像が撮影できていないことがあります。カメラがブレを検出した場合は、再生画像に   を表示してお知らせします。必要に応じて、構図を変えたり、ブレに注意して撮影し直してください。

ISO感度

光に対する感度は、ISO感度（推奨露光指数）で表します。数値が大きいほど高感度になります。

1 MENU →  1（撮影設定1） → **ISO感度** → 希望の設定を選ぶ。

メニュー項目の詳細

マルチショットNR：

連続撮影により写真を重ね合わせ、ノイズの少ない画像を撮影する。コントロールホイールの右を押して設定画面を表示させ、上/下で希望の数値を選ぶ。ISO AUTO、ISO 200～ISO 25600の中から希望の数値を選ぶ。

ISO AUTO：

カメラが明るさに応じた感度を自動で設定する。

ISO 80～ISO 12800：

お好みの感度をマニュアルで設定する。数値が大きいほど高感度になる。

ヒント

- [ISO AUTO] 時に自動設定されるISO感度の範囲を変更できます。[ISO AUTO] を選択したときに、コントロールホイールの右を押して、[ISO AUTO 上限] / [ISO AUTO 下限] を選んで希望の数値を設定してください。
この設定は [マルチショットNR] の [ISO AUTO] 時にも反映されます。
- [マルチショットNR] の [NR効果] で、ノイズリダクションの強さを設定できます。

ご注意

- [ ファイル形式] が [RAW]、[RAW+JPEG] のとき、[マルチショットNR] は設定できません。
- [マルチショットNR] を選んでいるとき、フラッシュ、[Dレンジオプティマイザー]、[オートHDR] は使用できません。
- [ピクチャープロファイル] が [切] 以外のとき、[マルチショットNR] は設定できません。
- [ピクチャーエフェクト] が [切] 以外のとき、[マルチショットNR] は設定できません。
- 以下のときは、[ISO AUTO] に設定されます。
 - － [おまかせオート]
 - － [プレミアムおまかせオート]
 - － [シーンセレクション]
 - － [スイングパノラマ]
- ISO125未満の領域は、記録できる被写体輝度の範囲（ダイナミックレンジ）が少し狭くなります。
- ISO感度が高くなるほど、ノイズが増えます。
- 静止画撮影時、動画撮影時、またはHFR撮影時で、選べる設定が異なります。
- 動画撮影時はISO125～ISO12800の範囲で選べます。ISO125よりも小さい値の状態では動画撮影を始めると、ISO125に切り替わります。動画撮影を終えると元のISO値に戻ります。
- [マルチショットNR] を使用すると、重ね合わせ処理のため、記録処理に時間がかかります。
- 撮影モードが「P」、「A」、「S」、「M」のとき、ISO感度を [ISO AUTO] にすると、設定された範囲内で自動設定されます。

ISO AUTO低速限界

撮影モードがP（プログラムオート）またはA（絞り優先）で [ISO AUTO] または [マルチショットNR] の [ISO AUTO] を選択したときに、ISO感度が変わり始めるシャッタースピードを設定できます。
この機能は、動いている被写体を撮影するときに効果的です。手ブレを抑えながら、被写体ブレも軽減することができます。

1 MENU→ 1（撮影設定1）→ [ISO AUTO低速限界] →希望の設定を選ぶ。

メニュー項目の詳細

FASTER（より高速）/FAST（高速）：

〔標準〕よりも速いシャッタースピードでISO感度が変わり始めるため、手ブレや被写体ブレを抑えることができる。

STD（標準）：

レンズの焦点距離に応じてカメラが自動で設定する。

SLOW（低速）/SLOWER（より低速）：

〔標準〕よりも遅いシャッタースピードでISO感度が変わり始めるため、ノイズの少ない写真を撮影できる。

1/32000 ～ 30"：

設定したシャッタースピードでISO感度が変わり始める。

ヒント

- [より高速]、[高速]、[標準]、[低速]、[より低速] でISO感度が変わり始めるシャッタースピードの差は、それぞれ1段分です。

ご注意

- ISO感度を、[ISO AUTO] 時に設定した [ISO AUTO 上限] まで上げても露出不足になる場合は、適正露出で撮影するために [ISO AUTO低速限界] で設定したシャッタースピードよりも低速になります。
- 以下の場合、設定されたシャッタースピードのとおりには動作しないことがあります。
 - － [ シャッター方式] によってシャッタースピードの最高速が変わったとき
 - － [ シャッター方式] が [電子シャッター] で、明るいシーンをフラッシュ撮影するとき（高速側のシャッタースピードがフラッシュ同調速度1/100秒で制限されるため）
 - － [フラッシュモード] が [強制発光] で、暗いシーンをフラッシュ撮影するとき（低速側のシャッタースピードが、カメラが自動で判断したシャッタースピードで制限されるため）

関連項目

- [プログラムオート](#)
- [絞り優先](#)
- [ISO感度](#)

デジタルスチルカメラ
DSC-RX100M6

本機で利用できるズームの種類

本機では、いくつかのズームを組み合わせることで、高倍率のズームができます。ズームの種類によってモニターに表示されるアイコンが変わります。



1. 光学ズーム範囲

本機の光学ズームの範囲でズームします。

2. スマートズーム範囲（s+Q）

画像を部分的に切り出して、画質を劣化させずに拡大する。（〔JPEG画像サイズ〕がM、S、VGAのときのみ。）

3. 全画素超解像ズーム範囲（c+Q）

画質劣化の少ない画像処理により拡大する。〔ズーム設定〕を〔入:全画素超解像ズーム〕または〔入:デジタルズーム〕にすると使用できます。

4. デジタルズーム範囲（d+Q）

画像処理により拡大する。〔ズーム設定〕を〔入:デジタルズーム〕にすると使用できます。

ご注意

- お買い上げ時の設定では、〔ズーム設定〕は〔光学ズームのみ〕に設定されています。
- お買い上げ時の設定では、〔JPEG画像サイズ〕は〔L〕に設定されています。スマートズームを使用したい場合は、〔JPEG画像サイズ〕をM、SまたはVGAに変更してください。
- スイングパノラマ撮影時はズーム操作ができません。
- 以下の場合、光学ズーム以外のズームは使えません。
 - － 〔ファイル形式〕が〔RAW〕または〔RAW+JPEG〕
 - － 〔記録設定〕が〔120p〕
 - － モードダイヤルがHFR（ハイレームレート）
 - － スマートテレコンバーター機能をいずれかのカスタムキーに割り当てているとき
- 動画撮影中は、スマートズームは使用できません。
- HFR（ハイレームレート）撮影画面では、ズーム操作ができません。
- 光学ズーム以外のズーム使用時は、〔測光モード〕は〔マルチ〕になります。
- 光学ズーム以外のズームを使用中は、下記の機能は使用できません。
 - － AF時の顔優先
 - － マルチ測光時の顔優先
 - － ロックオンAF
 - － オートフレーミング

関連項目

- [ズームする](#)
- [ズーム設定](#)
- [ズーム倍率について](#)

デジタルスチルカメラ
DSC-RX100M6

ズームする

W/T（ズーム）レバーで、画像を拡大して撮影します。

1 W/T（ズーム）レバーを動かして、被写体を拡大する。

- T側にレバーを動かすとズームし、W側にレバーを動かすと戻る。

ヒント

- [ズーム設定] で [光学ズームのみ] 以外を選ばと、光学ズームの倍率を超えてズームできます。
- ズーム機能をコントロールリングに割り当てすることもできます。

関連項目

- [ズーム設定](#)
- [本機で利用できるズームの種類](#)
- [ズームスピード](#)
- [リングのズーム機能](#)

デジタルスチルカメラ
DSC-RX100M6

ズーム設定

本機で行うズーム範囲を設定できます。

1 MENU →  **2** (撮影設定2) → [ズーム設定] → 希望の設定を選ぶ。

メニュー項目の詳細

光学ズームのみ：

ズーム範囲を光学ズームの範囲内に制限します。[ JPEG画像サイズ]がM、SまたはVGAの場合のみ、スマートズーム範囲も使用できます。

入:全画素超解像ズーム：

全画素超解像ズーム範囲まで使用する場合はこの設定を選びます。光学ズーム範囲を超えても、画質がほとんど劣化しません。

入:デジタルズーム：

全画素超解像ズーム倍率を超えた場合に、画質は劣化するが、最大倍率が大きいズームを行えます。

ご注意

- 画質が劣化しない範囲でのみズームしたい場合は、[光学ズームのみ]を設定してください。

関連項目

- [本機で利用できるズームの種類](#)
- [ズーム倍率について](#)
- [ズームスピード](#)

ズーム倍率について

画像サイズによって、レンズのズーム倍率に組み合わせられる倍率は変わります。

【横縦比】が【3:2】の場合

 JPEG画像サイズ	ズーム設定		
	光学ズームのみ（スマートズーム）	入:全画素超解像ズーム	入:デジタルズーム
L : 20M	-	約2.0倍	約4.0倍
M : 10M	約1.4倍	約2.8倍	約5.6倍
S : 5.0M	約2.0倍	約4.0倍	約8.0倍

関連項目

- [ズームする](#)
- [本機で利用できるズームの種類](#)
- [ズーム設定](#)
- [JPEG画像サイズ（静止画）](#)

デジタルスチルカメラ
DSC-RX100M6

ズームスピード

本機のズームレバーのズームスピードを設定します。

1 MENU→ **2** (撮影設定2) → [ズームスピード] →希望の設定を選ぶ。

メニュー項目の詳細

標準:

ズームレバーによるズーム速度を標準速度にする。

高速:

ズームレバーによるズーム速度を高速にする。

ヒント

- [ズームスピード] の設定はリモコン（別売）を本機に接続してズーム遠隔操作をするときにも適用されます。

ご注意

- [高速] を選ぶと、動画撮影時にズーム音が記録されやすくなります。

関連項目

- [ズームする](#)
- [本機で利用できるズームの種類](#)
- [ズーム設定](#)

デジタルスチルカメラ
DSC-RX100M6

スマートテレコンバーター

スマートテレコンバーターを使って画像の中央部分を拡大表示し、記録できます。

- 1 MENU→2（撮影設定2）→ [カスタムキー] →希望のボタンに「スマートテレコンバーター」の機能を設定する。
- 2 「スマートテレコンバーター」を割り当てたボタンを押して、拡大する。
ボタンを押すたびに、設定が切り替わります。

関連項目

- [カスタムキー](#)（静止画/動画/再生）

リングのズーム機能

コントロールリングでズームする場合のズーム機能を設定します。オートフォーカス時のみ有効です。

1 MENU→ **2** (撮影設定2) → [リングのズーム機能] →希望の設定を選ぶ。

メニュー項目の詳細

スタンダード：

コントロールリングでズーム操作を行うとき、なめらかにズームする。

クイック：

コントロールリングの回転量に応じた画角にズームする。

ステップ：

コントロールリングでズーム操作を行うとき、一定の画角で段階的に切り替わる。

ご注意

- 以下の場合は、[ステップ] に設定していても [スタンダード] のズーム機能になります。
 - W/T (ズーム) レバーでのズーム
 - 動画撮影時
 - 光学ズーム以外のズーム
- 撮影モードが [おまかせオート]、[プレミアムおまかせオート] 以外の場合は、あらかじめコントロールリングに [ズーム] の機能を割り当ててください。
- [クイック] を選ぶと、動画撮影時にズーム音が記録されやすくなります。

デジタルスチルカメラ
DSC-RX100M6

ホワイトバランス

撮影環境での光の色の影響を補正して、白いものを白く写すための機能です。画像の色合いが思った通りにならないときや、色合いを変化させて雰囲気表現したいときに使います。

1 MENU →  1 (撮影設定1) → [ホワイトバランス] → 希望の設定を選ぶ。

メニュー項目の詳細

AWB  AWB  オート /  太陽光 /  日陰 /  曇天 /  電球 /  -1 蛍光灯: 温白色 /  0 蛍光灯: 白色 /  +1 蛍光灯: 昼白色 /  +2 蛍光灯: 昼光色 /  フラッシュ /  水中オート : 被写体を照らしている光源を選ぶと、選んだ光源に適した色あいになる（プリセットホワイトバランス）。[オート] を選ぶと本機が光源を自動判別し、適した色合いに調整する。

 色温度・カラーフィルター :

光源の色に合わせて設定する（色温度）。写真用のCC（色補正）フィルターと同等の効果が得られる（カラーフィルター）。

 カスタム 1/カスタム 2/カスタム 3 :
[カスタムセット] で取得した設定を使用する。

 SET カスタムセット :
撮影する光源下で基準になる白色を取得する。
登録先の番号を選び決定する。

ヒント

- コントロールホイールの右で、微調整画面が表示され、必要に応じて色合いを微調整できます。
- 選んだ設定で思い通りの色にならないときは、ホワイトバランスブラケット撮影を行います。
- AWB 、AWB  は [AWB時の優先設定] を [雰囲気優先] または [ホワイト優先] に設定したときのみ表示されます。

ご注意

- 以下のときは、[ホワイトバランス] は [オート] に固定されます。
 - － [おまかせオート]
 - － [プレミアムおまかせオート]
 - － [シーンセレクション]
- 水銀灯やナトリウムランプのみが光源の場合、光の特性上、正確なホワイトバランスが得られません。フラッシュを発光して撮影するか、[カスタムセット] のご使用をおすすめします。

関連項目

- [\[カスタムセット\] で基準の白を取り込む](#)
- [AWB時の優先設定](#)
- [ホワイトバランスブラケット](#)

AWB時の優先設定

「ホワイトバランス」が「オート」のとき、白熱電球などの光源下で優先する色味を設定します。

① MENU→1（撮影設定1）→「AWB時の優先設定」→希望の設定を選ぶ。

メニュー項目の詳細

AWB
STD 標準：

通常のオートホワイトバランスで撮影する。自然な色合いになるように自動調整する。

AWB
Ambi 雰囲気優先：

光源の色味を優先する。暖かみのある雰囲気を出したいときに適している。

AWB
White ホワイト優先：

光源の色温度が低いとき、白色の再現を優先する。

関連項目

- [ホワイトバランス](#)

【カスタムセット】で基準の白を取り込む

複数の種類の光源で被写体が照らされている場合などに、より正確な色合いを表現したいときは、カスタムホワイトバランスの使用をおすすめします。3つの設定を登録できます。

- 1 MENU→1（撮影設定1）→【ホワイトバランス】→【カスタムセット】を選ぶ。
- 2 白く写したいものが画面中央のサークルを覆うようにカメラを構えて、コントロールホイールの中央を押す。
シャッター音がして、取り込んだ値（色温度とカラーフィルター）が表示される。
- 3 コントロールホイールの左/右で登録番号を選び、中央を押す。
登録したカスタムホワイトバランス値が設定された状態で、撮影情報画面に戻る。
 - この操作で登録したカスタムホワイトバランス値は、次に別の値が登録されるまで保持されます。

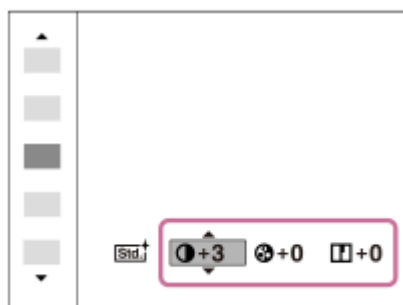
ご注意

- 【カスタムWB設定エラー】というメッセージが表示されたときは、値が想定外であることを表しています（鮮やかな色の被写体に向けた場合など）。そのまま登録することは可能ですが、設定し直すことをおすすめします。カスタムWB設定エラーとなっている場合、撮影情報画面の表示がオレンジ色になります（正しく登録された場合は白色になります）。
- 基準の白を取り込むときにフラッシュを発光させると、フラッシュ光でカスタムホワイトバランスが登録されます。呼び出したあとの撮影でもフラッシュを発光させて撮影してください。

クリエイティブスタイル

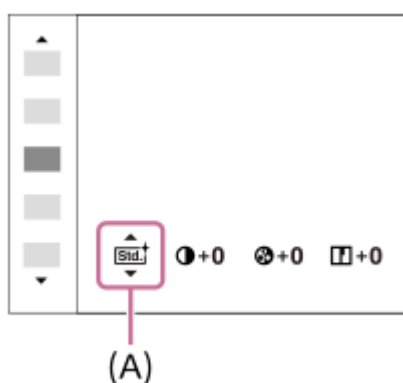
画像の仕上がりを設定でき、各画像スタイルごとにコントラスト、彩度、シャープネスを微調整できます。カメラまかせで撮影する「シーンセレクション」と異なり、露出（シャッタースピード/絞り）などを好みに応じて調整できます。

- 1 MENU→ 1（撮影設定1）→「クリエイティブスタイル」を選ぶ。
- 2 コントロールホイールの上/下で希望のクリエイティブスタイルまたはスタイルボックスを選ぶ。
- 3 （コントラスト）、（彩度）、（シャープネス）を調整したいときは、左/右で希望の項目を選び、上/下で値を選ぶ。



- 4 スタイルボックスを選んだときは、コントロールホイールの右で右側に移動し、希望のクリエイティブスタイルを選ぶ。

- スタイルボックスを使えば、同じスタイルでも微妙に設定を変えて呼び出すことができます。



(A) : スタイルボックスを選んでいるときのみ表示

メニュー項目の詳細

スタンダード :

さまざまなシーンを豊かな階調と美しい色彩で表現する。

ビビッド :

彩度とコントラストが高めになり、花、新緑、青空、海など色彩豊かなシーンをより印象的に表現する。

ニュートラル :

彩度・シャープネスが低くなり、落ち着いた雰囲気表現する。パソコンでの画像加工を目的とした撮影にも適している。

クリア :

ハイライト部分の抜けがよく、透明感のある雰囲気表現する。光の煌めき感などの表現に適している。

ディープ :

濃く深みのある色再現にする。重厚感、存在感など、重みのある表現に適している。

ライト :

明るく、すっきりとした色再現にする。爽快感、軽快感など明るい雰囲気表現に適している。

ポートレート :

肌をより柔らかくに再現する。人物の撮影に適している。

風景 :

彩度、コントラスト、シャープネスがより高くなり、鮮やかでメリハリのある風景に再現する。遠くの風景もよりくっきりする。

夕景 :

夕焼けの赤さを美しく表現する。

夜景 :

コントラストがやや低くなり、見た目の印象により近い夜景に再現する。

紅葉 :

紅葉の赤、黄をより鮮やかに表現する。

白黒 :

白黒のモノトーンで表現する。

セピア :

セピア色のモノトーンで表現する。

お好みの設定を登録する (スタイルボックス) :

任意の内容を登録できる6つのスタイルボックス ( のように左側に数字が入っているもの) を選んで、右ボタンで、希望の設定を選んで登録できる。

スタイルボックスを使えば、同じスタイルでも微妙に設定を変えて呼び出せる。

【コントラスト】、【彩度】、【シャープネス】の設定

【コントラスト】、【彩度】、【シャープネス】は、【スタンダード】や【風景】などのプリセットの画像スタイルや、お好みの設定を登録できる【スタイルボックス】ごとに調整できます。

コントロールホイールの左/右を押して項目を選び、上/下で値を設定します。

コントラスト :

+側に設定するほど明暗差が強調され、インパクトのある仕上がりになる。

彩度 :

+側にするほど色が鮮やかになる。-側に設定すれば控えめで落ち着いた色に再現される。

シャープネス :

解像感を調整できる。+側に設定すれば輪郭がよりくっきりし、-側に設定すれば柔らかな表現になる。

ご注意

- 以下のときは、【クリエイティブスタイル】は【スタンダード】に固定されます。
 - 【おまかせオート】
 - 【プレミアムおまかせオート】
 - 【シーンセレクション】
 - 【ピクチャーエフェクト】が【切】以外
 - 【ピクチャープロファイル】が【切】以外
- 【白黒】、【セピア】を選択しているときは、【彩度】の調整はできません。

デジタルスチルカメラ
DSC-RX100M6

ピクチャーエフェクト

好みの効果を選んで、より印象的でアーティスティックな表現の画像を撮影できます。

① MENU→1 (撮影設定1) → [ピクチャーエフェクト] →希望の設定を選ぶ。

メニュー項目の詳細



切：

[ピクチャーエフェクト] を使わない。



トイカメラ：

周辺が暗く、シャープ感を抑えた柔らかな仕上がりになる。



ポップカラー：

色合いを強調してポップで生き生きとした仕上がりになる。



ポスタリゼーション：

原色のみまたは白黒で再現されるメリハリのきいた抽象的な仕上がりになる。



レトロフォト：

古びた写真のようにセピア色でコントラストが落ちた仕上がりになる。



ソフトハイキー：

明るく、透明感や軽さ、優しさ、柔らかさを持ったような仕上がりになる。



パートカラー：

1色のみをカラーで残し、他の部分はモノクロに仕上がる。



ハイコントラストモノクロ：

明暗を強調することで緊張感のあるモノクロに仕上がる。



ソフトフォーカス：

柔らかな光につつまれたような雰囲気仕上がりになる。



絵画調HDR：

絵画のように色彩やディテールが強調された仕上がりになる。



リッチトーンモノクロ：

階調が豊かでディテールも再現されたモノクロに仕上がる。



ミニチュア：

ミニチュア模型を撮影したように鮮やかでボケの大きな仕上がりになる。



水彩画調：

にじみやぼかしを加えて水彩画のような効果をつける。



イラスト調：

輪郭を強調するなどしてイラストのような効果をつける。

ヒント

- 一部の項目はコントロールホイールの左/右で詳細な設定ができます。

ご注意

- 光学ズーム以外のズームを使用するとき、ズーム倍率が高くなると [トイカメラ] の効果は弱くなります。
- [パートカラー] のとき、被写体や撮影条件によっては設定した色が残らないことがあります。
- 以下のときは撮影後に画像処理を行うため、撮影画面で効果を確認できません。撮影後、処理が終わるまで次の撮影はできません。また、動画には適用されません。
 - [ソフトフォーカス]
 - [絵画調HDR]
 - [リッチトーンモノクロ]

- － [ミニチュア]
 - － [水彩画調]
 - － [イラスト調]
- [絵画調HDR]、[リッチトーンモノクロ] のときは、1度の撮影で3回シャッターが切られるため、以下に注意してください。
 - － 動きや点滅発光などがない被写体のときに設定する
 - － 構図が変わらないように撮影する

またコントラストが低いシーンや、大きな手ブレ、被写体ブレが発生した場合は、良好な結果が得られない場合があります。カメラがブレを検出した場合は、再生画像に  を表示してお知らせします。必要に応じて、構図を変えたり、ブレに注意して撮影し直してください。

- 撮影モードが以下のときは設定できません。
 - － [おまかせオート]
 - － [プレミアムおまかせオート]
 - － [シーンセレクション]
 - － [スイングパノラマ]
- [ ファイル形式] が [RAW]、[RAW+JPEG] のときは設定できません。

美肌効果（静止画）

顔検出時、被写体の肌をなめらかに撮影する効果を設定します。

① MENU→ 1（撮影設定1）→ [ 美肌効果] →希望の設定を選ぶ。

メニュー項目の詳細

 OFF 切：

美肌効果を使わない。

 Lo 入：

美肌効果をかけて撮影する。

ヒント

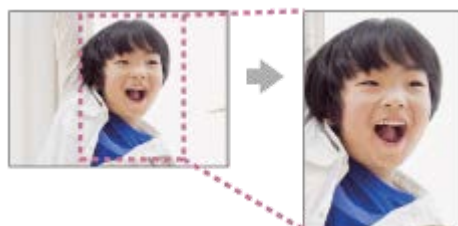
- [入] を選ぶと、美肌効果をかける度合いを選ぶことができます。コントロールホイールの左/右で度合いを設定してください。

ご注意

- [ ファイル形式] が [RAW] のときは設定できません。
- [ ファイル形式] が [RAW+JPEG] のとき、RAW画像には [ 美肌効果] は働きません。

オートフレーミング（静止画）

人物の顔やマクロ撮影する被写体、またロックオンAFでとらえた被写体を検出して撮影すると、自動的に最適な構図に切り出し（トリミング）された画像が記録されます。トリミング前の画像と、トリミングされた画像の2枚が記録されます。トリミングされた画像は、オリジナル画像と同じサイズで記録されます。



① MENU → 1（撮影設定1） → [オートフレーミング] → 希望の設定を選ぶ。

メニュー項目の詳細

切：
構図切り出しを使わない。

オート：
自動的に最適な構図を切り出す。

ご注意

- 撮影モード [スイングパノラマ]、[動画]、[ハイレームレート]、[シーンセレクション] の [手持ち夜景]、[スポーツ]、[人物ブレ軽減] 時は使用できません。
- 撮影状況によっては最適な構図でトリミングされない場合があります。
- [ファイル形式] が [RAW]、[RAW+JPEG] のときは設定できません。
- 以下の場合、[オートフレーミング] は使用できません。
 - － [ドライブモード] が [連続撮影]、[セルフタイマー（連続）]、[連続ブラケット]、[1枚ブラケット]、[ホワイトバランスブラケット]、[DROブラケット]
 - － ISO感度が [マルチショットNR]
 - － [DRO/オートHDR] が [オートHDR]
 - － 光学ズーム以外のズーム
 - － マニュアルフォーカス
 - － [ピクチャーエフェクト] が [ソフトフォーカス]、[絵画調HDR]、[リッチトーンモノクロ]、[ミニチュア]、[水彩画調]、[イラスト調]

デジタルスチルカメラ
DSC-RX100M6

色空間（静止画）

色を数値の組み合わせによって表現するための方法、または表現できる色の範囲のことを色空間といいます。画像の用途によって色空間を変更できます。

1 MENU→ 1（撮影設定1）→ [ 色空間] →希望の設定を選ぶ。

メニュー項目の詳細

sRGB：

デジタルカメラの標準となっている色空間。画像調整を行わずに印刷する場合など、一般的な撮影では[sRGB]を使う。

AdobeRGB：

より広い色再現範囲を持っている色空間。鮮やかな緑色や赤色の多い被写体をプリントする場合に効果がある。撮影した画像のファイル名は、“_”（アンダーバー）で始まる。

ご注意

- [AdobeRGB] は、カラーマネジメントおよびDCF2.0オプション色空間に対応したアプリケーションソフトやプリンター用です。非対応のソフトやプリンターでは、正しい色での表示、印刷ができないことがあります。
- [AdobeRGB] で撮影した画像は、Adobe RGB非対応機器で表示すると、低彩度になります。

デジタルスチルカメラ
DSC-RX100M6

メモリーカードなしリリース

メモリーカードが入っていない状態で、シャッターが切れるかどうかを設定します。

1 MENU→2（撮影設定2）→[メモリーカードなしリリース]→希望の設定を選ぶ。

メニュー項目の詳細

許可：

メモリーカードが入っていてもシャッターが切れる。

禁止：

メモリーカードが入っていないとシャッターが切れない。

ご注意

- メモリーカードを入れていない状態では、撮影した画像は保存されません。
- お買い上げ時の設定は[許可]になっていますので、実際の撮影のときは[禁止]にしておくことをおすすめします。

デジタルスチルカメラ
DSC-RX100M6

シャッター方式（静止画）

メカシャッター方式と電子シャッター方式のどちらで撮影するか設定することができます。

1 MENU →  **2**（撮影設定2） → [ シャッター方式] → 希望の設定を選ぶ。

メニュー項目の詳細

オート：

撮影状況やシャッタースピードに応じて、シャッター方式が自動で切り換わる。

メカシャッター：

メカシャッター方式のみで撮影する。

電子シャッター：

電子シャッター方式のみで撮影する。

ヒント

- 以下の場合は、 [ シャッター方式] を [オート] または [電子シャッター] に設定してください。
 - － 快晴の屋外、ビーチ、雪山など明るい環境下で高速シャッターで撮影するとき
 - － 連続撮影の撮影速度を上げて撮影したいとき
- 以下の場合は、 [ シャッター方式] を [オート] または [メカシャッター] に設定してください。
 - － シャッタースピードを1/100秒より速くしてフラッシュ撮影したいとき
 - － 被写体の動きやカメラ本体の動きによる画像の歪みが気になるとき

ご注意

- 電子シャッター方式で撮影すると、被写体の動きやカメラ本体の動きによって画像に歪みが起こることがあります。
- 電子シャッター方式で撮影すると、瞬間的な光（他のカメラのフラッシュ発光など）や蛍光灯などのちらつきのある照明下で撮影した場合、帯状の明暗が撮影される場合があります。
- [ シャッター方式] を [電子シャッター] に設定していても、電源オフ時、まれにシャッター音が鳴る場合がありますが、故障ではありません。
- 以下のときは、 [ シャッター方式] を [電子シャッター] に設定していても、メカシャッターが動作します。
 - － [ホワイトバランス] の [カスタムセット] で基準の白を取り込むとき
 - － [個人顔登録]
- [ シャッター方式] を [電子シャッター] に設定しているとき、以下の機能は使用できません。
 - －  長秒時NR
 - － バルブ撮影

関連項目

- [フラッシュを使う](#)

デジタルスチルカメラ
DSC-RX100M6

手ブレ補正（静止画）

手ブレ補正機能を使うかどうかを設定します。

1 MENU→2（撮影設定2）→手ブレ補正→希望の設定を選ぶ。

メニュー項目の詳細

入：

手ブレ補正を行う。

切：

手ブレ補正を行わない。

三脚使用時は〔切〕にすることをおすすめします。

長秒時NR（静止画）

長時間露光時に目立つ粒状ノイズを軽減するため、シャッタースピードが1/3秒または1/3秒より遅いときにノイズ軽減処理を行います。

1 MENU→ **1**（撮影設定1）→ **長秒時NR**→希望の設定を選ぶ。

メニュー項目の詳細

入：
シャッターを開けていた時間と同時間のノイズ軽減処理をする。処理中はメッセージが表示され、撮影できない。画質を優先するときに選ぶ。

切：
ノイズ軽減処理をしない。撮影タイミングを優先するときに選ぶ。

ご注意

-  シャッター方式 を [電子シャッター] に設定しているときは、 長秒時NR を使用できません。
- 以下の場合、 長秒時NR を [入] にしても、ノイズリダクションは働きません。
 - － 撮影モードが [スイングパノラマ]
 - － [ドライブモード] が [連続撮影] または [連続ブラケット]
 - － 撮影モードが [シーンセレクション] の [スポーツ]、[手持ち夜景] または [人物ブレ軽減]
 - － ISO感度が [マルチショットNR]
- 撮影モードが以下の場合は、 長秒時NR を [切] にできません。
 - － [おまかせオート]
 - － [プレミアムおまかせオート]
 - － [シーンセレクション]
- 撮影条件によっては、シャッタースピードが1/3秒以上でもノイズ軽減処理を行わない場合があります。

デジタルスチルカメラ
DSC-RX100M6

高感度NR（静止画）

ISO感度を高感度に設定して撮影した場合のノイズ軽減処理を設定します。

1 MENU→ 1（撮影設定1）→ [ 高感度NR] →希望の設定を選ぶ。

メニュー項目の詳細

標準：

高感度ノイズリダクションの処理を標準的に行う。

弱：

高感度ノイズリダクションの処理を弱めに行う。

切：

高感度ノイズリダクションの処理を行わない。撮影タイミングを優先するときを選ぶ。

ご注意

- 撮影モードが以下の場合は、 [ 高感度NR] は [標準] に固定されます。
 - － [おまかせオート]
 - － [プレミアムおまかせオート]
 - － [シーンセレクション]
 - － [スイングパノラマ]
- [ ファイル形式] が [RAW] のときは設定できません。
- [ ファイル形式] が [RAW+JPEG] のとき、RAW画像には [ 高感度NR] は働きません。

デジタルスチルカメラ
DSC-RX100M6

登録顔優先

「AF時の顔優先」が「入」のとき、「個人顔登録」で登録した顔を優先してピント合わせを行うかどうかを設定します。

1 MENU→1（撮影設定1）→「登録顔優先」→希望の設定を選ぶ。

メニュー項目の詳細

入：

「個人顔登録」で登録した顔を優先してピントを合わせる。

切：

登録した顔を優先せずにピントを合わせる。

関連項目

- [AF時の顔優先設定](#)
- [個人顔登録（新規登録）](#)
- [個人顔登録（優先順序変更）](#)

スマイルシャッター

カメラが笑顔を検出し、自動で撮影します。

1 MENU→1 (撮影設定1) → [スマイルシャッター] →希望の設定を選ぶ。

メニュー項目の詳細

切：

[スマイルシャッター] を使わない。

入：

笑顔を検出して自動撮影する。検出する笑顔の感度を、[入：微笑み]、[入：普通の笑顔]、[入：大笑い] から選ぶことができる。

スマイル撮影のテクニック

- 前髪が目にかからないようにし、目は細めにする。
- 帽子やマスク、サングラスなどで顔が隠れないようにする。
- カメラに対して正面を向き、なるべく水平になるようにする。
- 口をあけてしっかり笑う。歯が見えているほうが笑顔を検出しやすくなる。
- スマイルシャッター中にシャッターボタンを押しても撮影できる。撮影後はスマイルシャッターに戻る。

ご注意

- 以下のときは、[スマイルシャッター] は使えません。
 - － [スイングパノラマ]
 - － [ピクチャーエフェクト]
 - － ピント拡大時
 - － [シーンセレクション] が [風景]、[夜景]、[夕景]、[手持ち夜景]、[人物ブレ軽減]、[ペット]、[料理]、[打ち上げ花火]
 - － 動画撮影時
 - － ハイフレームレート撮影時
- 最大8人の顔を検出できます。
- 状況によっては、顔が検出できなかったり、顔以外を誤検出することがあります。
- 笑顔が検出されない場合はスマイル検出感度を設定してください。
- [スマイルシャッター] 中にロックオンAFで追尾させると、その顔だけがスマイル検出の対象になります。

個人顔登録（新規登録）

あらかじめ顔情報を登録しておくことで、登録された顔を優先してピント合わせを行います。撮影時は「AF時の顔優先」と「登録顔優先」を「入」に設定してください。

- 1 MENU→1（撮影設定1）→「個人顔登録」→「新規登録」を選ぶ。
- 2 登録したい顔をガイド枠内に合わせて、シャッターボタンを押して撮影する。
- 3 確認メッセージが表示されるので、「実行」を選ぶ。

ご注意

- 最大8人の顔を登録できます。
- 明るい場所で、正面を向いて撮影してください。帽子やマスク、サングラスなどで顔が隠れると、正しく登録できない場合があります。

関連項目

- [登録顔優先](#)
- [AF時の顔優先設定](#)
- [スマイルシャッター](#)

デジタルスチルカメラ
DSC-RX100M6

個人顔登録（優先順序変更）

複数の顔を登録したときは、登録した順で優先順位が設定されます。優先順を変更することができます。

- 1 MENU→1（撮影設定1）→〔個人顔登録〕→〔優先順序変更〕を選ぶ。
- 2 優先度を変更したい顔を選ぶ。
- 3 移動先を選ぶ。

関連項目

- [登録顔優先](#)
- [AF時の顔優先設定](#)
- [スマイルシャッター](#)

デジタルスチルカメラ
DSC-RX100M6

個人顔登録（削除）

登録した顔を削除できます。

1 MENU→1（撮影設定1）→〔個人顔登録〕→〔削除〕を選ぶ。

〔全て削除〕を選ぶと、すべての顔をまとめて削除できます。

ご注意

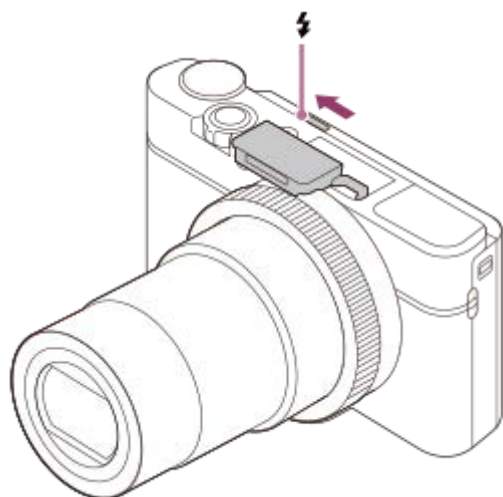
- 〔削除〕を行ってもカメラ内には登録した顔のデータが残っています。カメラ内からも削除したい場合は、〔全て削除〕を行ってください。

フラッシュを使う

暗い場所での撮影や逆光での撮影では、フラッシュを使うと被写体を明るく写せます。また、手ブレを抑えるのにも役立ちます。

1 ⚡（フラッシュポップアップ）スイッチをスライドして、発光部を上げる。

- フラッシュは自動ではポップアップしません。



2 シャッターボタンを押して撮影する。

- 設定している撮影モードや機能によって、選べるフラッシュモードが異なります。

フラッシュを使わないときは

フラッシュを使用しない場合は、手でフラッシュ発光部を下げてください。



ご注意

- フラッシュ発光部が上がりきらない状態で発光させると、故障の原因となることがあります。
- 動画撮影時はフラッシュは使用できません。
- ズームをW側にしてフラッシュ撮影すると、撮影状況によってはレンズの影が写ることがあります。この場合は被写体から離れて撮影するか、ズームをT側にしてフラッシュ撮影してください。
- モニターが上側に90度以上回転しているときは、⚡（フラッシュポップアップ）スイッチが操作しにくくなります。先にフラッシュ発光部を上げてからモニターの角度調整をしてください。
- 自分撮りにフラッシュを使う場合は、近距離での発光になるので、直接フラッシュを見ないように注意してください。使用後は、モニターにあたらないよう、モニターを元の位置に戻してからフラッシュ発光部を収納してください。

関連項目

- [フラッシュモード](#)

4-737-296-01(2) Copyright 2018 Sony Corporation

デジタルスチルカメラ
DSC-RX100M6

赤目軽減発光

フラッシュ撮影時に目が赤く写るのを軽減するため、フラッシュが2回以上予備発光します。

1 MENU→1（撮影設定1）→〔赤目軽減発光〕→希望の設定を選ぶ。

メニュー項目の詳細

入：
赤目軽減発光する。

切：
赤目軽減発光しない。

ご注意

- 赤目軽減の効果には個人差があります。また被写体までの距離や、予備発光を見ていないなどの条件によって、効果が現れにくいことがあります。

デジタルスチルカメラ
DSC-RX100M6

フラッシュモード

フラッシュの発光方法を設定できます。

- 1 コントロールホイールの  (フラッシュモード) → 希望の設定を選ぶ。
 - MENU →  1 (撮影設定1) → [フラッシュモード] でも設定できます。

メニュー項目の詳細

発光禁止 :

フラッシュを発光させない。

AUTO 自動発光 :

光量不足や逆光と判断したとき発光する。

強制発光 :

必ず発光する。

SLOW スローシンクロ :

必ず発光する。スローシンクロでシャッタースピードを遅くして撮ると、被写体だけでなく、背景も明るく撮れる。

REAR 後幕シンクロ :

露光が終わる直前のタイミングで必ず発光する。走っている自動車や歩いている人など動いている被写体を撮ると、動きの軌跡が自然な感じに撮れる。

ご注意

- 初期値は撮影モードによって変わります。
- 撮影モードによっては選べない [フラッシュモード] があります。

関連項目

- [フラッシュを使う](#)

調光補正

−3.0EVから+3.0EVの範囲で、フラッシュ発光量を調整できます。調光補正を行うと、フラッシュの発光量のみが変化します。露出補正を行うと、シャッタースピードと絞り値とともにフラッシュの発光量も変化します。

1 MENU→ 1（撮影設定1）→〔調光補正〕→希望の設定を選ぶ。

- +側にすると発光量が増え、−側にすると発光量が減ります。

ご注意

- 撮影モードが以下の場合は、調光補正はできません。
 - − [おまかせオート]
 - − [プレミアムおまかせオート]
 - − [スイングパノラマ]
 - − [シーンセレクション]
- 被写体がフラッシュ光の最大到達距離（調光距離）より遠くにあるときは、オーバー側（+側）の効果がでないことがあります。また近接撮影では、アンダー側（−側）の効果がでないことがあります。

関連項目

- [フラッシュを使う](#)

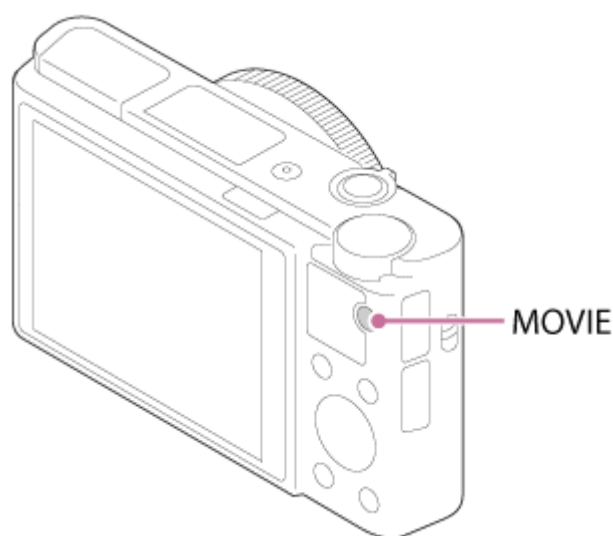
デジタルスチルカメラ
DSC-RX100M6

動画を撮影する

MOVIE（動画）ボタンを押して動画撮影できます。

1 MOVIEボタンを押して撮影を開始する。

- お買い上げ時の設定では、[MOVIE(動画)ボタン]が[常に有効]に設定されているため、すべての撮影モードから動画撮影を開始できます。



2 もう一度MOVIEボタンを押して終了する。

ヒント

- 動画撮影開始/停止機能をお好みのキーに割り当てることができます。MENU→2（撮影設定2）→カスタムキー→希望のキーに[MOVIE(動画)]を設定してください。
- ピントを合わせるエリアを指定したいときは、[フォーカスエリア]で設定します。
- 顔にピントを合わせ続けたい場合は、フォーカス枠と顔検出枠が重なるように構図を工夫します。または[フォーカスエリア]を[ワイド]に設定します。
- シャッタースピードや絞りを希望の値に設定したいときは、撮影モードを（動画）にして、希望の露出モードを選択してください。
- 撮影後、データ書き込み中を示すアイコンがモニターに表示されます。アイコンが表示されている間に、メモリーカードを抜かないでください。
- 以下の設定は、静止画撮影のときの設定値をそのまま使用できます。
 - ホワイトバランス
 - クリエイティブスタイル
 - 測光モード
 - AF時の顔優先
 - マルチ測光時の顔優先
 - Dレンジオブティマイザー
- ISO感度、露出補正、フォーカスエリアは動画撮影中に設定を変更できます。
- [HDMI情報表示]を[なし]にすると、動画記録中でも撮影情報表示なしで記録画像を出力できます。

ご注意

- 動画記録中はカメラやレンズの作動音、操作音などが記録されてしまうことがあります。特に〔ズームスピード〕を〔高速〕に設定している場合や〔リングのズーム機能〕を〔クイック〕に設定している場合、動画記録中のズーム音が記録されやすくなります。
MENU→2（撮影設定2）→〔音声記録〕→〔切〕で音声を記録しないように設定できます。
- 連続して撮影している場合は、本機の温度が上昇しやすく、温かく感じる場合がありますが故障ではありません。また、〔しばらく使用できません カメラの温度が下がるまで お待ちください〕という表示が出る場合があります。その場合は、本機の電源を切って、本機の温度が下がるのを待ってから撮影してください。
- が表示された場合は、本機の温度が上がっています。本機の電源を切り、温度が下がるのを待ってから撮影してください。
- 連続撮影可能時間は「動画の記録可能時間」をご覧ください。撮影が終わってしまったら、もう一度MOVIEボタンを押すと撮影できます。本体やバッテリーの温度によっては、機器保護のため停止する場合があります。
- モードダイヤルが （動画）または **HFR** になっているときや動画撮影中は、〔フォーカスエリア〕の〔ロックオンAF〕は選択できません。
- 動画の〔プログラムオート〕モードでは、絞りとシャッタースピードは自動で設定され変更できません。よって明るい環境下で高速シャッターとなり、被写体の動きが滑らかに写らない場合があります。他の露出モードにして、絞りやシャッタースピードを調整することで、より滑らかに撮影できる場合があります。
- 動画撮影時のISO感度はISO125～ISO12800の範囲で選べます。ISO125よりも小さい設定値の状態では動画撮影を始めると、ISO125に切り替わります。動画撮影を終えると元のISO値に戻ります。
- ISO感度を〔マルチショットNR〕に設定しているときは、一時的に〔ISO AUTO〕になります。
- 動画撮影時、以下の〔ピクチャーエフェクト〕は設定できません。動画撮影が開始されると一時的に〔切〕になります。
 - ソフトフォーカス
 - 絵画調HDR
 - リッチトーンモノクロ
 - ミニチュア
 - 水彩画調
 - イラスト調
- 低感度の動画撮影時、極端に強い光源にカメラを向けると、画面内の高輝度部分が黒っぽく撮影されることがあります。
- モニターの表示が〔ファインダー撮影用〕の場合、動画撮影を開始すると全情報表示に切り替わります。
- XAVC S動画やAVCHD動画をパソコンに取り込むときは、PlayMemories Homeを使用してください。

関連項目

- [MOVIE\(動画\)ボタン](#)
- [シャッターボタンで動画撮影](#)
- [記録方式（動画）](#)
- [動画の記録可能時間](#)
- [カスタムキー（静止画/動画/再生）](#)
- [フォーカスエリア](#)

シャッターボタンで動画撮影

MOVIE（動画）ボタンの代わりに、より大きく押しやすいシャッターボタンを使って、動画撮影の開始/停止を行うことができます。

1 MENU →  2（撮影設定2） → [シャッターボタンで動画撮影] → 希望の設定を選ぶ。

メニュー項目の詳細

する:

撮影モードが[動画]のとき、またはハイフレームレート撮影時、シャッターボタンでも動画撮影を行うことができます。

しない:

シャッターボタンで動画撮影を行わない。

ヒント

- [シャッターボタンで動画撮影] を [する] に設定していても、MOVIEボタンで撮影開始/停止することもできます。
- [シャッターボタンで動画撮影] を [する] に設定すると、 [レックコントロール] で外部録画再生機器に動画の録画を開始/停止するときも、シャッターボタンで操作できるようになります。

関連項目

- [動画を撮影する](#)

動画の記録フォーマットについて

本機で選べる動画の記録フォーマットについて説明します。

XAVC Sとは

4Kなどの高解像度の映像を、MPEG-4 AVC/H.264で高圧縮してMP4ファイル形式で記録するフォーマットです。データの容量を一定レベルに抑えながら高画質化することができます。

XAVC S/AVCHD記録フォーマットとその特長

XAVC S 4K :

ビットレート：約100 Mbpsまたは約60 Mbps
4K解像度（3840×2160）で記録できます。

XAVC S HD :

ビットレート：約100 Mbps、約60 Mbps、約50 Mbps、約25 Mbps、または約16 Mbps
AVCHDと比べると情報量が多くなるため、より鮮明な画像を記録できます。

AVCHD :

ビットレート：約24 Mbps（最大）または約17 Mbps（平均）
パソコン以外の保存機器との互換性に優れています。

- ビットレートとは、一定時間あたりの記録データ量です。

関連項目

- [記録方式（動画）](#)
- [記録設定（動画）](#)
- [AVCHD規格について](#)

記録方式（動画）

動画を記録するときの記録方式を設定します。

① MENU→ 2（撮影設定2）→ 記録方式 →希望の設定を選ぶ。

メニュー項目の詳細

 記録方式	特徴	
XAVC S 4K	4K解像度（3840×2160）で記録できます。	ソフトウェアPlayMemories Homeでパソコンに保存できます。
XAVC S HD	AVCHDと比べると情報量が多くなるため、より鮮明な画像を記録できます。	
AVCHD	パソコン以外の保存機器との互換性に優れています。	ソフトウェアPlayMemories Homeでパソコンに保存または対応メディアを作成できます。

ご注意

- XAVC S 4K またはXAVC S HD 120p動画時の連続撮影時間は約5分です。モニターに、残り録画可能時間が表示されます。4K動画/HD 120p動画撮影後、再度4K動画/HD 120p動画撮影を行う場合は、電源OFF状態でしばらく待ってから撮影してください。撮影時間が5分未満でも、撮影環境温度によっては、機器保護のため停止する場合があります。
-  記録方式 が [AVCHD] の場合は、1つの動画ファイルは約2GBで制限されます。連続記録中のファイルサイズが約2GBになると、自動的に新しいファイルが作成されます。
-  記録方式 を [XAVC S 4K] に設定し、本機をHDMI機器に接続しながら動画を撮影すると、モニターには画像が表示されません。

記録設定（動画）

動画撮影時のフレームレートとビットレートを設定します。

1 MENU→ 2（撮影設定2）→ 記録設定 →希望の設定を選ぶ。

- ビットレートが高いほど高画質で撮影できます。

メニュー項目の詳細

記録方式 が [XAVC S 4K] のとき

 記録設定	ビットレート	説明
30p 100M	約100 Mbps	3840×2160（30p）で撮影する。
30p 60M	約60 Mbps	3840×2160（30p）で撮影する。
24p 100M	約100 Mbps	3840×2160（24p）で撮影する。
24p 60M	約60 Mbps	3840×2160（24p）で撮影する。

記録方式 が [XAVC S HD] のとき

 記録設定	ビットレート	説明
60p 50M	約50 Mbps	1920×1080（60p）で撮影する。
60p 25M	約25 Mbps	1920×1080（60p）で撮影する。
30p 50M	約50 Mbps	1920×1080（30p）で撮影する。
30p 16M	約16 Mbps	1920×1080（30p）で撮影する。
24p 50M	約50 Mbps	1920×1080（24p）で撮影する。
120p 100M	約100 Mbps	1920×1080（120p）のハイスピード記録を行う。120 fpsの動画を記録できる。 ● 対応する編集機器を使って、よりなめらかなスローモーション映像を作ることができます。
120p 60M	約60 Mbps	1920×1080（120p）のハイスピード記録を行う。120 fpsの動画を記録できる。 ● 対応する編集機器を使って、よりなめらかなスローモーション映像を作ることができます。

記録方式 が [AVCHD] のとき

 記録設定	ビットレート	説明
60i 24M(FX)	最大24 Mbps	1920×1080（60i）で撮影する。
60i 17M(FH)	平均約17 Mbps	1920×1080（60i）で撮影する。

ご注意

- [ 記録設定] を [60i 24M(FX)] にして撮影した動画からAVCHD記録ディスクを作成すると、画質が変換されるため、ディスク作成に時間がかかります。画質を変換せずに保存したい場合は、ブルーレイディスクをお使いください。
- 以下のとき、[120p] は選べません。
 - － [おまかせオート]
 - － [プレミアムおまかせオート]
 - － [シーンセレクション]

関連項目

- [スーパースローモーション撮影をする（ハイフレームレート設定）](#)

4-737-296-01(2) Copyright 2018 Sony Corporation

スーパースローモーション撮影をする（ハイフレームレート設定）

記録フォーマットより高いフレームレートで撮影することによって、なめらかなスーパースローモーション映像を記録できます。

1 モードダイヤルをHFR（ハイフレームレート）にする。

撮影設定画面が表示される。



2 MENU→2（撮影設定2）→[HFR ハイフレームレート設定]を選び、[HFR 記録設定]、[HFR フレームレート]、[HFR 優先設定]、[HFR 録画タイミング]を希望の設定にする。

- MENU→2（撮影設定2）→[HFR 露出モード]を選び、希望の露出モードに設定することができます。

3 被写体にカメラを向け、ピントなどを合わせる。

- フォーカスモード、ISO感度など、そのほかの撮影設定も変更することができます。

4 コントロールホイールの中央を押す。

撮影スタンバイ画面が表示される。



- 撮影スタンバイ中は、画面の中央に「撮影スタンバイ」が表示されます。「撮影スタンバイ」が表示されている間は、露出の調整、フォーカスの調整、ズーム操作などはできません。撮影設定を変更したい場合は、もう一度コントロールホイールの中央を押して撮影設定画面に戻ってください。

5 MOVIEボタンを押す。

[HFR 録画タイミング]が[スタートトリガー]のとき：

取り込み（撮影）がスタートする。再度MOVIEボタンを押すか、録画可能時間を過ぎたときに取り込みが終了し、メモリーカードへ記録される。

[HFR 録画タイミング]が[エンドトリガー] / [エンドトリガー ハーフ]のとき：

取り込みが終了し、メモリーカードへ記録される。

メニュー項目の詳細

HFR 記録設定 :

記録する動画のフレームレートを [60p 50M]、[30p 50M]、[24p 50M] から選ぶ。

HFR フレームレート :

撮影時のフレームレートを [240fps]、[480fps]、[960fps] から選ぶ。

HFR 優先設定 :

画質を優先する [画質優先] か、撮影時間が長くなる [撮影時間優先] かを選ぶ。

HFR 録画タイミング :

MOVIEボタンを押してからある一定の時間を記録するか ([スタートトリガー])、MOVIEボタンを押すまでのある一定の時間を記録するか ([エンドトリガー]、[エンドトリガー ハーフ]) を選ぶ。

フレームレートについて

スーパースローモーション撮影では、1秒間の撮影コマ数以上のシャッタースピードで撮影します。例えば、[**HFR** フレームレート] を [960fps] に設定した場合、1秒間で960コマ撮影するため、1コマのシャッタースピードは約 1/1000秒より高速になります。このシャッタースピードを確保するために撮影時には十分な明るさが必要になります。明るさが不足する場合はISO感度が上がるため、ノイズが目立ちやすくなります。

最短撮影距離について

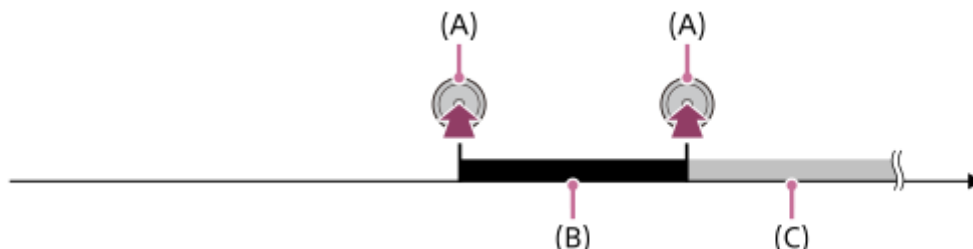
マクロ撮影などで被写体に近づきすぎるとピントが合いません。カメラを最短撮影距離（レンズ先端からW側約8cm、T側約100cm）より離して撮影してください。

録画のタイミングについて

[**HFR** 録画タイミング] の設定により、MOVIEボタンを押すタイミングと録画される動画の時間の関係は以下のようになります。

【スタートトリガー】

MOVIEボタンを押したタイミングで取り込み（撮影）を開始します。MOVIEボタンをもう一度押すか最大録画可能時間が経過すると、取り込みが終了しメモリーカードへの記録が開始されます。



(A) : MOVIEボタンを押すタイミング

(B) : 録画される部分

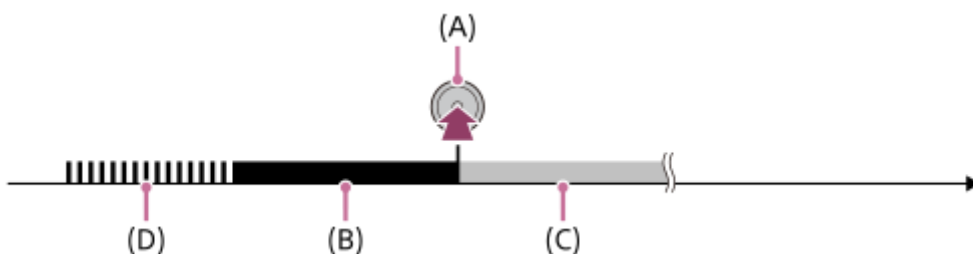
(C) : メモリーカードに記録中（次の撮影は行えません）

【エンドトリガー】 / 【エンドトリガー ハーフ】

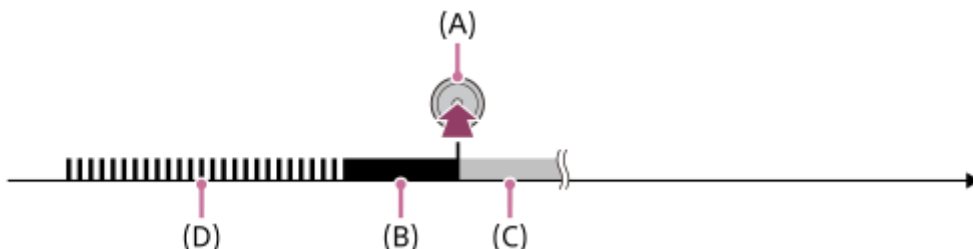
撮影スタンバイ画面になった時点からバッファリング（動画を一時的にカメラ内部に撮りためておくこと）を開始します。撮影データがバッファリング容量いっぱいになると、古いデータから順に上書きされます。MOVIEボタンを押すと、その時点から遡って一定時間分の動画がメモリーカードに記録されます。

- 【エンドトリガー】 のときは最大録画可能時間分の動画が、【エンドトリガー ハーフ】 のときは最大録画可能時間の半分の時間分の動画が記録されます。【エンドトリガー ハーフ】 は、メモリーカードへの記録にかかる時間も【エンドトリガー】 に比べて短くなります。

エンドトリガー



エンドトリガー ハーフ



- (A) : MOVIEボタンを押すタイミング
 (B) : 録画される部分
 (C) : メモリーカードに記録中（次の撮影は行えません）
 (D) : バッファリング中

撮影をやり直したいときは

記録中の画面で「キャンセル」を選ぶと、記録を中止できます。ただし、中止したところまでの動画は保存されます。

再生速度について

「**HFR** フレームレート」と「**HFR** 記録設定」の設定によって、再生速度は以下のようになります。

HFR フレームレート	HFR 記録設定		
	24p 50M	30p 50M	60p 50M
240fps	10倍スロー	8倍スロー	4倍スロー
480fps	20倍スロー	16倍スロー	8倍スロー
960fps	40倍スロー	32倍スロー	16倍スロー

「**HFR** 優先設定」と撮影時間について

HFR 優先設定	HFR フレームレート	イメージセンサー読み出し有効画素数	撮影時間
画質優先	240fps	1824×1026	約4秒
	480fps	1824×616	約3秒
	960fps	1244×420	
撮影時間優先	240fps	1824×616	約7秒
	480fps	1292×436	
	960fps	912×308	約6秒

再生時間について

例えば、「**HFR** 記録設定」を「24p 50M」、「**HFR** フレームレート」を「960fps」、「**HFR** 優先設定」を「撮影時間優先」に設定し、約4秒間撮影した場合、再生速度は40倍スローとなることから、再生時間は約160秒（約2分40秒）になります。

ご注意

- 音声は記録されません。
- 記録される動画はXAVC S HDフォーマットになります。
- MOVIEボタンを押してから記録が終わるまでに時間がかかる場合があります。撮影スタンバイ画面に切り換わるまで待って、次の撮影を行ってください。

関連項目

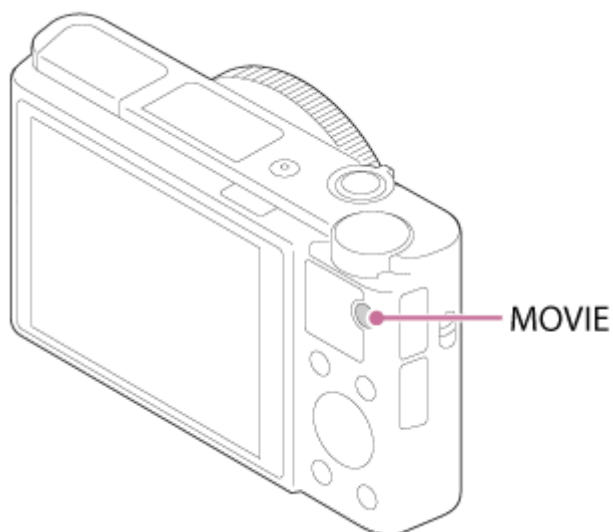
- [動画の記録フォーマットについて](#)
- [使用できるメモリーカード](#)
- [HFR（ハイフレームレート）：露出モード](#)

4-737-296-01(2) Copyright 2018 Sony Corporation

動画を撮りながら静止画を撮る（デュアル記録）

動画の撮影中に、撮影を中断することなく静止画の撮影ができます。動画と静止画の両方を記録したい場合にご活用ください。

1 MOVIEボタンを押して、動画の撮影を開始する。



2 シャッターボタンを押して静止画を撮影する。

- シャッターボタンを半押しすると、撮影できる静止画の残り枚数が画面に表示されます。
- 撮影時、画面に「キャプチャー」が表示されます。

3 もう一度MOVIEボタンを押して、動画の撮影を終了する。

ヒント

- 静止画の画像サイズ/画質は、MENU → 2（撮影設定2） → 「画像サイズ(デュアル記録)」 / 「画質(デュアル記録)」で選べます。

ご注意

- 記録設定やモード設定により、デュアル記録できない場合があります。
- 「 プロキシ記録」を「入」にしているときは、デュアル記録できません。
- 使用するメモリーカードによっては、静止画の記録に時間がかかることがあります。
- シャッターボタンの操作音が記録されることがあります。
- デュアル記録時のフラッシュ撮影はできません。

関連項目

- [画質\(デュアル記録\)](#)
- [画像サイズ\(デュアル記録\)](#)

- オートデュアル記録
- 静止画を撮影する
- 動画を撮影する

4-737-296-01(2) Copyright 2018 Sony Corporation

デジタルスチルカメラ
DSC-RX100M6

画質(デュアル記録)

動画記録中に撮影する静止画の画質を設定します。

① MENU→2 (撮影設定2) → [画質(デュアル記録)] →希望の設定を選ぶ。

メニュー項目の詳細

エクストラファイン/ ファイン/ スタANDARD

デジタルスチルカメラ
DSC-RX100M6

画像サイズ(デュアル記録)

動画記録中に撮影する静止画の画像サイズを設定します。

① MENU→2 (撮影設定2) → [画像サイズ(デュアル記録)] →希望の設定を選ぶ。

メニュー項目の詳細

L: 17M/ M: 7.5M/ S: 4.2M

オートデュアル記録

動画記録中に静止画を自動で撮影するかどうかを設定します。人物を含む印象的な構図を検出したときに撮影します。また、自動で撮影した静止画を、最適な構図に切り出し（トリミング）した画像が記録されることがあります。トリミングされた画像が記録される場合、トリミング前の画像とトリミングされた画像の2枚が記録されます。

- 1 MENU→2（撮影設定2）→[オートデュアル記録]→希望の設定を選ぶ。
- 2 MOVIEボタンを押して、動画の撮影を開始する。
 - 静止画は、自動で撮影されます。撮影時、画面に[キャプチャー]が表示されます。
- 3 もう一度MOVIEボタンを押して、動画の撮影を終了する。
 - 記録した静止画や動画は、（再生）ボタンを押して確認できます。

メニュー項目の詳細

切：

オートデュアル記録を行わない。

入：撮影頻度 低/入：撮影頻度 標準/入：撮影頻度 高：

オートデュアル記録を行い、撮影頻度を指定する。

- 顔の位置や向き、表情などを認識して、良い構図とされる静止画を撮影します。

ヒント

- 静止画の画像サイズ/画質は、MENU → 2（撮影設定2）→[画像サイズ(デュアル記録)]/[画質(デュアル記録)]で選べます。
- オートデュアル記録を行う設定にしても、シャッターボタンを押して静止画を撮影できます。

ご注意

- 撮影状況によっては、最適なタイミングで撮影されない場合があります。

関連項目

- [動画を撮りながら静止画を撮る（デュアル記録）](#)
- [オートフレーミング（静止画）](#)

プロキシ記録

XAVC S動画を記録するとき、低ビットレートのプロキシ動画を同時に記録するかどうかを設定します。プロキシ動画はファイルサイズが小さいため、スマートフォンへの転送やWebサイトへのアップロードに適しています。

1 MENU→ **2** (撮影設定2) → [**Px** プロキシ記録] →希望の設定を選ぶ。

メニュー項目の詳細

入：
プロキシ動画を同時に記録する。

切：
プロキシ動画を同時に記録しない。

ヒント

- プロキシ動画は、XAVC S HDフォーマット（1280×720）9Mbpsで記録されます。プロキシ動画のフレームレートはオリジナル動画と同じになります。
- 再生画面（1枚再生画面または一覧表示画面）には、プロキシ動画は表示されません。プロキシ動画が同時に記録された動画には、**Px**が表示されます。

ご注意

- プロキシ動画は本機では再生できません。
- 下記の場合はプロキシ記録はできません。
 - － [ 記録方式] が [AVCHD] のとき
 - － [ 記録方式] が [XAVC S HD] で、 [ 記録設定] が [120p] のとき
 - － [ 手ブレ補正] が [インテリジェントアクティブ] のとき
- プロキシ動画がある動画を削除/プロテクトすると、オリジナル動画とプロキシ動画の両方が削除/プロテクトされます。オリジナル動画だけ、またはプロキシ動画だけを削除/プロテクトすることはできません。
- 本機では動画の編集はできません。

関連項目

- [スマートフォン転送機能：転送対象（プロキシ動画）](#)
- [動画の記録フォーマットについて](#)
- [一覧表示で再生する（一覧表示）](#)
- [使用できるメモリーカード](#)

デジタルスチルカメラ
DSC-RX100M6

音声記録

動画撮影時に音声を記録するかどうかを設定します。撮影中のレンズやカメラの動作音などが記録されるのを防ぎたい場合は「切」を選びます。

1 MENU →  **2** (撮影設定2) → 「音声記録」 → 希望の設定を選ぶ。

メニュー項目の詳細

入：
撮影時に音声を記録する（ステレオ）。

切：
撮影時に音声を記録しない。

デジタルスチルカメラ
DSC-RX100M6

マイク基準レベル

録音時のマイクレベルを選べます。

1 MENU→ **2** (撮影設定2) → [マイク基準レベル] →希望の設定を選ぶ。

メニュー項目の詳細

標準：

周囲の音を一定のレベル内におさめて録音する。日常の会話の録音に適している。

低：

周囲の音を忠実に録音する。演奏会などで、臨場感のある音の録音に適している。

デジタルスチルカメラ
DSC-RX100M6

風音低減

内蔵マイクからの入力音声の低域音をカットして、風音を低減できます。

1 MENU→ **2** (撮影設定2) → [風音低減] → 希望の設定を選ぶ。

メニュー項目の詳細

入：

風音低減する。

切：

風音低減しない。

ご注意

- 風が強く吹いていない場所で [入] にすると、風以外の音も小さく記録される場合があります。

ピクチャープロフィール

撮影する画像の発色、階調などの設定を変更できます。[ピクチャープロフィール]の各項目についてさらに詳しい使いかたは、以下のURLをご覧ください。

<http://helpguide.sony.net/di/pp/v1/ja/index.html>

ピクチャープロフィールの内容を変更する

[ガンマ] や [ディテール] などを調節して好みの画質設定を作れます。設定するときは、本機をテレビやモニターにつないで、画像を確認しながら調節してください。

- 1 MENU→ 1 (撮影設定1) → [ピクチャープロフィール] → 変更したいプロフィールを選ぶ。
- 2 コントロールホイールの右を押して、項目一覧に移動する。
- 3 コントロールホイールの上/下で、変更したい項目を選ぶ。
- 4 コントロールホイールの上/下で希望の設定値を選び、中央を押す。

ピクチャープロフィールのプリセットを使う

本機は [PP1] ～ [PP10] に撮影条件に合わせた動画用設定値をあらかじめ登録しています。

MENU→ 1 (撮影設定1) → [ピクチャープロフィール] → 希望の設定を選ぶ。

PP1 :

[Movie] ガンマを用いた設定例

PP2 :

[Still] ガンマを用いた設定例

PP3 :

[ITU709] ガンマを用いた自然な色合いの設定例

PP4 :

ITU709規格に忠実な色合いの設定例

PP5 :

[Cine1] ガンマを用いた設定例

PP6 :

[Cine2] ガンマを用いた設定例

PP7 :

[S-Log2] ガンマを用いた設定例

PP8 :

[S-Log3] ガンマとS-Gamut3.Cineのカラーモードを用いた設定例

PP9 :

[S-Log3] ガンマとS-Gamut3のカラーモードを用いた設定例

PP10 :

[HLG2] ガンマを用いたHDR撮影を行う場合の設定例

HDR撮影について

本機はピクチャープロフィールで [HLG]、[HLG1] ～ [HLG3] のガンマを選択することにより、HDR撮影を行うことができます。ピクチャープロフィールの [PP10] にHDR撮影の設定例がプリセットされています。[PP10] を使って撮影した画像をHLG (Hybrid Log-Gamma) 対応のテレビで再生することで、従来よりも広いレンジの明るさが

再現可能になります。これにより、いままで白とびや黒つぶれでうまく再現できなかったシーンも撮影可能になります。HLGは、国際規格Recommendation ITU-R BT.2100で定義されるハイダイナミックレンジテレビ方式のひとつです。

ピクチャープロファイルの項目について

ブラックレベル

黒レベルを設定する。（-15 ～ +15）

ガンマ

ガンマカーブを選ぶ。

Movie: 動画用の標準ガンマカーブ

Still: 静止画用の標準ガンマカーブ

Cine1: 暗部のコントラストをなだらかにし、かつ明部の階調変化をはっきりさせて、落ち着いた調子の映像にする（HG4609G33相当）。

Cine2: [Cine1] とほぼ同様の効果が得られるが、編集などにおいてビデオ信号100%以内で扱いたいときは、こちらを選択する（HG4600G30相当）。

ITU709: ITU709相当のガンマカーブ。

ITU709(800%): [S-Log2] または [S-Log3] 撮影前提のシーン確認用ガンマカーブ。

S-Log2: [S-Log2] のガンマカーブ。撮影後の映像処理を前提とした設定。

S-Log3: [S-Log3] のガンマカーブ。撮影後の映像処理を前提とした、よりフィルムに似た特性のガンマカーブ。

HLG: HDR撮影用のガンマカーブ。HDRの規格であるITU-R BT.2100のHybrid Log-Gamma相当の特性。

HLG1: HDR撮影用のガンマカーブ。ノイズ低減を優先したモード。ただし、撮影できるダイナミックレンジは[HLG2]、[HLG3]より狭くなる。

HLG2: HDR撮影用のガンマカーブ。ダイナミックレンジとノイズのバランスを考慮した設定。

HLG3: HDR撮影用のガンマカーブ。[HLG2] よりも広いダイナミックレンジで撮影したい場合の設定。ただし、ノイズレベルが上がる。

- [HLG1]、[HLG2]、[HLG3] は同じ特性のガンマカーブで、ダイナミックレンジとノイズのバランスを変更したものです。それぞれ出力ビデオレベルの最大値が異なり、[HLG1]: 87%、[HLG2]: 95%、[HLG3]: 100%程度になります。

ブラックガンマ

低輝度ガンマ補正をする。

[ガンマ] で [HLG]、[HLG1]、[HLG2]、[HLG3] を選択しているとき、[ブラックガンマ] は“0”固定となり設定できません。

範囲: 補正範囲を選ぶ。（広 / 中 / 狭）

レベル: 補正の強さを設定する。（-7（ブラックコンプレス最大）～ +7（ブラックストレッチ最大））

二ー

被写体の高輝度部分の信号をカメラのダイナミックレンジに収め、白飛びを防ぐため、ビデオ信号を圧縮するポイントやスロープを設定する。

[ガンマ] で [Still]、[Cine1]、[Cine2]、[ITU709(800%)]、[S-Log2]、[S-Log3]、[HLG]、[HLG1]、[HLG2]、[HLG3] を選択しているときは、[モード] を [オート] にしていると [二ー] は無効になる。[モード] を [マニュアル] にすると [二ー] の機能を使用できる。

モード: 自動/手動設定を選ぶ。

- オート: 二ーポイント、二ースロープを自動で設定する。
- マニュアル: 二ーポイント、二ースロープを手動で設定する。

オート設定: [モード] で [オート] を選択した場合の設定。

- マックスポイント: 二ーポイントの最大値を設定する。（90% ～ 100%）
- 感度: 感度を設定する。（高 / 中 / 低）

マニュアル設定: [モード] で [マニュアル] を選択した場合の設定。

- ポイント: 二ーポイントを設定する。（75% ～ 105%）
- スロープ: 二ースロープの傾きを設定する。（-5（傾きが小さい）～ +5（傾きが大きい））

カラーモード

色の特性を変更する。

〔ガンマ〕で〔HLG〕、〔HLG1〕、〔HLG2〕、〔HLG3〕を選択しているとき、〔カラーモード〕は〔BT.2020〕、〔709〕のみが選択可能です。

Movie：〔ガンマ〕が〔Movie〕のときに適した色合い。

Still：〔ガンマ〕が〔Still〕のときに適した色合い。

Cinema：〔ガンマ〕が〔Cine1〕、〔Cine2〕のときに適した色合い。

Pro：ソニーの業務用カメラの標準画質に近い色合い（ITU709ガンマと組み合わせた場合）。

ITU709マトリックス：ITU709規格に忠実な色合い（ITU709ガンマと組み合わせた場合）。

白黒：彩度を0にし、白黒で撮影する。

S-Gamut：〔ガンマ〕が〔S-Log2〕のときに使用する、撮影後の映像処理を前提とした設定。

S-Gamut3.Cine：〔ガンマ〕が〔S-Log3〕のときに使用する、撮影後の映像処理を前提とした設定。デジタルシネマの色域に調整しやすい色域での撮影が可能。

S-Gamut3：〔ガンマ〕が〔S-Log3〕のときに使用する、撮影後の映像処理を前提とした設定。広い色域での撮影が可能。

BT.2020：〔ガンマ〕が〔HLG〕、〔HLG1〕、〔HLG2〕、〔HLG3〕のときの標準的な色合い。

709：〔ガンマ〕で〔HLG〕、〔HLG1〕、〔HLG2〕、〔HLG3〕を選択して、HDTV方式（BT.709）の色で記録するときの色合い。

彩度

色の鮮やかさを設定する。（-32 ～ +32）

色相

色相を設定する。（-7 ～ +7）

色の深さ

色相別に輝度を変更する。濃い色ほど効果が大きく、色のない被写体に対しては効果がない。+側にすると暗くなり、色が深く見える。-側にすると明るくなり、色が浅く見える。〔カラーモード〕を〔白黒〕にしたときにも有効です。

R（赤）：-7 ～ +7

G（緑）：-7 ～ +7

B（青）：-7 ～ +7

C（シアン）：-7 ～ +7

M（マゼンタ）：-7 ～ +7

Y（黄）：-7 ～ +7

ディテール

〔ディテール〕を設定する。

レベル：〔ディテール〕の強さを設定する。（-7 ～ +7）

調整：以下の設定値を手動で選ぶ。

- モード：自動/手動設定を選ぶ。（オート（自動最適化を行う）/ マニュアル（手動詳細設定を行う））
- V/Hバランス：垂直（V）DETAIL/水平（H）DETAILのバランスを設定する。（-2（垂直（V）が強い）～+2（水平（H）が強い））
- B/Wバランス：下側（B）DETAIL/上側（W）DETAILのバランスを選ぶ。（タイプ1（下側（B）が強い）～タイプ5（上側（W）が強い））
- リミット：〔ディテール〕のリミットレベルを設定する。（0（リミットレベルが低い（リミットされやすい））～7（リミットレベルが高い（リミットされにくい）））
- クリस्पニング：クリस्पニングレベルを設定する。（0（クリस्पニングレベルが浅い）～7（クリस्पニングレベルが深い））
- 高輝度ディテール：高輝度部分の〔ディテール〕レベルを設定する。（0 ～ 4）

ピクチャープロファイルを他のピクチャープロファイル番号にコピーするには

他のピクチャープロファイル番号に設定をコピーできます。

MENU→1（撮影設定1）→〔ピクチャープロファイル〕→〔コピー〕を選ぶ。

お買い上げ時の設定に戻すには

ピクチャープロファイル番号ごとに取り消せます。すべての設定を一度に取り消すことはできません。

MENU→1（撮影設定1）→[ピクチャープロファイル]→[リセット]を選ぶ。

ご注意

- 動画と静止画で設定値が共通のため、撮影モードを変更した場合は設定値を調節してください。
- RAW画像を「撮影時の設定」で現像した場合、下記の設定は反映されません。
 - －ブラックレベル
 - －ブラックガンマ
 - －二ー
 - －色の深さ
- [記録設定] が [120p 100M]、[120p 60M] のとき、[ブラックガンマ] は“0”固定となり設定できません。
- [ガンマ] を変えると、設定できるISOの範囲が変わります。
- S-Log2またはS-Log3ガンマ使用時は他のガンマに比べてノイズが目立ちやすくなります。撮影後映像処理の後でも気になる場合は、明るめに撮影することでノイズを軽減できる場合があります。ただし、明るく撮影した場合にはその分だけダイナミックレンジは狭くなります。S-Log2またはS-Log3を使用する場合は事前のテストで画質を確認することを強くおすすめします。
- [ITU709(800%)]、[S-Log2] または[S-Log3]に設定すると、ホワイトバランスのカスタムセットがエラーになることがあります。このようなときは、一度 [ITU709(800%)]、[S-Log2]、または [S-Log3] 以外のガンマでカスタムセットしてください。そのあと、[ITU709(800%)]、[S-Log2]、または [S-Log3] ガンマに戻してください。
- [ITU709(800%)]、[S-Log2] または[S-Log3]に設定すると、[ブラックレベル] の設定が無効になります。
- [二ー] の [マニュアル設定] で [スロープ] を+5に設定すると、[二ー] は [切] になります。
- S-Gamut、S-Gamut3.Cine、S-Gamut3はソニー独自のカラースペースですが、本機のS-Gamut設定はS-Gamutの全色域に対応しているわけではなく、S-Gamut相当の色再現を実現するための設定です。

関連項目

- [ガンマ表示アシスト](#)

ガンマ表示アシスト

S-Logを適用した動画は、広いダイナミックレンジを活用するために、撮影後の編集を前提としています。また、HLGを適用した動画は、HDR対応モニターで表示することを前提としています。このため、撮影時の画像は低コントラストとなりモニタリングがしにくくなりますが、[ガンマ表示アシスト]機能を使うことで、通常のガンマと同等のコントラストを再現することができます。また再生時にも、[ガンマ表示アシスト]を適用した動画をファインダーやモニターで見ることができます。

① MENU→ (セットアップ) → [ガンマ表示アシスト] を選ぶ。

② コントロールホイールの上/下で希望の設定を選ぶ。

メニュー項目の詳細

Assist
OFF 切 :

[ガンマ表示アシスト] を適用しない。

Assist
AUTO オート :

[ピクチャープロファイル] で設定されたガンマが [S-Log2] の場合は [S-Log2→709(800%)] に、[S-Log3] の場合は [S-Log3→709(800%)] に変換して表示する。[ピクチャープロファイル] で設定されたガンマが [HLG]、[HLG1]、[HLG2]、[HLG3] で [カラーモード] が [BT.2020] の場合は [HLG(BT.2020)] に変換して表示する。

[ピクチャープロファイル] で設定されたガンマが [HLG]、[HLG1]、[HLG2]、[HLG3] で [カラーモード] が [709] の場合は [HLG(709)] に変換して表示する。

Assist
S-Log2 S-Log2→709(800%) :

S-Log2をITU709 (800%) 相当に変換して表示する。

Assist
S-Log3 S-Log3→709(800%) :

S-Log3をITU709 (800%) 相当に変換して表示する。

Assist
HLG 2020 HLG(BT.2020) :

[HLG(BT.2020)] に対応したモニターで表示した時と近い画質となるように、本機のモニターやファインダーの画質を調整して表示する。

Assist
HLG 709 HLG(709) :

[HLG(709)] に対応したモニターで表示した時と近い画質となるように、本機のモニターやファインダーの画質を調整して表示する。

ご注意

- 再生している動画のフォーマットがXAVC S 4KまたはXAVC S HDで、ガンマが [HLG]、[HLG1] ~ [HLG3] のときは、動画のガンマ値とカラーモード値によって、HLG(BT.2020)またはHLG(709)に変換して表示します。それ以外の場合は、[ピクチャープロファイル] で設定しているガンマとカラーモードの設定値によって画面を変換して表示します。
- 本機に接続されたテレビやモニターでは、[ガンマ表示アシスト] は適用されません。

関連項目

- [ピクチャープロファイル](#)

オートスローシャッター（動画）

動画撮影時、被写体が暗いときに自動でシャッタースピードを遅くするかどうかを設定します。

① MENU→ 2（撮影設定2）→ オートスローシャッター →希望の設定を選ぶ。

メニュー項目の詳細

入：
オートスローシャッターを使う。暗い場所での撮影時、自動的にシャッタースピードが遅くなる。シャッタースピードを遅くすることで、暗い場所を撮影する際に発生する映像のノイズ感を改善することができる。

切：
オートスローシャッターを使わない。〔入〕のときよりも画像が暗くなるが、被写体のブレが少なく、動きがよりなめらかに撮影できる。

ご注意

- 以下のときは、 オートスローシャッター は働きません。
 - －ハイフレームレート撮影時
 - － s（シャッタースピード優先）
 - － M（マニュアル露出）
 - －〔ISO感度〕が〔ISO AUTO〕以外するとき

デジタルスチルカメラ
DSC-RX100M6

AF駆動速度（動画）

動画撮影時、オートフォーカスのピント合わせの速度を選べます。

① MENU→ 2（撮影設定2）→ AF駆動速度 →希望の設定を選ぶ。

メニュー項目の詳細

高速：

駆動速度を速くする。スポーツの撮影など、機動性に富む被写体の撮影を行うときに効果的です。

標準：

駆動速度を標準にする。

低速：

駆動速度を遅くする。被写体の移り変わり時に、なめらかにピント送りします。

ご注意

-  記録設定 が [120p] のときは、 AF駆動速度 を使用できません。

AF被写体追従感度（動画）

動画撮影時、オートフォーカスの追従感度を選べます。

① MENU→2（撮影設定2）→AF被写体追従感度→希望の設定を選ぶ。

メニュー項目の詳細

敏感：

追従感度を高くする。動きの速い被写体を撮影するときは、〔敏感〕を選ぶと便利。

標準：

追従感度を標準にする。障害物があったり、人混みで、狙った被写体にピントを合わせ続けたい場合はこちらが便利。

ご注意

- 記録設定〕が〔120p〕のときは、AF被写体追従感度〕を使用できません。

手ブレ補正（動画）

動画撮影時の手ブレ補正の設定をします。三脚（別売）を利用するときは、[切] にすると自然な画像になります。

① MENU→ 2（撮影設定2）→ 手ブレ補正 →希望の設定を選ぶ。

メニュー項目の詳細

インテリジェントアクティブ：

[アクティブ] よりも強い手ブレ補正を得る。

アクティブ：

強い手ブレ補正効果を得る。

スタンダード：

比較的安定した状態で、手ブレ補正を行い撮影する。

切：

手ブレ補正を行わない。

ご注意

-  手ブレ補正 の設定を変更すると、画角が変わります。
-  記録方式 が [XAVC S 4K] のとき、[インテリジェントアクティブ]、[アクティブ] は選べません。

TC/UB設定

映像に付随するデータとしてタイムコード（TC）とユーザービット（UB）を記録できます。

- ① MENU→（セットアップ）→ [TC/UB設定] → 変更したい設定値を選ぶ。

メニュー項目の詳細

TC/UB表示設定：

カウンター、タイムコード、ユーザービットの表示を設定する。

TC Preset：

タイムコードを設定する。

UB Preset：

ユーザービットを設定する。

TC Format：

タイムコードの記録方式を選ぶ。

TC Run：

タイムコードの歩進方法を選ぶ。

TC Make：

タイムコードを記録メディアに記録する方法を選ぶ。

UB Time Rec：

時刻をユーザービットコードとして記録する/しないを選ぶ。

タイムコードを設定するには（TC Preset）

1. MENU→（セットアップ）→ [TC/UB設定] → [TC Preset] を選ぶ。
2. コントロールホイールを回して最初の2桁の数値を選ぶ。
 - タイムコードは以下の範囲で設定できます。
[60i] 選択時：00:00:00:00 ～ 23:59:59:29
*24p設定時は末尾2桁を0 ～ 23のうちの4の倍数のフレームで設定できます。
3. 手順2と同様に、他の桁の数値を選び、コントロールホイールの中央を押す。

ご注意

- 自分撮り用にモニターを反転させているとき、タイムコードとユーザービットは表示されません。

タイムコードをリセットするには

1. MENU→（セットアップ）→ [TC/UB設定] → [TC Preset] を選ぶ。
2. （削除）ボタンを押し、タイムコードをリセット（00:00:00:00）する。
別売のリモートコマンダー（RMT-VP1K）でも、タイムコードリセット(00:00:00:00)を行うことができます。

ユーザービットを設定するには（UB Preset）

1. MENU→（セットアップ）→ [TC/UB設定] → [UB Preset] を選ぶ。
2. コントロールホイールを回して最初の2桁の数値を選ぶ。
3. 手順2と同様に、他の桁の数値を選び、コントロールホイールの中央を押す。

ユーザービットをリセットするには

1. MENU→ (セットアップ) → [TC/UB設定] → [UB Preset] を選ぶ。
2.  (削除) ボタンを押し、ユーザービットをリセット (00 00 00 00) する。

タイムコードの記録方式を選ぶには (TC Format)

1. MENU→ (セットアップ) → [TC/UB設定] → [TC Format] を選ぶ。

DF :

タイムコードをドロップフレーム*方式で記録する。

NDF :

タイムコードをノンドロップフレーム方式で記録する。

* タイムコードは30フレームを1秒として処理されますが、実際のNTSC映像信号のフレーム周波数は約29.97フレーム/秒のため、長時間記録しているうちに実時間とタイムコードにズレが生じてきます。これらを補正してタイムコードと実時間が等しくなるようにしたのがドロップフレームです。ドロップフレームでは毎10分目を除く各分の最初の2フレームが間引かれます。このような補正のないものをノンドロップフレームと呼びます。

- 4K/24p、1080/24pで記録するときは、[NDF] に固定されます。

タイムコードの歩進を選ぶには (TC Run)

1. MENU→ (セットアップ) → [TC/UB設定] → [TC Run] を選ぶ。

Rec Run :

記録中のみタイムコードが歩進する。最後に記録した画像上のタイムコードに連続して記録する。

Free Run :

本機の操作に関係なく、連続してタイムコードが歩進する。

- [Rec Run] モードで歩進する場合でも、以下のときはタイムコードが不連続になることがあります。
 - 記録方式を切り換えたとき
 - 記録メディアを取りはずしたとき

タイムコードを記録メディアに記録する方法を選ぶには (TC Make)

1. MENU→ (セットアップ) → [TC/UB設定] → [TC Make] を選ぶ。

Preset :

新たに設定したタイムコードを記録メディアに記録する。

Regenerate :

記録メディアに最後に記録されたタイムコードを読み取り、その値に連続するように記録する。 [TC Run] の設定に関係なく、タイムコードは [Rec Run] モードで歩進する。

デジタルスチルカメラ
DSC-RX100M6

TC/UB表示切換

「TC/UB表示切換」を割り当てたキーを押して、動画のタイムコード（TC）とユーザービット（UB）を表示できます。

- 1 MENU→2（撮影設定2）→ [ カスタムキー]、[ カスタムキー] または [ カスタムキー] → 希望のキーに「TC/UB表示切換」の機能を設定する。
- 2 「TC/UB表示切換」を割り当てたキーを押す。
 - キーを押すたびに、画面表示が、動画記録時間のカウンター→タイムコード（TC）→ユーザービット（UB）の順に切り替わります。

ご注意

- 自分撮り撮影時など、撮影モード中にモニターが回転しているときは、TC/UB情報は表示されません。再生モード時は、モニターが回転していても、TC/UB情報が表示されます。

デジタルスチルカメラ
DSC-RX100M6

MOVIE(動画)ボタン

MOVIE（動画）ボタンの有効/無効を設定します。

1 MENU→ **2**（撮影設定2）→[MOVIE(動画)ボタン]→希望の設定を選ぶ。

メニュー項目の詳細

常に有効：

どの状態からでも、MOVIEボタンを押すと動画撮影が開始される。（モードダイヤルが**HFR**（ハイフレームレート）になっているときを除く。）

動画モードのみ有効：

撮影モードが[動画]モードのときのみ、MOVIEボタンを押すと動画撮影が開始される。

マーカー表示（動画）

動画撮影時に、 マーカー設定 で設定したマーカーをモニターまたはファインダーに表示するかを設定します。

① MENU →  2（撮影設定2） →  マーカー表示 → 希望の設定を選ぶ。

メニュー項目の詳細

入：
マーカーを表示する。マーカーは記録されない。

切：
マーカーを表示しない。

ご注意

- マーカー表示は、モードダイヤルが （動画）のとき、または動画記録中に表示されます。
- [ピント拡大] 中は、マーカーを表示できません。
- マーカー表示は、モニターまたはファインダーのみに表示されます。（外部に出力することはできません。）

関連項目

- [マーカー設定（動画）](#)

マーカー設定（動画）

動画撮影時に表示されるマーカーを設定します。

1 MENU→ **2**（撮影設定2）→ マーカー設定 →希望の設定を選ぶ。

メニュー項目の詳細

センター：

撮影画面の中心にセンターマーカーを表示するかどうかを設定する。

〔切〕 / 〔入〕

アスペクト：

アスペクトマーカー表示の設定をする。

〔切〕 / 〔4:3〕 / 〔13:9〕 / 〔14:9〕 / 〔15:9〕 / 〔1.66:1〕 / 〔1.85:1〕 / 〔2.35:1〕

セーフティゾーン：

セーフティゾーン表示の設定をする。一般的な家庭用テレビで受像できる範囲の目安になる。

〔切〕 / 〔80%〕 / 〔90%〕

ガイドフレーム：

ガイドフレームを表示するかどうかを設定する。被写体が水平/垂直になっているかを確認できる。

〔切〕 / 〔入〕

ヒント

- 複数のマーカーを同時に表示できます。
- 〔ガイドフレーム〕の交点に被写体を置くと、バランスの良い構図になります。

4K映像の出力先（動画）

本機を4K対応の外部録画再生機器などと接続するときに、どのように記録、HDMI出力するかを設定します。

- 1 モードダイヤルを （動画）にする。
- 2 本機と接続したい機器をHDMIケーブルで接続する。
- 3 MENU→ （セットアップ）→ [ 4K映像の出力先] →希望の設定を選ぶ。

メニュー項目の詳細

メモリーカード+HDMI：

本機のメモリーカードに記録し、外部録画再生機器にも同時に出力する。

HDMIのみ(30p)：

本機のメモリーカードには記録せず、外部録画再生機器に4K動画を30pで出力する。

HDMIのみ(24p)：

本機のメモリーカードには記録せず、外部録画再生機器に4K動画を24pで出力する。

ご注意

- 動画撮影モードで、4K対応機器に接続中のみメニュー設定が可能です。
- [HDMIのみ(30p)] または [HDMIのみ(24p)] に設定したときは、[HDMI情報表示] は一時的に [なし] になります。
- [HDMIのみ(30p)] または [HDMIのみ(24p)] に設定すると、外部録画再生機器に記録中は本機のカウンター（動画の撮影実時間）は進みません。
- [ 記録方式] が [XAVC S 4K] でHDMI接続しているときは、下記の機能は使用できません。
 - － AF時の顔優先
 - － マルチ測光時の顔優先
 - － 中央ボタン押しロックオンAF

関連項目

- [HDMI設定：レックコントロール（動画）](#)
- [記録方式（動画）](#)
- [記録設定（動画）](#)
- [HDMI設定：HDMI情報表示](#)

静止画を再生する

撮影した静止画を再生します。

1  (再生) ボタンを押して、再生モードにする。

2 コントロールホイールで画像を選ぶ。

- 連続撮影した画像は1つのグループとして表示されています。グループ内の画像を再生する場合は、コントロールホイールの中央を押してください。

ヒント

- 本機はメモリーカードに管理ファイルを作成して、画像を記録し再生します。管理ファイルに未登録の画像は正しく表示されないことがあります。他機で撮影した画像を見るときは、MENU→ (セットアップ) → [管理ファイル修復] で管理ファイルに画像を登録してください。
- 連続撮影後に画像をすぐに再生すると、モニターにデータ書き込み中/書き込み残り枚数を示すアイコンが表示されることがあります。書き込み中は、一部の機能を使用できません。
- モニターをダブルタップすると、画像を拡大できます。また、拡大位置はモニターをドラッグして動かすこともできます。あらかじめ、[タッチ操作] を [入] に設定してください。

関連項目

- [管理ファイル修復](#)

再生画像を拡大する（拡大）

再生した画像を拡大します。写真のピントの具合を確認したいときなどに使います。

- 1 拡大したい画像を表示して、T側にW/T（ズーム）レバーを動かす。
 - W側にW/T（ズーム）レバーを動かして倍率を調整してください。
 - 画像は、撮影時にピントを合わせた位置を中心に拡大されます。ピントの位置情報が得られない場合、画像の中心が拡大されます。
- 2 コントロールホイールの上/下/左/右で表示する場所を移動する。
- 3 MENUボタンまたは、コントロールホイールの中央を押して、拡大再生を終了する。

ヒント

- メニューから拡大再生を行うこともできます。
- MENU → （再生） → [ 拡大の初期倍率] または [ 拡大の初期位置] で、拡大初期倍率や拡大初期位置を変更できます。
- モニターをダブルタップしても、画像を拡大できます。また、拡大位置はモニターをドラッグして動かすこともできます。あらかじめ、[タッチ操作] を[入] に設定してください。

ご注意

- 動画は拡大できません。

関連項目

- [タッチ操作](#)
- [拡大の初期倍率](#)
- [拡大の初期位置](#)

記録画像を自動的に回転させる（記録画像の回転表示）

画像を再生するときの向きを設定できます。

1 MENU→（再生）→〔記録画像の回転表示〕→希望の設定を選ぶ。

メニュー項目の詳細

オート：

本機を回転させると、本機の縦横を判断し、再生している画像が自動で回転する。

マニュアル：

縦位置で撮影した画像を縦向きに表示する。また回転機能で表示する向きを設定した場合はその向きに表示する。

切：

記録画像を常に横向きに表示する。

関連項目

- [画像を回転する（回転）](#)

画像を回転する（回転）

撮影した画像を回転して表示します。

1 回転したい画像を表示して、MENU→（再生）→〔回転〕を選ぶ。

2 コントロールホイールの中央を押す。

画像が左に回転します。中央を押すたびに、回転が繰り返されます。
回転した画像は、本機の電源を切った後も回転した状態のまま保持されます。

ご注意

- 動画は回転できません。
- 他機で撮影した画像は本機では回転できないことがあります。
- パソコンで画像を見ると、ソフトウェアによっては画像の回転情報が反映されない場合があります。

デジタルスチルカメラ
DSC-RX100M6

パノラマ画像を再生する

パノラマ画像は、撮影開始から撮影終了までを自動的にスクロールさせて再生できます。

- 1  (再生) ボタンを押して、再生モードにする。
- 2 コントロールホイールで再生したいパノラマ画像を選び、中央を押して再生する。



- 一時停止するには、もう一度中央を押します。
- 一時停止中に上/下/左/右を押して手動でスクロール再生できます。
- 全体画像に戻るには、MENUを押します。

ご注意

- 他機で撮影されたパノラマ画像は、実際の撮影サイズと異なって表示されたり、正しくスクロール再生されない場合があります。

デジタルスチルカメラ
DSC-RX100M6

拡大の初期倍率

画像を再生し拡大表示する（再生ズーム）ときの、拡大の初期倍率を選びます。

1 MENU→（再生）→ [ 拡大の初期倍率] →希望の設定を選ぶ。

メニュー項目の詳細

標準の倍率：

標準の倍率で拡大する。

前回の倍率：

前回の倍率で拡大する。前回の倍率は、再生ズーム画面を終了しても保持される。

関連項目

- [再生画像を拡大する（拡大）](#)
- [拡大の初期位置](#)

デジタルスチルカメラ
DSC-RX100M6

拡大の初期位置

画像を再生し拡大表示する（再生ズーム）ときの、拡大の初期位置を選びます。

1 MENU→（再生）→ [ 拡大の初期位置] →希望の設定を選ぶ。

メニュー項目の詳細

ピント位置：

撮影時にピントを合わせた位置から拡大する。

画面中央：

画面の中央から拡大する。

関連項目

- [再生画像を拡大する（拡大）](#)
- [拡大の初期倍率](#)

デジタルスチルカメラ
DSC-RX100M6

動画を再生する

撮影した動画を再生します。

- 1  (再生) ボタンを押して、再生モードにする。
- 2 コントロールホイールで再生したい動画を選び、中央を押して再生する。

動画再生中にできること

コントロールホイールの下を押すと、スロー再生、音量調整などの操作を行えます。

-  : 再生
-  : 一時停止
-  : 早送り
-  : 早戻し
-  : スロー再生
-  : スロー逆再生
-  : 次の動画
-  : 前の動画
-  : コマ送り
-  : コマ戻し
-  : モーションショットビデオ (動きのある被写体の残像表示)
-  : 動画から静止画作成
-  : 音量設定
-  : 操作パネルを閉じる

ヒント

- スロー再生、スロー逆再生、コマ送り、コマ戻しは、一時停止中に選ぶことができます。
- 本機以外で撮影された動画ファイルは再生できない場合があります。

関連項目

- [静止画と動画を切り換える \(ビューモード\)](#)
- [モーションショットビデオ](#)

モーションショットビデオ

高速で動く被写体の残像を見られます。

1 動画再生中に、コントロールホイールの下ボタンを押し、を選ぶ

- [モーションショットビデオ] の再生を停止するには、を選びます。
- 軌跡がうまくできない場合は、で残像の間隔を変更できます。

ヒント

- MENU→（再生）→ [モーションショットビデオ設定] から残像の間隔を変更できます。

ご注意

- [モーションショットビデオ] は、動画として保存できません。
- 被写体の動きが遅い場合や、動きが少ない場合は残像が上手く作られない場合があります。

関連項目

- [モーションショットビデオ設定](#)

デジタルスチルカメラ
DSC-RX100M6

モーションショットビデオ設定

モーションショットビデオの残像の間隔を調整します。

- 1 MENU→（再生）→〔モーションショットビデオ設定〕→希望の設定を選ぶ。

関連項目

- [モーションショットビデオ](#)

デジタルスチルカメラ
DSC-RX100M6

音量設定

動画再生時の音量を設定します。

① MENU→（セットアップ）→【音量設定】→希望の設定を選ぶ。

再生中に音量を変えるには

動画再生中に、コントロールホイールの下を押して、操作パネルから音量設定できます。実際に音量を聞きながら調整できます。

動画から静止画作成

動画から希望のシーンを切り出して、静止画として保存します。はじめに動画で撮影し、動画再生中に一時停止して、静止画では撮影できない決定的な瞬間を切り出して静止画として保存します。

- 1 静止画を切り出したい動画を表示する。
- 2 MENU→（再生）→〔動画から静止画作成〕を選ぶ。
- 3 動画を再生し、一時停止する。
- 4 スロー再生、スロー逆再生、コマ送り、コマ戻しを使って、希望のシーンで停止する。
- 5 （動画から静止画作成）を押して、希望のシーンを静止画として切り出す。
静止画として保存される。

関連項目

- [動画を撮影する](#)
- [動画を再生する](#)

一覧表示で再生する（一覧表示）

再生時、複数の画像を同時に表示できます。

- 1 W/T（ズーム）レバーをW側にする。
- 2 コントロールホイールの上/下/左/右を押したり、コントロールホイールを回したりして、画像を選ぶ。

表示する枚数を変更する場合

MENU→（再生）→〔一覧表示〕→希望の設定を選ぶ。

メニュー項目の詳細

9枚/25枚

1枚再生画面に戻すには

表示したい画像を選んでいる状態で、コントロールホイールの中央を押す。

希望の画像をすばやく表示するには

コントロールホイールで左側のバーを選び、コントロールホイールの上/下でページを送ることができます。バーを選んでいる状態で、中央を押すと、カレンダー画面、またはフォルダー選択画面が表示されます。アイコンを選んでビューモードを切り換えることもできます。

関連項目

- [静止画と動画を切り換える（ビューモード）](#)

デジタルスチルカメラ
DSC-RX100M6

静止画と動画を切り換える（ビューモード）

再生する画像の表示方法（ビューモード）を設定します。

1 MENU→（再生）→〔ビューモード〕→希望の設定を選ぶ。

メニュー項目の詳細

 **日付ビュー：**

日付ごとに表示する。

 **フォルダービュー（静止画）：**

静止画のみを表示する。

 **AVCHD AVCHDビュー：**

AVCHD動画のみを表示する。

 **XAVC S HDビュー：**

XAVC S HD動画のみを表示する。

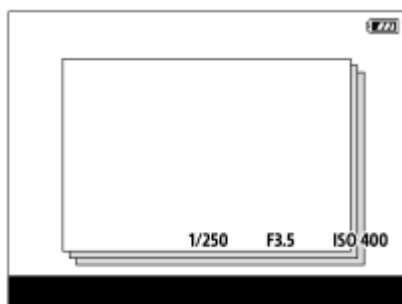
 **XAVC S 4Kビュー：**

XAVC S 4K動画のみを表示する。

連写グループ表示

連続撮影した画像をグループ化して表示するかどうかを設定します。

- 1 MENU→ (再生) → [連写グループ表示] → 希望の設定を選ぶ。



メニュー項目の詳細

入：

連続撮影した画像をグループ化して表示する。

切：

連続撮影した画像をグループ化して表示しない。

ヒント

- [ドライブモード] が [連続撮影] で撮影された画像がグループ化されます。連続撮影でシャッターボタンを押し続けて撮影されたひと続きの画像が、ひとつのグループになります。
- 一覧表示画面では、連写グループには  が表示されます。

ご注意

- 画像をグループ化して表示できるのは、[ビューモード] を [日付ビュー] にしているときのみです。[日付ビュー] 以外のはきは、[連写グループ表示] を [入] に設定しても、画像はグループ化して表示できません。
- 連写グループを削除すると、グループ内のすべての画像が削除されます。

関連項目

- [連続撮影](#)

スライドショーで再生する（スライドショー）

画像を自動的に連続再生します。

- 1 MENU→（再生）→【スライドショー】→希望の設定を選ぶ。
- 2 【実行】を選ぶ。

メニュー項目の詳細

リピート：

繰り返し再生する（【入】）か、すべての画像を再生したら停止する（【切】）か選ぶ。

間隔設定：

画像が切り替わる間隔を、【1秒】 / 【3秒】 / 【5秒】 / 【10秒】 / 【30秒】 から選ぶ。

途中で終了するには

MENUボタンを押して終了します。一時停止はできません。

ヒント

- スライドショー再生中に、コントロールホイールの左/右で、画像を戻す/送ることができます。
- 【スライドショー】が実行できるのは、【ビューモード】が【日付ビュー】と【フォルダービュー（静止画）】のときのみです。

ビューティーエフェクト

静止画で撮影した人物がより美しく見えるように、肌を滑らかにする、目を大きくする、歯を白くするなど美容効果をかけることができます。効果はそれぞれ5段階で設定でき、美容効果をかけたファイルは新しいファイルとして記録されます。元の画像はそのまま残ります。

1 MENU→ (再生) → [ビューティーエフェクト] を選ぶ。

2 美容効果をかける顔を選択する。

3 好みのエフェクトを選択し、コントロールホイールで調節する。

 (肌の色調整) :

肌の色を好みに調整する。

1. 上/下で基本となる肌の色を選んでコントロールホイールの中央を押す。
2. 上/下で色の強弱を調節する。

 (なめらか肌) :

肌のしみやしわを見えなくなるよう調整する。

上/下で効果の強弱を調節する。

 (テカリ除去) :

肌のてかりを抑える。肌の色を好みに調整する。

上/下で効果の強弱を調節する。

 (デカ目) :

人物の目を大きくする。

上/下で目の大きさを調節する。

 (歯のホワイトニング) :

人物の歯を白く補正する。画像によっては補正できない場合があります。

上/下で歯の白さを調節する。

複数の効果を続けて使う場合は、効果を設定後、左/右で別の効果を選びます。

ご注意

- 以下の場合、[ビューティーエフェクト] はできません。
 - パノラマ画像
 - 動画
- 小さすぎる顔は美容効果をかけられません。
- 複数の顔に美容効果をかける場合は、一度美容効果をかけた画像を再度選び、別の顔を選んで美容効果をかけてください。
- 画像によっては、美容効果がうまく反映されない場合があります。

画像を保護する（プロテクト）

撮影した画像を誤って消さないように保護（プロテクト）します。プロテクトされた画像には  マークが表示されます。

- 1 MENU → （再生）→ [プロテクト] → 希望の設定を選ぶ。

メニュー項目の詳細

画像選択：

画像を何枚か選んでプロテクトする。

- （1）画像を選び、コントロールホイールの中央を押す。チェックボックスに  マークが付く。解除したいときはもう一度中央を押して  マークを消す。
- （2）ほかの画像もプロテクトするときは、手順1を繰り返す。
- （3）MENU → [確認] を選ぶ。

このフォルダーの全画像：

選択しているフォルダー内すべての画像をまとめてプロテクトする。

この日付の全画像：

選択している日付内すべての画像をまとめてプロテクトする。

このフォルダーを全て解除：

選択しているフォルダー内すべての画像のプロテクトをまとめて解除する。

この日付を全て解除：

選択している日付内すべての画像のプロテクトをまとめて解除する。

この連写の全画像：

選択している連写グループ内すべての画像をまとめてプロテクトする。

この連写画像全て解除：

選択している連写グループ内すべての画像のプロテクトをまとめて解除する。

ヒント

- [画像選択] で連写グループを選ぶと、グループ内のすべての画像がプロテクトされます。グループ内の任意の画像を選んでプロテクトしたい場合は、グループ内の画像を表示させた状態で [画像選択] を実行してください。

ご注意

- [ビューモード] の設定や選択しているコンテンツによって、選べる項目が異なります。

レーティング

撮影した画像に ★ ～ ☆☆☆ でレーティング（ランク分け）を設定することで、画像を探しやすくします。

- 1 MENU → （再生） → **【レーティング】** を選ぶ。

レーティング画像選択画面が表示される。

- 2 コントロールホイールの左/右でレーティングを設定したい画像を表示させ、中央を押す。

- 3 コントロールホイールの左/右で ★（レーティング）の数を並び、中央を押す。

- 4 MENUボタンを押して、レーティング設定画面を終了する。

ヒント

- カスタムキーを使って、画像の再生時にレーティングを設定することもできます。あらかじめ、[ カスタムキー] で希望のキーに [レーティング] を割り当てておき、レーティングを設定したい画像の再生中にキーを押してください。キーを押すたびに ★（レーティング）の数が切り替わります。

ご注意

- レーティングを設定できるのは静止画のみです。

関連項目

- [カスタムキー（静止画/動画/再生）](#)
- [レーティング設定\(カスタムキー\)](#)

デジタルスチルカメラ
DSC-RX100M6

レーティング設定(カスタムキー)

〔 カスタムキー〕で〔レーティング〕を割り当てたキーを使ってレーティングを設定するときに選べる ★ の数を設定できます。

- 1 MENU→ (再生) →〔レーティング設定(カスタムキー)〕を選ぶ。
- 2 有効にしたい ★ の数に ✓ マークを付ける。
✓ マークを付けた値が、カスタムキーを使用して〔レーティング〕を設定するときに選択できるようになる。

関連項目

- [レーティング](#)
- [カスタムキー](#) (静止画/動画/再生)

プリント指定する（プリント指定）

どの静止画をプリントするかを、あらかじめメモリーカード上に指定できます。指定した画像には **DPOF**（プリント予約）マークが表示されます。DPOFとは「Digital Print Order Format」の略です。
DPOF指定は、印刷後も残ったままとなります。印刷が終了したあとは、解除することをおすすめします。

1 MENU→（再生）→【プリント指定】→希望の設定を選ぶ。

メニュー項目の詳細

画像選択：

画像を何枚か選んでプリント指定する。

（1）プリントしたい画像を選び、コントロールホイールの中央を押す。チェックボックスに  マークが付く。解除したいときはもう一度中央を押して  マークを消す。

（2）他の画像もプリントするときは、手順（1）を繰り返す。日付、またはフォルダーのチェックボックスを選択すると、日付、またはフォルダー内の画像をまとめて選択することもできる。

（3）MENU→【確認】を選ぶ。

全画像解除：

すべてのプリント指定を解除する。

印刷設定：

プリント指定した画像に日付を入れて印刷するか設定する。

- 日付の入る場所（画像内/画像外、サイズなど）は、お使いのプリンターによって異なります。

ご注意

- 以下の画像にはプリント予約指定できません。
 - RAW画像
- プリントの枚数指定はできません。
- プリンターによっては、日付プリントの機能に対応していないものもあります。

デジタルスチルカメラ
DSC-RX100M6

表示中の画像を削除する

表示されている画像を削除します。一度削除した画像は、元に戻せません。削除してよいか、事前に確認してください。

- 1 削除したい画像を表示する。
- 2 （削除）ボタンを押す。
- 3 コントロールホイールで「削除」を選ぶ。

ご注意

- プロテクトされている画像は削除できません。

関連項目

- [不要な画像を選んで削除する（削除）](#)

不要な画像を選んで削除する（削除）

不要な画像を選んで削除できます。一度削除した画像は、元に戻せません。削除してよいか、事前に確認してください。

- 1 MENU → （再生） → [削除] → 希望の設定を選ぶ。

メニュー項目の詳細

画像選択：

画像を何枚か選んで削除する。

- （1）削除したい画像を選び、コントロールホイールの中央を押す。チェックボックスに  マークが付く。解除したいときはもう一度中央を押して  マークを消す。
- （2）ほかの画像も削除するときは、手順（1）を繰り返す。
- （3）MENU → [確認] を選ぶ。

このフォルダーの全画像：

選択しているフォルダー内すべての画像をまとめて削除する。

この日付の全画像：

選択している日付内すべての画像をまとめて削除する。

この画像以外の全画像：

連写グループ内の、選択している画像をのぞくすべての画像をまとめて削除する。

この連写の全画像：

選択している連写グループ内すべての画像をまとめて削除する。

ヒント

- プロテクトしてある画像も含めて、すべてのデータを消去するには [フォーマット] を行ってください。
- 希望のフォルダーまたは日付を表示するには、再生時に下記の手順で希望のフォルダーまたは日付を選びます。
（一覧表示）レバー → コントロールホイールで左側のバーを選ぶ → コントロールホイールの上/下で希望のフォルダーまたは日付を選ぶ。
- [画像選択] で連写グループを選ぶと、グループ内のすべての画像が削除されます。グループ内の任意の画像を選んで削除した場合は、グループ内の画像を表示させた状態で [画像選択] を実行してください。

ご注意

- プロテクトされている画像は削除できません。
- [ビューモード] の設定や選択しているコンテンツによって、選べる項目が異なります。

関連項目

- [表示中の画像を削除する](#)
- [フォーマット](#)

デジタルスチルカメラ
DSC-RX100M6

削除確認画面

削除の確認画面で、[削除] と [キャンセル] のどちらが選択された状態にするかを設定します。

1 MENU→ (セットアップ) → [削除確認画面] →希望の設定を選ぶ。

メニュー項目の詳細

「削除」が先：

[削除] が選択された状態にする。

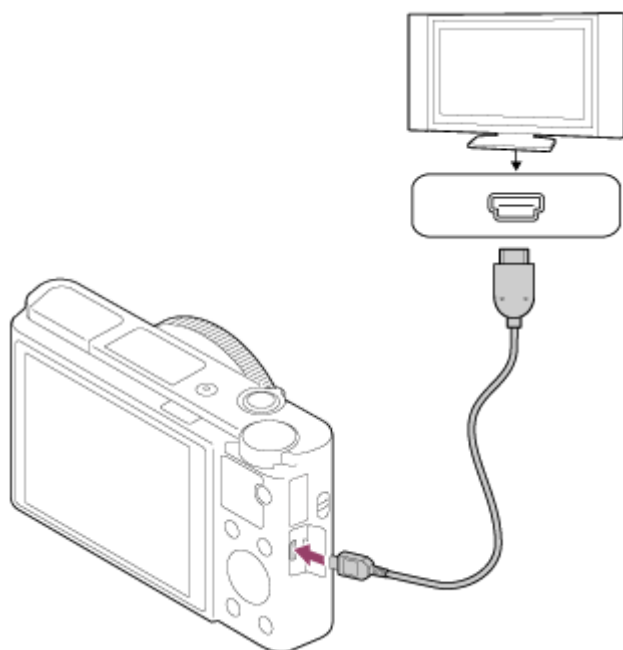
「キャンセル」が先：

[キャンセル] が選択された状態にする。

HDMIケーブルを使ってテレビで見る

本機の画像をテレビで見るには、HDMIケーブル（別売）とHDMI端子のあるハイビジョンテレビが必要です。

- 1 本機とテレビの電源を切る。
- 2 本機のHDMIマイクロ端子とテレビのHDMI端子をHDMIケーブル（別売）で接続する。



- 3 テレビの電源を入れ、入力切り換えをする。
- 4 本機の電源を入れる。
撮影した画像がテレビに表示されます。
- 5 コントロールホイールの左/右で画像を選ぶ。
 - 再生画面では本機のモニターは点灯しません。
 - 再生画面になっていないときは、（再生）ボタンを押してください。

ブラビアリンク

ブラビアリンク（リンクメニュー対応）のテレビをご利用の場合、HDMIケーブル（別売）で接続すると、テレビに付属のリモコンで再生操作ができます。

1. 上記の手順で本機とテレビを接続し、MENU→（セットアップ）→ [HDMI設定] → [HDMI機器制御] → [入] を選ぶ。
2. テレビのリモコンのリンクメニューボタンを押し、好みのモードを選ぶ。
 - HDMIケーブルで本機とテレビを接続する場合、操作できる項目が制限されます。
 - 2008年以降に発売されたブラビアリンク対応テレビで使用できます。詳しくはテレビの取扱説明書をご覧ください。

- 他社のテレビとHDMI接続する際、テレビのリモコン操作でカメラが不要な動きをする場合は、MENU→（セットアップ）→[HDMI設定]→[HDMI機器制御]を[切]にしてください。

ヒント

- 本機はブラビア プレミアムフォトに対応しています。ブラビア プレミアムフォトに対応したソニー製テレビにHDMIケーブル（別売）で接続すると、写真を今までになかった感動の高画質で快適にお楽しみいただけます。
- ブラビア プレミアムフォト対応のUSB端子つきソニー製テレビでは、USBケーブルでも接続できます。
- ブラビア プレミアムフォトとは、写真らしい高精細で微妙な質感や色合いの表現を可能にする機能です。
- 詳しくは、対応テレビの取扱説明書をご覧ください。

ご注意

- 本機と接続機器の出力端子同士での接続はしないでください。故障の原因となります。
- 一部の機器では、映像や音声が出ないなど正常に動作しない場合があります。
- HDMIロゴの付いたもの、またはソニー製のケーブルを推奨します。
- 本機側はHDMIマイクロ端子、テレビ側はテレビの端子に合ったタイプのHDMIケーブルをお使いください。
- [ TC出力] が [入] のときに、テレビや録画機器に正常に映像が出力されない場合があります。その場合は、[ TC出力] を [切] にしてください。
- テレビに正しく画面が表示されない場合は、MENU→（セットアップ）→[HDMI設定]→[HDMI解像度]を接続するテレビに合わせて、[2160p/1080p]、[1080p] または [1080i] にしてください。
- HDMI出力中に4K動画とハイビジョン画質（HD）の動画を切り換えたり、異なるフレームレートやカラーモードの動画に切り換えたりすると、一時的に画面が暗くなることがありますが、故障ではありません。
- [ 記録方式] を [XAVC S 4K] に設定し、本機をHDMI機器に接続しながら動画を撮影すると、モニターには画像が表示されません。

登録（撮影設定1/撮影設定2）

よく使うモードやカメラの設定を、本機に3つまで、メモリーカードには4つ（M1～M4）まで登録でき、モードダイヤルで簡単に呼び出せます。

- 1 本機を登録したい設定にする。
- 2 MENU→1（撮影設定1）→〔 1/ 2の登録〕→登録先の番号を選ぶ。
- 3 コントロールホイールの中央で決定する。

登録できる項目

- 撮影に関するさまざまな機能を登録できます。実際の登録可能な項目は、本機のメニューで確認してください。
- 絞り（F値）
- シャッタースピード
- 光学ズーム倍率

登録した内容を変更するには

希望する設定に変更し、同じ番号に再登録してください。

ご注意

- M1～M4は本機にメモリーカードが挿入されている場合のみ選択できます。
- プログラムシフトは登録できません。

関連項目

- [呼び出し（撮影設定1/撮影設定2）](#)

カスタムキー（静止画/動画/再生）

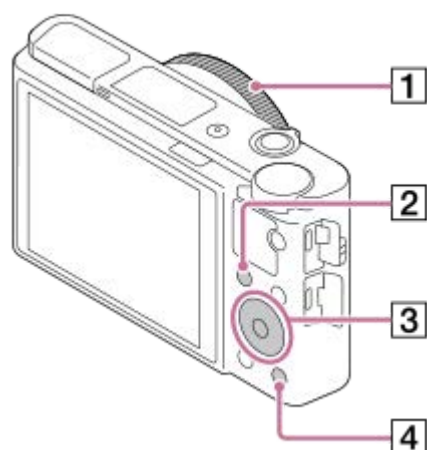
希望のボタンにお好みの機能を割り当てることができます。

また、カスタムキーでのみ使える機能もあります。たとえば、[ カスタムキー] で [中央ボタン] に [瞳AF] を割り当てておくと、撮影時にコントロールホイールの中央を押すだけで [瞳AF] 機能呼び出すことができ便利です。

1 MENU→ 2（撮影設定2）→ [ カスタムキー]、[ カスタムキー] または [ カスタムキー] を選ぶ。

2 選択画面で機能を割り当てたいボタンを選び、コントロールホイールの中央を押す。

- [ カスタムキー]、[ カスタムキー] または [ カスタムキー] で機能を割り当てられるボタンが異なります。
- 以下のボタンに希望の機能を割り当てられます。



1. コントロールリング
2. Fn/ ボタン
3. 中央ボタン/左ボタン/右ボタン
4. Cボタン

3 割り当てたい機能を選ぶ。

- ボタンによって割り当てられる機能が異なります。

メニュー項目の詳細

カスタムキー：

静止画撮影時のカスタムキーの機能を設定する。

カスタムキー：

動画撮影時のカスタムキーの機能を設定する。静止画撮影時とは別の機能を設定することができる。

カスタムキー：

再生時のカスタムキーの機能を設定する。

- [コントロールホイールの使いかた](#)
- [フォーカススタンダード](#)

4-737-296-01(2) Copyright 2018 Sony Corporation

デジタルスチルカメラ
DSC-RX100M6

ファンクションメニュー設定

Fn（ファンクション）ボタンを押したときに設定できる機能を選びます。

1 MENU→ **2**（撮影設定2）→[ファンクションメニュー設定]→希望の場所に機能を設定する。

- 設定できる機能は、本機の設定項目選択画面でご確認ください。

デジタルスチルカメラ
DSC-RX100M6

Av/Tvの回転方向

コントロールホイールで絞り値やシャッタースピードを変更するときの、回転方向を設定します。

1 MENU→ **2** (撮影設定2) → [Av/Tvの回転方向] →希望の設定を選ぶ。

メニュー項目の詳細

通常：

コントロールホイールの回転方向を変更しない。

反転：

コントロールホイールの回転方向を反対にする。

デジタルスチルカメラ
DSC-RX100M6

ホイールロック

Fn（ファンクション）ボタンを長押しして、コントロールホイールをロックするかどうかを設定します。

1 MENU→ **2**（撮影設定2）→[ホイールロック]→希望の設定を選ぶ。

メニュー項目の詳細

入：
コントロールホイールにロックがかかる。

切：
長押ししてもロックがかからない。

ヒント

- 再度、Fn（ファンクション）ボタンを長押しすると、ロックを解除できます。

ご注意

- 〔 フォーカスエリア登録機能〕を〔入〕に設定すると、〔ホイールロック〕は〔切〕に固定されます。

項目の追加

MENUの★（マイメニュー）に、お好みのメニュー項目を登録することができます。

- 1 MENU → ★（マイメニュー） → 【項目の追加】を選ぶ。
- 2 コントロールホイールの上/下/左/右で、★（マイメニュー）に追加したい項目を選ぶ。
- 3 コントロールホイールの上/下/左/右で、追加する位置を選ぶ。

ヒント

- ★（マイメニュー）には最大30個の項目を追加することができます。

ご注意

- ★（マイメニュー）には、以下の項目は追加できません。
 - － MENU → （再生）内のすべての項目
 - － [テレビ鑑賞]

関連項目

- [項目の並べ替え](#)
- [項目の削除](#)
- [MENUの使いかた](#)

デジタルスチルカメラ
DSC-RX100M6

項目の並べ替え

MENUの★（マイメニュー）に登録したメニュー項目を並べ替えます。

- 1 MENU → ★（マイメニュー） → [項目の並べ替え] を選ぶ。
- 2 コントロールホイールの上/下/左/右で、並べ替えたい項目を選ぶ。
- 3 コントロールホイールの上/下/左/右で、並べ替え先を選ぶ。

関連項目

- [項目の追加](#)

デジタルスチルカメラ
DSC-RX100M6

項目の削除

MENUの★（マイメニュー）に登録したメニュー項目を削除します。

- 1 MENU → ★（マイメニュー） → 【項目の削除】を選ぶ。
- 2 コントロールホイールの上/下/左/右で削除したい項目を選び、コントロールホイールの中央を押して削除する。

ヒント

- ページ内のすべての項目を一括で削除するには、MENU → ★（マイメニュー） → 【ページの削除】を選びます。
- MENU → ★（マイメニュー） → 【全て削除】を選ぶと、登録したすべてのマイメニュー設定が削除されます。

関連項目

- [ページの削除](#)
- [全て削除](#)
- [項目の追加](#)

デジタルスチルカメラ
DSC-RX100M6

ページの削除

MENUの★（マイメニュー）に登録したメニュー項目を、ページごとに一括で削除します。

- 1 MENU → ★（マイメニュー） → 【ページの削除】を選ぶ。
- 2 コントロールホイールの左/右で削除したいページを選び、コントロールホイールの中央を押して削除する。

関連項目

- [項目の追加](#)
- [全て削除](#)

デジタルスチルカメラ
DSC-RX100M6

全て削除

MENUの★（マイメニュー）に登録したメニュー項目をすべて削除します。

1 MENU → ★（マイメニュー） → [全て削除] を選ぶ。

2 [OK] を選ぶ。

関連項目

- [項目の追加](#)
- [ページの削除](#)

デジタルスチルカメラ
DSC-RX100M6

オートレビュー

撮影直後に、撮影した画像を確認することができます。オートレビューの表示時間を設定します。

1 MENU→ **2** (撮影設定2) → [オートレビュー] →希望の設定を選ぶ。

メニュー項目の詳細

10秒/5秒/2秒：

設定した秒数だけ表示する。オートレビュー中に拡大操作をすると、撮影した画像を拡大再生して確認することができる。

切：

オートレビューしない。

ご注意

- 画像処理をする機能を使用している場合、画像処理をする前の画像を一時的に表示してから、画像処理が適用された画像を表示することがあります。
- オートレビューは、DISP（画面表示切換）で設定したモードで表示されます。

関連項目

- [再生画像を拡大する（拡大）](#)

ライブビュー表示

モニターの表示に、露出補正やホワイトバランス、〔クリエイティブスタイル〕、〔ピクチャーエフェクト〕の設定値を反映させるかどうかを設定します。

1 MENU →  **2** (撮影設定2) → [ライブビュー表示] → 希望の設定を選ぶ。

メニュー項目の詳細

設定効果反映On :

すべての設定を反映させ、撮影結果に近い状態でライブビュー表示をする。撮影結果をライブビュー画面で確認しながら撮影する場合に有効。

設定効果反映Off :

露出やホワイトバランス、〔クリエイティブスタイル〕、〔ピクチャーエフェクト〕などの設定を反映させずにライブビュー表示をする。エフェクトをかけて撮影する場合などにも、見やすい状態でライブビューが表示され、構図確認が容易になる。

〔マニュアル露出〕時のライブビュー画像も常に適正な明るさで表示される。

〔設定効果反映Off〕が選ばれているとき、ライブビュー画面上には **VIEW** アイコンが表示される。

ヒント

- スタジオフラッシュなど他社製フラッシュを使用時には、設定されたシャッタースピードによってライブビューが暗くなる場合があります。ライブビュー表示を〔設定効果反映Off〕に設定することで、ライブビューが明るく表示され、構図確認が容易になります。

ご注意

- 撮影モードが下記のときは、〔ライブビュー表示〕を〔設定効果反映Off〕に設定できません。
 - － [おまかせオート]
 - － [プレミアムおまかせオート]
 - － [スイングパノラマ]
 - － [動画]
 - － [ハイフレームレート]
 - － [シーンセレクション]
- [設定効果反映Off] 設定時は、表示されるライブビューと撮影した画像の明るさなどが一致しません。

デジタルスチルカメラ
DSC-RX100M6

グリッドライン

構図合わせのための補助線であるグリッドライン表示の設定をします。

1 MENU→ **2** (撮影設定2) → [グリッドライン] →希望の設定を選ぶ。

メニュー項目の詳細

3分割：

3分割の線の近くに主要な被写体を配置すると、バランスのよい構図になる。

方眼：

方眼線により構図の傾きが確認しやすく、風景写真や接写、複写などの構図決定に適している。

対角+方眼：

対角線上に被写体を配置することで、躍動感や力強さなどを表現できる。

切：

グリッドラインを表示しない。

FINDER/MONITOR

ファインダーとモニターの表示切り換え方法を設定します。

- ① MENU→2（撮影設定2）→[FINDER/MONITOR]→希望の設定を選ぶ。

メニュー項目の詳細

オート：

ファインダーをのぞくと、アイセンサーが働き、自動的にファインダー画面に切り替わる。

ファインダー(マニュアル)：

モニターは消灯し、ファインダーのみに画像を表示する。

モニター(マニュアル)：

ファインダーは消灯し、常にモニターのみに画像を表示する。

ヒント

- ファインダー/モニター表示切り換え機能をお好みのキーに割り当てることができます。
MENU→2（撮影設定2）→[カスタムキー]、[カスタムキー]または[カスタムキー]→希望のキーに[FINDER/MONITOR切換]を設定してください。
- ファインダー表示またはモニター表示を固定したい場合は、[FINDER/MONITOR]を[ファインダー(マニュアル)]または[モニター(マニュアル)]に設定してください。
DISPボタンを使ってモニター表示を[モニター消灯]にすると、撮影時にファインダーから目を離してもモニターが点灯しなくなります。あらかじめ、MENU→2（撮影設定2）→[DISPボタン]→[背面モニター]で、[モニター消灯]にチェックマークを入れてください。

ご注意

- ファインダーが下がっている場合は、[FINDER/MONITOR]の設定にかかわらず、画像はモニターに表示されます。
- モニターを引き出しているときは、ファインダーを上げていて、[FINDER/MONITOR]が[オート]に設定されていてもアイセンサーは接眼を検知しません。画像はモニターに表示されます。

関連項目

- [カスタムキー（静止画/動画/再生）](#)
- [DISPボタン（背面モニター/ファインダー）](#)

デジタルスチルカメラ
DSC-RX100M6

モニター明るさ

モニターの明るさを調整します。

- ① MENU→ (セットアップ) → [モニター明るさ] → 希望の設定を選ぶ。

メニュー項目の詳細

マニュアル：

−2 〜 +2の範囲で明るさを選ぶ。

屋外晴天：

屋外の使用に適した明るさに設定する。

ご注意

- 室内で [屋外晴天] にすると明るすぎるため、室内での使用時は [マニュアル] に設定してください。
- 下記の場合は、モニターの明るさは調整できません。最大で [±0] の明るさとなります。
 - − [記録方式] が [XAVC S 4K] のとき
 - − [記録方式] が [XAVC S HD] で、[記録設定] が [120p] のとき
 - − ハイフレームレート撮影時
- Wi-Fi機能を使用して動画撮影を行う際は、モニターの明るさは [−2] に固定されます。

デジタルスチルカメラ
DSC-RX100M6

ファインダー明るさ

ファインダーを使用しているとき、周囲の明るさに合わせて、ファインダーの明るさを調整します。

1 MENU→ (セットアップ) → [ファインダー明るさ] →希望の設定を選ぶ。

メニュー項目の詳細

オート：

自動調整する。

マニュアル：

-2～+2の範囲で明るさを選ぶ。

ご注意

- 下記の場合は、ファインダーの明るさは調整できません。最大で [±0] の明るさとなります。
 - [ 記録方式] が [XAVC S 4K] のとき
 - [ 記録方式] が [XAVC S HD] で、 [ 記録設定] が [120p] のとき
 - ハイフレームレート撮影時

デジタルスチルカメラ
DSC-RX100M6

ファインダー色温度

電子ビューファインダーの色温度を調整します。

① MENU→ (セットアップ) → [ファインダー色温度] →希望の設定を選ぶ。

メニュー項目の詳細

-2～+2 :

－側にすると暖色になり、＋側にすると寒色になる。

デジタルスチルカメラ
DSC-RX100M6

ファインダー収納時の機能

ファインダーの収納時に本機の電源を切るかどうかを、選択します。

① MENU→  (セットアップ) → [ファインダー収納時の機能] → 希望の設定を選ぶ。

メニュー項目の詳細

電源OFFする：

ファインダーの収納時に、電源を切る。

電源OFFしない：

ファインダーの収納時に、電源を切らない。

デジタルスチルカメラ
DSC-RX100M6

表示画質

表示画質を変えることができます。

① MENU→ (セットアップ) → [表示画質] →希望の設定を選ぶ。

メニュー項目の詳細

高画質：

高画質で表示する。

標準：

標準の画質で表示する。

ご注意

- [高画質] に設定すると、[標準] に設定した場合よりもバッテリーの消費が多くなります。
- カメラの温度が高くなると、[標準] に固定されることがあります。

モニター自動OFF

静止画撮影時、一定時間操作が行われないと、自動的に省電力モードに切り替わります。消費電力を抑えたい場合に便利です。

1 MENU→ (セットアップ) → [モニター自動OFF] →希望の設定を選ぶ。

メニュー項目の詳細

切：
自動的に省電力しない。

2秒/5秒/10秒：
設定した秒数の間操作が行われないと、省電力モードに切り替わり、モニターが消える。
[5秒]、[10秒]に設定した場合、設定した時間の2秒前からモニターが暗くなる。

ご注意

- 以下の場合は、[モニター自動OFF]は働きません。
 - モニターを上側に約180度回転したとき
 - 撮影モードが[スイングパノラマ]
 - パワーセーブ機能が働かないとき

ブライトモニタリング

周囲が暗い状況下での撮影で、構図合わせができるようにします。夜空などの暗い場所でも、露光時間を延ばすことにより、ビューファインダー/モニターで構図の確認ができます。

- 1 MENU→2（撮影設定2）→ [ カスタムキー] →希望のキーに【ブライトモニタリング】の機能を設定する。
- 2 【ブライトモニタリング】の機能を割り当てたキーを押してから、撮影する。
 - 撮影後も【ブライトモニタリング】による明るさは継続します。
 - 画面の明るさを通常に戻すときは、【ブライトモニタリング】の機能を割り当てたキーをもう一度押します。

ご注意

- 【ブライトモニタリング】実行中は、【ライブビュー表示】は自動的に【設定効果反映Off】となり、ライブビュー表示には露出補正などの設定値は反映されません。暗い場所でのみのご使用をおすすめします。
- 以下のとき、【ブライトモニタリング】は自動的に解除されます。
 - － 本機の電源を切ったとき
 - － 撮影モードを、P/A/S/MからP/A/S/M以外に変更したとき
 - － マニュアルフォーカス以外に設定したとき
 - － [ MFアシスト] を実行したとき
 - － 【ピント拡大】を実行したとき
- 【ブライトモニタリング】実行中は、暗い場所でシャッタースピードが通常よりも低速になることがあります。また、測光される明るさの範囲が拡大するため、露出が変化することがあります。

関連項目

- [ライブビュー表示](#)

フォーマット

メモリーカードの動作を安定させるために、メモリーカードを本機ではじめてお使いになる場合には、まず、本機でフォーマット（初期化）することをおすすめします。フォーマットすると、メモリーカードに記録されているすべてのデータは消去され、元に戻すことはできません。大切なデータはパソコンなどに保存しておいてください。

1 MENU→（セットアップ）→【フォーマット】を選ぶ。

ご注意

- フォーマットすると、プロテクトしてある画像や登録情報（M1～M4）も含めて、すべてのデータが消去され、元に戻せません。
- フォーマット中はアクセスランプが点灯します。点灯中はメモリーカードを抜かないでください。
- メモリーカードのフォーマットは、本機で行ってください。パソコンでメモリーカードのフォーマットを行うと、フォーマットの形式によってはメモリーカードが使えなくなることがあります。
- メモリーカードによっては、フォーマットに数分かかる場合があります。
- バッテリー残量が1%未満のときは、フォーマットできません。

デジタルスチルカメラ
DSC-RX100M6

ファイル番号

静止画のファイル番号の付けかたを設定します。

1 MENU→ (セットアップ) → [ファイル番号] →希望の設定を選ぶ。

メニュー項目の詳細

連番：

ファイル番号をリセットせず、9999まで続けてファイル番号を付ける。

リセット：

フォルダーごとにファイル番号を0001から付ける。

(記録フォルダー内にファイルがある場合は、既存の最大番号+1のファイル番号を付ける。)

ファイル名設定

撮影する静止画のファイル名の先頭3文字を変更します。

- 1 MENU→（セットアップ）→【ファイル名設定】を選ぶ。
- 2 ファイル名の入力欄を選ぶと画面にキーボードが表示されるので、希望の3文字を入力する。

ご注意

- 入力できるのは、大文字のアルファベット、数字、アンダーバーのみです。ただし、1文字目にアンダーバーは使用できません。
- 【ファイル名設定】で設定したファイル名3文字は、設定後に撮影した画像にのみ適用されます。

関連項目

- [キーボードの使いかた](#)

デジタルスチルカメラ
DSC-RX100M6

メディア残量表示

現在撮影できる動画の撮影可能時間を表示します。静止画の枚数も表示されます。

1 MENU→  (セットアップ) → [メディア残量表示] を選ぶ。

デジタルスチルカメラ
DSC-RX100M6

記録フォルダー選択

〔フォルダー形式〕が〔標準形式〕に設定されていて、フォルダーが2つ以上存在する場合、撮影した画像を保存するフォルダー（記録フォルダー）を選べます。

1 MENU→（セットアップ）→〔記録フォルダー選択〕→希望のフォルダーを選ぶ。

ご注意

- 〔フォルダー形式〕が〔日付形式〕に設定されているときは、記録フォルダーの選択はできません。

関連項目

- [フォルダー形式](#)

デジタルスチルカメラ
DSC-RX100M6

フォルダー新規作成

メモリーカードの中に、静止画を記録するための新しいフォルダーを作成します。既存番号+1のフォルダーが作成されます。次に撮影する画像は新しく作成したフォルダーに記録されます。

1 MENU→（セットアップ）→【フォルダー新規作成】を選ぶ。

ご注意

- 他機で使用していたメモリーカードを本機に入れて撮影すると、自動的に新しいフォルダーが作成される場合があります。
- 1つのフォルダー番号に記録できる画像は最大4000枚です。容量を超えると、自動的に新しいフォルダーが作成される場合があります。

デジタルスチルカメラ
DSC-RX100M6

フォルダー形式

撮影した静止画は、メモリーカードの中のDCIMフォルダーの下に自動生成されたフォルダーに保存されます。そのフォルダー名の付けかたを変更します。

1 MENU→ (セットアップ) → [フォルダー形式] → 希望の設定を選ぶ。

メニュー項目の詳細

標準形式：

フォルダー名が、フォルダー番号+MSDCFになる。

例：100MSDCF

日付形式：

フォルダー名が、フォルダー番号+年月日（西暦下1桁月日4桁）になる。

例：10080405（100フォルダー、2018年4月5日）

ご注意

- 動画のフォルダー形式は変更できません。

デジタルスチルカメラ
DSC-RX100M6

管理ファイル修復

パソコンでファイル进行操作したなどの原因で、画像を管理しているファイルに何らかの異常が発生すると、メモリーカード内の画像が再生できなくなります。そのような場合に管理ファイルの修復を行います。

1 MENU→（セットアップ）→〔管理ファイル修復〕→〔実行〕を選ぶ。

ご注意

- 十分に充電したバッテリーをお使いください。残量の少ないバッテリーを使用して行くと、データを破損するおそれがあります。

デジタルスチルカメラ
DSC-RX100M6

電子音

本機の電子音を鳴らすかどうかを設定します。

1 MENU→ **2** (撮影設定2) → [電子音] → 希望の設定を選ぶ。

メニュー項目の詳細

入：

シャッターボタンを半押ししてピントが合ったときなどに操作音が鳴る。

シャッター：

シャッター音のみ鳴る。

切：

操作音は鳴らない。

ご注意

- フォーカスモードが [コンティニュアスAF] の場合は、ピントが合ったときに電子音は鳴りません。

デジタルスチルカメラ
DSC-RX100M6

日付書き込み（静止画）

撮影した日の日付を画像に記録するかどうかを設定します。

1 MENU→2（撮影設定2）→日付書き込み→希望の設定を選ぶ。

メニュー項目の詳細

入：

日付を記録する。

切：

日付を記録しない。

ご注意

- 画像に入れた日付表示は消せません。
- パソコンやプリンターで印刷時に日付を入れる設定にすると、二重で日付が印刷されます。
- 時刻は記録できません。
- RAW画像には、日付書き込みできません。

デジタルスチルカメラ
DSC-RX100M6

タイルメニュー

MENUボタンを押したときに、タイルメニューを表示するかを設定します。

1 MENU→（セットアップ）→[タイルメニュー]→希望の設定を選ぶ。

メニュー項目の詳細

入：
タイルメニュー表示を有効にする。

切：
タイルメニュー表示を無効にする。

デジタルスチルカメラ
DSC-RX100M6

モードダイヤルガイド

モードダイヤルを回したときに撮影モードの説明が表示され、その撮影モード内の項目を変えることもできます。

① MENU→（セットアップ）→[モードダイヤルガイド]→希望の設定を選ぶ。

メニュー項目の詳細

入：
モードダイヤルガイドを表示する。
切：
モードダイヤルガイドを表示しない。

デジタルスチルカメラ
DSC-RX100M6

パワーセーブ開始時間

自動的に電源が切れるまでの時間を設定できます。

1 MENU→ (セットアップ) → [パワーセーブ開始時間] →希望の設定を選ぶ。

メニュー項目の詳細

30分/5分/2分/1分

ご注意

- USB給電時、スライドショー中、動画撮影中、パソコンやテレビと接続しているときなどは、パワーセーブ機能は働きません。

デジタルスチルカメラ
DSC-RX100M6

HDMI設定 : HDMI解像度

本機とHDMI端子のあるハイビジョンテレビをHDMIケーブル（別売）で接続して見る場合に、HDMI端子からテレビに出力する解像度を選びます。

1 MENU→（セットアップ）→ [HDMI設定] → [HDMI解像度] →希望の設定を選ぶ。

メニュー項目の詳細

オート :

本機がハイビジョンテレビを自動認識し、出力する解像度を決定する。

2160p/1080p :

2160p/1080pで出力する。

1080p :

HD画質（1080p）で出力する。

1080i :

HD画質（1080i）で出力する。

ご注意

- [オート] で正しく画面が表示されない場合は、接続するテレビに合わせて、[1080i]、[1080p] または [2160p/1080p] を選んでください。

HDMI設定 : 24p/60p出力切換（動画）

〔 記録設定〕で〔24p 50M〕、〔24p 60M〕または〔24p 100M〕を選んでいるときにHDMIで1080/24p、1080/60pのどちらで出力するかを設定します。

① MENU→（セットアップ）→〔HDMI設定〕→〔HDMI解像度〕→〔1080p〕または〔2160p/1080p〕を選ぶ。

② MENU→（セットアップ）→〔HDMI設定〕→〔 24p/60p出力切換〕→希望の設定を選ぶ。

メニュー項目の詳細

60p :
60pで出力する。

24p :
24pで出力する。

ご注意

- 手順1、2は順不同で設定可能です。

関連項目

- [記録設定（動画）](#)

HDMI設定 : HDMI情報表示

HDMIケーブル（別売）で本機とテレビを接続したとき、画像情報をテレビに表示するかどうかを切り換えます。

1 MENU→（セットアップ）→ [HDMI設定] → [HDMI情報表示] →希望の設定を選ぶ。

メニュー項目の詳細

あり：

テレビに画像情報が表示される。

テレビにはカメラ映像および画像情報が表示されるが、本体のモニターには何も表示されない。

なし：

テレビに画像情報が表示されない。

テレビにはカメラ映像のみ表示され、本体のモニターにはカメラ映像および画像情報が表示される。

ご注意

- 4K対応テレビに接続時は、[なし] になります。
- [ 記録方式] を [XAVC S 4K] に設定し、本機をHDMI機器に接続しながら動画を撮影すると、モニターには画像が表示されません。

HDMI設定 : TC出力（動画）

HDMIを利用して、他の業務用機器にタイムコードを出力するかどうかを設定します。
タイムコード情報をHDMI出力信号に乗せます。画面に出す映像としてではなく、デジタルデータとして伝送し、接続先の機器がそのデータを参照することでタイムデータを知ることができます。

1 MENU→（セットアップ）→ [HDMI設定] → [ TC出力] →希望の設定を選ぶ。

メニュー項目の詳細

入：
タイムコード情報を他の機器に出力する。

切：
タイムコード情報を他の機器に出力しない。

ご注意

- [ TC出力] が [入] のときに、テレビや録画機器に正常に映像が出力されない場合があります。その場合は、 [ TC出力] を [切] にしてご使用ください。

HDMI設定：レックコントロール（動画）

本機と外部録画再生機器をつなぐと、本機の操作で外部録画再生機器へ録画の開始/停止を行えます。

① MENU→（セットアップ）→[HDMI設定]→レックコントロール→希望の設定を選ぶ。

メニュー項目の詳細

入：

 STBY 外部録画再生機器へ記録指示を出せる状態

 REC 外部録画再生機器へ記録指示を出している状態

切：

本機の操作で外部録画再生機器の録画開始/停止を行わない。

ご注意

-  レックコントロール 機能に対応している外部録画再生機器で使用できます。
-  レックコントロール 使用時は、撮影モードを  （動画）にしてください。
-  TC出力 が [切] のときは、 レックコントロール は設定できません。
-  REC が表示されている場合でも、外部録画再生機器側の設定・状態により、外部録画再生機器が正しく動作しない場合がありますので、事前に動作確認をしてご使用ください。

HDMI設定 : HDMI機器制御

HDMIケーブル（別売）を使ってブラビアリンク対応テレビをつないだ場合に、テレビのリモコンをテレビに向けて、本機を操作できます。

- 1 MENU→ （セットアップ）→ [HDMI設定] → [HDMI機器制御] → 希望の設定を選ぶ。
- 2 ブラビアリンクに対応したテレビと本機を接続する。
テレビの入力が自動で切り替わり、本機の画像が表示される。
- 3 リモコンの「リンクメニュー」ボタンを押す。
- 4 リモコンのボタンで操作する。

メニュー項目の詳細

入：
テレビのリモコンで操作する。

切：
テレビのリモコンで操作しない。

ご注意

- HDMIケーブルで本機とテレビを接続する場合、操作できる項目が制限されます。
- 2008年以降に発売された「ブラビアリンク（リンクメニュー対応）」に対応したテレビで使用できます。また、リンクメニュー操作はお使いのテレビによって異なります。詳しくは、テレビの取扱説明書をご覧ください。
- 他社のテレビとHDMI接続する場合、テレビのリモコン操作で本機が不要な動きをする場合は、MENU→ （セットアップ）→ [HDMI設定] → [HDMI機器制御] を [切] にしてください。

HDMI設定 : HDMI音声出力（動画）

本機をHDMIケーブル（別売）でテレビなどの外部機器と接続して、動画の撮影時やスタンバイ時に、本機のマイクで拾った音声を外部機器へ出力します。撮影しながら、映像と音声の両方を外部機器で確認できます。

動画撮影のスタンバイ時とは

モードダイヤルを （動画）にし、シャッタースピードや絞りなどを設定したあと、MOVIEボタンを押して撮影を開始する前の状態です。画面に、「STBY」が表示されます。

① MENU → （セットアップ） → [HDMI設定] → [ HDMI音声出力] → 希望の設定を選ぶ。

メニュー項目の詳細

入：
音声を、外部機器へ出力する。

切：
音声を、外部機器へ出力しない。

ご注意

- HDMI音声出力中は、[電子音] を [入] にしていても動画撮影時、終了時の電子音は鳴りません。

関連項目

- [HDMIケーブルを使ってテレビで見る](#)

デジタルスチルカメラ
DSC-RX100M6

USB接続

接続するパソコンやUSB機器に合わせてUSB接続の方法を設定します。

あらかじめ、MENU → （ネットワーク）→ [スマートフォン操作設定] → [スマートフォン操作] を [切] に設定してください。

1 MENU → （セットアップ）→ [USB接続] → 希望の設定を選ぶ。

メニュー項目の詳細

オート：

接続するパソコンやその他USB機器に応じて、マストレージとMTPを自動で切り換える。Windows 7、Windows 8.1またはWindows10の場合にはMTPで接続され、特有の機能が使用できる。

マストレージ：

本機とパソコン、その他USB機器と接続するときに使う。

MTP：

本機とパソコン、その他USB機器をMTP接続する。Windows 7、Windows 8.1またはWindows10の場合にはMTPで接続され、特有の機能が使用できる。

PCリモート：

Imaging Edgeを使って、パソコンから撮影したり、撮影した画像をパソコン内に保存したりする。

ご注意

- [USB接続] を [オート] に設定しているときは、接続に時間がかかる場合があります。

関連項目

- [PCリモート設定：静止画の保存先](#)
- [PCリモート設定：RAW+J時のPC保存画像](#)

デジタルスチルカメラ
DSC-RX100M6

USB LUN設定

USB接続の機能を制限して互換性を高めます。

1 MENU→（セットアップ）→[USB LUN設定]→希望の設定を選ぶ。

メニュー項目の詳細

マルチ：

通常は[マルチ]のまま使う。

シングル：

どうしても接続できない場合のみ、[シングル]にする。

USB給電

本機とパソコン、またはUSB機器をマイクロUSBケーブルで接続するとき、USB給電するかどうかを設定します。

1 MENU→ (セットアップ) → [USB給電] →希望の設定を選ぶ。

メニュー項目の詳細

入：
マイクロUSB ケーブルでパソコンなどと接続したときに給電する。

切：
マイクロUSBケーブルでパソコンなどと接続したときに給電しない。付属のACアダプターをお使いの場合、[切] にしていても給電されます。

USB給電時にできること

USB給電時に行える操作と行えない操作は、以下の通りです。
行える操作は○で、行えない操作は×で表しています。

操作	行える/行えない
撮影	○
再生	○
Wi-Fi/NFC/Bluetooth接続	○
バッテリーの充電	×
バッテリーを入れずにカメラの電源を入れる	×

ご注意

- USB給電を行うには、バッテリーを本機に挿入してください。

PCリモート設定：静止画の保存先

PCリモート撮影中にカメラ本体側にも静止画を保存するかどうか設定します。カメラから離れることなく、カメラ本体で画像を確認したい場合に便利です。

* PCリモートとは：「Imaging Edge」を使って、パソコンから撮影指示を出したり、撮影した画像をパソコン内に保存したりする機能。

1 MENU→（セットアップ）→【PCリモート設定】→【静止画の保存先】→希望の設定を選ぶ。

メニュー項目の詳細

PCのみ：

パソコンのみに静止画を保存する。

PC+カメラ本体：

パソコンとカメラの両方に静止画を保存する。

ご注意

- PCリモート撮影中は、【静止画の保存先】の設定値変更はできません。撮影開始前に設定を行ってください。
- 記録できないメモリーカードをカメラに挿入しているときは、【PC+カメラ本体】を選んでも静止画を撮影できません。
- 【PC+カメラ本体】選択時、カメラにメモリーカードが挿入されていない場合は、【メモリーカードなしリリース】が【許可】になっていてもシャッターは切れません。
- カメラ側で静止画を再生している間は、PCリモートによる撮影はできません。

関連項目

- [USB接続](#)
- [メモリーカードなしリリース](#)
- [PCリモート設定：RAW+J時のPC保存画像](#)

PCリモート設定 : RAW+J時のPC保存画像

PCリモート撮影中に、パソコンに転送する画像ファイルを設定します。

PCリモートで静止画を撮影したとき、パソコン側のアプリケーションは、撮影した画像の転送が終了するまで画像を表示しません。RAW+JPEG撮影を行うとき、RAWとJPEG両方をパソコンへ転送するのではなく、JPEGのみを転送することでパソコン側での表示スピードを上げることができます。

* PCリモートとは : 「Imaging Edge」を使って、パソコンから撮影指示を出したり、撮影した画像をパソコン内に保存したりする機能。

1 MENU→ (セットアップ) → [PCリモート設定] → [RAW+J時のPC保存画像] →希望の設定を選ぶ。

メニュー項目の詳細

RAW+JPEG :

RAWとJPEGをパソコンに転送する。

JPEGのみ :

JPEGのみパソコンに転送する。

RAWのみ :

RAWのみパソコンに転送する。

ご注意

- PCリモート撮影中は、[RAW+J時のPC保存画像] の設定値は変更できません。撮影開始前に設定を行ってください。
- [RAW+J時のPC保存画像] は [ ファイル形式] の設定が [RAW+JPEG] のときのみ設定できます。

関連項目

- [USB接続](#)
- [ファイル形式 \(静止画\)](#)
- [PCリモート設定 : 静止画の保存先](#)

日時設定

日時設定画面は、初めて電源を入れたときや、内蔵バックアップ電池が消耗したときは自動で開きます。2回目以降に設定するとき、このメニューをお使いください。

1 MENU→（セットアップ）→【日時設定】→希望の設定を選ぶ。

メニュー項目の詳細

サマータイム：

サマータイムの【入】 / 【切】を選ぶ。日本国内で使用するときは、【切】を選ぶ。

日時：

日時を設定する。

表示形式：

日付表示順を選ぶ。

ヒント

- サマータイムとは、夏の一定期間、日照時間を有効に使うために時計を標準時刻より進める制度で、欧米諸国では広く採用されています。本機でサマータイムを【入】にすると、時計が1時間進みます。
- 内蔵バックアップ電池を充電するには、本機に充電されたバッテリーを入れ、電源を切ったまま24時間以上放置してください。
- バッテリー充電のたびにリセットされる場合は、内蔵充電式バックアップ電池が消耗している場合があります。相談窓口にお問い合わせください。

デジタルスチルカメラ
DSC-RX100M6

エリア設定

本機を使用するエリアを設定します。

- 1 MENU→ (セットアップ) → [エリア設定] →希望のエリアを選ぶ。

著作権情報

静止画を撮影したとき、ファイルに著作権情報を書き込むことができます。

- 1 MENU→（セットアップ）→〔著作権情報〕→希望の設定項目を選ぶ。
- 2 〔撮影者名設定〕または〔著作権者名設定〕を選ぶと画面にキーボードが表示されるので、希望の名前を入力する。

メニュー項目の詳細

著作権情報書き込み：

静止画に著作権情報を書き込むかどうかを設定する。（〔入〕 / 〔切〕）

- 〔入〕を選ぶと、撮影画面に  が表示されます。

撮影者名設定：

撮影者名を設定する。

著作権者名設定：

著作権者名を設定する。

著作権情報表示：

現在設定されている著作権情報を表示する。

ご注意

- 〔撮影者名設定〕、〔著作権者名設定〕に入力できるのは、アルファベット、数字、記号のみです。最大46文字入力できます。
- 再生時、著作権情報が書き込まれた画像は、画面に  アイコンが表示されます。
- 〔著作権情報〕の不正使用を未然に防ぐため、カメラを貸したり譲渡するときは、〔撮影者名設定〕と〔著作権者名設定〕欄は必ず空欄にしてください。
- 〔著作権情報〕の使用によってトラブルや損害が生じても、弊社では一切の責任を負いかねます。

関連項目

- [キーボードの使いかた](#)

デジタルスチルカメラ
DSC-RX100M6

バージョン表示

お手持ちのカメラのバージョンを表示します。本機のファームウェアのアップデートがリリースされたときなどに確認します。

- 1 MENU→（セットアップ）→【バージョン表示】を選ぶ。

ご注意

- バッテリー残量が （残量が3個）以上でないと、アップデートは行えません。十分に充電したバッテリーをお使いください。

デジタルスチルカメラ
DSC-RX100M6

認証マーク表示

本機が対応している認証表示の一部を確認できます。

- 1 MENU→（セットアップ）→【認証マーク表示】を選ぶ。

デジタルスチルカメラ
DSC-RX100M6

デモモード

本機の「デモモード」とは、一定時間以上の操作をしないと、自動的にメモリーカード内に記録されている動画のスライドショー（デモンストレーション）が始まる機能です。通常は、[切] に設定します。

1 MENU→（セットアップ）→[デモモード]→希望の設定を選ぶ。

メニュー項目の詳細

入：
約1分間操作をしないと、自動的に動画でデモンストレーションが始まる。対象はプロテクトがかかっているAVCHD動画のみ。

[AVCHDビュー] で撮影日時が一番古い動画にプロテクトをかけてください。

切：
デモンストレーションを表示しない。

ご注意

- 付属のACアダプターで接続しているときのみ、設定できます。
- メモリーカード内にプロテクトがかけられたAVCHD動画がないときは、[入] に設定できません。

デジタルスチルカメラ
DSC-RX100M6

設定リセット

お買い上げ時の設定に戻します。〔設定リセット〕を実行しても、画像は削除されません。

1 MENU→ (セッティング) →〔設定リセット〕→希望の設定を選ぶ。

メニュー項目の詳細

撮影設定リセット：

主な撮影モードの設定のみを初期値に戻す。

初期化：

カメラのすべての設定を初期化する。

ご注意

- 設定リセット中はバッテリーを抜かないでください。
- 〔ピクチャープロファイル〕で設定した値は、〔撮影設定リセット〕、〔初期化〕のいずれを行った場合もリセットされません。

デジタルスチルカメラ
DSC-RX100M6

PlayMemories Mobileについて

スマートフォン用アプリケーションPlayMemories Mobileを使って、スマートフォンから本機を操作して画像を撮影したり、本機で撮影した画像をスマートフォンに転送することができます。PlayMemories Mobileは、お使いのスマートフォンのアプリケーションストアからインストールしてください。すでにインストール済みの場合は、最新版にアップデートしてください。

PlayMemories Mobileの詳細は、PlayMemories Mobileのサポートページ（<http://www.sony.net/pmm/>）をご覧ください。

ご注意

- アプリケーションの操作方法や画面表示は、将来のバージョンアップにより予告なく変更することがあります。

Android搭載スマートフォンで操作する（NFCワンタッチリモート）

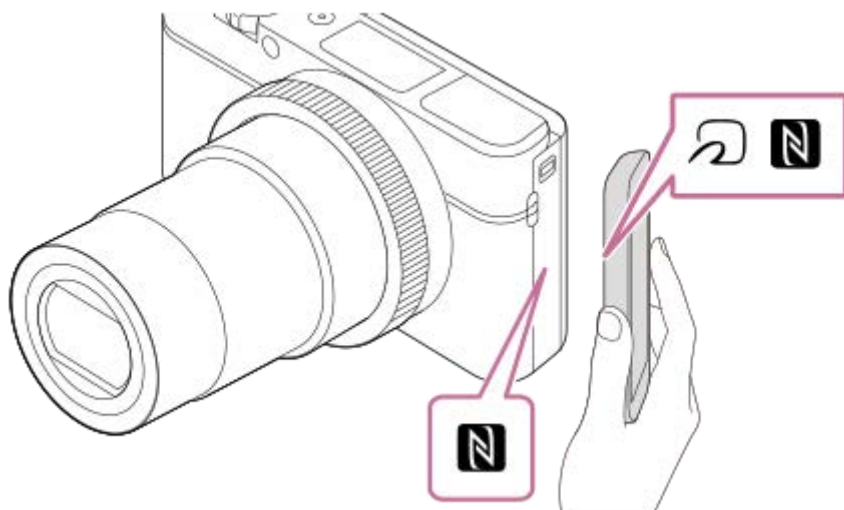
NFC機能搭載のAndroidスマートフォンと本機をワンタッチで接続し、スマートフォンから本機を操作できます。
MENU → （ネットワーク） → [スマートフォン操作設定] → [スマートフォン操作] が[入]に設定されていることを確認してください。

1 スマートフォンのNFC機能を有効にする。

2 本機を撮影画面にする。

- 画面に  が表示されているときのみNFC機能を使用できます。

3 本機とスマートフォンをタッチする。



スマートフォンが本機に接続され、PlayMemories Mobileが起動する。

- スマートフォンの画面で構図を確認しながらリモート撮影できます。
-  が付いているスマートフォンの一部はNFCに対応しています。詳しくはスマートフォンの取扱説明書でご確認ください。
- PlayMemories Mobileが起動するまで（1～2秒）タッチし続けてください。

NFCとは

携帯電話やICタグなど、さまざまな機器間で近距離無線通信を行うための技術です。指定の場所に「タッチする」だけで、簡単にデータ通信が可能となります。

- NFC（Near Field Communication）は近距離無線通信技術の国際標準規格です。

ご注意

- 接続がうまくいかないときは次のことを行ってください。
 - － スマートフォンでPlayMemories Mobileを起動し、本機の  の上でゆっくり動かす。
 - － スマートフォンにケースをつけている場合は、ケースをはずす。
 - － 本機にケースを装着している場合は、ケースをはずす。
 - － スマートフォンのNFC機能が有効になっていることを確認する。

- Bluetooth通信とWi-Fi通信は同じ周波数帯を使用するため、電波干渉が発生する場合があります。Wi-Fi接続が不安定な場合、スマートフォンのBluetooth機能を切ることによって改善される場合があります。ただし、この場合は位置情報連動機能は使えなくなります。
- スマートフォンで本機を遠隔操作して動画撮影を行う際は、液晶画面の輝度が下がります。
- 「飛行機モード」が「入」のときは接続できません。「飛行機モード」を「切」にしてください。
- 本機が再生画面のときにNFC接続すると、再生していた画像が転送されます。

関連項目

- [PlayMemories Mobileについて](#)
- [飛行機モード](#)

Android搭載スマートフォンで操作する（QRコード）

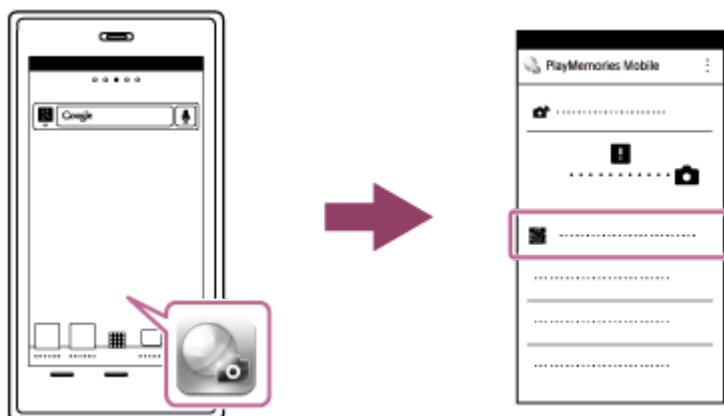
QRコードを使ってAndroidスマートフォンと本機を接続し、スマートフォンから本機を操作できます。
MENU → （ネットワーク） → [スマートフォン操作設定] → [スマートフォン操作] が [入] に設定されていることを確認してください。

- 1 MENU → （ネットワーク） → [スマートフォン操作設定] → [ 接続] を選ぶ。

本機の画面にQRコード (A) とSSID (B)が表示される。



- 2 スマートフォンでPlayMemories Mobileを起動して、[カメラのQRコード読み取り]を選ぶ。



- 3 スマートフォンの画面で [OK] を選ぶ。

- メッセージが表示されたら、再度 [OK] を選んでください。



- 4 本機に表示されているQRコードをスマートフォンで読み取る。

QRコードが読み取られると、スマートフォンの画面に「カメラと接続しますか?」と表示される。

5 スマートフォンの画面で「OK」を選ぶ。

スマートフォンが本機に接続される。

- スマートフォンの画面で構図を確認しながらリモート撮影できます。

ヒント

- QRコードを読み込むと、本機のSSID（DIRECT-xxxx）とパスワードがスマートフォンに登録され、2回目以降のWi-Fi接続時にSSIDを選ぶだけで本機とスマートフォンを接続できるようになります。（「スマートフォン操作」を「入」にしておく必要があります。）

ご注意

- Bluetooth通信とWi-Fi通信は同じ周波数帯を使用するため、電波干渉が発生する場合があります。Wi-Fi接続が不安定な場合、スマートフォンのBluetooth機能を切ることによって改善される場合があります。ただし、この場合は位置情報連動機能は使えなくなります。
- スマートフォンで本機を遠隔操作して動画撮影を行う際は、液晶画面の輝度が下がります。
- NFCやQRコードを使ってもスマートフォンと本機を接続できない場合は、SSIDとパスワードを使って接続してください。

関連項目

- [PlayMemories Mobileについて](#)
- [Android搭載スマートフォンで操作する（SSID）](#)

Android搭載スマートフォンで操作する（SSID）

SSIDとパスワードを使ってAndroidスマートフォンと本機を接続し、スマートフォンから本機を操作できます。
MENU → （ネットワーク） → [スマートフォン操作設定] → [スマートフォン操作] が [入] に設定されていることを確認してください。

- 1 MENU → （ネットワーク） → [スマートフォン操作設定] → [ 接続] を選ぶ。

本機の画面にQRコードが表示される。

- 2 本機の （削除） ボタンを押す。

本機の画面に本機のSSIDとパスワードが表示される。



- 3 スマートフォンでPlayMemories Mobileを起動する。

- 4 本機（DIRECT-xxxxx : xxxxx）を選ぶ。



- 5 本機に表示されているパスワードを入力する。



スマートフォンが本機に接続される。

- スマートフォンの画面で構図を確認しながらリモート撮影できます。

ご注意

- Bluetooth通信とWi-Fi通信は同じ周波数帯を使用するため、電波干渉が発生する場合があります。Wi-Fi接続が不安定な場合、スマートフォンのBluetooth機能を切ることによって改善される場合があります。ただし、この場合は位置情報連動機能は使えなくなります。
- スマートフォンで本機を遠隔操作して動画撮影を行う際は、液晶画面の輝度が下がります。

関連項目

- [PlayMemories Mobileについて](#)

iPhoneまたはiPadで操作する（QRコード）

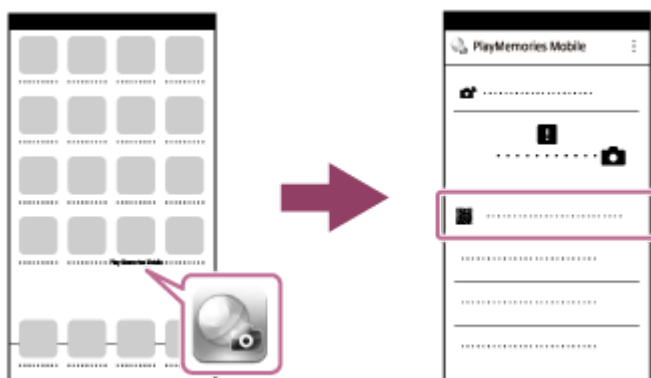
QRコードを使ってiPhoneまたはiPadと本機を接続し、iPhoneまたはiPadから本機を操作できます。
MENU → （ネットワーク） → [スマートフォン操作設定] → [スマートフォン操作] が [入] に設定されていることを確認してください。

- 1 MENU → （ネットワーク） → [スマートフォン操作設定] → [ 接続] を選ぶ。

本機の画面にQRコード (A) とSSID (B)が表示される。



- 2 iPhoneまたはiPadでPlayMemories Mobileを起動して、[カメラのQRコード読み取り] を選ぶ。



- 3 iPhoneまたはiPadの画面で [OK] を選ぶ。

- メッセージが表示されたら、再度 [OK] を選んでください。



- 4 本機に表示されているQRコードをiPhoneまたはiPadで読み取る。

5 iPhoneまたはiPadの画面の指示に従ってプロファイル（設定情報）をインストールし、[OK]を選ぶ。

プロファイルがiPhoneまたはiPadにインストールされる。

- iPhone/iPadにパスコードロックを設定している場合、パスコードの入力が必要になります。ご自身で設定したiPhone/iPadのパスコードを入力してください。

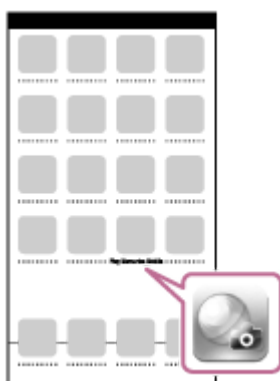


6 iPhoneまたはiPadで、ホーム画面→[設定]→[Wi-Fi]→本機のSSIDを選ぶ。

iPhoneまたはiPadが本機に接続される。



7 iPhoneまたはiPadのホーム画面に戻ってPlayMemories Mobileを起動する。



- iPhoneまたはiPadの画面で構図を確認しながらリモート撮影できます。

ヒント

- QRコードを読み込むと、本機のSSID（DIRECT-xxxx）とパスワードがiPhoneまたはiPadに登録され、2回目以降のWi-Fi接続時にSSIDを選ばただけで本機とiPhoneまたはiPadを接続できるようになります。（[スマートフォン操作]を[入]にしておく必要があります。）

ご注意

- Bluetooth通信とWi-Fi通信は同じ周波数帯を使用するため、電波干渉が発生する場合があります。Wi-Fi接続が不安定な場合、スマートフォンのBluetooth機能を切ることによって改善される場合があります。ただし、この場合は位置情報連動機能は使えなくなります。
- スマートフォンで本機を遠隔操作して動画撮影を行う際は、液晶画面の輝度が下がります。
- QRコードを使ってもiPhoneまたはiPadと本機を接続できない場合は、SSIDとパスワードを使って接続してください。

関連項目

- [PlayMemories Mobileについて](#)
- [iPhoneまたはiPadで操作する（SSID）](#)

4-737-296-01(2) Copyright 2018 Sony Corporation

iPhoneまたはiPadで操作する（SSID）

SSIDとパスワードを使ってiPhoneまたはiPadと本機を接続し、iPhoneまたはiPadから本機を操作できます。
MENU → （ネットワーク） → [スマートフォン操作設定] → [スマートフォン操作] が [入] に設定されていることを確認してください。

- 1 MENU → （ネットワーク） → [スマートフォン操作設定] → [ 接続] を選ぶ。

本機の画面にQRコードが表示される。

- 2 本機の （削除） ボタンを押す。

本機の画面に本機のSSIDとパスワードが表示される。



- 3 iPhoneまたはiPadのWi-Fi設定画面で本機（DIRECT-xxxx : xxxx）を選ぶ。



- 4 本機に表示されているパスワードを入力する。



iPhoneまたはiPadが本機に接続される。

5 本機に表示されているSSIDに接続したことを確認する。



6 iPhoneまたはiPadのホーム画面に戻ってPlayMemories Mobileを起動する。



- iPhoneまたはiPadの画面で構図を確認しながらリモート撮影できます。

ご注意

- Bluetooth通信とWi-Fi通信は同じ周波数帯を使用するため、電波干渉が発生する場合があります。Wi-Fi接続が不安定な場合、スマートフォンのBluetooth機能を切ること改善される場合があります。ただし、この場合は位置情報連動機能は使えなくなります。
- スマートフォンで本機を遠隔操作して動画撮影を行う際は、液晶画面の輝度が下がります。

関連項目

- [PlayMemories Mobileについて](#)

スマートフォン転送機能：スマートフォン転送

スマートフォンに静止画、XAVC S動画、ハイフレームレート動画を表示、転送します。お使いのスマートフォンにスマートフォン対応アプリPlayMemories Mobileをインストールする必要があります。

1 MENU→（ネットワーク）→[スマートフォン転送機能]→[スマートフォン転送]→希望の設定を選ぶ。

- 再生画面で （スマートフォン転送）ボタンを押すと、[スマートフォン転送] の設定画面が表示されます。

2 接続可能な状態になると表示される画面の情報を使って、スマートフォンから本機に接続する。

- 接続するための設定方法はスマートフォンによって異なります。



メニュー項目の詳細

カメラから選ぶ：

スマートフォンに転送する画像を本機で選択する。

(1) [この画像]、[この日付の全画像] または [画像選択] から選択する。

- カメラで選択しているビューモードによって、表示される選択肢が変わることがあります。

(2) [画像選択] の場合は、コントロールホイールの中央を押して画像を選択後、MENU→[実行] を選ぶ。

スマートフォンから選ぶ：

本機のメモリーカードに保存されているすべての画像を、まとめてスマートフォンに表示する。

ご注意

- 本機のメモリーカードに保存されていない画像は、スマートフォン転送できません。
- スマートフォンに転送する画像サイズは、[オリジナル]、[2M] または [VGA] から選べます。以下の手順で変更してください。
 - Android搭載のスマートフォンの場合
PlayMemories Mobileを起動し、[設定] → [コピー画サイズ] で変更する。
 - iPhoneまたはiPadの場合
設定内のPlayMemories Mobileを選び、[コピー画サイズ] から変更する。
- RAW画像は、JPEG画像に変換して転送します。
- AVCHD動画は転送できません。
- XAVC S 4K動画や [120p] で記録されたXAVC S HD動画のオリジナル動画はスマートフォンに転送できません。プロキシ動画のみ転送できます。
- スマートフォンによっては、動画を滑らかに再生できなかったり音声が出ないなど、正しく再生できない場合があります。

- 静止画/動画/ハイフレームレート動画の形式によっては、スマートフォンで再生できないことがあります。
- 本機は〔スマートフォン転送〕の接続情報を、接続許可した機器と共有します。接続許可した機器を変更したい場合は、MENU→（ネットワーク）→〔Wi-Fi設定〕→〔SSID・PWリセット〕で接続情報をリセットしてください。リセット後は、スマートフォンの再設定が必要です。
- 〔飛行機モード〕が〔入〕のときは接続できません。〔飛行機モード〕を〔切〕にしてください。
- 多くの画像や長時間の動画を転送するときは、ACアダプター（付属）で外部電源から電力を供給しながら転送することをおすすめします。

関連項目

- [PlayMemories Mobileについて](#)
- [Android搭載スマートフォンで操作する（NFCワンタッチリモート）](#)
- [Android搭載スマートフォンで操作する（QRコード）](#)
- [Android搭載スマートフォンで操作する（SSID）](#)
- [iPhoneまたはiPadで操作する（QRコード）](#)
- [iPhoneまたはiPadで操作する（SSID）](#)
- [Android搭載スマートフォンにワンタッチで転送する（NFCワンタッチシェアリング）](#)
- [スマートフォン転送機能：転送対象（プロキシー動画）](#)
- [飛行機モード](#)

スマートフォン転送機能：転送対象（プロキシ動画）

「スマートフォン転送」でXAVC S動画をスマートフォンに転送するときに、低ビットレートのプロキシ動画と高ビットレートのオリジナル動画のどちらを転送するかを設定します。

1 MENU→（ネットワーク）→「スマートフォン転送機能」→「**Px** 転送対象」→希望の設定を選ぶ。

メニュー項目の詳細

プロキシのみ：

プロキシ動画のみ転送する。

オリジナルのみ：

オリジナル動画のみ転送する。

プロキシ+オリジナル：

プロキシ動画とオリジナル動画を転送する。

ご注意

- XAVC S 4K動画や「120p」で記録されたXAVC S HD動画のオリジナル動画はスマートフォンに転送できません。プロキシ動画のみ転送できます。
- 多くの画像や長時間の動画を転送するときは、ACアダプター（付属）で外部電源から電力を供給しながら転送することをおすすめします。

関連項目

- [スマートフォン転送機能：スマートフォン転送](#)
- [プロキシ記録](#)

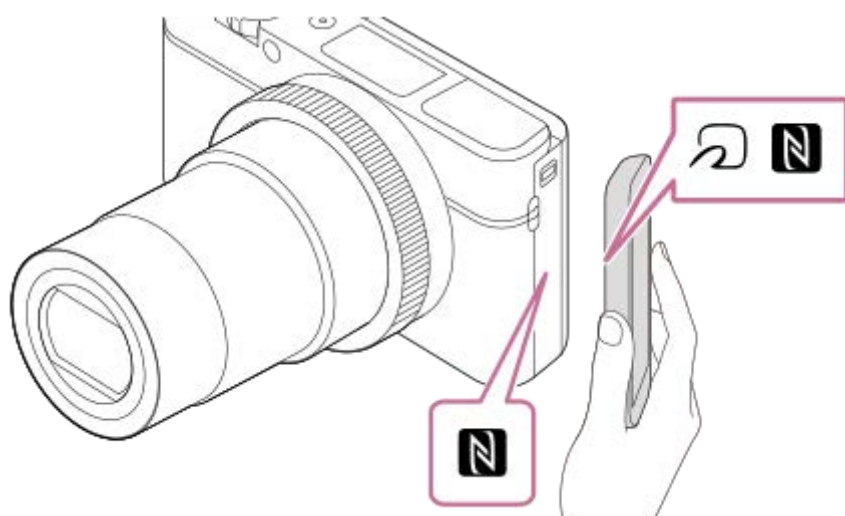
Android搭載スマートフォンにワンタッチで転送する（NFCワンタッチシェアリング）

NFC機能搭載のAndroidスマートフォンと本機をワンタッチで接続して、本機で表示中の画像をそのままスマートフォンに転送できます。静止画、XAVC S動画、ハイフレームレート動画を転送できます。

① スマートフォンのNFC機能を有効にする。

② 本機を再生画面の一枚表示にする。

③ 本機とスマートフォンをタッチする。



スマートフォンが本機に接続され、PlayMemories Mobileが起動して本機に表示していた画像がスマートフォンに転送される。

-  がついているスマートフォンの一部はNFCに対応しています。詳しくはスマートフォンの取扱説明書でご確認ください。
- スマートフォンのスリープおよび画面ロックを解除してからタッチしてください。
- 本機の画面に  が表示されているときのみNFC機能を使用できます。
- PlayMemories Mobileが起動するまで（1～2秒）タッチし続けてください。
- 複数の画像をまとめて転送する場合は、MENU→（ネットワーク）→[スマートフォン転送機能]→[スマートフォン転送]で画像を選択し、接続可能画面になってからNFCで接続してください。

NFCとは

携帯電話やICタグなど、さまざまな機器間で近距離無線通信を行うための技術です。指定の場所に「タッチする」だけで、簡単にデータ通信が可能となります。

- NFC（Near Field Communication）は近距離無線通信技術の国際標準規格です。

ご注意

- スマートフォンに転送する画像サイズは、[オリジナル]、[2M]または[VGA]から選べます。以下の手順で変更してください。
 - PlayMemories Mobileを起動し、[設定]→[コピー画サイズ]で変更する。
- RAW画像は、JPEG画像に変換して転送します。

- AVCHD動画は転送できません。
- XAVC S 4K動画や [120p] で記録されたXAVC S HD動画のオリジナル動画はスマートフォンに転送できません。プロキシ動画のみ転送できます。
- スマートフォンによっては、動画を滑らかに再生できなかったり音声が出ないなど、正しく再生できない場合があります。
- 本機が一覧表示のときはNFC機能で転送できません。
- 接続がうまくいかないときは次のことを行ってください。
 - スマートフォンでPlayMemories Mobileを起動し、本機の **N** の上でゆっくり動かす。
 - スマートフォンにケースをつけている場合は、ケースをはずす。
 - 本機にケースを装着している場合は、ケースをはずす。
 - スマートフォンのNFC機能が有効になっていることを確認する。
- [飛行機モード] が [入] のときは接続できません。[飛行機モード] を [切] にしてください。

関連項目

- [PlayMemories Mobileについて](#)
- [スマートフォン転送機能：スマートフォン転送](#)
- [スマートフォン転送機能：転送対象（プロキシ動画）](#)
- [飛行機モード](#)

デジタルスチルカメラ
DSC-RX100M6

パソコン保存

本機の画像を無線アクセスポイントまたは無線対応ブロードバンドルーターにつないだパソコンに転送し、簡単にバックアップを取ることができます。事前にPlayMemories Homeのインストールと、無線アクセスポイントの登録を行ってください。

- 1 パソコンを起動する。
- 2 MENU→（ネットワーク）→ [パソコン保存] を選ぶ。

ご注意

- パソコンのアプリケーションの設定によっては、画像の保存が終わった後にカメラの電源が自動で切れます。
- 同時に画像を転送できるパソコンは、1台までです。
- 別のパソコンに転送したい場合は、お使いになりたいパソコンに本機をUSB接続して、PlayMemories Homeに従って操作してください。
- プロキシ動画は保存できません。

関連項目

- [PlayMemories Homeをインストールする](#)
- [Wi-Fi設定：アクセスポイント簡単登録](#)
- [Wi-Fi設定：アクセスポイント手動登録](#)

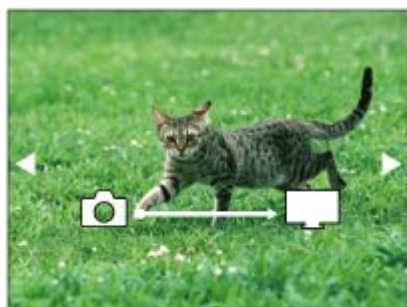
デジタルスチルカメラ
DSC-RX100M6

テレビ鑑賞

本機とテレビをケーブルでつながなくても、本機から画像を転送して、Network対応のテレビで画像を見ることができます。お使いのテレビによってはあらかじめテレビ側の操作も必要になります。詳しくはテレビの取扱説明書をご参照ください。

① MENU →  (ネットワーク) → [テレビ鑑賞] → 接続したい機器を選択する。

② スライドショー形式で再生したい場合は、コントロールホイールの中央を押す。



- 手動で画像を送る場合はコントロールホイールの左/右を押す。
- 接続する機器を変更する場合はコントロールホイールの下を押して、[機器リスト] を選ぶ。

スライドショーの設定項目

コントロールホイールの下を押してスライドショーの設定を変更できます。

再生対象：

再生する画像のグループを設定する。

フォルダービュー（静止画）：

[全て] または [フォルダー内全て] から選択

日付ビュー：

[全て] または [日付内全て] から選択

間隔設定：

[短い] または [長い] から選択

エフェクト*：

[入] または [切] から選択

再生画像サイズ：

[HD] または [4K] から選択

* 対応しているブラビアでのみ設定が有効です。

ご注意

- DLNAレンダラーに対応しているテレビで使えます。
- Wi-Fi Direct対応、またはネットワーク機能（有線含む）に対応しているテレビで見ることができます。
- Wi-Fi Direct以外で接続する場合は、アクセスポイントの登録が必要です。
- 画像をテレビに映すまでに時間がかかることがあります。
- 動画はWi-Fi経由でテレビに転送できません。HDMIケーブル（別売）をお使いください。

関連項目

- [Wi-Fi設定：アクセスポイント簡単登録](#)
- [Wi-Fi設定：アクセスポイント手動登録](#)

4-737-296-01(2) Copyright 2018 Sony Corporation

位置情報連動設定

PlayMemories Mobileアプリを使って、Bluetooth通信で接続しているスマートフォンから位置情報を取得して、画像撮影時に位置情報を記録します。

事前準備

カメラの位置情報連動機能を使用するためには、PlayMemories Mobileアプリが必要です。
PlayMemories Mobileアプリのトップ画面に「位置情報連動」が表示されていない場合は、下記の事前準備が必要となります。

1. お使いのスマートフォンにPlayMemories Mobileアプリをインストールする。
 - PlayMemories Mobileアプリは、お使いのスマートフォンのアプリケーションストアからインストールしてください。すでにインストール済みの場合は、最新版にアップデートしてください。
2. カメラの［スマートフォン転送］を使って、あらかじめ撮影した画像をスマートフォンに転送する。
 - カメラで撮影した画像をスマートフォンに転送すると、PlayMemories Mobileアプリのトップ画面に「位置情報連動」が表示されるようになります。

実際の操作

 : スマートフォンでの操作

 : カメラでの操作

1.  : スマートフォンのBluetooth機能が有効になっていることを確認する。
 - このとき、スマートフォンの設定画面ではBluetooth機能のペアリング操作を行わないでください。手順2～7で、カメラとPlayMemories Mobileアプリを使ってペアリング操作を行います。
 - 手順1でペアリングを行ってしまった場合は、スマートフォンの設定画面でペアリングを一度解除し、カメラとPlayMemories Mobileアプリを使ってペアリング操作を行ってください（手順2～7）。
2.  : カメラで、MENU→（ネットワーク）→［Bluetooth設定］→［Bluetooth機能］→［入］を選ぶ。
3.  : カメラで、MENU→（ネットワーク）→［Bluetooth設定］→［ペアリング］を選ぶ。
4.  : スマートフォンでPlayMemories Mobileアプリを起動して、「位置情報連動」をタップする。
 - 「位置情報連動」が表示されていない場合は、事前準備を参照してください。
5.  : PlayMemories Mobileアプリの［位置情報連動］の設定画面で［位置情報連動］を有効にする。
6.  : PlayMemories Mobileアプリの［位置情報連動］の設定画面で指示に従って操作し、一覧からカメラを選ぶ。
7.  : カメラの画面にメッセージが表示されるので、［確認］を選択する。
 - カメラとPlayMemories Mobileアプリのペアリングが完了します。
8.  : カメラで、MENU→（ネットワーク）→ [ 位置情報連動設定] →［位置情報連動］を［入］にする。

- カメラに （位置情報取得アイコン）が表示され、スマートフォンがGPSなどで取得した位置情報が撮影時に記録されます。

メニュー項目の詳細

位置情報連動：

スマートフォンと連動して位置情報を取得するかどうかを設定する。

自動時刻補正：

スマートフォンと連動した情報を使って、カメラの日付設定を自動で補正するかどうかを設定する。

自動エリア補正：

スマートフォンと連動した情報を使って、カメラのエリア設定を自動で補正するかどうかを設定する。

位置情報取得時のアイコンについて

（位置情報取得）：位置情報を取得できています。

（位置情報取得無効）：位置情報を取得できません。

（Bluetooth接続中）：スマートフォンとBluetooth接続されています。

（Bluetooth未接続）：スマートフォンとBluetooth接続されていません。

ヒント

- スマートフォンの画面がOFFの場合でも、PlayMemories Mobileが起動していれば位置情報連動します。ただし、本機の電源がしばらく切れていた場合、電源を入れても位置情報がすぐには連動しないことがあります。このようなときは、スマートフォンでPlayMemories Mobileアプリの画面を表示させるとすぐに位置情報が連動します。
- スマートフォンの再起動後などPlayMemories Mobileアプリが動作していない場合は、PlayMemories Mobileアプリを起動すると位置情報連動が再開します。
- 位置情報連動機能が正しく動作しないときは以下に従い、再度ペアリング操作を行ってください。
 - スマートフォンのBluetooth機能が有効になっていることを確認する。
 - カメラが他の機器とBluetooth接続中でないことを確認する。
 - カメラの［飛行機モード］が［切］になっていることを確認する。
 - PlayMemories Mobileアプリに登録されているカメラのペアリング情報を削除する。
 - カメラの［ネットワーク設定リセット］を実行する。
- 動画を使ったさらに詳しい説明は、以下のサポートページをご覧ください。
<http://www.sony.net/pmm/btg/>

ご注意

- カメラを初期化するとペアリング情報も削除されます。再度ペアリングするには、PlayMemories Mobileアプリに登録されているカメラのペアリング情報を削除してから、もう一度ペアリングしてください。
- Bluetooth接続が切断されたときなど位置情報が取得できない場合、位置情報が記録されないことがあります。
- カメラはBluetooth機器を15台までペアリングできますが、同時に位置情報連動できるスマートフォンは1台のみです。ほかのスマートフォンと位置情報連動をする場合は、連動中のスマートフォンのPlayMemories Mobileアプリの［位置情報連動］をオフにしてください。
- Bluetooth通信が不安定な場合は、カメラとスマートフォンの間に人体や金属などの障害物がない状態で使用してください。
- カメラとスマートフォンのペアリングは、必ずPlayMemories Mobileアプリの［位置情報連動］メニューから行ってください。

対応するスマートフォン

- Android端末：Android 5.0以降でBluetooth 4.0以降対応*
- iPhone/iPad：iPhone 4S以降/iPad（第3世代）以降

* 最新の情報はサポートページでご確認ください。

* Bluetooth規格のバージョンは、お使いのスマートフォンの製品サイトでご確認ください。

関連項目

- [PlayMemories Homeでできること](#)

- [PlayMemories Mobileについて](#)
- [スマートフォン転送機能：スマートフォン転送](#)
- [Bluetooth設定](#)

4-737-296-01(2) Copyright 2018 Sony Corporation

デジタルスチルカメラ
DSC-RX100M6

飛行機モード

飛行機などに搭乗するとき、Wi-Fiなど無線に関する機能の設定を一時的にすべて無効にできます。

1 MENU→（ネットワーク）→【飛行機モード】→希望の設定を選ぶ。

設定を「入」にすると、モニターに飛行機マークが表示されます。

Wi-Fi設定：アクセスポイント簡単登録

Wi-Fi Protected Setup (WPS)ボタンがあるアクセスポイントの場合は、簡単にアクセスポイントを登録できます。

- 1 MENU →  (ネットワーク) → [Wi-Fi設定] → [アクセスポイント簡単登録] を選ぶ。
- 2 登録したいアクセスポイントのWPSボタンを押す。

ご注意

- [アクセスポイント簡単登録] は、お使いのアクセスポイントのセキュリティがWPAもしくはWPA2に設定されていて、Wi-Fi Protected Setup (WPS)プッシュボタン方式に対応している必要があります。セキュリティがWEPに設定されている場合やWi-Fi Protected Setup (WPS)プッシュボタン方式に未対応の場合は、[アクセスポイント手動登録]を行ってください。
- お使いのアクセスポイントの対応機能や設定に関しては、アクセスポイントの取扱説明書をご参照いただくか、アクセスポイントの管理者にお問い合わせください。
- 本機とアクセスポイント間の障害物や電波状況、壁の材質など周囲の環境によって、接続できなかったり通信可能な距離が短くなることがあります。本機の場所を移動するか、本機とアクセスポイント間の距離を近づけてください。
- アクセスポイントがAOSSとWi-Fi Protected Setup (WPS)の両方に対応している場合は、AOSSボタンを押してください。

関連項目

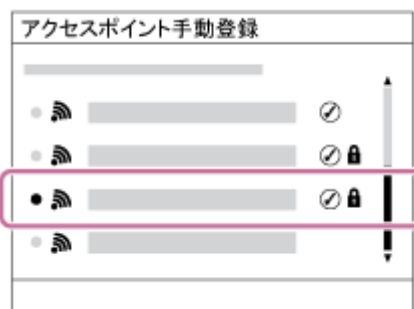
- [Wi-Fi設定：アクセスポイント手動登録](#)

Wi-Fi設定：アクセスポイント手動登録

手動でアクセスポイントを登録できます。お手持ちのアクセスポイントのSSIDとセキュリティ方式、パスワードをあらかじめご確認ください。機器によってはあらかじめパスワードが設定されている場合があります。詳しくは、アクセスポイントの取扱説明書をご覧ください。アクセスポイントの管理者にお問い合わせください。

① MENU →  (ネットワーク) → [Wi-Fi設定] → [アクセスポイント手動登録] を選ぶ。

② 登録したいアクセスポイントを選ぶ。

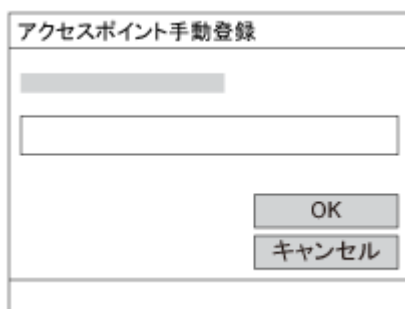


登録したいアクセスポイントが表示される場合：アクセスポイント名を選ぶ。

登録したいアクセスポイントが表示されない場合：[手動設定] を選び、アクセスポイントを設定する。

- [手動設定] を選択した場合は、アクセスポイントのSSID名を入力→セキュリティ方式を選択する。

③ パスワードを入力して、[OK] を選ぶ。



-  がないアクセスポイントは、パスワード入力が必要です。

④ [OK] を選ぶ。

その他の設定項目

アクセスポイントの状態や設定方法によっては、設定を決める項目が増えることがあります。

WPS PIN方式：

接続機器側に入力するPINコードを表示する。

優先接続：

[入] または [切] を選ぶ。

IPアドレス設定：

[オート] または [マニュアル] を選ぶ。

IPアドレス：

手動で入力する場合は、固定アドレスを入力する。

サブネットマスク/デフォルトゲートウェイ：

〔IPアドレス設定〕を〔マニュアル〕とした場合、ネットワークの環境に合わせて入力する。

ご注意

- 登録したアクセスポイントに今後も優先的に接続したい場合は、〔優先接続〕を〔入〕に設定してください。

関連項目

- [Wi-Fi設定：アクセスポイント簡単登録](#)
- [キーボードの使いかた](#)

デジタルスチルカメラ
DSC-RX100M6

Wi-Fi設定 : MACアドレス表示

本機のMACアドレスを表示します。

- 1 MENU→（ネットワーク）→ [Wi-Fi設定] → [MACアドレス表示] を選ぶ。

Wi-Fi設定 : SSID・PWリセット

本機は〔スマートフォン転送〕、〔 接続〕の接続情報を、接続許可した機器と共有します。接続許可した機器を変更したい場合は、接続情報をリセットしてください。

1 MENU→  (ネットワーク) → [Wi-Fi設定] → [SSID・PWリセット] → [確認] を選ぶ。

ご注意

- 接続情報のリセット後に再度本機とスマートフォンを接続する場合は、スマートフォンの再設定が必要です。

関連項目

- [スマートフォン転送機能 : スマートフォン転送](#)
- [スマートフォン操作設定](#)

デジタルスチルカメラ
DSC-RX100M6

機器名称変更

Wi-Fi DirectなどのWi-Fi接続時、Bluetooth接続時の機器名称を変更します。

- 1 MENU→（ネットワーク）→[機器名称変更]を選ぶ。
- 2 入力ボックスを選択して、機器名称を入力→[OK]を選ぶ。

関連項目

- [Wi-Fi設定：アクセスポイント簡単登録](#)
- [Wi-Fi設定：アクセスポイント手動登録](#)
- [キーボードの使いかた](#)

デジタルスチルカメラ
DSC-RX100M6

ネットワーク設定リセット

ネットワークに関する設定をお買い上げ時の設定に戻します。

- 1 MENU→（ネットワーク）→ [ネットワーク設定リセット] → [実行] を選ぶ。

デジタルスチルカメラ
DSC-RX100M6

パソコンの推奨環境

ソフトウェアのパソコン環境は以下のURLよりご確認ください。

<http://www.sony.net/pcenv/>

デジタルスチルカメラ
DSC-RX100M6

Mac用ソフトウェアについて

Mac用ソフトウェアの詳細は以下のURLをご覧ください。

<http://www.sony.co.jp/imsoft/Mac/>

ご注意

- 地域によって使用できるソフトウェアが異なります。

関連項目

- [パソコン保存](#)

デジタルスチルカメラ
DSC-RX100M6

PlayMemories Homeでできること

PlayMemories Homeをご利用になると、次のことなどができます。

- 本機で撮影した画像をパソコンに取り込みます。
- パソコンに取り込んだ画像を再生できます。
- PlayMemories Onlineを使って画像をシェアできます。
- 動画のカットや結合などの編集ができます。
- 動画にBGMやテキストの効果を加えることができます。
- 動画やスローモーション動画に変速効果を加えることができます。

Windowsでは次のこともできます。

- パソコンにある画像を、撮影日ごとにカレンダー上で表示できます。
- 静止画の切り抜き（トリミング）、サイズ変更（リサイズ）などの編集や補正ができます。
- パソコンに取り込んだ動画から、ディスクを作成できます。
XAVC S動画からは、ブルーレイディスクまたはAVCHDディスクを作成できます。
- 画像をネットワークサービスにアップロードできます（インターネット接続環境が必要です）。
- その他詳しくは、PlayMemories Homeのヘルプをご覧ください。

関連項目

- [PlayMemories Homeをインストールする](#)

PlayMemories Homeをインストールする

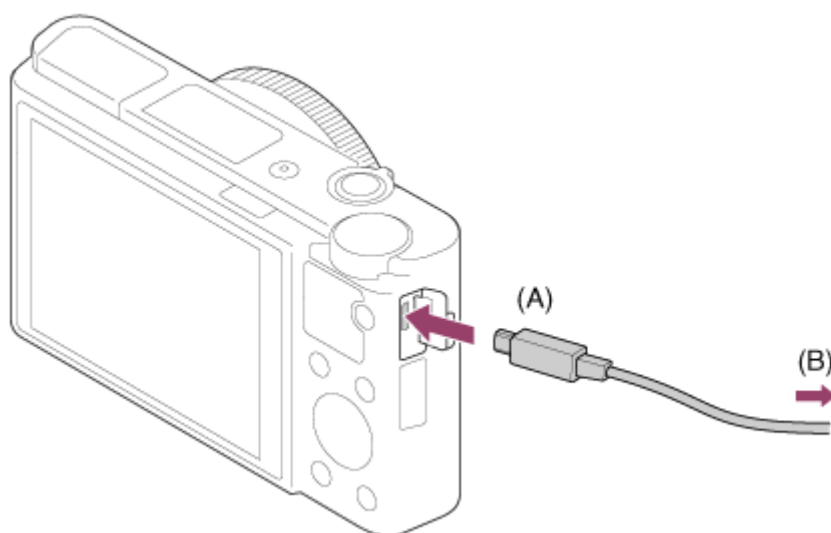
1 パソコンのインターネットブラウザで以下のURLにアクセスし、画面の指示に従ってダウンロードする。

<http://www.sony.net/pm/>

- インターネット接続が必要です。
- 詳しい操作方法は、PlayMemories Homeのサポートページをご覧ください。
<http://www.sony.co.jp/pmh-sj/>

2 本機とパソコンを付属のマイクロUSBケーブルで接続し、本機の電源を入れる。

- PlayMemories Homeに新たに機能が追加されることがあります。すでにPlayMemories Homeがインストールされている場合でも、本機とパソコンを接続してください。
- カメラの動作中やアクセス中の画面が表示されている場合、カメラ本体からマイクロUSBケーブル（付属）をはずさないでください。データが壊れることがあります。



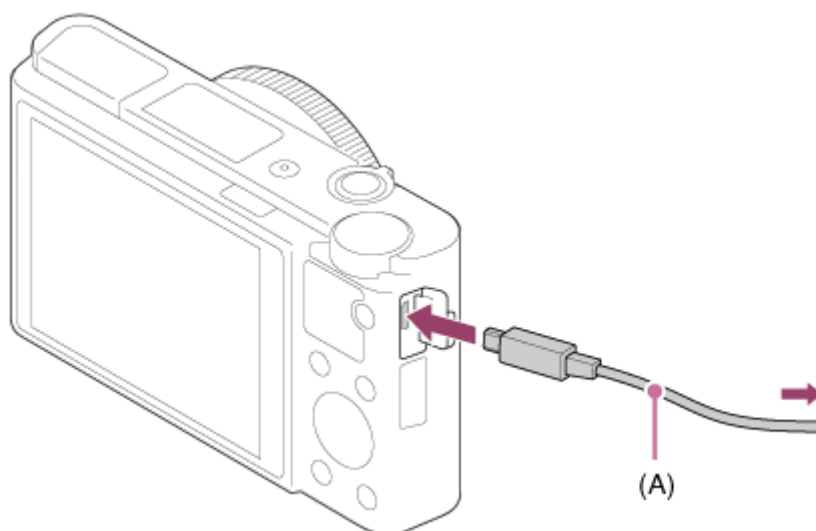
A : マルチ/マイクロUSB端子へ
B : パソコンのUSB端子へ

ご注意

- パソコンにはコンピュータの管理者権限でログオンしてください。
- パソコンの再起動が必要な場合があります。再起動を求める画面が表示された場合は、画面の指示に従って再起動してください。
- 使用環境によっては、DirectXが引き続きインストールされることがあります。

本機とパソコンを接続する

- 1 十分に充電したバッテリーを本機に入れる。
- 2 本機とパソコンの電源を入れる。
- 3  (セットアップ) の [USB接続] が [マスメージック] になっていることを確認する。
- 4 本機とパソコンをマイクロUSBケーブル (付属) (A) で接続する。



- 初回接続時のみ、パソコンが本機を認識するための作業を自動的に行います。作業が終わるまでお待ちください。
- [USB給電] が [入] になっているとき、パソコンと本機をマイクロUSBケーブルでつなぐとパソコンから給電が始まります。(初期設定は [入] です。)

ご注意

- 本機をUSB接続したままパソコンの起動、再起動、スリープモードからの復帰、終了操作を行わないでください。本機が正常に動作しなくなることがあります。これらの操作は、パソコンから本機を取りはずしてから行ってください。

関連項目

- [USB接続](#)
- [USB LUN設定](#)

PlayMemories Homeを使わずに画像をパソコンに取り込む

PlayMemories Homeを使うと、簡単に画像を取り込めます。PlayMemories Homeの機能について詳しくは、PlayMemories Homeのヘルプをご覧ください。

PlayMemories Homeを使わずに、Windowsに画像を取り込むには

本機とパソコンを接続して自動再生ウィザードが起動したら、[フォルダを開いてファイルを表示] → [OK] → [DCIM] をクリックして、取り込みたい画像をパソコン内にコピーしてください。

PlayMemories Homeを使わずに、Macに画像を取り込むには

本機とMacを接続したら、デスクトップ画面上の新しく認識されたアイコン→取り込みたい画像の入ったフォルダーの順にダブルクリックして、画像ファイルをハードディスクアイコンにドラッグ&ドロップしてください。

ご注意

- XAVC S動画やAVCHD動画を取り込むなどの操作はPlayMemories Homeを使用してください。
- 本機とパソコンを接続した状態で、パソコンから本機のAVCHDまたはXAVC S動画ファイルやフォルダーを操作した場合、動画ファイルが壊れたり、再生できなくなることがあります。パソコンから本機のメモリーカード上のAVCHDまたはXAVC S動画を削除したりコピーしたりしないでください。このような操作をした結果に対し、当社は責任を負いかねます。

パソコンとの接続を切断する

以下の操作を行いたいときは、1～2の手順をあらかじめ行ってください。

- マイクロUSBケーブルを抜く。
- メモリーカードを取り出す。
- 本機の電源を切る。

1 タスクトレイの （ハードウェアを安全に取り外してメディアを取り出す）をクリックする。

2 表示されたメッセージをクリックする。

ご注意

- Mac使用時は、あらかじめメモリーカード、またはドライブのアイコンをゴミ箱にドラッグ&ドロップしてください。パソコンとの接続が切断されます。
- Windows 7、Windows 8使用時は、切断アイコンが出ない場合があります。その場合は前記の手順を行わずに切断できます。
- アクセスランプが点灯しているときは、マイクロUSBケーブルを抜かないでください。データが壊れることがあります。

デジタルスチルカメラ
DSC-RX100M6

Imaging Edgeについて

Imaging Edgeは、パソコンから本機を操作するリモート撮影や、本機で撮影したRAW画像の調整・現像などの機能を含む、ソフトウェアシリーズです。

Viewer :

画像の閲覧や検索を行います。

Edit :

画像をトーンカーブやシャープネスなど多彩な補正機能で編集したり、RAW画像を現像したりすることができます。

Remote :

USBケーブルで本機と接続したパソコンから本機の設定をしたり撮影するなどのコントロールができます。
パソコンから本機をコントロールするときは、USBケーブルで本機をパソコンに接続する前に、MENU →  (セットアップ) → [USB接続] → [PCリモート] を選んでください。

詳しい使いかたは、Imaging Edgeのサポートページをご覧ください。

<http://www.sony.net/disoft/help/>

Imaging Edgeをパソコンにインストールするには

以下のURLからソフトウェアをダウンロードしてインストールしてください。

<http://www.sony.net/disoft/d/>

関連項目

- [USB接続](#)

デジタルスチルカメラ
DSC-RX100M6

作成するディスクを決める

本機で記録した動画から、他の機器で再生できるディスクを作成することができます。
ディスクの種類によって、再生可能な機器が異なります。お使いの再生機器に合わせて、作成するディスクの種類を選択してください。
動画の種類によって、ディスク作成時にフォーマットが変換されます。



ハイビジョン画質（HD）（ブルーレイディスク）

ハイビジョン画質（HD）の動画をブルーレイディスクに記録して、ディスクを作成します。
ブルーレイディスクには、ハイビジョン画質（HD）の動画をDVDディスクに比べ長時間記録できます。
記録できる動画フォーマット： XAVC S、AVCHD
再生機器： ブルーレイディスク再生機器（ソニー製ブルーレイディスクプレーヤー、「プレイステーション4」など）



ハイビジョン画質（HD）（AVCHD記録ディスク）

ハイビジョン画質（HD）の動画をDVD-RなどのDVDディスクに記録して、ディスクを作成します。
記録できる動画フォーマット： XAVC S、AVCHD
再生機器： AVCHD規格対応再生機器（ソニー製ブルーレイディスクプレーヤー、「プレイステーション4」など）。一般的なDVDプレーヤーでは再生できません。



標準画質（STD）

ハイビジョン画質（HD）の動画を標準画質（STD）に変換し、DVD-RなどのDVDディスクに記録して、ディスクを作成します。
記録できる動画フォーマット： AVCHD
再生機器： 一般的なDVD再生機器（DVDプレーヤー、DVD再生可能なパソコンなど）

ヒント

- PlayMemories Homeでは以下の12cmのディスクが使えます。
BD-R/DVD-R/DVD+R/DVD+R DL：書き換えできません。
BD-RE/DVD-RW/DVD+RW：書き換えて再利用できます。
追加記録はできません。
- 「プレイステーション4」のシステムソフトウェアは常に最新版にアップデートしてお使いください。アップデートの詳細は、株式会社ソニー・インタラクティブエンタテインメントのウェブサイトをご覧ください。
<http://www.jp.playstation.com/ps4/update/>

ご注意

- 4K動画は、4K画質のままディスクに書き込むことはできません。

関連項目

- [ハイビジョン画質でブルーレイディスクを作成する](#)

- ハイビジョン画質でDVD（AVCHD記録ディスク）を作成する
- 標準画質でDVDを作成する

4-737-296-01(2) Copyright 2018 Sony Corporation

ハイビジョン画質でブルーレイディスクを作成する

ブルーレイディスク再生機器（ソニー製ブルーレイディスクプレーヤー、プレイステーション4など）で再生できるブルーレイディスクを作ります。

A. パソコンで作成する

パソコンに取り込んだ動画から、PlayMemories Homeを使ってブルーレイディスクを作成できます（Windowsのみ）。

お使いのパソコンがブルーレイディスク作成に対応している必要があります。

初めてご使用になる際は、パソコンにUSBケーブルでカメラを接続してください。必要なソフトウェアが自動で追加されます。（インターネット接続が必要です。）

PlayMemories Homeを使ったディスクの作りかたについての詳細はPlayMemories Homeのヘルプをご覧ください。

B. パソコン以外の機器で作成する

ブルーレイディスクレコーダーなどでもブルーレイディスクを作成できます。詳しくは、お使いの機器の取扱説明書をご覧ください。

ご注意

- **【記録方式】**をXAVC Sにして撮影した動画はPlayMemories Homeでのディスク作成時、1920×1080/60iに変換されます。そのままの画質でディスクを作成することはできません。
そのままの画質で保存したいときは、パソコンまたは外付けメディアに保存してください。

関連項目

- [作成するディスクを決める](#)
- [ハイビジョン画質でDVD（AVCHD記録ディスク）を作成する](#)
- [標準画質でDVDを作成する](#)

ハイビジョン画質でDVD（AVCHD記録ディスク）を作成する

AVCHD規格対応再生機器（ソニー製ブルーレイディスクプレーヤー、プレイステーション4など）で再生できるDVD（AVCHD記録ディスク）を作ります。

A. パソコンで作成する

パソコンに取り込んだ動画から、PlayMemories Homeを使ってDVD（AVCHD記録ディスク）を作成できます（Windowsのみ）。

お使いのパソコンがDVD（AVCHD記録ディスク）作成に対応している必要があります。

初めてご使用になる際は、パソコンにUSBケーブルでカメラを接続してください。必要なソフトウェアが自動で追加されます。（インターネット接続が必要です。）

PlayMemories Homeを使ったディスクの作りかたについての詳細はPlayMemories Homeのヘルプをご覧ください。

B. パソコン以外の機器で作成する

ブルーレイディスクレコーダーなどでもDVD（AVCHD記録ディスク）を作成できます。詳しくは、お使いの機器の取扱説明書をご覧ください。

ご注意

- [ 記録方式] をXAVC Sにして撮影した動画はPlayMemories Homeでのディスク作成時、1920×1080/60iに変換されます。そのままの画質でディスクを作成することはできません。
そのままの画質で保存したいときは、パソコンまたは外付けメディアに保存してください。
- [ 記録方式] をAVCHD、[ 記録設定] を[60i 24M(FX)] にして撮影した動画は、PlayMemories HomeでのAVCHD記録ディスク作成時に変換され、そのままの画質でディスクを作成することはできません。
変換には時間がかかります。そのままの画質で保存したいときは、ブルーレイディスクに保存してください。

関連項目

- [作成するディスクを決める](#)
- [ハイビジョン画質でブルーレイディスクを作成する](#)
- [標準画質でDVDを作成する](#)

標準画質でDVDを作成する

一般的なDVD再生機器（DVDプレーヤー、DVD再生可能なパソコンなど）で再生できるDVDを作ります。

A. パソコンで作成する

パソコンに取り込んだ動画から、PlayMemories Homeを使ってDVDを作成できます（Windowsのみ）。

お使いのパソコンがDVD作成に対応している必要があります。

初めてご使用になる際は、パソコンにUSBケーブルでカメラを接続し、画面の指示に従って専用のアドオンソフトウェアをインストールしてください。（インターネット接続が必要です。）

PlayMemories Homeを使ったディスクの作りかたについての詳細はPlayMemories Homeのヘルプをご覧ください。

B. パソコン以外の機器で作成する

ブルーレイレコーダーやHDDレコーダーなどでもDVDを作成できます。詳しくは、お使いの機器の取扱説明書をご覧ください。

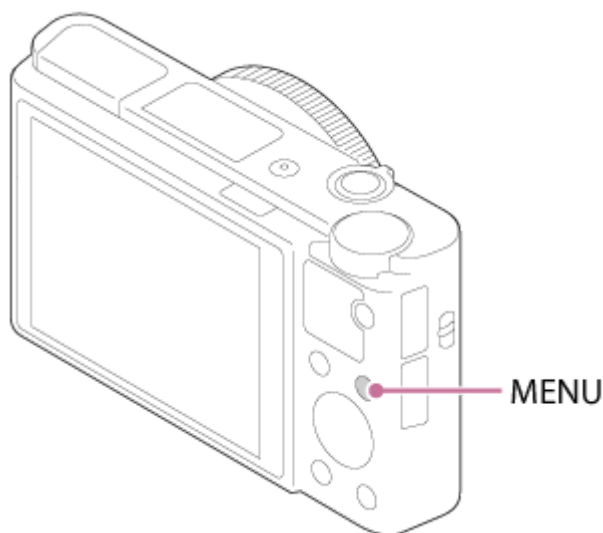
関連項目

- [作成するディスクを決める](#)
- [ハイビジョン画質でブルーレイディスクを作成する](#)
- [ハイビジョン画質でDVD（AVCHD記録ディスク）を作成する](#)

MENUの使いかた

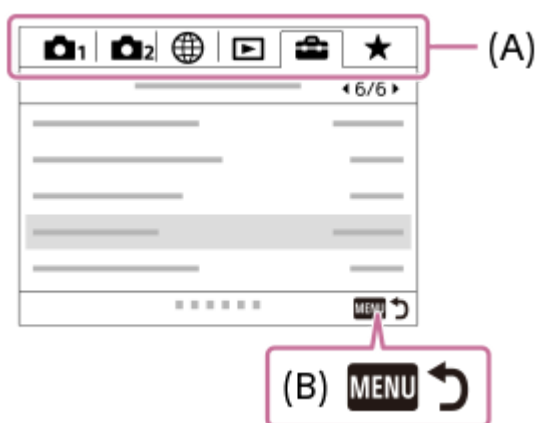
撮影、再生、操作方法など、カメラ全体に関する設定を変更したり、カメラの機能を実行します。

1 MENUボタンを押して、メニュー画面を表示する。



2 コントロールホイールの上/下/左/右を押す、またはコントロールホイールを回して設定したい項目を選び、中央を押す。

- 画面上部のアイコン (A) を選んでコントロールホイールの左/右を押すと、他のMENUへ移動できます。
- MENUボタン (B) を押すと一つ前の画面へ戻ります。



3 設定値を選択して、中央を押して決定する。

関連項目

- [タイトルメニュー](#)
- [項目の追加](#)

ファイル形式（静止画）

静止画を記録するときのファイル形式を設定します。

① MENU→1（撮影設定1）→ファイル形式 →希望の設定を選ぶ。

メニュー項目の詳細

RAW：

現像処理前のデータが記録される。専門的な用途に合わせて、パソコンで加工するときに選ぶ。

RAW+JPEG：

RAW画像とJPEG画像が同時に記録される。閲覧用にはJPEG画像、編集用にはRAW画像を使うなど、両方の画像を記録したい場合に便利。

JPEG：

画像がJPEG形式で記録される。

RAWについて

- 本機で撮影したRAW画像を開くにはImaging Edgeが必要です。このソフトウェアを使えば、RAW画像を開いたあと、JPEGやTIFFのような一般的なフォーマットに変換したり、ホワイトバランス、彩度、コントラストなどを再調整することができます。
- RAW形式の画像には、[オートHDR]、[ピクチャーエフェクト]を設定できません。
- 本機で撮影するRAW画像は圧縮RAW形式で記録されます。

ご注意

- パソコンでの加工を予定していない場合は、JPEG形式で記録することをおすすめします。
- RAW画像には、DPOF（プリント予約）指定できません。

関連項目

- [JPEG画質（静止画）](#)

デジタルスチルカメラ
DSC-RX100M6

JPEG画質（静止画）

〔 ファイル形式〕で〔RAW+JPEG〕または〔JPEG〕を選んだときの、JPEG画像の画質を設定します。

1 MENU→ 1（撮影設定1）→〔 JPEG画質〕→希望の設定を選ぶ。

メニュー項目の詳細

エクストラファイン/ファイン/スタンダード：

〔エクストラファイン〕、〔ファイン〕、〔スタンダード〕の順に圧縮率が高くなるため、データ量が小さくなる。1枚のメモリーカードに記録できる枚数は増えるが、画質は劣化する。

関連項目

- [ファイル形式（静止画）](#)

JPEG画像サイズ（静止画）

画像サイズが大きいほど、大きな用紙にも精細にプリントできます。小さくすると、たくさん撮影できます。

1 MENU→ 1（撮影設定1）→ JPEG画像サイズ →希望の設定を選ぶ。

メニュー項目の詳細

[ 横縦比] が3:2のとき	
L : 20M	5472×3648画素
M : 10M	3888×2592画素
S : 5.0M	2736×1824画素

[ 横縦比] が4 : 3のとき	
L : 18M	4864×3648画素
M : 10M	3648×2736画素
S : 5.0M	2592×1944画素
VGA	640×480画素

[ 横縦比] が16 : 9のとき	
L : 17M	5472×3080画素
M : 7.5M	3648×2056画素
S : 4.2M	2720×1528画素

[ 横縦比] が1 : 1のとき	
L : 13M	3648×3648画素
M : 6.5M	2544×2544画素
S : 3.7M	1920×1920画素

ご注意

- [ ファイル形式] で [RAW] 、 [RAW+JPEG] を選ぶと、RAW画像の画像サイズはL相当となります。

関連項目

- [横縦比（静止画）](#)

デジタルスチルカメラ
DSC-RX100M6

横縦比（静止画）

① MENU→1（撮影設定1）→ [ 横縦比] →希望の設定を選ぶ。

メニュー項目の詳細

3:2 :

35mm判フィルムと同じ横縦比。

4:3 :

ハイビジョン非対応のテレビでの観賞に適した横縦比。

16:9 :

ハイビジョンテレビでの鑑賞に適した横縦比。

1:1 :

横と縦の比率が同じ。

デジタルスチルカメラ
DSC-RX100M6

パノラマ: 画像サイズ

スイングパノラマの画像サイズを設定します。[パノラマ: 撮影方向]によって、画像サイズは異なります。

1 MENU→1 (撮影設定1) → [パノラマ: 画像サイズ] →希望の設定を選ぶ。

メニュー項目の詳細

[パノラマ: 撮影方向] が [上] または [下] のとき

標準 : 3872×2160

ワイド : 5536×2160

[パノラマ: 撮影方向] が [左] または [右] のとき

標準 : 8192×1856

ワイド : 12416×1856

関連項目

- [スイングパノラマ](#)
- [パノラマ: 撮影方向](#)

デジタルスチルカメラ
DSC-RX100M6

パノラマ: 撮影方向

スイングパノラマ撮影時にカメラを動かす方向を設定します。

1 MENU→1 (撮影設定1) → [パノラマ: 撮影方向] →希望の設定を選ぶ。

メニュー項目の詳細

右:
左から右に向かって撮影する。

左:
右から左に向かって撮影する。

上:
下から上に向かって撮影する。

下:
上から下に向かって撮影する。

関連項目

- [スイングパノラマ](#)

デジタルスチルカメラ
DSC-RX100M6

長秒時NR（静止画）

長時間露光時に目立つ粒状ノイズを軽減するため、シャッタースピードが1/3秒または1/3秒より遅いときにノイズ軽減処理を行います。

1 MENU→ 1（撮影設定1）→ 長秒時NR →希望の設定を選ぶ。

メニュー項目の詳細

入：
シャッターを開けていた時間と同時間のノイズ軽減処理をする。処理中はメッセージが表示され、撮影できない。画質を優先するときに選ぶ。

切：
ノイズ軽減処理をしない。撮影タイミングを優先するときに選ぶ。

ご注意

-  シャッター方式 を [電子シャッター] に設定しているときは、 長秒時NR を使用できません。
- 以下の場合、 長秒時NR を [入] にしても、ノイズリダクションは働きません。
 - － 撮影モードが [スイングパノラマ]
 - － [ドライブモード] が [連続撮影] または [連続ブラケット]
 - － 撮影モードが [シーンセレクション] の [スポーツ]、[手持ち夜景] または [人物ブレ軽減]
 - － ISO感度が [マルチショットNR]
- 撮影モードが以下の場合は、 長秒時NR を [切] にできません。
 - － [おまかせオート]
 - － [プレミアムおまかせオート]
 - － [シーンセレクション]
- 撮影条件によっては、シャッタースピードが1/3秒以上でもノイズ軽減処理を行わない場合があります。

デジタルスチルカメラ
DSC-RX100M6

高感度NR（静止画）

ISO感度を高感度に設定して撮影した場合のノイズ軽減処理を設定します。

1 MENU→ 1（撮影設定1）→ [ 高感度NR] →希望の設定を選ぶ。

メニュー項目の詳細

標準：

高感度ノイズリダクションの処理を標準的に行う。

弱：

高感度ノイズリダクションの処理を弱めに行う。

切：

高感度ノイズリダクションの処理を行わない。撮影タイミングを優先するときを選ぶ。

ご注意

- 撮影モードが以下の場合は、 [ 高感度NR] は [標準] に固定されます。
 - － [おまかせオート]
 - － [プレミアムおまかせオート]
 - － [シーンセレクション]
 - － [スイングパノラマ]
- [ ファイル形式] が [RAW] のときは設定できません。
- [ ファイル形式] が [RAW+JPEG] のとき、RAW画像には [ 高感度NR] は働きません。

デジタルスチルカメラ
DSC-RX100M6

色空間（静止画）

色を数値の組み合わせによって表現するための方法、または表現できる色の範囲のことを色空間といいます。画像の用途によって色空間を変更できます。

1 MENU→ 1（撮影設定1）→ [ 色空間] →希望の設定を選ぶ。

メニュー項目の詳細

sRGB：

デジタルカメラの標準となっている色空間。画像調整を行わずに印刷する場合など、一般的な撮影では[sRGB]を使う。

AdobeRGB：

より広い色再現範囲を持っている色空間。鮮やかな緑色や赤色の多い被写体をプリントする場合に効果がある。撮影した画像のファイル名は、“_”（アンダーバー）で始まる。

ご注意

- [AdobeRGB] は、カラーマネジメントおよびDCF2.0オプション色空間に対応したアプリケーションソフトやプリンター用です。非対応のソフトやプリンターでは、正しい色での表示、印刷ができないことがあります。
- [AdobeRGB] で撮影した画像は、Adobe RGB非対応機器で表示すると、低彩度になります。

オートモードを切り替える（オートモード）

本機には「おまかせオート」と「プレミアムおまかせオート」の2つのオート撮影モードが搭載されています。被写体やお好みに合わせて、オートモードを切り替えて撮影できます。

- 1 モードダイヤルを **AUTO** にする。
- 2 MENU →  1（撮影設定1） → 「オートモード」 → 希望の設定を選ぶ。

メニュー項目の詳細

おまかせオート：

カメラまかせでシーン認識をして撮影したいときに使う。

プレミアムおまかせオート：

カメラまかせでシーン認識をして撮影したいとき、特に暗いシーンや逆光のシーンをよりきれいに撮影したいときに使う。

ご注意

- 「プレミアムおまかせオート」では、重ね合わせ処理をするため、記録処理に時間がかかります。このとき、（重ね合わせアイコン）が表示され、シャッター音が複数回聞こえることがありますが、記録される画像は1枚です。
- 「プレミアムおまかせオート」で （重ね合わせアイコン）が表示されているときは、複数枚の撮影が終わるまでカメラを動かさないようにしてください。
- 「おまかせオート」、「プレミアムおまかせオート」の場合、多くの機能が自動設定となり、自分で変更できません。

関連項目

- [おまかせオート](#)
- [プレミアムおまかせオート](#)

デジタルスチルカメラ
DSC-RX100M6

シーンセレクション

撮影状況に合わせて用意された設定で撮影できます。

- 1 モードダイヤルをSCN（シーンセレクション）にする。
- 2 コントロールホイールを回して希望の設定を選ぶ。

メニュー項目の詳細



ポートレート：

背景をぼかして、人物を際立たせる。肌をやわらかに再現する。



スポーツ：

高速なシャッタースピードで動く物が止まったように撮れる。シャッターボタンを押し続けると連続撮影する。



マクロ：

花や料理などに近づいて撮るときに適している。



風景：

風景を手前から奥までくっきりと鮮やかな色で撮る。



夕景：

夕焼けや朝焼けなどの赤を美しく撮る。



🌙 夜景：

暗い雰囲気損なわずに、夜景を撮る。



🖐️ 手持ち夜景：

三脚を使わずにノイズが少ない夜景を撮る。連写を行い、画像を合成して被写体ブレや手ブレ、ノイズを軽減して記録する。



👤 夜景ポートレート：

フラッシュを発光して、夜景を背景に手前の人物を撮る。フラッシュは自動ではポップアップしないので手でポップアップしてから撮影してください。



👤 人物ブレ軽減：

室内で人物撮影する場合、フラッシュを使わずにブレを軽減する。連写を行い、画像を合成して被写体ブレやノイズを軽減して記録する。



🐱 ペット：

ペットを最適な設定で撮影する。



🍴 料理：

料理を明るく美味しそうに撮影する。



🔥 打ち上げ花火：

打ち上げ花火をきれいに撮影する。



ISO 高感度：

静止画撮影時は暗いところでも、フラッシュを使わずにブレを軽減しながら撮影し、動画撮影時は暗いシーンを明るく撮影する。



ヒント

- ほかのシーンにしたいときは、撮影画面でコントロールホイールを回して選び直せます。

ご注意

- 以下の設定のときはシャッタースピードが遅くなり、画像がブレやすくなるため、三脚などのご使用をおすすめします。
 - － [夜景]
 - － [夜景ポートレート]
 - － [打ち上げ花火]
- [手持ち夜景]、[人物ブレ軽減] のときは、シャッター音が4回鳴りますが、記録される画像は1枚です。
- [RAW]、[RAW+JPEG] 時に [手持ち夜景]、[人物ブレ軽減] にすると、[📁 ファイル形式] は一時的に [JPEG] になります。
- [手持ち夜景]、[人物ブレ軽減] にしても、以下の場合はノイズを軽減する効果が弱くなります。
 - － 動きの大きな被写体
 - － 主要被写体とカメラの距離が近すぎる
 - － 空、砂浜、芝生など、似たような模様が続く被写体
 - － 波や滝など、常に模様が変化する被写体
- [手持ち夜景]、[人物ブレ軽減] 時は、蛍光灯など、ちらつきのある光源がある場合、ブロック状のノイズが発生することがあります。
- [マクロ] を選んでも、被写体に近づける距離は変わりません。ピントが合う最短距離はレンズの最短撮影距離をご覧ください。

関連項目

- [フラッシュを使う](#)

ドライブモード

1枚撮影、連写、ブラケット撮影など、撮影の目的に合わせて使用してください。

1 コントロールホイールの / (ドライブモード) → 希望の設定を選ぶ。

- MENU →  1 (撮影設定1) → [ドライブモード] でも設定できます。

2 コントロールホイールの左/右で希望のモードを選ぶ。

メニュー項目の詳細

 **1枚撮影** :
通常の撮影方法。

 **連続撮影** :
シャッターボタンを押している間、連続撮影する。

 **セルフタイマー** :
シャッターボタンを押してから指定した秒数が経過した後にセルフタイマーで撮影する。

 **セルフタイマー (連続)** :
シャッターボタンを押してから指定した秒数が経過した後にセルフタイマーで指定枚数を連続撮影する。

BRK C 連続ブラケット :
シャッターボタンを押し続けることで、露出を段階的にずらして画像を撮影する。

BRK S 1枚ブラケット :
露出を段階的にずらして、指定した枚数の画像を1枚ずつ撮影する。

BRK WB ホワイトバランスブラケット :
選択されているホワイトバランス・色温度/カラーフィルターの値を基準に、段階的にずらして、合計3枚の画像を記録する。

BRK DRO DROブラケット :
Dレンジオプティマイザーの値を段階的にずらして、合計3枚の画像を記録する。

ご注意

- 撮影モードが [シーンセレクション] で [スポーツ] を選んでいるときは、1枚撮影できません。

関連項目

- [連続撮影](#)
- [セルフタイマー](#)
- [セルフタイマー \(連続\)](#)
- [連続ブラケット](#)
- [1枚ブラケット](#)
- [ホワイトバランスブラケット](#)
- [DROブラケット](#)

ブラケット設定

ブラケットモード時のセルフタイマー撮影や、露出ブラケット/ホワイトバランスブラケットの撮影順序を設定します。

1 コントロールホイールの / (ドライブモード) → **ブラケットを選ぶ。**

- MENU →  1 (撮影設定1) → [ドライブモード] でも設定できます。

2 MENU → 1 (撮影設定1) → [ブラケット設定] → **希望の設定を選ぶ。**

メニュー項目の詳細

ブラケット時のセルフタイマー：

ブラケット撮影時にセルフタイマー撮影を行うかどうか設定する。セルフタイマー撮影を行う場合、撮影までの秒数を設定する。

(OFF/2秒/5秒/10秒)

ブラケット順序：

露出ブラケット、ホワイトバランスブラケットの撮影順序を設定する。

(0 → - → + / - → 0 → +)

関連項目

- [連続ブラケット](#)
- [1枚ブラケット](#)
- [ホワイトバランスブラケット](#)
- [DROブラケット](#)

呼び出し（撮影設定1/撮影設定2）

よく使うモードやカメラの設定の組み合わせを〔**MR** 1/2の登録〕であらかじめ登録しておき、呼び出して使うことができます。

- 1 モードダイヤルをMR（登録呼び出し）にする。
- 2 コントロールホイールの左/右またはホイールを回して好みの番号を選択→コントロールホイールの中央を押して決定する。
 - MENU → 1（撮影設定1）→〔**MR** 1/2の呼び出し〕で呼び出すこともできます。

ヒント

- メモリーカードに登録された設定を呼び出すには、モードダイヤルをMR（登録呼び出し）にして、コントロールホイールの左/右で好みの番号を選択してください。
- 他の同型名の機種でメモリーカードに登録された設定を、本機で呼び出すこともできます。

ご注意

- 撮影に関する設定を行ったあとで〔**MR** 1/2の呼び出し〕を行うと、呼び出された〔**MR** 1/2の登録〕の値が優先され、最初に行った設定が無効になる場合があります。モニターで設定値を確認してから撮影してください。

関連項目

- [登録（撮影設定1/撮影設定2）](#)

登録（撮影設定1/撮影設定2）

よく使うモードやカメラの設定を、本機に3つまで、メモリーカードには4つ（M1～M4）まで登録でき、モードダイヤルで簡単に呼び出せます。

- 1 本機を登録したい設定にする。
- 2 MENU→1（撮影設定1）→〔 1/ 2の登録〕→登録先の番号を選ぶ。
- 3 コントロールホイールの中央で決定する。

登録できる項目

- 撮影に関するさまざまな機能を登録できます。実際の登録可能な項目は、本機のメニューで確認してください。
- 絞り（F値）
- シャッタースピード
- 光学ズーム倍率

登録した内容を変更するには

希望する設定に変更し、同じ番号に再登録してください。

ご注意

- M1～M4は本機にメモリーカードが挿入されている場合のみ選択できます。
- プログラムシフトは登録できません。

関連項目

- [呼び出し（撮影設定1/撮影設定2）](#)

デジタルスチルカメラ
DSC-RX100M6

フォーカスモード

被写体の動きに応じてピント合わせの方法を選べます。

1 MENU →  1 (撮影設定1) → [フォーカスモード] → 希望の設定を選ぶ。

メニュー項目の詳細

AF-S (シングルAF) :

ピントが合った時点でピントを固定する。動きのない被写体で使う。

AF-A (AF制御自動切り換え) :

被写体の動きに応じて、シングルAFとコンティニュアスAFが切り替わる。シャッターボタンを半押しすると、被写体が静止していると判断したときはピント位置を固定し、被写体が動いているときはピントを合わせ続ける。連続撮影時は、2枚目以降自動的にコンティニュアスAFに切り替わります。

AF-C (コンティニュアスAF) :

シャッターボタンを半押ししている間中、ピントを合わせ続ける。動いている被写体にピントを合わせるときに使う。
[コンティニュアスAF] では、ピントが合ったときの電子音は鳴りません。

DMF (ダイレクトマニュアルフォーカス) :

オートフォーカスでピントを合わせたあと、手動で微調整できる。最初からマニュアルフォーカスでピントを合わせるよりもすばやくピント合わせができ、マクロ撮影などに便利です。

MF (マニュアルフォーカス) :

ピント合わせを手動で行う。オートフォーカスで意図した被写体にピントが合わないときには、マニュアルフォーカスで操作してください。

- ダイレクトマニュアルフォーカスやマニュアルフォーカスを選び手動でピントを合わせるときは、コントロールリングを回します。

フォーカス表示

● 点灯 :

ピントが合って固定されている。

● 点滅 :

ピントが合っていない。

(●) 点灯 :

ピントが合っている。被写体の動きに合わせてピント位置が変わる。

(●) 点灯 :

ピント合わせの途中。

ピントが合いにくい被写体

- 被写体が遠くて暗い
- 被写体のコントラストが弱い
- ガラス越しの被写体
- 高速で移動する被写体
- 鏡や発光物など反射、光沢のある被写体
- 点滅する被写体
- 逆光になっている被写体
- ビルの外観など、繰り返しパターンの連続するもの
- フォーカスエリアの中に距離の異なるものが混じっているとき

ヒント

- マニュアルフォーカスやダイレクトマニュアルフォーカスで無限遠にピントを合わせるときは、充分遠くにある被写体にピントが合っていることをモニターやファインダー上で確認してください。

ご注意

- 動画撮影時またはモードダイヤルが **HFR** のときは、フォーカスモードは [コンティニユアスAF] または [マニュアルフォーカス] になります。

関連項目

- [ダイレクトマニュアルフォーカス \(DMF\)](#)
- [マニュアルフォーカス](#)
- [MFアシスト \(静止画\)](#)
- [位相差AFについて](#)

4-737-296-01(2) Copyright 2018 Sony Corporation

デジタルスチルカメラ
DSC-RX100M6

フォーカスエリア

ピント合わせの位置を変更します。ピントが合いにくいときなどに使います。

① MENU→ 1 (撮影設定1) → [フォーカスエリア] →希望の設定を選ぶ。

メニュー項目の詳細

ワイド :

モニター全体を基準に、自動ピント合わせをする。静止画撮影でシャッターボタンを半押ししたときには、ピントが合ったエリアに緑色の枠が表示される。

ゾーン :

モニター上でピントを合わせたいゾーンの位置を選ぶと、その中で自動でピントを合わせる。

中央 :

モニター中央付近の被写体に自動ピント合わせをする。フォーカスロックと併用して好きな構図で撮影が可能。

フレキシブルスポット :

モニター上の好きなところにフォーカス枠を移動し、非常に小さな被写体や狭いエリアを狙ってピントを合わせる。フレキシブルスポット画面で、コントロールホイールを回して、フォーカス枠のサイズを変更できる。

拡張フレキシブルスポット :

フレキシブルスポットの周囲のフォーカスエリアをピント合わせの第2優先エリアとして、選んだ1点でピントが合わせられない場合に、この周辺のフォーカスエリアを使ってピントを合わせる。

ロックオンAF :

シャッターボタンを半押しすると、選択されたAFエリアから被写体を追尾する。フォーカスモードが[コンティニュアスAF]のときのみ選択可能。[フォーカスエリア]設定画面で[ロックオンAF]にカーソルを合わせて、コントロールホイールの左/右でロックオンAFの開始エリアを変更できる。追尾開始エリアをゾーン、フレキシブルスポットまたは拡張フレキシブルスポットにすると、好きなところに追尾開始エリアを移動することもできる。

フレキシブルスポット画面で、コントロールホイールを回して、フォーカス枠のサイズを変更できる。

フォーカスエリアの移動方法

- [フォーカスエリア] が [ゾーン]、[フレキシブルスポット] または [拡張フレキシブルスポット] のときに、[フォーカススタンダード] が割り当てられているボタンを押すと、コントロールホイールの上/下/左/右でフォーカス枠の位置を変更しながら撮影できます。フォーカス枠を中央に移動するには、移動中に  ボタンを押してください。コントロールホイールを使って撮影設定などを変更する場合は、[フォーカススタンダード] を割り当てたボタンを押してください。
- タッチ操作で、モニターのフォーカス枠をドラッグしすばやく移動させることができます。あらかじめ、[タッチ操作] を [入] に設定してください。

ご注意

- 以下の場合、[フォーカスエリア] は [ワイド] に固定されます。
 - － [おまかせオート]
 - － [プレミアムおまかせオート]
 - － [シーンセレクション]
 - － スマイルシャッター使用時
 - － モードダイヤルが  (動画) で [オートデュアル記録] を [入] にしている場合
- 連続撮影時やシャッターボタンを一気に押し込んだときなどには、フォーカスエリアが点灯しないことがあります。
- モードダイヤルが  (動画) になっているときや動画撮影中は、[フォーカスエリア] の [ロックオンAF] は選択できません。
- フォーカス枠の移動中は、コントロールホイールとカスタムボタンに割り当てられた機能を実行できません。

関連項目

- [タッチ操作](#)
- [縦横フォーカスエリア切換（静止画）](#)
- [フォーカスエリア登録機能（静止画）](#)

4-737-296-01(2) Copyright 2018 Sony Corporation

デジタルスチルカメラ
DSC-RX100M6

縦横フォーカスエリア切換（静止画）

カメラのポジション（横位置/縦位置）ごとに、〔フォーカスエリア〕とフォーカス枠の位置を使い分けるかどうかを設定することができます。人物のポートレートやスポーツシーンの撮影時など、カメラのポジションを頻繁に変えながら撮影したい場合に便利です。

1 MENU →  1（撮影設定1） →  縦横フォーカスエリア切換 → 希望の設定を選ぶ。

メニュー項目の詳細

しない：

横位置撮影時と縦位置撮影時で、〔フォーカスエリア〕の設定とフォーカス枠の位置を使い分けない。

フォーカス位置のみ：

横位置撮影時と縦位置撮影時で、フォーカス枠の位置を使い分ける。〔フォーカスエリア〕の設定は使い分けない。

フォーカス位置+フォーカスエリア：

横位置撮影時と縦位置撮影時で、〔フォーカスエリア〕の設定とフォーカス枠の位置を使い分ける。

〔フォーカス位置+フォーカスエリア〕の例



(A) 縦位置：〔フレキシブルスポット〕（左上）

(B) 横位置：〔フレキシブルスポット〕（右上）

(C) 縦位置：〔ゾーン〕（左下）

- カメラのポジションは、横位置、縦位置（シャッターボタン側が上）、縦位置（シャッターボタン側が下）の3通りで区別されます。

ご注意

- 〔 縦横フォーカスエリア切換〕の設定を変えると、ポジションごとの設定は引き継がれません。
- 〔 縦横フォーカスエリア切換〕を〔フォーカス位置+フォーカスエリア〕または〔フォーカス位置のみ〕に設定していても、下記の場合は、〔フォーカスエリア〕とフォーカス枠の位置はポジションごとに変更されません。
 - 撮影モードが〔おまかせオート〕、〔プレミアムおまかせオート〕、〔動画〕、〔ハイフレームレート〕
 - シャッターボタン半押し中
 - 動画撮影中
 - デジタルズーム使用中
 - オートフォーカス動作中
 - 連続撮影中
 - セルフタイマーのカウントダウン中
 - ピント拡大中
- カメラを縦位置に構えたまま電源を入れ、直後に撮影すると、最初の1枚のみ横位置のフォーカス設定、または前回のフォーカス設定で撮影されます。
- レンズが上や下を向いている状態では、カメラは縦横を判別しません。

関連項目

- [フォーカスエリア](#)

4-737-296-01(2) Copyright 2018 Sony Corporation

AF補助光（静止画）

AF補助光とは、暗所でフォーカスを合わせるための補助光です。シャッターボタンを半押ししてフォーカスがロックされるまでの間、自動的に補助光が発光して、フォーカスを合わせやすくします。

1 MENU→ 1（撮影設定1）→ AF補助光 →希望の設定を選ぶ。

メニュー項目の詳細

オート：

暗所でAF補助光が自動発光する。

切：

AF補助光を使用しない。

ご注意

- 以下のときは、 AF補助光は発光されません。
 - － 撮影モードが「動画」または「ハイフレームレート」
 - － スイングパノラマ
 - － 「フォーカスモード」が「コンティニュアスAF」のとき、または「AF制御自動切り換え」で被写体が動いているとき（フォーカス表示またはが点灯しているとき）
 - － ピント拡大中
 - － 「シーンセレクション」が下記するとき
 - － 「風景」
 - － 「スポーツ」
 - － 「夜景」
 - － 「ペット」
 - － 「打ち上げ花火」
- AF補助光は明るい光です。安全上問題ありませんが、至近距離で直接人の目に当たらないようにお使いください。

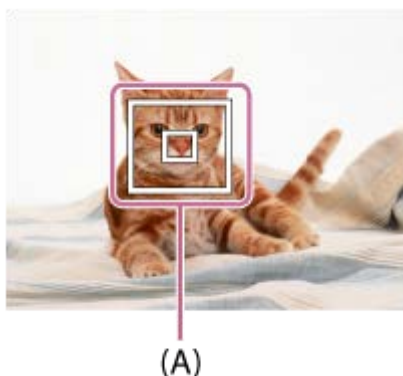
中央ボタン押しロックオンAF

コントロールホイールの中央を押すことで画面中央にある被写体を検出し、その被写体を追尾し続けます。

1 MENU→1（撮影設定1）→〔中央ボタン押しロックオンAF〕→〔入〕を選ぶ。

2 ターゲット枠（A）を被写体に合わせて、コントロールホイールの中央を押す。

- 追尾を解除する場合は、もう一度中央を押します。



3 シャッターボタンを押し込み撮影する。

ヒント

- お好みのキーに〔フォーカススタンダード〕の機能を割り当てておくと、〔フォーカスエリア〕が〔ワイド〕または〔中央〕のときにそのキーを押すことで、〔中央ボタン押しロックオンAF〕を起動したり被写体の検出をやり直したりできます。
- モニター撮影時は、タッチ操作で追尾する被写体を選べます。あらかじめタッチパネル操作を有効にし、MENU→2（撮影設定2）→〔タッチ撮影設定〕→〔タッチフォーカス〕を選んでください。

ご注意

- 以下のときは、〔中央ボタン押しロックオンAF〕機能がうまく働かないことがあります。
 - － 動きが速すぎる被写体
 - － 小さすぎる、または大きすぎる被写体
 - － 被写体と背景のコントラストが弱い場合
 - － 暗いシーン
 - － 明るさが変わるシーン
- 以下のときは、ロックオンAF機能は働きません。
 - － 〔スイングパノラマ〕
 - － 〔シーンセレクション〕が〔手持ち夜景〕、〔人物ブレ軽減〕
 - － 〔スマートテレコンバーター〕使用時
 - － マニュアルフォーカス
 - － デジタルズーム中
 - － 動画モード、かつ〔手ブレ補正〕が〔インテリジェントアクティブ〕のとき
 - － 動画撮影時で、〔記録設定〕が〔120p〕のとき
 - － ハイフレームレート撮影時

関連項目

- [フォーカススタンダード](#)
- [タッチ操作](#)

4-737-296-01(2) Copyright 2018 Sony Corporation

AF時の顔優先設定

オートフォーカス時に、カメラが検出した人物の顔に優先してピントを合わせるかどうかを設定します。

1 MENU→ 1 (撮影設定1) → [AF時の顔優先設定] → [AF時の顔優先] →希望の設定を選ぶ。

メニュー項目の詳細

入：
カメラが検出した顔に優先してピントを合わせる。

切：
顔検出は行わずにピントを合わせる。

顔検出枠表示

[AF時の顔優先] が [入] のときに、顔検出枠を表示するかどうかを設定できます。

1. MENU→ 1 (撮影設定1) → [AF時の顔優先設定] → [顔検出枠表示] →希望の設定を選ぶ。

入：
[AF時の顔優先] が [入] のときに顔検出枠を表示する。

切：
顔検出枠を表示しない。

顔検出枠について

- 顔を検出すると、灰色の顔検出枠が表示され、オートフォーカス可能と判断されると枠が白色になります。
- 〔個人顔登録〕で優先順位を設定している場合、被写体の中で一番優先順位が高い顔が自動で選択され顔検出枠が白色になります。それ以外の登録されている顔の検出枠は赤紫色になります。



ヒント

- 〔AF時の顔優先設定〕が [入] でフォーカスモードが [シングルAF] のときに目にピントが合うと、目に枠が表示されます。目に表示された枠は一定時間で消えます。

ご注意

- 以下のときは、顔検出機能は使えません。
 - 光学ズーム以外のズーム
 - [スイングパノラマ]
 - [ピクチャーエフェクト] が [ポストリゼーション]
 - ピント拡大時
 - [シーンセレクション] が [風景]、[夜景]、[夕景]

- 動画撮影時で [ 記録設定] が [120p] のとき
- ハイフレームレート撮影時

- 最大8人の顔を検出できます。
- [顔検出枠表示] を [切] にしていても、ピントが合った顔には緑色のフォーカス枠が表示されます。
- 撮影モードが [おまかせオート]、[プレミアムおまかせオート] の場合、[AF時の顔優先] は [入] になります。
- 状況によっては、顔が検出できなかったり、顔以外を誤検出することがあります。

関連項目

- [個人顔登録（新規登録）](#)
- [個人顔登録（優先順序変更）](#)

デジタルスチルカメラ
DSC-RX100M6

プリAF（静止画）

シャッター半押し前に、カメラが自動でピントを合わせます。ピント合わせの動作中は、画面が揺れることがあります。

1 MENU→1（撮影設定1）→プリAF→希望の設定を選ぶ。

メニュー項目の詳細

入：

シャッター半押し前に、カメラが自動でピントを合わせる。

切：

カメラが自動でピント合わせをしない。

フォーカスエリア登録機能（静止画）

カスタムキーを使って、フォーカス枠をあらかじめ登録した位置に一時的に移動させることができます。動きの予想が可能なスポーツシーンなどの撮影時に、状況に応じてフォーカスエリアをすばやく移動させることができ便利です。

フォーカスエリアを登録するには

1. MENU → 1（撮影設定1） → [フォーカスエリア登録機能] を [入] にする。
2. フォーカスエリアを希望の位置に設定して、Fn（ファンクション）ボタンを長押しする。

登録したフォーカスエリアを呼び出すには

1. MENU → 2（撮影設定2） → [カスタムキー] → 希望のキーを選び、[押す間登録フォーカスエリア] を選ぶ。
2. 撮影画面で [押す間登録フォーカスエリア] 機能を割り当てたボタンを押しながら、シャッターボタンを押して撮影する。

ヒント

- [フォーカスエリア登録機能] でフォーカス枠を登録すると、登録したフォーカス枠が画面上で点滅します。
- [再押し登録フォーカスエリア] を割り当てると、ボタンを押し続けなくても登録したフォーカス枠が維持されます。

ご注意

- 以下のときは、フォーカスエリアの登録はできません。
 - －モードダイヤルが （動画）または **HFR**
 - －[タッチフォーカス] 実行中
 - －デジタルズーム使用中
 - －[ロックオンAF] 実行中
 - －ピント合わせ中
 - －フォーカスロック中
- [左ボタン]、[右ボタン] には [押す間登録フォーカスエリア] を設定できません。
- 以下のときは、登録したフォーカスエリアの呼び出しはできません。
 - －モードダイヤルが **AUTO**（オートモード）、（動画）または **HFR**
- [フォーカスエリア登録機能] を [入] に設定すると、[ホイールロック] は [切] に固定されます。

関連項目

- [フォーカスエリア](#)
- [カスタムキー](#)（静止画/動画/再生）

デジタルスチルカメラ
DSC-RX100M6

登録フォーカスエリア消去（静止画）

〔 フォーカスエリア登録機能〕で登録したフォーカス枠の位置情報を消去します。

① MENU →  1（撮影設定1） → 〔 登録フォーカスエリア消去〕を選ぶ。

関連項目

- [フォーカスエリア登録機能（静止画）](#)

デジタルスチルカメラ
DSC-RX100M6

フォーカスエリア自動消灯

フォーカスエリア表示を常に表示するか、ピントが合ったあと一定時間経過後に非表示にするかを設定します。

1 MENU→1（撮影設定1）→〔フォーカスエリア自動消灯〕→希望の設定を選ぶ。

メニュー項目の詳細

入：

フォーカスエリア表示を合焦後一定時間経過後に非表示にする。

切：

フォーカスエリア表示を常に表示する。

デジタルスチルカメラ
DSC-RX100M6

コンティニュアスAFエリア表示

コンティニュアスAF時に、フォーカスエリアで［ワイド］または［ゾーン］を選んでいるとき、ピントが合ったフォーカスエリアを表示するかしないかを設定します。

1 MENU→1（撮影設定1）→［コンティニュアスAFエリア表示］→希望の設定を選ぶ。

メニュー項目の詳細

入：

ピントが合ったフォーカスエリアを表示する。

切：

ピントが合ったフォーカスエリアを表示しない。

ご注意

- ［フォーカスエリア］が以下の場合は、ピントを合わせたあと、エリアのフォーカス枠が緑色に点灯します。
 - －［中央］
 - －［フレキシブルスポット］
 - －［拡張フレキシブルスポット］

デジタルスチルカメラ
DSC-RX100M6

位相差AFエリア表示

位相差AFのエリアを表示するかしないかを設定します。

1 MENU→ 1 (撮影設定1) → [位相差AFエリア表示] →希望の設定を選ぶ。

メニュー項目の詳細

入：

位相差AFのエリアを表示する。

切：

位相差AFのエリアを表示しない。

ご注意

- 絞り値がF8より大きいときは、位相差AFを使用できません。コントラストAFのみになります。
- [記録方式] が [XAVC S HD] で [記録設定] が [120p] のときは、位相差AFを使用できません。コントラストAFのみになります。
- 動画撮影時は、位相差AFエリアは表示されません。

露出補正

通常は、露出が自動的に設定されます（自動露出）。自動露出で設定された露出値を基準に、+側に補正すると画像全体を明るく、-側に補正すると画像全体を暗くできます（露出補正）。

- 1 コントロールホイールの （露出補正）→コントロールホイールの左/右を押す、またはホイールを回して希望の補正値を選ぶ。

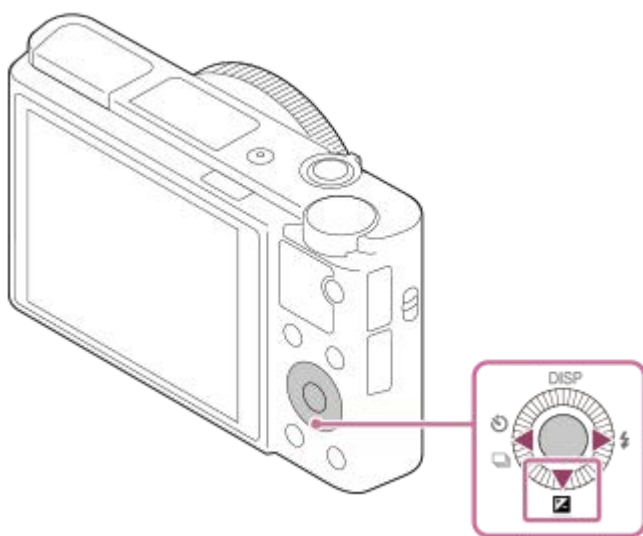
+（オーバー）側：

画像が明るくなる。

-（アンダー）側：

画像が暗くなる。

- MENU→1（撮影設定1）→「露出補正」でも設定できます。

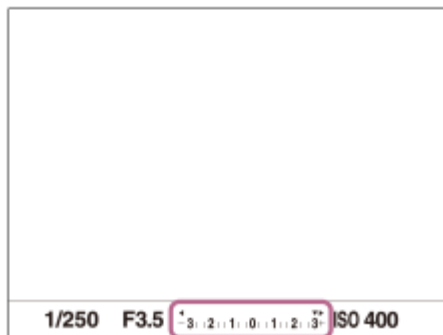


- -3.0EV～+3.0EVの範囲で設定できます。
- 設定した露出補正値は撮影画面で確認できます。

モニター表示



ファインダー表示



ご注意

- 撮影モードが以下のときは、露出補正できません。
 - － [おまかせオート]
 - － [プレミアムおまかせオート]
 - － [シーンセレクション]
- [マニュアル露出] 時は、[ISO感度] が [ISO AUTO] のときのみ露出補正できます。
- 動画撮影時は－2.0EVから+2.0EVの範囲で調整できます。
- 被写体が極端に明るいときや暗いとき、またはフラッシュ撮影時は、十分な効果が得られないことがあります。

関連項目

- [連続ブラケット](#)
- [1枚ブラケット](#)
- [ゼブラ設定](#)

ISO感度

光に対する感度は、ISO感度（推奨露光指数）で表します。数値が大きいほど高感度になります。

① MENU→1（撮影設定1）→[ISO感度]→希望の設定を選ぶ。

メニュー項目の詳細

マルチショットNR：

連続撮影により写真を重ね合わせ、ノイズの少ない画像を撮影する。コントロールホイールの右を押して設定画面を表示させ、上/下で希望の数値を選ぶ。ISO AUTO、ISO 200～ISO 25600の中から希望の数値を選ぶ。

ISO AUTO：

カメラが明るさに応じた感度を自動で設定する。

ISO 80～ISO 12800：

お好みの感度をマニュアルで設定する。数値が大きいほど高感度になる。

ヒント

- [ISO AUTO] 時に自動設定されるISO感度の範囲を変更できます。[ISO AUTO] を選択したときに、コントロールホイールの右を押して、[ISO AUTO 上限] / [ISO AUTO 下限] を選んで希望の数値を設定してください。
この設定は [マルチショットNR] の [ISO AUTO] 時にも反映されます。
- [マルチショットNR] の [NR効果] で、ノイズリダクションの強さを設定できます。

ご注意

- [ファイル形式] が [RAW]、[RAW+JPEG] のとき、[マルチショットNR] は設定できません。
- [マルチショットNR] を選んでいるとき、フラッシュ、[Dレンジオプティマイザー]、[オートHDR] は使用できません。
- [ピクチャープロファイル] が [切] 以外のとき、[マルチショットNR] は設定できません。
- [ピクチャーエフェクト] が [切] 以外のとき、[マルチショットNR] は設定できません。
- 以下のときは、[ISO AUTO] に設定されます。
 - － [おまかせオート]
 - － [プレミアムおまかせオート]
 - － [シーンセレクション]
 - － [スイングパノラマ]
- ISO125未満の領域は、記録できる被写体輝度の範囲（ダイナミックレンジ）が少し狭くなります。
- ISO感度が高くなるほど、ノイズが増えます。
- 静止画撮影時、動画撮影時、またはHFR撮影時で、選べる設定が異なります。
- 動画撮影時はISO125～ISO12800の範囲で選べます。ISO125よりも小さい値の状態では動画撮影を始めると、ISO125に切り替わります。動画撮影を終えると元のISO値に戻ります。
- [マルチショットNR] を使用すると、重ね合わせ処理のため、記録処理に時間がかかります。
- 撮影モードが「P」、「A」、「S」、「M」のとき、ISO感度を [ISO AUTO] にすると、設定された範囲内で自動設定されます。

ISO AUTO低速限界

撮影モードがP（プログラムオート）またはA（絞り優先）で [ISO AUTO] または [マルチショットNR] の [ISO AUTO] を選択したときに、ISO感度が変わり始めるシャッタースピードを設定できます。
この機能は、動いている被写体を撮影するときに効果的です。手ブレを抑えながら、被写体ブレも軽減することができます。

1 MENU→ 1（撮影設定1）→ [ISO AUTO低速限界] →希望の設定を選ぶ。

メニュー項目の詳細

FASTER（より高速）/FAST（高速）：

〔標準〕よりも速いシャッタースピードでISO感度が変わり始めるため、手ブレや被写体ブレを抑えることができる。

STD（標準）：

レンズの焦点距離に応じてカメラが自動で設定する。

SLOW（低速）/SLOWER（より低速）：

〔標準〕よりも遅いシャッタースピードでISO感度が変わり始めるため、ノイズの少ない写真を撮影できる。

1/32000 ～ 30"：

設定したシャッタースピードでISO感度が変わり始める。

ヒント

- [より高速]、[高速]、[標準]、[低速]、[より低速] でISO感度が変わり始めるシャッタースピードの差は、それぞれ1段分です。

ご注意

- ISO感度を、[ISO AUTO] 時に設定した [ISO AUTO 上限] まで上げても露出不足になる場合は、適正露出で撮影するために [ISO AUTO低速限界] で設定したシャッタースピードよりも低速になります。
- 以下の場合、設定されたシャッタースピードのとおり動作しないことがあります。
 - － [ シャッター方式] によってシャッタースピードの最高速が変わったとき
 - － [ シャッター方式] が [電子シャッター] で、明るいシーンをフラッシュ撮影するとき（高速側のシャッタースピードがフラッシュ同調速度1/100秒で制限されるため）
 - － [フラッシュモード] が [強制発光] で、暗いシーンをフラッシュ撮影するとき（低速側のシャッタースピードが、カメラが自動で判断したシャッタースピードで制限されるため）

関連項目

- [プログラムオート](#)
- [絞り優先](#)
- [ISO感度](#)

測光モード

本機が自動で露出を決めるとき、モニターのどの部分で光を測るか（測光）を設定します。

1 MENU→1（撮影設定1）→〔測光モード〕→希望の設定を選ぶ。

メニュー項目の詳細

マルチ：

複数に分割したモニターを各エリアごとに測光し、画面全体の最適な露出を決定する（マルチパターン測光）。

中央重点：

モニターの中央部に重点をおきながら、全体の明るさを測光する（中央重点測光）。

スポット：

スポット測光サークル内のみで測光する。画面内の特定の場所を部分的に測光したいときに適している。測光サークルの大きさを〔スポット：標準〕と〔スポット：大〕から選択できる。測光サークルの位置は〔スポット測光位置〕の設定によって異なる。

画面全体平均：

画面全体を平均的に測光する。構図や被写体の位置によって露出が変化しにくい。

ハイライト重点：

画面内のハイライト部分を重点的に測光する。被写体の白とびを抑えて撮影したいときに適している。

ヒント

- 〔スポット〕を選んでいる場合、〔フォーカスエリア〕を〔フレキシブルスポット〕または〔拡張フレキシブルスポット〕にして、〔スポット測光位置〕を〔フォーカス位置連動〕にすると、スポット測光位置をフォーカスエリアに連動させることができます。
- 〔マルチ〕を選んでいる場合、〔マルチ測光時の顔優先〕を〔入〕にすると、カメラが検出した人物の顔の情報を基準に測光を行います。
- 〔測光モード〕を〔ハイライト重点〕に設定して〔Dレンジオブティマイザー〕や〔オートHDR〕を使用すると、明暗の差を細かな領域に分けて分析し、明るさやコントラストが自動補正されます。撮影状況に合わせてご使用ください。

ご注意

- 以下の撮影モードのときは、〔測光モード〕は〔マルチ〕に固定されます。
 - － 〔おまかせオート〕
 - － 〔プレミアムおまかせオート〕
 - － 〔シーンセレクション〕
 - － 光学ズーム以外のズーム
- 〔ハイライト重点〕を選択しているとき、撮りたい被写体よりも明るい物が画面内にあると、被写体が暗く写ることがあります。

関連項目

- [AEロック](#)
- [スポット測光位置](#)
- [マルチ測光時の顔優先](#)
- [Dレンジオブティマイザー（DRO）](#)
- [オートHDR](#)

デジタルスチルカメラ
DSC-RX100M6

マルチ測光時の顔優先

〔測光モード〕を〔マルチ〕に設定しているときに、カメラが検出した人物の顔を基準に測光するかどうかを設定します。

1 MENU→1（撮影設定1）→〔マルチ測光時の顔優先〕→希望の設定を選ぶ。

メニュー項目の詳細

入：

カメラが検出した顔情報を基準に測光を行う。

切：

顔検出は行わずに〔マルチ〕で測光を行う。

ご注意

- 撮影モードが〔おまかせオート〕、〔プレミアムおまかせオート〕の場合、〔マルチ測光時の顔優先〕は〔入〕になります。

関連項目

- [測光モード](#)

デジタルスチルカメラ
DSC-RX100M6

スポット測光位置

〔フォーカスエリア〕が〔フレキシブルスポット〕または〔拡張フレキシブルスポット〕のときに、スポット測光位置をフォーカスエリアに連動させるかどうかを設定します。

1 MENU→1（撮影設定1）→〔スポット測光位置〕→希望の設定を選ぶ。

メニュー項目の詳細

中央：

スポット測光位置がフォーカスエリアに連動せず、常に中央で測光する。

フォーカス位置連動：

スポット測光位置がフォーカスエリアに連動する。

ご注意

- 〔フォーカスエリア〕が〔フレキシブルスポット〕または〔拡張フレキシブルスポット〕以外の場合は、スポット測光位置は中央に固定されます。
- 〔フォーカスエリア〕が〔ロックオンAF:フレキシブルスポット〕または〔ロックオンAF:拡張フレキシブルスポット〕の場合は、スポット測光位置がロックオンAF開始位置に連動しますが、被写体の追尾には連動しません。

関連項目

- [フォーカスエリア](#)
- [測光モード](#)

シャッター半押しAEL（静止画）

シャッターボタンを半押ししたときに露出固定を行うかどうかを設定します。
ピント合わせと露出固定を別々に行いたいときに便利です。

1 MENU→1（撮影設定1）→シャッター半押しAEL→希望の設定を選ぶ。

メニュー項目の詳細

オート：

〔フォーカスモード〕を〔シングルAF〕にしているとき、シャッターボタンを半押ししてオートフォーカス後、露出固定を行う。〔フォーカスモード〕を〔AF制御自動切り換え〕にしているときは、被写体が動いているとカメラが判断した場合や、連続撮影をしている場合に、露出の固定を解除します。

入：

シャッターボタンを半押ししたときに、露出固定を行う。

切：

シャッターボタンを半押ししたときに、露出固定を行わない。ピント合わせと露出固定を別々に行いたいときに使う。
〔連続撮影〕中も露出を合わせ続けます。

ご注意

- カスタムキーまたはカスタムキーで〔再押しAEL〕が割り当てられている場合は、〔再押しAEL〕を割り当てたボタンによる操作が優先されます。

デジタルスチルカメラ
DSC-RX100M6

露出基準調整

カメラの適正露出値の基準を、測光モードごとに調整することができます。

1 MENU→ 1 (撮影設定1) → [露出基準調整] → 設定したい測光モードを選ぶ。

2 希望の基準値を選ぶ。

- -1段～+1段の範囲で、1/6段の設定幅で選べます。

測光モード

各モードについて設定した基準値は、MENU→ 1 (撮影設定1) → [測光モード] で同じモードを選択したときの自動露出に反映される。

 マルチ/  中央重点/  スポット/  画面全体平均/  ハイライト重点

ご注意

- [露出基準調整] を変更しても、露出補正の設定値は変更されません。
- スポットAEL実行時は、[ スポット] の露出基準を使用して露出値が固定されます。
- M.M (メータードマニュアル) の明るさ基準レベルも、[露出基準調整] の設定に合わせて変わります。
- 画像のExif情報には、[露出基準調整] の値が露出補正值とは別に記録されます。露出基準の変更分は、露出補正值に加算されません。
- ブラケット撮影の途中で[露出基準調整] を行くと、ブラケット撮影の枚数カウントはリセットされます。

関連項目

- [測光モード](#)

デジタルスチルカメラ
DSC-RX100M6

フラッシュモード

フラッシュの発光方法を設定できます。

- 1 コントロールホイールの  (フラッシュモード) → 希望の設定を選ぶ。
 - MENU →  1 (撮影設定1) → [フラッシュモード] でも設定できます。

メニュー項目の詳細

発光禁止：

フラッシュを発光させない。

自動発光：

光量不足や逆光と判断したとき発光する。

強制発光：

必ず発光する。

スローシンクロ：

必ず発光する。スローシンクロでシャッタースピードを遅くして撮ると、被写体だけでなく、背景も明るく撮れる。

後幕シンクロ：

露光が終わる直前のタイミングで必ず発光する。走っている自動車や歩いている人など動いている被写体を撮ると、動きの軌跡が自然な感じに撮れる。

ご注意

- 初期値は撮影モードによって変わります。
- 撮影モードによっては選べない [フラッシュモード] があります。

関連項目

- [フラッシュを使う](#)

調光補正

－3.0EVから＋3.0EVの範囲で、フラッシュ発光量を調整できます。調光補正を行うと、フラッシュの発光量のみが変化します。露出補正を行うと、シャッタースピードと絞り値とともにフラッシュの発光量も変化します。

1 MENU→1（撮影設定1）→〔調光補正〕→希望の設定を選ぶ。

- ＋側にすると発光量が増え、－側にすると発光量が減ります。

ご注意

- 撮影モードが以下の場合は、調光補正はできません。
 - － [おまかせオート]
 - － [プレミアムおまかせオート]
 - － [スイングパノラマ]
 - － [シーンセレクション]
- 被写体がフラッシュ光の最大到達距離（調光距離）より遠くにあるときは、オーバー側（＋側）の効果がでないことがあります。また近接撮影では、アンダー側（－側）の効果がでないことがあります。

関連項目

- [フラッシュを使う](#)

デジタルスチルカメラ
DSC-RX100M6

赤目軽減発光

フラッシュ撮影時に目が赤く写るのを軽減するため、フラッシュが2回以上予備発光します。

1 MENU→1（撮影設定1）→〔赤目軽減発光〕→希望の設定を選ぶ。

メニュー項目の詳細

入：
赤目軽減発光する。

切：
赤目軽減発光しない。

ご注意

- 赤目軽減の効果には個人差があります。また被写体までの距離や、予備発光を見ていないなどの条件によって、効果が現れにくいことがあります。

デジタルスチルカメラ
DSC-RX100M6

ホワイトバランス

撮影環境での光の色の影響を補正して、白いものを白く写すための機能です。画像の色合いが思った通りにならないときや、色合いを変化させて雰囲気表現したいときに使います。

1 MENU →  1 (撮影設定1) → [ホワイトバランス] → 希望の設定を選ぶ。

メニュー項目の詳細

AWB  AWB  オート /  太陽光 /  日陰 /  曇天 /  電球 /  -1 蛍光灯: 温白色 /  0 蛍光灯: 白色 /  +1 蛍光灯: 昼白色 /  +2 蛍光灯: 昼光色 /  フラッシュ /  水中オート : 被写体を照らしている光源を選ぶと、選んだ光源に適した色あいになる（プリセットホワイトバランス）。[オート] を選ぶと本機が光源を自動判別し、適した色合いに調整する。

 色温度・カラーフィルター :

光源の色に合わせて設定する（色温度）。写真用のCC（色補正）フィルターと同等の効果が得られる（カラーフィルター）。

 カスタム 1/カスタム 2/カスタム 3 :
[カスタムセット] で取得した設定を使用する。

 SET カスタムセット :
撮影する光源下で基準になる白色を取得する。
登録先の番号を選び決定する。

ヒント

- コントロールホイールの右で、微調整画面が表示され、必要に応じて色合いを微調整できます。
- 選んだ設定で思い通りの色にならないときは、ホワイトバランスブラケット撮影を行います。
- AWB 、AWB  は [AWB時の優先設定] を [雰囲気優先] または [ホワイト優先] に設定したときのみ表示されます。

ご注意

- 以下のときは、[ホワイトバランス] は [オート] に固定されます。
 - － [おまかせオート]
 - － [プレミアムおまかせオート]
 - － [シーンセレクション]
- 水銀灯やナトリウムランプのみが光源の場合、光の特性上、正確なホワイトバランスが得られません。フラッシュを発光して撮影するか、[カスタムセット] のご使用をおすすめします。

関連項目

- [\[カスタムセット\] で基準の白を取り込む](#)
- [AWB時の優先設定](#)
- [ホワイトバランスブラケット](#)

デジタルスチルカメラ
DSC-RX100M6

AWB時の優先設定

「ホワイトバランス」が「オート」のとき、白熱電球などの光源下で優先する色味を設定します。

① MENU→1（撮影設定1）→「AWB時の優先設定」→希望の設定を選ぶ。

メニュー項目の詳細

AWB
STD 標準：

通常のオートホワイトバランスで撮影する。自然な色合いになるように自動調整する。

AWB
Ambi 雰囲気優先：

光源の色味を優先する。暖かみのある雰囲気を出したいときに適している。

AWB
White ホワイト優先：

光源の色温度が低いとき、白色の再現を優先する。

関連項目

- [ホワイトバランス](#)

デジタルスチルカメラ
DSC-RX100M6

Dレンジオブティマイザー（DRO）

被写体や背景の明暗の差を細かな領域に分けて分析し、最適な明るさと階調の画像にします。

- 1 MENU→1（撮影設定1）→ [DRO/オートHDR] → [Dレンジオブティマイザー] を選ぶ。
- 2 コントロールホイールの左/右を押して、希望の設定を選ぶ。

メニュー項目の詳細

 **Dレンジオブティマイザー：オート：**

本機が自動で調整する。

 **Dレンジオブティマイザー：Lv1 ～ Dレンジオブティマイザー：Lv5：**

撮影画像の階調を画像の領域ごとに最適化する。Lv1（弱）～Lv5（強）で最適化レベルを選ぶ。

ご注意

- 以下の場合、[Dレンジオブティマイザー] は [切] に固定されます。
 - － 撮影モードが [スイングパノラマ]
 - － マルチショットNR
 - － [ピクチャーエフェクト] が [切] 以外するとき
 - － [ピクチャープロフィール] が [切] 以外するとき
- [シーンセレクション] が以下の設定のときは、[DRO/オートHDR] は [切] に固定されます。
 - － [夕景]
 - － [夜景]
 - － [夜景ポートレート]
 - － [手持ち夜景]
 - － [人物ブレ軽減]
 - － [打ち上げ花火]

上記以外の [シーンセレクション] では、[Dレンジオブティマイザー：オート] に固定されます。

- [記録設定] が [120p 100M]、[120p 60M] のときは、[DRO/オートHDR] は [切] に設定されます。
- [Dレンジオブティマイザー] 動作時は、ノイズが目立つ場合があります。特に補正効果を強めるときは、撮影後の画像を確認しながらレベルを選んでください。

デジタルスチルカメラ
DSC-RX100M6

オートHDR

露出の異なる3枚の画像を撮影し、適正露出の画像とアンダー画像の明るい部分、オーバー画像の暗い部分を合成することにより階調豊かな画像にします（HDR：High Dynamic Range）。適正露出画像と合成された画像の2枚が記録されます。

1 MENU→1（撮影設定1）→ [DRO/オートHDR] → [オートHDR] を選ぶ。

2 コントロールホイールの左/右を押して、希望の設定を選ぶ。

メニュー項目の詳細

 **オートHDR: 露出差オート：**
本機が自動で調整する。

 **オートHDR: 露出差1.0EV ～ オートHDR: 露出差6.0EV：**
被写体の明暗差に応じて露出差を設定する。1.0EV（弱）～6.0EV（強）で最適化レベルを選ぶ。
例：2.0EVでは、-1.0EVの画像、適正露出の画像、+1.0EVの画像の3枚が合成される。

ヒント

- 一度の撮影で3回シャッターが切られるため、以下に注意してください。
 - 動きや点滅発光などが無い被写体のときに設定する。
 - 構図が変わらないように撮影する。

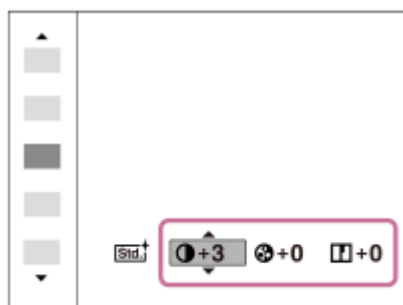
ご注意

- [ファイル形式] が、[RAW] または [RAW+JPEG] のときは設定できません。
- 撮影モードが以下のときは、[オートHDR] を設定できません。
 - [おまかせオート]
 - [プレミアムおまかせオート]
 - [スイングパノラマ]
 - [シーンセレクション]
- 以下の場合は、[オートHDR] を設定できません。
 - [マルチショットNR] のとき
 - [ピクチャーエフェクト] が [切] 以外のとき
 - [ピクチャープロファイル] が [切] 以外のとき
- 撮影後、処理が終わるまで次の撮影はできません。
- 被写体の輝度差の状況や撮影環境によっては思い通りの効果を得られないことがあります。
- フラッシュ発光時は、効果がほとんど得られません。
- コントラストが低いシーンや、大きな手ブレ、被写体ブレが発生した場合は、良好なHDR画像が撮影できていないことがあります。カメラがブレを検出した場合は、再生画像に   を表示してお知らせします。必要に応じて、構図を変えたり、ブレに注意して撮影し直してください。

クリエイティブスタイル

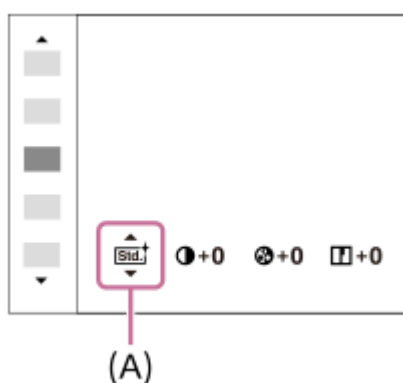
画像の仕上がりを設定でき、各画像スタイルごとにコントラスト、彩度、シャープネスを微調整できます。カメラまかせで撮影する「シーンセレクション」と異なり、露出（シャッタースピード/絞り）などを好みに応じて調整できます。

- 1 MENU→ 1（撮影設定1）→「クリエイティブスタイル」を選ぶ。
- 2 コントロールホイールの上/下で希望のクリエイティブスタイルまたはスタイルボックスを選ぶ。
- 3 （コントラスト）、（彩度）、（シャープネス）を調整したいときは、左/右で希望の項目を選び、上/下で値を選ぶ。



- 4 スタイルボックスを選んだときは、コントロールホイールの右で右側に移動し、希望のクリエイティブスタイルを選ぶ。

- スタイルボックスを使えば、同じスタイルでも微妙に設定を変えて呼び出すことができます。



(A) : スタイルボックスを選んでいるときのみ表示

メニュー項目の詳細

スタンダード :

さまざまなシーンを豊かな階調と美しい色彩で表現する。

ビビッド :

彩度とコントラストが高めになり、花、新緑、青空、海など色彩豊かなシーンをより印象的に表現する。

ニュートラル :

彩度・シャープネスが低くなり、落ち着いた雰囲気表現する。パソコンでの画像加工を目的とした撮影にも適している。

クリア :

ハイライト部分の抜けがよく、透明感のある雰囲気表現する。光の煌めき感などの表現に適している。

ディープ :

濃く深みのある色再現にする。重厚感、存在感など、重みのある表現に適している。

ライト :

明るく、すっきりとした色再現にする。爽快感、軽快感など明るい雰囲気表現に適している。

ポートレート :

肌をより柔らかくに再現する。人物の撮影に適している。

風景 :

彩度、コントラスト、シャープネスがより高くなり、鮮やかでメリハリのある風景に再現する。遠くの風景もよりくっきりする。

夕景 :

夕焼けの赤さを美しく表現する。

夜景 :

コントラストがやや低くなり、見た目の印象により近い夜景に再現する。

紅葉 :

紅葉の赤、黄をより鮮やかに表現する。

白黒 :

白黒のモノトーンで表現する。

セピア :

セピア色のモノトーンで表現する。

お好みの設定を登録する(スタイルボックス) :

任意の内容を登録できる6つのスタイルボックス( のように左側に数字が入っているもの)を選んで、右ボタンで、希望の設定を選んで登録できる。

スタイルボックスを使えば、同じスタイルでも微妙に設定を変えて呼び出せる。

【コントラスト】、【彩度】、【シャープネス】の設定

【コントラスト】、【彩度】、【シャープネス】は、【スタンダード】や【風景】などのプリセットの画像スタイルや、お好みの設定を登録できる【スタイルボックス】ごとに調整できます。

コントロールホイールの左/右を押して項目を選び、上/下で値を設定します。

コントラスト :

+側に設定するほど明暗差が強調され、インパクトのある仕上がりになる。

彩度 :

+側にするほど色が鮮やかになる。-側に設定すれば控えめで落ち着いた色に再現される。

シャープネス :

解像感を調整できる。+側に設定すれば輪郭がよりくっきりし、-側に設定すれば柔らかな表現になる。

ご注意

- 以下のときは、【クリエイティブスタイル】は【スタンダード】に固定されます。
 - 【おまかせオート】
 - 【プレミアムおまかせオート】
 - 【シーンセレクション】
 - 【ピクチャーエフェクト】が【切】以外
 - 【ピクチャープロファイル】が【切】以外
- 【白黒】、【セピア】を選択しているときは、【彩度】の調整はできません。

デジタルスチルカメラ
DSC-RX100M6

ピクチャーエフェクト

好みの効果を選んで、より印象的でアーティスティックな表現の画像を撮影できます。

1 MENU→1（撮影設定1）→〔ピクチャーエフェクト〕→希望の設定を選ぶ。

メニュー項目の詳細

 **切：**

〔ピクチャーエフェクト〕を使わない。

 **トイカメラ：**

周辺が暗く、シャープ感を抑えた柔らかな仕上がりになる。

 **ポップカラー：**

色合いを強調してポップで生き生きとした仕上がりになる。

 **ポスタリゼーション：**

原色のみまたは白黒で再現されるメリハリのきいた抽象的な仕上がりになる。

 **レトロフォト：**

古びた写真のようにセピア色でコントラストが落ちた仕上がりになる。

 **ソフトハイキー：**

明るく、透明感や軽さ、優しさ、柔らかさを持ったような仕上がりになる。

 **パートカラー：**

1色のみをカラーで残し、他の部分はモノクロに仕上がる。

 **ハイコントラストモノクロ：**

明暗を強調することで緊張感のあるモノクロに仕上がる。

 **ソフトフォーカス：**

柔らかな光につつまれたような雰囲気仕上がりになる。

 **絵画調HDR：**

絵画のように色彩やディテールが強調された仕上がりになる。

 **リッチトーンモノクロ：**

階調が豊かでディテールも再現されたモノクロに仕上がる。

 **ミニチュア：**

ミニチュア模型を撮影したように鮮やかでボケの大きな仕上がりになる。

 **水彩画調：**

にじみやぼかしを加えて水彩画のような効果をつける。

 **イラスト調：**

輪郭を強調するなどしてイラストのような効果をつける。

ヒント

- 一部の項目はコントロールホイールの左/右で詳細な設定ができます。

ご注意

- 光学ズーム以外のズームを使用するとき、ズーム倍率が高くなると〔トイカメラ〕の効果は弱くなります。
- 〔パートカラー〕のとき、被写体や撮影条件によっては設定した色が残らないことがあります。
- 以下のときは撮影後に画像処理を行うため、撮影画面で効果を確認できません。撮影後、処理が終わるまで次の撮影はできません。また、動画には適用されません。
 - －〔ソフトフォーカス〕
 - －〔絵画調HDR〕
 - －〔リッチトーンモノクロ〕

- － [ミニチュア]
 - － [水彩画調]
 - － [イラスト調]
- [絵画調HDR]、[リッチトーンモノクロ] のときは、1度の撮影で3回シャッターが切られるため、以下に注意してください。
 - － 動きや点滅発光などがない被写体のときに設定する
 - － 構図が変わらないように撮影する

またコントラストが低いシーンや、大きな手ブレ、被写体ブレが発生した場合は、良好な結果が得られない場合があります。カメラがブレを検出した場合は、再生画像に  を表示してお知らせします。必要に応じて、構図を変えたり、ブレに注意して撮影し直してください。

- 撮影モードが以下のときは設定できません。
 - － [おまかせオート]
 - － [プレミアムおまかせオート]
 - － [シーンセレクション]
 - － [スイングパノラマ]
- [ ファイル形式] が [RAW]、[RAW+JPEG] のときは設定できません。

ピクチャープロフィール

撮影する画像の発色、階調などの設定を変更できます。[ピクチャープロフィール]の各項目についてさらに詳しい使いかたは、以下のURLをご覧ください。

<http://helpguide.sony.net/di/pp/v1/ja/index.html>

ピクチャープロフィールの内容を変更する

[ガンマ]や[ディテール]などを調節して好みの画質設定を作れます。設定するときは、本機をテレビやモニターにつないで、画像を確認しながら調節してください。

- 1 MENU→1 (撮影設定1) → [ピクチャープロフィール] → 変更したいプロフィールを選ぶ。
- 2 コントロールホイールの右を押して、項目一覧に移動する。
- 3 コントロールホイールの上/下で、変更したい項目を選ぶ。
- 4 コントロールホイールの上/下で希望の設定値を選び、中央を押す。

ピクチャープロフィールのプリセットを使う

本機は[PP1]～[PP10]に撮影条件に合わせた動画用設定値をあらかじめ登録しています。

MENU→1 (撮影設定1) → [ピクチャープロフィール] → 希望の設定を選ぶ。

PP1 :

[Movie] ガンマを用いた設定例

PP2 :

[Still] ガンマを用いた設定例

PP3 :

[ITU709] ガンマを用いた自然な色合いの設定例

PP4 :

ITU709規格に忠実な色合いの設定例

PP5 :

[Cine1] ガンマを用いた設定例

PP6 :

[Cine2] ガンマを用いた設定例

PP7 :

[S-Log2] ガンマを用いた設定例

PP8 :

[S-Log3] ガンマとS-Gamut3.Cineのカラーモードを用いた設定例

PP9 :

[S-Log3] ガンマとS-Gamut3のカラーモードを用いた設定例

PP10 :

[HLG2] ガンマを用いたHDR撮影を行う場合の設定例

HDR撮影について

本機はピクチャープロフィールで[HLG]、[HLG1]～[HLG3]のガンマを選択することにより、HDR撮影を行うことができます。ピクチャープロフィールの[PP10]にHDR撮影の設定例がプリセットされています。[PP10]を使って撮影した画像をHLG (Hybrid Log-Gamma) 対応のテレビで再生することで、従来よりも広いレンジの明るさが

再現可能になります。これにより、いままで白とびや黒つぶれでうまく再現できなかったシーンも撮影可能になります。HLGは、国際規格Recommendation ITU-R BT.2100で定義されるハイダイナミックレンジテレビ方式のひとつです。

ピクチャープロファイルの項目について

ブラックレベル

黒レベルを設定する。（-15 ～ +15）

ガンマ

ガンマカーブを選ぶ。

Movie: 動画用の標準ガンマカーブ

Still: 静止画用の標準ガンマカーブ

Cine1: 暗部のコントラストをなだらかにし、かつ明部の階調変化をはっきりさせて、落ち着いた調子の映像にする（HG4609G33相当）。

Cine2: [Cine1] とほぼ同様の効果が得られるが、編集などにおいてビデオ信号100%以内で扱いたいときは、こちらを選択する（HG4600G30相当）。

ITU709: ITU709相当のガンマカーブ。

ITU709(800%): [S-Log2] または [S-Log3] 撮影前提のシーン確認用ガンマカーブ。

S-Log2: [S-Log2] のガンマカーブ。撮影後の映像処理を前提とした設定。

S-Log3: [S-Log3] のガンマカーブ。撮影後の映像処理を前提とした、よりフィルムに似た特性のガンマカーブ。

HLG: HDR撮影用のガンマカーブ。HDRの規格であるITU-R BT.2100のHybrid Log-Gamma相当の特性。

HLG1: HDR撮影用のガンマカーブ。ノイズ低減を優先したモード。ただし、撮影できるダイナミックレンジは[HLG2]、[HLG3]より狭くなる。

HLG2: HDR撮影用のガンマカーブ。ダイナミックレンジとノイズのバランスを考慮した設定。

HLG3: HDR撮影用のガンマカーブ。[HLG2] よりも広いダイナミックレンジで撮影したい場合の設定。ただし、ノイズレベルが上がる。

- [HLG1]、[HLG2]、[HLG3] は同じ特性のガンマカーブで、ダイナミックレンジとノイズのバランスを変更したものです。それぞれ出力ビデオレベルの最大値が異なり、[HLG1]: 87%、[HLG2]: 95%、[HLG3]: 100%程度になります。

ブラックガンマ

低輝度ガンマ補正をする。

[ガンマ] で [HLG]、[HLG1]、[HLG2]、[HLG3] を選択しているとき、[ブラックガンマ] は“0”固定となり設定できません。

範囲: 補正範囲を選ぶ。（広 / 中 / 狭）

レベル: 補正の強さを設定する。（-7（ブラックコンプレス最大）～ +7（ブラックストレッチ最大））

二ー

被写体の高輝度部分の信号をカメラのダイナミックレンジに収め、白飛びを防ぐため、ビデオ信号を圧縮するポイントやスロープを設定する。

[ガンマ] で [Still]、[Cine1]、[Cine2]、[ITU709(800%)]、[S-Log2]、[S-Log3]、[HLG]、[HLG1]、[HLG2]、[HLG3] を選択しているときは、[モード] を [オート] にしていると [二ー] は無効になる。[モード] を [マニュアル] にすると [二ー] の機能を使用できる。

モード: 自動/手動設定を選ぶ。

- オート: ニーポイント、ニースロープを自動で設定する。
- マニュアル: ニーポイント、ニースロープを手動で設定する。

オート設定: [モード] で [オート] を選択した場合の設定。

- マックスポイント: ニーポイントの最大値を設定する。（90% ～ 100%）
- 感度: 感度を設定する。（高 / 中 / 低）

マニュアル設定: [モード] で [マニュアル] を選択した場合の設定。

- ポイント: ニーポイントを設定する。（75% ～ 105%）
- スロープ: ニースロープの傾きを設定する。（-5（傾きが小さい）～ +5（傾きが大きい））

カラーモード

色の特性を変更する。

〔ガンマ〕で〔HLG〕、〔HLG1〕、〔HLG2〕、〔HLG3〕を選択しているとき、〔カラーモード〕は〔BT.2020〕、〔709〕のみが選択可能です。

Movie：〔ガンマ〕が〔Movie〕のときに適した色合い。

Still：〔ガンマ〕が〔Still〕のときに適した色合い。

Cinema：〔ガンマ〕が〔Cine1〕、〔Cine2〕のときに適した色合い。

Pro：ソニーの業務用カメラの標準画質に近い色合い（ITU709ガンマと組み合わせた場合）。

ITU709マトリックス：ITU709規格に忠実な色合い（ITU709ガンマと組み合わせた場合）。

白黒：彩度を0にし、白黒で撮影する。

S-Gamut：〔ガンマ〕が〔S-Log2〕のときに使用する、撮影後の映像処理を前提とした設定。

S-Gamut3.Cine：〔ガンマ〕が〔S-Log3〕のときに使用する、撮影後の映像処理を前提とした設定。デジタルシネマの色域に調整しやすい色域での撮影が可能。

S-Gamut3：〔ガンマ〕が〔S-Log3〕のときに使用する、撮影後の映像処理を前提とした設定。広い色域での撮影が可能。

BT.2020：〔ガンマ〕が〔HLG〕、〔HLG1〕、〔HLG2〕、〔HLG3〕のときの標準的な色合い。

709：〔ガンマ〕で〔HLG〕、〔HLG1〕、〔HLG2〕、〔HLG3〕を選択して、HDTV方式（BT.709）の色で記録するときの色合い。

彩度

色の鮮やかさを設定する。（-32 ～ +32）

色相

色相を設定する。（-7 ～ +7）

色の深さ

色相別に輝度を変更する。濃い色ほど効果が大きく、色のない被写体に対しては効果がない。+側にすると暗くなり、色が深く見える。-側にすると明るくなり、色が浅く見える。〔カラーモード〕を〔白黒〕にしたときにも有効です。

R（赤）：-7 ～ +7

G（緑）：-7 ～ +7

B（青）：-7 ～ +7

C（シアン）：-7 ～ +7

M（マゼンタ）：-7 ～ +7

Y（黄）：-7 ～ +7

ディテール

〔ディテール〕を設定する。

レベル：〔ディテール〕の強さを設定する。（-7 ～ +7）

調整：以下の設定値を手動で選ぶ。

- モード：自動/手動設定を選ぶ。（オート（自動最適化を行う）/ マニュアル（手動詳細設定を行う））
- V/Hバランス：垂直（V）DETAIL/水平（H）DETAILのバランスを設定する。（-2（垂直（V）が強い）～+2（水平（H）が強い））
- B/Wバランス：下側（B）DETAIL/上側（W）DETAILのバランスを選ぶ。（タイプ1（下側（B）が強い）～タイプ5（上側（W）が強い））
- リミット：〔ディテール〕のリミットレベルを設定する。（0（リミットレベルが低い（リミットされやすい））～7（リミットレベルが高い（リミットされにくい）））
- クリस्पニング：クリस्पニングレベルを設定する。（0（クリस्पニングレベルが浅い）～7（クリस्पニングレベルが深い））
- 高輝度ディテール：高輝度部分の〔ディテール〕レベルを設定する。（0 ～ 4）

ピクチャープロファイルを他のピクチャープロファイル番号にコピーするには

他のピクチャープロファイル番号に設定をコピーできます。

MENU→1（撮影設定1）→〔ピクチャープロファイル〕→〔コピー〕を選ぶ。

お買い上げ時の設定に戻すには

ピクチャープロファイル番号ごとに取り消せます。すべての設定を一度に取り消すことはできません。

MENU→1（撮影設定1）→[ピクチャープロファイル]→[リセット]を選ぶ。

ご注意

- 動画と静止画で設定値が共通のため、撮影モードを変更した場合は設定値を調節してください。
- RAW画像を「撮影時の設定」で現像した場合、下記の設定は反映されません。
 - －ブラックレベル
 - －ブラックガンマ
 - －二ー
 - －色の深さ
- [記録設定] が [120p 100M]、[120p 60M] のとき、[ブラックガンマ] は“0”固定となり設定できません。
- [ガンマ] を変えると、設定できるISOの範囲が変わります。
- S-Log2またはS-Log3ガンマ使用時は他のガンマに比べてノイズが目立ちやすくなります。撮影後映像処理の後でも気になる場合は、明るめに撮影することでノイズを軽減できる場合があります。ただし、明るく撮影した場合にはその分だけダイナミックレンジは狭くなります。S-Log2またはS-Log3を使用する場合は事前のテストで画質を確認することを強くおすすめします。
- [ITU709(800%)]、[S-Log2] または[S-Log3]に設定すると、ホワイトバランスのカスタムセットがエラーになることがあります。このようなときは、一度 [ITU709(800%)]、[S-Log2]、または [S-Log3] 以外のガンマでカスタムセットしてください。そのあと、[ITU709(800%)]、[S-Log2]、または [S-Log3] ガンマに戻してください。
- [ITU709(800%)]、[S-Log2] または[S-Log3]に設定すると、[ブラックレベル] の設定が無効になります。
- [二ー] の [マニュアル設定] で [スロープ] を+5に設定すると、[二ー] は [切] になります。
- S-Gamut、S-Gamut3.Cine、S-Gamut3はソニー独自のカラースペースですが、本機のS-Gamut設定はS-Gamutの全色域に対応しているわけではなく、S-Gamut相当の色再現を実現するための設定です。

関連項目

- [ガンマ表示アシスト](#)

デジタルスチルカメラ
DSC-RX100M6

美肌効果（静止画）

顔検出時、被写体の肌をなめらかに撮影する効果を設定します。

① MENU→1（撮影設定1）→美肌効果→希望の設定を選ぶ。

メニュー項目の詳細

OFF 切：

美肌効果を使わない。

LO 入：

美肌効果をかけて撮影する。

ヒント

- [入] を選ぶと、美肌効果をかける度合いを選ぶことができます。コントロールホイールの左/右で度合いを設定してください。

ご注意

- ファイル形式] が [RAW] のときは設定できません。
- ファイル形式] が [RAW+JPEG] のとき、RAW画像には 美肌効果] は働きません。

ピント拡大

撮影前の画像を拡大してピントの確認ができます。

〔 MFアシスト〕とは違い、コントロールリングを回さずに画像を拡大できます。

- 1 MENU→ 1（撮影設定1）→〔ピント拡大〕を選ぶ。
- 2 コントロールホイールの中央を押して画像を拡大し、コントロールホイールの上/下/左/右で拡大位置を調整する。
 - 中央を押すたびに、拡大倍率は切り替わります。
 - 拡大表示する初期倍率は、MENU→ 1（撮影設定1）→〔 ピント拡大初期倍率〕で設定できます。
- 3 ピントの確認をする。
 - （削除）ボタンを押すと拡大位置が中央に戻ります。
 - フォーカスモードが〔マニュアルフォーカス〕の場合は、拡大表示中にピントの調整を行えます。シャッターボタンを半押しすると拡大表示は解除されます。
 - 拡大表示する時間は、MENU→ 1（撮影設定1）→〔ピント拡大時間〕で設定できます。
- 4 シャッターボタンを押し込み撮影する。

タッチ操作でピント拡大を行うには

モニターをタッチして被写体を拡大表示し、ピントの調整を行うことができます。あらかじめ、〔タッチ操作〕を〔入〕に設定し〔タッチパネル/タッチパッド〕を適切に設定してください。モニター撮影時は、フォーカスモードが〔マニュアルフォーカス〕のときに、ピントを合わせたい場所をダブルタップして〔ピント拡大〕ができます。ファインダー撮影時は、モニターをダブルタップすると画面中央に枠が表示され、ドラッグで枠の位置を移動できます。コントロールホイールの中央を押すと、画像を拡大表示します。

ヒント

- ピント拡大時、タッチパネルをドラッグして拡大位置を動かすことができます。
- ピント拡大を終了したい場合は、もう一度モニターをダブルタップしてください。シャッターボタンを半押ししても終了できます。

関連項目

- [MFアシスト（静止画）](#)
- [ピント拡大時間](#)
- [ピント拡大初期倍率（静止画）](#)
- [カスタムキー（静止画/動画/再生）](#)
- [タッチ操作](#)

デジタルスチルカメラ
DSC-RX100M6

ピント拡大時間

〔 MFアシスト〕または〔ピント拡大〕機能で拡大表示する時間を設定します。

1 MENU→ 1（撮影設定1）→〔ピント拡大時間〕→希望の設定を選ぶ。

メニュー項目の詳細

2秒：

拡大表示を2秒間行う。

5秒：

拡大表示を5秒間行う。

無制限：

拡大時間を無制限にする。シャッターボタンの操作で解除される。

関連項目

- [ピント拡大](#)
- [MFアシスト（静止画）](#)

デジタルスチルカメラ
DSC-RX100M6

ピント拡大初期倍率（静止画）

「ピント拡大」を使って画像を拡大するときに、最初に表示する倍率を設定します。フレーミングをしやすい設定を選んでください。

1 MENU→1（撮影設定1）→ピント拡大初期倍率→希望の設定を選ぶ。

メニュー項目の詳細

x1.0 :

撮影画面と同じ倍率で表示する。

x5.3 :

5.3倍に拡大する。

関連項目

- [ピント拡大](#)

MFアシスト（静止画）

マニュアルフォーカス撮影やダイレクトマニュアルフォーカス撮影でピント合わせをするときに、画像を自動で拡大表示してピントを合わせやすくします。

- 1 MENU→1（撮影設定1）→ [ MFアシスト] → [入] を選ぶ。
- 2 コントロールリングを回してピントを合わせる。
 - 画像が拡大される。コントロールホイールの中央を押して、さらに拡大することもできる。

ヒント

- 拡大表示する時間は、MENU→1（撮影設定1）→ [ピント拡大時間] で設定できます。

ご注意

- 動画撮影のとき、 [ MFアシスト] 機能は使用できません。 [ピント拡大] 機能を使用してください。

関連項目

- [マニュアルフォーカス](#)
- [ダイレクトマニュアルフォーカス（DMF）](#)
- [ピント拡大時間](#)

デジタルスチルカメラ
DSC-RX100M6

ピーキング設定

マニュアルフォーカス撮影や、ダイレクトマニュアルフォーカス撮影のときに、ピントが合った部分の輪郭を強調するピーキングの設定をします。

1 MENU→1（撮影設定1）→〔ピーキング設定〕→希望の設定項目を選ぶ。

メニュー項目の詳細

ピーキング表示：

ピーキング表示をするかどうかを設定する。

ピーキングレベル：

ピントが合った部分の輪郭を強調するレベルを設定する。

ピーキング色：

ピントが合った部分の輪郭を強調する色を選ぶ。

ご注意

- 画像のシャープな部分をピントが合ったと判断するため、被写体によって強調表示効果が異なります。
- HDMI接続時は、接続先の機器にはピーキングが表示されません。

関連項目

- [マニュアルフォーカス](#)
- [ダイレクトマニュアルフォーカス（DMF）](#)

個人顔登録（新規登録）

あらかじめ顔情報を登録しておくことで、登録された顔を優先してピント合わせを行います。撮影時は「AF時の顔優先」と「登録顔優先」を「入」に設定してください。

- 1 MENU→1（撮影設定1）→「個人顔登録」→「新規登録」を選ぶ。
- 2 登録したい顔をガイド枠内に合わせて、シャッターボタンを押して撮影する。
- 3 確認メッセージが表示されるので、「実行」を選ぶ。

ご注意

- 最大8人の顔を登録できます。
- 明るい場所で、正面を向いて撮影してください。帽子やマスク、サングラスなどで顔が隠れると、正しく登録できない場合があります。

関連項目

- [登録顔優先](#)
- [AF時の顔優先設定](#)
- [スマイルシャッター](#)

デジタルスチルカメラ
DSC-RX100M6

個人顔登録（優先順序変更）

複数の顔を登録したときは、登録した順で優先順位が設定されます。優先順を変更することができます。

- 1 MENU→1（撮影設定1）→〔個人顔登録〕→〔優先順序変更〕を選ぶ。
- 2 優先度を変更したい顔を選ぶ。
- 3 移動先を選ぶ。

関連項目

- [登録顔優先](#)
- [AF時の顔優先設定](#)
- [スマイルシャッター](#)

デジタルスチルカメラ
DSC-RX100M6

個人顔登録（削除）

登録した顔を削除できます。

1 MENU→1（撮影設定1）→〔個人顔登録〕→〔削除〕を選ぶ。

〔全て削除〕を選ぶと、すべての顔をまとめて削除できます。

ご注意

- 〔削除〕を行ってもカメラ内には登録した顔のデータが残っています。カメラ内からも削除したい場合は、〔全て削除〕を行ってください。

デジタルスチルカメラ
DSC-RX100M6

登録顔優先

「AF時の顔優先」が「入」のとき、「個人顔登録」で登録した顔を優先してピント合わせを行うかどうかを設定します。

1 MENU→ 1（撮影設定1）→「登録顔優先」→希望の設定を選ぶ。

メニュー項目の詳細

入：

「個人顔登録」で登録した顔を優先してピントを合わせる。

切：

登録した顔を優先せずにピントを合わせる。

関連項目

- [AF時の顔優先設定](#)
- [個人顔登録（新規登録）](#)
- [個人顔登録（優先順序変更）](#)

スマイルシャッター

カメラが笑顔を検出し、自動で撮影します。

1 MENU→ 1 (撮影設定1) → [スマイルシャッター] →希望の設定を選ぶ。

メニュー項目の詳細

切：

[スマイルシャッター] を使わない。

入：

笑顔を検出して自動撮影する。検出する笑顔の感度を、[入：微笑み]、[入：普通の笑顔]、[入：大笑い] から選ぶことができる。

スマイル撮影のテクニック

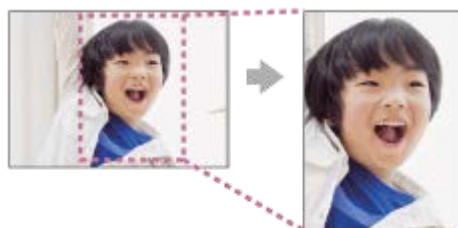
- 前髪が目にかからないようにし、目は細めにする。
- 帽子やマスク、サングラスなどで顔が隠れないようにする。
- カメラに対して正面を向き、なるべく水平になるようにする。
- 口をあけてしっかり笑う。歯が見えているほうが笑顔を検出しやすくなる。
- スマイルシャッター中にシャッターボタンを押しても撮影できる。撮影後はスマイルシャッターに戻る。

ご注意

- 以下のときは、[スマイルシャッター] は使えません。
 - － [スイングパノラマ]
 - － [ピクチャーエフェクト]
 - － ピント拡大時
 - － [シーンセレクション] が [風景]、[夜景]、[夕景]、[手持ち夜景]、[人物ブレ軽減]、[ペット]、[料理]、[打ち上げ花火]
 - － 動画撮影時
 - － ハイフレームレート撮影時
- 最大8人の顔を検出できます。
- 状況によっては、顔が検出できなかったり、顔以外を誤検出することがあります。
- 笑顔が検出されない場合はスマイル検出感度を設定してください。
- [スマイルシャッター] 中にロックオンAFで追尾させると、その顔だけがスマイル検出の対象になります。

オートフレーミング（静止画）

人物の顔やマクロ撮影する被写体、またロックオンAFでとらえた被写体を検出して撮影すると、自動的に最適な構図に切り出し（トリミング）された画像が記録されます。トリミング前の画像と、トリミングされた画像の2枚が記録されます。トリミングされた画像は、オリジナル画像と同じサイズで記録されます。



① MENU→ 1（撮影設定1）→ オートフレーミング→希望の設定を選ぶ。

メニュー項目の詳細

切：
構図切り出しを使わない。

オート：
自動的に最適な構図を切り出す。

ご注意

- 撮影モード [スイングパノラマ]、[動画]、[ハイレームレート]、[シーンセレクション] の [手持ち夜景]、[スポーツ]、[人物ブレ軽減] 時は使用できません。
- 撮影状況によっては最適な構図でトリミングされない場合があります。
- [ファイル形式] が [RAW]、[RAW+JPEG] のときは設定できません。
- 以下の場合、 [オートフレーミング] は使用できません。
 - － [ドライブモード] が [連続撮影]、[セルフタイマー（連続）]、[連続ブラケット]、[1枚ブラケット]、[ホワイトバランスブラケット]、[DROブラケット]
 - － ISO感度が [マルチショットNR]
 - － [DRO/オートHDR] が [オートHDR]
 - － 光学ズーム以外のズーム
 - － マニュアルフォーカス
 - － [ピクチャーエフェクト] が [ソフトフォーカス]、[絵画調HDR]、[リッチトーンモノクロ]、[ミニチュア]、[水彩画調]、[イラスト調]

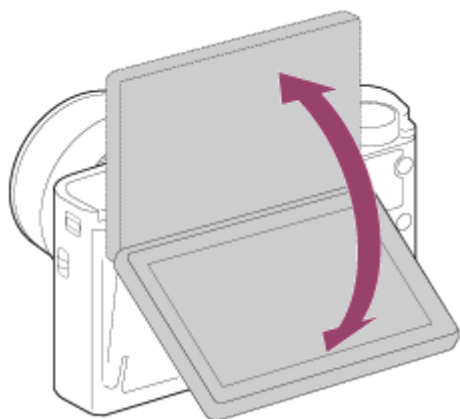
デジタルスチルカメラ
DSC-RX100M6

自分撮りセルフタイマー

モニターを回転させて、画面をチェックしながら撮影できます。

① MENU→1（撮影設定1）→〔自分撮りセルフタイマー〕→〔入〕を選ぶ。

② モニターを上側へ約180度回転させてレンズを自分に向ける。



③ シャッターボタンを押す。
3秒後にセルフタイマーで撮影します。

ヒント

- 3秒セルフタイマー以外のドライブモードを使用したい場合は、モニターを上側へ約180度回転させる前に〔自分撮りセルフタイマー〕を〔切〕に設定してください。

デジタルスチルカメラ
DSC-RX100M6

動画：露出モード

動画撮影時の露出モードを設定できます。

- 1 モードダイヤルを  (動画) にする。
- 2 MENU →  2 (撮影設定2) → [ 露出モード] → 希望の設定を選ぶ。
- 3 MOVIE (動画) ボタンを押して撮影を開始する。
 - 撮影を終了するには、もう一度MOVIEボタンを押します。

メニュー項目の詳細

 **プログラムオート：**
露出（シャッタースピードと絞り）は本機が自動設定する。

 **絞り優先：**
絞りを手動設定する。

 **シャッタースピード優先：**
シャッタースピードを手動設定する。

 **マニュアル露出：**
露出（シャッタースピードと絞り）を手動設定する。

デジタルスチルカメラ
DSC-RX100M6

HFR（ハイフレームレート）：露出モード

撮りたい被写体や効果に合わせて、HFR撮影時の露出モードを選んで撮影します。

- 1 モードダイヤルを**HFR**（ハイフレームレート）にする。
- 2 MENU→2（撮影設定2）→[**HFR** 露出モード]→希望の設定を選ぶ。

メニュー項目の詳細

HFR プログラムオート：

露出（シャッタースピードと絞り）は本機が自動設定する。

HFR 絞り優先：

絞りを手動設定する。

HFR シャッタースピード優先：

シャッタースピードを手動設定する。

HFR マニュアル露出：

露出（シャッタースピードと絞り）を手動設定する。

関連項目

- [スーパースローモーション撮影をする（ハイフレームレート設定）](#)

記録方式（動画）

動画を記録するときの記録方式を設定します。

① MENU→ 2（撮影設定2）→ 記録方式 →希望の設定を選ぶ。

メニュー項目の詳細

 記録方式	特徴	
XAVC S 4K	4K解像度（3840×2160）で記録できます。	ソフトウェアPlayMemories Homeでパソコンに保存できます。
XAVC S HD	AVCHDと比べると情報量が多くなるため、より鮮明な画像を記録できます。	
AVCHD	パソコン以外の保存機器との互換性に優れています。	ソフトウェアPlayMemories Homeでパソコンに保存または対応メディアを作成できます。

ご注意

- XAVC S 4K またはXAVC S HD 120p動画時の連続撮影時間は約5分です。モニターに、残り録画可能時間が表示されます。4K動画/HD 120p動画撮影後、再度4K動画/HD 120p動画撮影を行う場合は、電源OFF状態でしばらく待ってから撮影してください。撮影時間が5分未満でも、撮影環境温度によっては、機器保護のため停止する場合があります。
-  記録方式 が [AVCHD] の場合は、1つの動画ファイルは約2GBで制限されます。連続記録中のファイルサイズが約2GBになると、自動的に新しいファイルが作成されます。
-  記録方式 を [XAVC S 4K] に設定し、本機をHDMI機器に接続しながら動画を撮影すると、モニターには画像が表示されません。

記録設定（動画）

動画撮影時のフレームレートとビットレートを設定します。

1 MENU→ 2（撮影設定2）→ 記録設定→希望の設定を選ぶ。

- ビットレートが高いほど高画質で撮影できます。

メニュー項目の詳細

 記録方式 が [XAVC S 4K] のとき

 記録設定	ビットレート	説明
30p 100M	約100 Mbps	3840×2160（30p）で撮影する。
30p 60M	約60 Mbps	3840×2160（30p）で撮影する。
24p 100M	約100 Mbps	3840×2160（24p）で撮影する。
24p 60M	約60 Mbps	3840×2160（24p）で撮影する。

 記録方式 が [XAVC S HD] のとき

 記録設定	ビットレート	説明
60p 50M	約50 Mbps	1920×1080（60p）で撮影する。
60p 25M	約25 Mbps	1920×1080（60p）で撮影する。
30p 50M	約50 Mbps	1920×1080（30p）で撮影する。
30p 16M	約16 Mbps	1920×1080（30p）で撮影する。
24p 50M	約50 Mbps	1920×1080（24p）で撮影する。
120p 100M	約100 Mbps	1920×1080（120p）のハイスピード記録を行う。120 fpsの動画を記録できる。 ● 対応する編集機器を使って、よりなめらかなスローモーション映像を作ることができます。
120p 60M	約60 Mbps	1920×1080（120p）のハイスピード記録を行う。120 fpsの動画を記録できる。 ● 対応する編集機器を使って、よりなめらかなスローモーション映像を作ることができます。

 記録方式 が [AVCHD] のとき

 記録設定	ビットレート	説明
60i 24M(FX)	最大24 Mbps	1920×1080（60i）で撮影する。
60i 17M(FH)	平均約17 Mbps	1920×1080（60i）で撮影する。

ご注意

- [ 記録設定] を [60i 24M(FX)] にして撮影した動画からAVCHD記録ディスクを作成すると、画質が変換されるため、ディスク作成に時間がかかります。画質を変換せずに保存したい場合は、ブルーレイディスクをお使いください。
- 以下のとき、[120p] は選べません。
 - － [おまかせオート]
 - － [プレミアムおまかせオート]
 - － [シーンセレクション]

関連項目

- [スーパースローモーション撮影をする（ハイフレームレート設定）](#)

スーパースローモーション撮影をする（ハイフレームレート設定）

記録フォーマットより高いフレームレートで撮影することによって、なめらかなスーパースローモーション映像を記録できます。

1 モードダイヤルを**HFR**（ハイフレームレート）にする。

撮影設定画面が表示される。



2 MENU→2（撮影設定2）→ [**HFR** ハイフレームレート設定] を選び、[**HFR** 記録設定]、[**HFR** フレームレート]、[**HFR** 優先設定]、[**HFR** 録画タイミング] を希望の設定にする。

- MENU→2（撮影設定2）→ [**HFR** 露出モード] を選び、希望の露出モードに設定することができます。

3 被写体にカメラを向け、ピントなどを合わせる。

- フォーカスモード、ISO感度など、そのほかの撮影設定も変更することができます。

4 コントロールホイールの中央を押す。

撮影スタンバイ画面が表示される。



- 撮影スタンバイ中は、画面の中央に「撮影スタンバイ」が表示されます。「撮影スタンバイ」が表示されている間は、露出の調整、フォーカスの調整、ズーム操作などはできません。撮影設定を変更したい場合は、もう一度コントロールホイールの中央を押して撮影設定画面に戻ってください。

5 MOVIEボタンを押す。

[**HFR** 録画タイミング] が [スタートトリガー] のとき：

取り込み（撮影）がスタートする。再度MOVIEボタンを押すか、録画可能時間を過ぎたときに取り込みが終了し、メモリーカードへ記録される。

[**HFR** 録画タイミング] が [エンドトリガー] / [エンドトリガー ハーフ] のとき：

取り込みが終了し、メモリーカードへ記録される。

メニュー項目の詳細

HFR 記録設定 :

記録する動画のフレームレートを [60p 50M]、[30p 50M]、[24p 50M] から選ぶ。

HFR フレームレート :

撮影時のフレームレートを [240fps]、[480fps]、[960fps] から選ぶ。

HFR 優先設定 :

画質を優先する [画質優先] か、撮影時間が長くなる [撮影時間優先] かを選ぶ。

HFR 録画タイミング :

MOVIEボタンを押してからある一定の時間を記録するか ([スタートトリガー])、MOVIEボタンを押すまでのある一定の時間を記録するか ([エンドトリガー]、[エンドトリガー ハーフ]) を選ぶ。

フレームレートについて

スーパースローモーション撮影では、1秒間の撮影コマ数以上のシャッタースピードで撮影します。例えば、[**HFR** フレームレート] を [960fps] に設定した場合、1秒間で960コマ撮影するため、1コマのシャッタースピードは約 1/1000秒より高速になります。このシャッタースピードを確保するために撮影時には十分な明るさが必要になります。明るさが不足する場合はISO感度が上がるため、ノイズが目立ちやすくなります。

最短撮影距離について

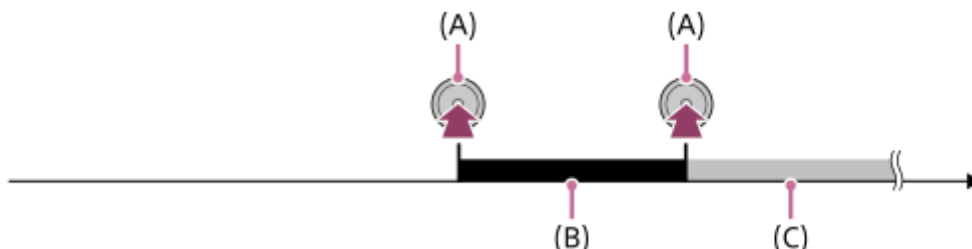
マクロ撮影などで被写体に近づきすぎるとピントが合いません。カメラを最短撮影距離（レンズ先端からW側約8cm、T側約100cm）より離して撮影してください。

録画のタイミングについて

[**HFR** 録画タイミング] の設定により、MOVIEボタンを押すタイミングと録画される動画の時間の関係は以下のようになります。

【スタートトリガー】

MOVIEボタンを押したタイミングで取り込み（撮影）を開始します。MOVIEボタンをもう一度押すか最大録画可能時間が経過すると、取り込みが終了しメモリーカードへの記録が開始されます。



(A) : MOVIEボタンを押すタイミング

(B) : 録画される部分

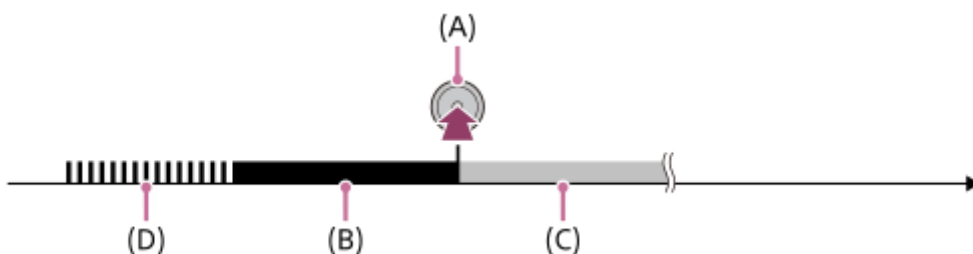
(C) : メモリーカードに記録中（次の撮影は行えません）

【エンドトリガー】 / 【エンドトリガー ハーフ】

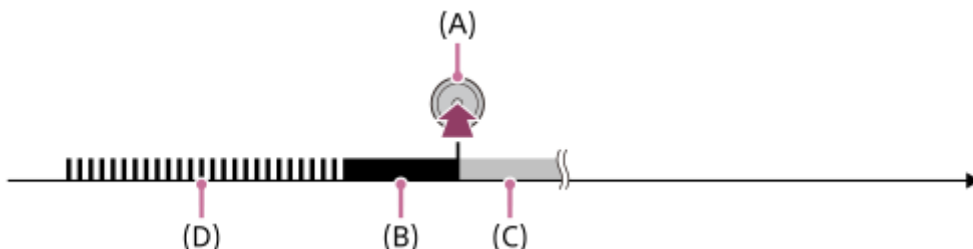
撮影スタンバイ画面になった時点からバッファリング（動画を一時的にカメラ内部に撮りためておくこと）を開始します。撮影データがバッファリング容量いっぱいになると、古いデータから順に上書きされます。MOVIEボタンを押すと、その時点から遡って一定時間分の動画がメモリーカードに記録されます。

- 【エンドトリガー】 のときは最大録画可能時間分の動画が、【エンドトリガー ハーフ】 のときは最大録画可能時間の半分の時間分の動画が記録されます。【エンドトリガー ハーフ】 は、メモリーカードへの記録にかかる時間も【エンドトリガー】 に比べて短くなります。

エンドトリガー



エンドトリガー ハーフ



- (A) : MOVIEボタンを押すタイミング
 (B) : 録画される部分
 (C) : メモリーカードに記録中（次の撮影は行えません）
 (D) : バッファリング中

撮影をやり直したいときは

記録中の画面で「キャンセル」を選ぶと、記録を中止できます。ただし、中止したところまでの動画は保存されます。

再生速度について

「**HFR** フレームレート」と「**HFR** 記録設定」の設定によって、再生速度は以下のようになります。

HFR フレームレート	HFR 記録設定		
	24p 50M	30p 50M	60p 50M
240fps	10倍スロー	8倍スロー	4倍スロー
480fps	20倍スロー	16倍スロー	8倍スロー
960fps	40倍スロー	32倍スロー	16倍スロー

「**HFR** 優先設定」と撮影時間について

HFR 優先設定	HFR フレームレート	イメージセンサー読み出し有効画素数	撮影時間
画質優先	240fps	1824×1026	約4秒
	480fps	1824×616	約3秒
	960fps	1244×420	
撮影時間優先	240fps	1824×616	約7秒
	480fps	1292×436	
	960fps	912×308	約6秒

再生時間について

例えば、「**HFR** 記録設定」を「24p 50M」、「**HFR** フレームレート」を「960fps」、「**HFR** 優先設定」を「撮影時間優先」に設定し、約4秒間撮影した場合、再生速度は40倍スローとなることから、再生時間は約160秒（約2分40秒）になります。

ご注意

- 音声は記録されません。
- 記録される動画はXAVC S HDフォーマットになります。
- MOVIEボタンを押してから記録が終わるまでに時間がかかる場合があります。撮影スタンバイ画面に切り換わるまで待って、次の撮影を行ってください。

関連項目

- [動画の記録フォーマットについて](#)
- [使用できるメモリーカード](#)
- [HFR（ハイフレームレート）：露出モード](#)

4-737-296-01(2) Copyright 2018 Sony Corporation

デジタルスチルカメラ
DSC-RX100M6

画質(デュアル記録)

動画記録中に撮影する静止画の画質を設定します。

① MENU→2 (撮影設定2) → [画質(デュアル記録)] →希望の設定を選ぶ。

メニュー項目の詳細

エクストラファイン/ ファイン/ スタANDARD

デジタルスチルカメラ
DSC-RX100M6

画像サイズ(デュアル記録)

動画記録中に撮影する静止画の画像サイズを設定します。

1 MENU→2 (撮影設定2) → [画像サイズ(デュアル記録)] →希望の設定を選ぶ。

メニュー項目の詳細

L: 17M/ M: 7.5M/ S: 4.2M

オートデュアル記録

動画記録中に静止画を自動で撮影するかどうかを設定します。人物を含む印象的な構図を検出したときに撮影します。また、自動で撮影した静止画を、最適な構図に切り出し（トリミング）した画像が記録されることがあります。トリミングされた画像が記録される場合、トリミング前の画像とトリミングされた画像の2枚が記録されます。

- 1 MENU→2（撮影設定2）→[オートデュアル記録]→希望の設定を選ぶ。
- 2 MOVIEボタンを押して、動画の撮影を開始する。
 - 静止画は、自動で撮影されます。撮影時、画面に[キャプチャー]が表示されます。
- 3 もう一度MOVIEボタンを押して、動画の撮影を終了する。
 - 記録した静止画や動画は、（再生）ボタンを押して確認できます。

メニュー項目の詳細

切：

オートデュアル記録を行わない。

入：撮影頻度 低/入：撮影頻度 標準/入：撮影頻度 高：

オートデュアル記録を行い、撮影頻度を指定する。

- 顔の位置や向き、表情などを認識して、良い構図とされる静止画を撮影します。

ヒント

- 静止画の画像サイズ/画質は、MENU → 2（撮影設定2）→ [画像サイズ(デュアル記録)] / [画質(デュアル記録)] で選べます。
- オートデュアル記録を行う設定にしても、シャッターボタンを押して静止画を撮影できます。

ご注意

- 撮影状況によっては、最適なタイミングで撮影されない場合があります。

関連項目

- [動画を撮りながら静止画を撮る（デュアル記録）](#)
- [オートフレーミング（静止画）](#)

プロキシ記録

XAVC S動画を記録するとき、低ビットレートのプロキシ動画を同時に記録するかどうかを設定します。プロキシ動画はファイルサイズが小さいため、スマートフォンへの転送やWebサイトへのアップロードに適しています。

1 MENU→ **2** (撮影設定2) → [**Px** プロキシ記録] →希望の設定を選ぶ。

メニュー項目の詳細

入：
プロキシ動画を同時に記録する。

切：
プロキシ動画を同時に記録しない。

ヒント

- プロキシ動画は、XAVC S HDフォーマット（1280×720）9Mbpsで記録されます。プロキシ動画のフレームレートはオリジナル動画と同じになります。
- 再生画面（1枚再生画面または一覧表示画面）には、プロキシ動画は表示されません。プロキシ動画が同時に記録された動画には、**Px**が表示されます。

ご注意

- プロキシ動画は本機では再生できません。
- 下記の場合はプロキシ記録はできません。
 - － [ 記録方式] が [AVCHD] のとき
 - － [ 記録方式] が [XAVC S HD] で、 [ 記録設定] が [120p] のとき
 - － [ 手ブレ補正] が [インテリジェントアクティブ] のとき
- プロキシ動画がある動画を削除/プロテクトすると、オリジナル動画とプロキシ動画の両方が削除/プロテクトされます。オリジナル動画だけ、またはプロキシ動画だけを削除/プロテクトすることはできません。
- 本機では動画の編集はできません。

関連項目

- [スマートフォン転送機能：転送対象（プロキシ動画）](#)
- [動画の記録フォーマットについて](#)
- [一覧表示で再生する（一覧表示）](#)
- [使用できるメモリーカード](#)

AF駆動速度（動画）

動画撮影時、オートフォーカスのピント合わせの速度を選べます。

① MENU→ 2（撮影設定2）→ AF駆動速度 →希望の設定を選ぶ。

メニュー項目の詳細

高速：

駆動速度を速くする。スポーツの撮影など、機動性に富む被写体の撮影を行うときに効果的です。

標準：

駆動速度を標準にする。

低速：

駆動速度を遅くする。被写体の移り変わり時に、なめらかにピント送りします。

ご注意

-  記録設定 が [120p] のときは、 AF駆動速度 を使用できません。

デジタルスチルカメラ
DSC-RX100M6

AF被写体追従感度（動画）

動画撮影時、オートフォーカスの追従感度を選べます。

① MENU→2（撮影設定2）→AF被写体追従感度→希望の設定を選ぶ。

メニュー項目の詳細

敏感：

追従感度を高くする。動きの速い被写体を撮影するときは、〔敏感〕を選ぶと便利。

標準：

追従感度を標準にする。障害物があったり、人混みで、狙った被写体にピントを合わせ続けたい場合はこちらが便利。

ご注意

- 記録設定〕が〔120p〕のときは、AF被写体追従感度〕を使用できません。

オートスローシャッター（動画）

動画撮影時、被写体が暗いときに自動でシャッタースピードを遅くするかどうかを設定します。

① MENU→ 2（撮影設定2）→ オートスローシャッター →希望の設定を選ぶ。

メニュー項目の詳細

入：
オートスローシャッターを使う。暗い場所での撮影時、自動的にシャッタースピードが遅くなる。シャッタースピードを遅くすることで、暗い場所を撮影する際に発生する映像のノイズ感を改善することができる。

切：
オートスローシャッターを使わない。〔入〕のときよりも画像が暗くなるが、被写体のブレが少なく、動きがよりなめらかに撮影できる。

ご注意

- 以下のときは、 オートスローシャッター は働きません。
 - －ハイフレームレート撮影時
 - － s（シャッタースピード優先）
 - － M（マニュアル露出）
 - －〔ISO感度〕が〔ISO AUTO〕以外するとき

デジタルスチルカメラ
DSC-RX100M6

音声記録

動画撮影時に音声を記録するかどうかを設定します。撮影中のレンズやカメラの動作音などが記録されるのを防ぎたい場合は「切」を選びます。

1 MENU→ **2** (撮影設定2) → 「音声記録」 → 希望の設定を選ぶ。

メニュー項目の詳細

入：
撮影時に音声を記録する（ステレオ）。

切：
撮影時に音声を記録しない。

デジタルスチルカメラ
DSC-RX100M6

マイク基準レベル

録音時のマイクレベルを選べます。

1 MENU→ **2** (撮影設定2) → [マイク基準レベル] →希望の設定を選ぶ。

メニュー項目の詳細

標準：

周囲の音を一定のレベル内におさめて録音する。日常の会話の録音に適している。

低：

周囲の音を忠実に録音する。演奏会などで、臨場感のある音の録音に適している。

デジタルスチルカメラ
DSC-RX100M6

風音低減

内蔵マイクからの入力音声の低域音をカットして、風音を低減できます。

1 MENU→ **2** (撮影設定2) → [風音低減] → 希望の設定を選ぶ。

メニュー項目の詳細

入：

風音低減する。

切：

風音低減しない。

ご注意

- 風が強く吹いていない場所で [入] にすると、風以外の音も小さく記録される場合があります。

デジタルスチルカメラ
DSC-RX100M6

手ブレ補正（動画）

動画撮影時の手ブレ補正の設定をします。三脚（別売）を利用するときは、[切] にすると自然な画像になります。

① MENU→ 2（撮影設定2）→ 手ブレ補正 →希望の設定を選ぶ。

メニュー項目の詳細

インテリジェントアクティブ：

[アクティブ] よりも強い手ブレ補正を得る。

アクティブ：

強い手ブレ補正効果を得る。

スタンダード：

比較的安定した状態で、手ブレ補正を行い撮影する。

切：

手ブレ補正を行わない。

ご注意

-  手ブレ補正 の設定を変更すると、画角が変わります。
-  記録方式 が [XAVC S 4K] のとき、[インテリジェントアクティブ]、[アクティブ] は選べません。

マーカー表示（動画）

動画撮影時に、 マーカー設定 で設定したマーカーをモニターまたはファインダーに表示するかを設定します。

① MENU →  2（撮影設定2） →  マーカー表示 → 希望の設定を選ぶ。

メニュー項目の詳細

入：
マーカーを表示する。マーカーは記録されない。

切：
マーカーを表示しない。

ご注意

- マーカー表示は、モードダイヤルが （動画）のとき、または動画記録中に表示されます。
- [ピント拡大] 中は、マーカーを表示できません。
- マーカー表示は、モニターまたはファインダーのみに表示されます。（外部に出力することはできません。）

関連項目

- [マーカー設定（動画）](#)

デジタルスチルカメラ
DSC-RX100M6

マーカー設定（動画）

動画撮影時に表示されるマーカーを設定します。

1 MENU →  **2** （撮影設定2） → [ マーカー設定] → 希望の設定を選ぶ。

メニュー項目の詳細

センター：

撮影画面の中心にセンターマーカーを表示するかどうかを設定する。

[切] / [入]

アスペクト：

アスペクトマーカー表示の設定をする。

[切] / [4:3] / [13:9] / [14:9] / [15:9] / [1.66:1] / [1.85:1] / [2.35:1]

セーフティゾーン：

セーフティゾーン表示の設定をする。一般的な家庭用テレビで受像できる範囲の目安になる。

[切] / [80%] / [90%]

ガイドフレーム：

ガイドフレームを表示するかどうかを設定する。被写体が水平/垂直になっているかを確認できる。

[切] / [入]

ヒント

- 複数のマーカーを同時に表示できます。
- [ガイドフレーム] の交点に被写体を置くと、バランスの良い構図になります。

シャッターボタンで動画撮影

MOVIE（動画）ボタンの代わりに、より大きく押しやすいシャッターボタンを使って、動画撮影の開始/停止を行うことができます。

1 MENU →  2（撮影設定2） → **【シャッターボタンで動画撮影】** → 希望の設定を選ぶ。

メニュー項目の詳細

する:

撮影モードが【動画】のとき、またはハイフレームレート撮影時、シャッターボタンでも動画撮影を行うことができます。

しない:

シャッターボタンで動画撮影を行わない。

ヒント

- 【シャッターボタンで動画撮影】を【する】に設定していても、MOVIEボタンで撮影開始/停止することもできます。
- 【シャッターボタンで動画撮影】を【する】に設定すると、 レックコントロール で外部録画再生機器に動画の録画を開始/停止するときも、シャッターボタンで操作できるようになります。

関連項目

- [動画を撮影する](#)

デジタルスチルカメラ
DSC-RX100M6

シャッター方式（静止画）

メカシャッター方式と電子シャッター方式のどちらで撮影するか設定することができます。

1 MENU →  **2**（撮影設定2） → [ シャッター方式] → 希望の設定を選ぶ。

メニュー項目の詳細

オート：

撮影状況やシャッタースピードに応じて、シャッター方式が自動で切り換わる。

メカシャッター：

メカシャッター方式のみで撮影する。

電子シャッター：

電子シャッター方式のみで撮影する。

ヒント

- 以下の場合は、 [ シャッター方式] を [オート] または [電子シャッター] に設定してください。
 - － 快晴の屋外、ビーチ、雪山など明るい環境下で高速シャッターで撮影するとき
 - － 連続撮影の撮影速度を上げて撮影したいとき
- 以下の場合は、 [ シャッター方式] を [オート] または [メカシャッター] に設定してください。
 - － シャッタースピードを1/100秒より速くしてフラッシュ撮影したいとき
 - － 被写体の動きやカメラ本体の動きによる画像の歪みが気になるとき

ご注意

- 電子シャッター方式で撮影すると、被写体の動きやカメラ本体の動きによって画像に歪みが起こることがあります。
- 電子シャッター方式で撮影すると、瞬間的な光（他のカメラのフラッシュ発光など）や蛍光灯などのちらつきのある照明下で撮影した場合、帯状の明暗が撮影される場合があります。
- [ シャッター方式] を [電子シャッター] に設定していても、電源オフ時、まれにシャッター音が鳴る場合がありますが、故障ではありません。
- 以下のときは、 [ シャッター方式] を [電子シャッター] に設定していても、メカシャッターが動作します。
 - － [ホワイトバランス] の [カスタムセット] で基準の白を取り込むとき
 - － [個人顔登録]
- [ シャッター方式] を [電子シャッター] に設定しているとき、以下の機能は使用できません。
 - －  長秒時NR
 - － バルブ撮影

関連項目

- [フラッシュを使う](#)

デジタルスチルカメラ
DSC-RX100M6

メモリーカードなしリリース

メモリーカードが入っていない状態で、シャッターが切れるかどうかを設定します。

1 MENU→2（撮影設定2）→[メモリーカードなしリリース]→希望の設定を選ぶ。

メニュー項目の詳細

許可：

メモリーカードが入っていてもシャッターが切れる。

禁止：

メモリーカードが入っていないとシャッターが切れない。

ご注意

- メモリーカードを入れていない状態では、撮影した画像は保存されません。
- お買い上げ時の設定は[許可]になっていますので、実際の撮影のときは[禁止]にしておくことをおすすめします。

デジタルスチルカメラ
DSC-RX100M6

手ブレ補正（静止画）

手ブレ補正機能を使うかどうかを設定します。

1 MENU→2（撮影設定2）→手ブレ補正→希望の設定を選ぶ。

メニュー項目の詳細

入：

手ブレ補正を行う。

切：

手ブレ補正を行わない。

三脚使用時は〔切〕にすることをおすすめします。

ズーム設定

本機で行うズーム範囲を設定できます。

1 MENU→ **2** (撮影設定2) → [ズーム設定] →希望の設定を選ぶ。

メニュー項目の詳細

光学ズームのみ：

ズーム範囲を光学ズームの範囲内に制限します。[ JPEG画像サイズ]がM、SまたはVGAの場合のみ、スマートズーム範囲も使用できます。

入:全画素超解像ズーム：

全画素超解像ズーム範囲まで使用する場合はこの設定を選びます。光学ズーム範囲を超えても、画質がほとんど劣化しません。

入:デジタルズーム：

全画素超解像ズーム倍率を超えた場合に、画質は劣化するが、最大倍率が大きいズームを行えます。

ご注意

- 画質が劣化しない範囲でのみズームしたい場合は、[光学ズームのみ]を設定してください。

関連項目

- [本機で利用できるズームの種類](#)
- [ズーム倍率について](#)
- [ズームスピード](#)

デジタルスチルカメラ
DSC-RX100M6

ズームスピード

本機のズームレバーのズームスピードを設定します。

1 MENU→ **2** (撮影設定2) → [ズームスピード] →希望の設定を選ぶ。

メニュー項目の詳細

標準:

ズームレバーによるズーム速度を標準速度にする。

高速:

ズームレバーによるズーム速度を高速にする。

ヒント

- [ズームスピード] の設定はリモコン（別売）を本機に接続してズーム遠隔操作をするときにも適用されます。

ご注意

- [高速] を選ぶと、動画撮影時にズーム音が記録されやすくなります。

関連項目

- [ズームする](#)
- [本機で利用できるズームの種類](#)
- [ズーム設定](#)

リングのズーム機能

コントロールリングでズームする場合のズーム機能を設定します。オートフォーカス時のみ有効です。

1 MENU→ **2** (撮影設定2) → [リングのズーム機能] →希望の設定を選ぶ。

メニュー項目の詳細

スタンダード：

コントロールリングでズーム操作を行うとき、なめらかにズームする。

クイック：

コントロールリングの回転量に応じた画角にズームする。

ステップ：

コントロールリングでズーム操作を行うとき、一定の画角で段階的に切り替わる。

ご注意

- 以下の場合は、[ステップ] に設定していても [スタンダード] のズーム機能になります。
 - W/T (ズーム) レバーでのズーム
 - 動画撮影時
 - 光学ズーム以外のズーム
- 撮影モードが [おまかせオート]、[プレミアムおまかせオート] 以外の場合は、あらかじめコントロールリングに [ズーム] の機能を割り当ててください。
- [クイック] を選ぶと、動画撮影時にズーム音が記録されやすくなります。

DISPボタン（背面モニター/ファインダー）

撮影時に、DISP（画面表示切換）で選択できる画面表示モードを設定します。

- 1 MENU→ 2（撮影設定2）→ [DISPボタン] → [背面モニター] または [ファインダー] → 希望の設定を選び、[実行] を選んで決定する。
✓ がついている項目が選択できるモードになる。

メニュー項目の詳細

グラフィック表示：

基本的な撮影情報を表示する。シャッタースピードと絞りをグラフィカルに表示する。

全情報表示：

撮影情報を表示する。

情報表示 なし：

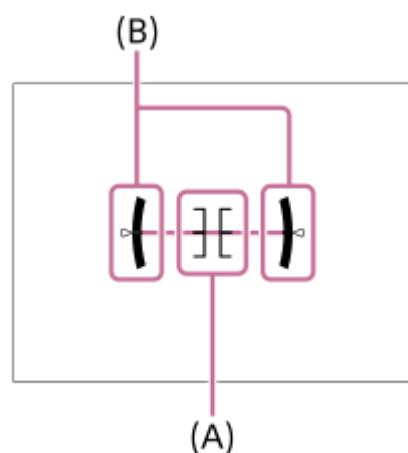
撮影情報を表示しない。

ヒストグラム：

画像の明暗をグラフ（ヒストグラム）で表示する。

水準器：

カメラの前後方向（A）、水平方向（B）の傾きを指標で示す。水平、平衡状態のときは、表示が緑色になる。



ファインダー撮影用*：

モニターには被写体を表示せず、撮影情報のみを表示する。ファインダー撮影用の表示設定。

モニター消灯*：

撮影時は常にモニターが消灯するが、再生時やMENU操作時はモニターを使用できる。ファインダー撮影用の表示設定。

* [背面モニター] の設定時のみ選択できる画面表示モードです。

ご注意

- 本機を前または後に大きく傾けると、水準器の誤差が大きくなります。
- 水準器で傾きがほぼ補正された状態でも $\pm 1^\circ$ 程度の誤差が生じることがあります。

- [画面表示を切り換える（撮影/再生）](#)

4-737-296-01(2) Copyright 2018 Sony Corporation

FINDER/MONITOR

ファインダーとモニターの表示切り換え方法を設定します。

- ① MENU→2（撮影設定2）→[FINDER/MONITOR]→希望の設定を選ぶ。

メニュー項目の詳細

オート：

ファインダーをのぞくと、アイセンサーが働き、自動的にファインダー画面に切り替わる。

ファインダー(マニュアル)：

モニターは消灯し、ファインダーのみに画像を表示する。

モニター(マニュアル)：

ファインダーは消灯し、常にモニターのみに画像を表示する。

ヒント

- ファインダー/モニター表示切り換え機能をお好みのキーに割り当てることができます。
MENU→2（撮影設定2）→[カスタムキー]、[カスタムキー]または[カスタムキー]→希望のキーに[FINDER/MONITOR切換]を設定してください。
- ファインダー表示またはモニター表示を固定したい場合は、[FINDER/MONITOR]を[ファインダー(マニュアル)]または[モニター(マニュアル)]に設定してください。
DISPボタンを使ってモニター表示を[モニター消灯]にすると、撮影時にファインダーから目を離してもモニターが点灯しなくなります。あらかじめ、MENU→2（撮影設定2）→[DISPボタン]→[背面モニター]で、[モニター消灯]にチェックマークを入れてください。

ご注意

- ファインダーが下がっている場合は、[FINDER/MONITOR]の設定にかかわらず、画像はモニターに表示されます。
- モニターを引き出しているときは、ファインダーを上げていて、[FINDER/MONITOR]が[オート]に設定されていてもアイセンサーは接眼を検知しません。画像はモニターに表示されます。

関連項目

- [カスタムキー](#)（静止画/動画/再生）
- [DISPボタン](#)（背面モニター/ファインダー）

ゼブラ設定

画面に映る画像の中で、設定した輝度レベル（IRE）部分に表示するしま模様（ゼブラ）の設定を行います。ゼブラは、明るさを調節するときの目安にすると便利です。

1 MENU→ **2**（撮影設定2）→【ゼブラ設定】→希望の設定項目を選ぶ。

メニュー項目の詳細

ゼブラ表示：

ゼブラを表示するかどうかを設定する。

ゼブラレベル：

ゼブラの輝度レベルを設定する。

ヒント

- 【ゼブラレベル】の設定値には、輝度レベルを表す数値以外に、露出確認用と白とび確認用の設定を登録することができます。お買い上げ時には【カスタム1】には露出確認用、【カスタム2】には白とび確認用の設定が登録されています。
- 露出確認用として使用する場合は、ゼブラ表示する輝度レベルの基準値と、その範囲数値を指定します。指定された範囲の輝度部分がゼブラ表示されます。
- 白とび確認用として使用する場合は、ゼブラ表示する輝度レベルの下限值を指定します。指定した数値以上の輝度部分がゼブラ表示されます。

ご注意

- HDMI接続時は、接続先の機器にはゼブラが表示されません。

デジタルスチルカメラ
DSC-RX100M6

グリッドライン

構図合わせのための補助線であるグリッドライン表示の設定をします。

1 MENU→ **2** (撮影設定2) → [グリッドライン] → 希望の設定を選ぶ。

メニュー項目の詳細

3分割：

3分割の線の近くに主要な被写体を配置すると、バランスのよい構図になる。

方眼：

方眼線により構図の傾きが確認しやすく、風景写真や接写、複写などの構図決定に適している。

対角+方眼：

対角線上に被写体を配置することで、躍動感や力強さなどを表現できる。

切：

グリッドラインを表示しない。

デジタルスチルカメラ
DSC-RX100M6

露出設定ガイド

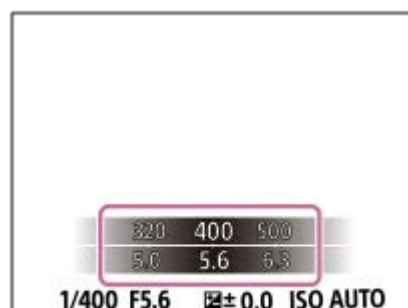
撮影画面で露出設定を変更したときに表示するガイドの設定をする。

1 MENU→ **2** (撮影設定2) → [露出設定ガイド] →希望の設定を選ぶ。

メニュー項目の詳細

切：
ガイドを表示しない。

入：
ガイドを表示する。



ライブビュー表示

モニターの表示に、露出補正やホワイトバランス、〔クリエイティブスタイル〕、〔ピクチャーエフェクト〕の設定値を反映させるかどうかを設定します。

1 MENU →  **2** (撮影設定2) → [ライブビュー表示] → 希望の設定を選ぶ。

メニュー項目の詳細

設定効果反映On :

すべての設定を反映させ、撮影結果に近い状態でライブビュー表示をする。撮影結果をライブビュー画面で確認しながら撮影する場合に有効。

設定効果反映Off :

露出やホワイトバランス、〔クリエイティブスタイル〕、〔ピクチャーエフェクト〕などの設定を反映させずにライブビュー表示をする。エフェクトをかけて撮影する場合などにも、見やすい状態でライブビューが表示され、構図確認が容易になる。

〔マニュアル露出〕時のライブビュー画像も常に適正な明るさで表示される。

〔設定効果反映Off〕が選ばれているとき、ライブビュー画面上には **VIEW** アイコンが表示される。

ヒント

- スタジオフラッシュなど他社製フラッシュを使用時には、設定されたシャッタースピードによってライブビューが暗くなる場合があります。ライブビュー表示を〔設定効果反映Off〕に設定することで、ライブビューが明るく表示され、構図確認が容易になります。

ご注意

- 撮影モードが下記のときは、〔ライブビュー表示〕を〔設定効果反映Off〕に設定できません。
 - － [おまかせオート]
 - － [プレミアムおまかせオート]
 - － [スイングパノラマ]
 - － [動画]
 - － [ハイフレームレート]
 - － [シーンセレクション]
- [設定効果反映Off] 設定時は、表示されるライブビューと撮影した画像の明るさなどが一致しません。

デジタルスチルカメラ
DSC-RX100M6

オートレビュー

撮影直後に、撮影した画像を確認することができます。オートレビューの表示時間を設定します。

1 MENU→ **2** (撮影設定2) → [オートレビュー] →希望の設定を選ぶ。

メニュー項目の詳細

10秒/5秒/2秒：

設定した秒数だけ表示する。オートレビュー中に拡大操作をすると、撮影した画像を拡大再生して確認することができる。

切：

オートレビューしない。

ご注意

- 画像処理をする機能を使用している場合、画像処理をする前の画像を一時的に表示してから、画像処理が適用された画像を表示することがあります。
- オートレビューは、DISP（画面表示切換）で設定したモードで表示されます。

関連項目

- [再生画像を拡大する（拡大）](#)

カスタムキー（静止画/動画/再生）

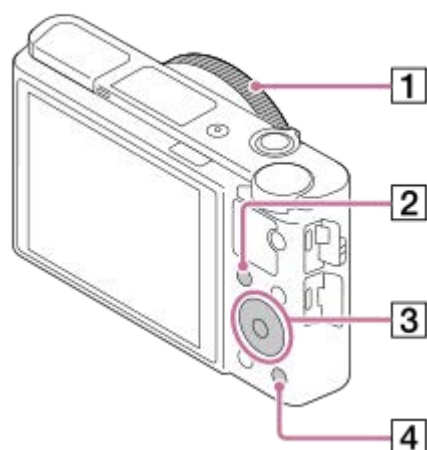
希望のボタンにお好みの機能を割り当てることができます。

また、カスタムキーでのみ使える機能もあります。たとえば、[ カスタムキー] で [中央ボタン] に [瞳AF] を割り当てておくと、撮影時にコントロールホイールの中央を押すだけで [瞳AF] 機能呼び出すことができ便利です。

1 MENU→ 2（撮影設定2）→ [ カスタムキー]、[ カスタムキー] または [ カスタムキー] を選ぶ。

2 選択画面で機能を割り当てたいボタンを選び、コントロールホイールの中央を押す。

- [ カスタムキー]、[ カスタムキー] または [ カスタムキー] で機能を割り当てられるボタンが異なります。
- 以下のボタンに希望の機能を割り当てられます。



1. コントロールリング
2. Fn/ ボタン
3. 中央ボタン/左ボタン/右ボタン
4. Cボタン

3 割り当てたい機能を選ぶ。

- ボタンによって割り当てられる機能が異なります。

メニュー項目の詳細

 **カスタムキー** :
静止画撮影時のカスタムキーの機能を設定する。

 **カスタムキー** :
動画撮影時のカスタムキーの機能を設定する。静止画撮影時とは別の機能を設定することができる。

 **カスタムキー** :
再生時のカスタムキーの機能を設定する。

- [コントロールホイールの使いかた](#)
- [フォーカススタンダード](#)

4-737-296-01(2) Copyright 2018 Sony Corporation

デジタルスチルカメラ
DSC-RX100M6

ファンクションメニュー設定

Fn（ファンクション）ボタンを押したときに設定できる機能を選びます。

1 MENU→ **2**（撮影設定2）→[ファンクションメニュー設定]→希望の場所に機能を設定する。

- 設定できる機能は、本機の設定項目選択画面でご確認ください。

デジタルスチルカメラ
DSC-RX100M6

Av/Tvの回転方向

コントロールホイールで絞り値やシャッタースピードを変更するときの、回転方向を設定します。

1 MENU→ **2** (撮影設定2) → [Av/Tvの回転方向] →希望の設定を選ぶ。

メニュー項目の詳細

通常：

コントロールホイールの回転方向を変更しない。

反転：

コントロールホイールの回転方向を反対にする。

タッチ撮影設定：タッチシャッター

モニター撮影時、タッチした場所に自動でピントを合わせて静止画を撮影できます。
あらかじめ、MENU→（セットアップ）→[タッチ操作]を[入]に設定してください。

1 MENU→2（撮影設定2）→[タッチ撮影設定]→[タッチシャッター]を選ぶ。

2 撮影画面で、モニターのをタッチする。

アイコンの左側にあるマークがオレンジ色に変わる。

- 解除するときは、もう一度をタッチしてください。

3 ピントを合わせたい被写体をタッチする。

タッチした被写体にピントが合うと、静止画が撮影される。

ヒント

- 他にも、次の機能がタッチ操作で撮影できます。
 - － タッチシャッターで連続撮影する
[ドライブモード]が[連続撮影]のとき、画面をタッチし続けている間、連続して撮影します。
 - － タッチシャッターでスポーツのシーンを連続撮影する
[シーンセレクション]が[スポーツ]のとき、画面をタッチし続けている間、連続して撮影します。
 - － タッチシャッターで連続ブラケット撮影する
露出を自動的に標準/暗い/明るいの順ですらして撮影します。[ドライブモード]が[連続ブラケット]のとき、撮影が終わるまで画面をタッチし続けて撮影します。撮影したあとに、イメージにあった明るさの画像を選ぶことができます。

ご注意

- 以下のとき、[タッチシャッター]は使えません。
 - － ファインダー撮影時
 - － 撮影モードが[動画]
 - － 撮影モードが[ハイフレームレート]
 - － 撮影モードが[スイングパノラマ]
 - － [スマイルシャッター]使用時
 - － [フォーカスモード]が[マニュアルフォーカス]
 - － [フォーカスエリア]が[フレキシブルスポット]
 - － [フォーカスエリア]が[拡張フレキシブルスポット]
 - － デジタルズーム中
 - － 全画素超解像ズーム中

関連項目

- [タッチ操作](#)
- [タッチパネル/タッチパッド](#)

タッチ撮影設定：タッチフォーカス

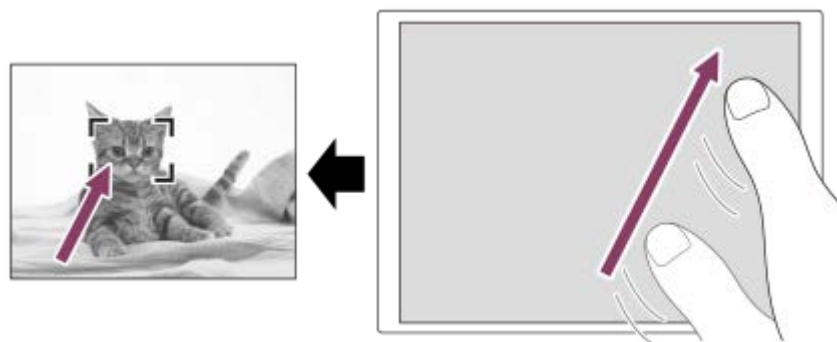
静止画または動画撮影時、ピントを合わせる被写体をタッチ操作で選択できます。あらかじめ、MENU→（セットアップ）→[タッチ操作]を[入]に設定してください。

① MENU→2（撮影設定2）→[タッチ撮影設定]→[タッチフォーカス]を選ぶ。

静止画撮影時にピントを合わせたい位置を指定する

モニターにタッチして希望の場所にピントを合わせます。

1. [フォーカスエリア]を[フレキシブルスポット]または[拡張フレキシブルスポット]以外にする。
2. MENU→1（撮影設定1）→[中央ボタン押しロックオンAF]→[切]を選ぶ。
3. モニターにタッチする。
 - モニター撮影時は、ピントを合わせたい被写体にタッチします。
 - ファインダー撮影時は、ファインダーをのぞきながらモニターをタッチしてドラッグすると、ピント合わせの位置を移動できます。



- シャッターボタンを半押しすると枠内にピントが合います。撮影するにはそのままシャッターボタンを押し込んでください。
- タッチ操作によるピント合わせを解除するには、モニター撮影時は、xをタッチするか、またはコントロールホイールの中央を押してください。ファインダー撮影時は、コントロールホイールの中央を押してください。

動画撮影時にピントを合わせたい位置を指定する（スポットフォーカス）

タッチした被写体にピントを合わせます。ファインダー撮影時は、スポットフォーカスは使用できません。

1. [フォーカスエリア]を[フレキシブルスポット]または[拡張フレキシブルスポット]以外にする。
2. MENU→1（撮影設定1）→[中央ボタン押しロックオンAF]→[切]を選ぶ。
3. 録画開始前もしくは録画中にピントを合わせたい被写体をタッチする。
 - タッチすると一時的にマニュアルフォーカスになり、コントロールリングでピントを調整できます。
 - スポットフォーカスを解除したい場合は、xをタッチするか、またはコントロールホイールの中央を押してください。

ヒント

- タッチフォーカス機能のほかに、以下のようなタッチ操作が可能です。
 - － [フォーカスエリア]が[フレキシブルスポット]または[拡張フレキシブルスポット]のときは、タッチ操作でフォーカス枠を移動できます。
 - － [フォーカスモード]が[マニュアルフォーカス]のときは、モニターをダブルタップするとピント拡大の操作が行えます。

ご注意

- 以下のとき、タッチフォーカス機能は使えません。
 - － 撮影モードが [スイングパノラマ]
 - － [フォーカスモード] が [マニュアルフォーカス]
 - － デジタルズーム中

関連項目

- [タッチ操作](#)
- [タッチパネル/タッチパッド](#)

4-737-296-01(2) Copyright 2018 Sony Corporation

デジタルスチルカメラ
DSC-RX100M6

MOVIE(動画)ボタン

MOVIE（動画）ボタンの有効/無効を設定します。

1 MENU→ **2**（撮影設定2）→[MOVIE(動画)ボタン]→希望の設定を選ぶ。

メニュー項目の詳細

常に有効：

どの状態からでも、MOVIEボタンを押すと動画撮影が開始される。（モードダイヤルが**HFR**（ハイフレームレート）になっているときを除く。）

動画モードのみ有効：

撮影モードが[動画]モードのときのみ、MOVIEボタンを押すと動画撮影が開始される。

デジタルスチルカメラ
DSC-RX100M6

ホイールロック

Fn（ファンクション）ボタンを長押しして、コントロールホイールをロックするかどうかを設定します。

1 MENU→ **2**（撮影設定2）→[ホイールロック]→希望の設定を選ぶ。

メニュー項目の詳細

入：
コントロールホイールにロックがかかる。

切：
長押ししてもロックがかからない。

ヒント

- 再度、Fn（ファンクション）ボタンを長押しすると、ロックを解除できます。

ご注意

- [ フォーカスエリア登録機能] を[入] に設定すると、[ホイールロック] は[切] に固定されます。

デジタルスチルカメラ
DSC-RX100M6

電子音

本機の電子音を鳴らすかどうかを設定します。

1 MENU→ **2** (撮影設定2) → [電子音] →希望の設定を選ぶ。

メニュー項目の詳細

入：

シャッターボタンを半押ししてピントが合ったときなどに操作音が鳴る。

シャッター：

シャッター音のみ鳴る。

切：

操作音は鳴らない。

ご注意

- フォーカスモードが [コンティニュアスAF] の場合は、ピントが合ったときに電子音は鳴りません。

デジタルスチルカメラ
DSC-RX100M6

日付書き込み（静止画）

撮影した日の日付を画像に記録するかどうかを設定します。

1 MENU→2（撮影設定2）→日付書き込み→希望の設定を選ぶ。

メニュー項目の詳細

入：

日付を記録する。

切：

日付を記録しない。

ご注意

- 画像に入れた日付表示は消せません。
- パソコンやプリンターで印刷時に日付を入れる設定にすると、二重で日付が印刷されます。
- 時刻は記録できません。
- RAW画像には、日付書き込みできません。

スマートフォン転送機能：スマートフォン転送

スマートフォンに静止画、XAVC S動画、ハイフレームレート動画を表示、転送します。お使いのスマートフォンにスマートフォン対応アプリPlayMemories Mobileをインストールする必要があります。

1 MENU→（ネットワーク）→[スマートフォン転送機能]→[スマートフォン転送]→希望の設定を選ぶ。

- 再生画面で （スマートフォン転送）ボタンを押すと、[スマートフォン転送] の設定画面が表示されます。

2 接続可能な状態になると表示される画面の情報を使って、スマートフォンから本機に接続する。

- 接続するための設定方法はスマートフォンによって異なります。



メニュー項目の詳細

カメラから選ぶ：

スマートフォンに転送する画像を本機で選択する。

(1) [この画像]、[この日付の全画像]または[画像選択]から選択する。

- カメラで選択しているビューモードによって、表示される選択肢が変わることがあります。

(2) [画像選択] の場合は、コントロールホイールの中央を押して画像を選択後、MENU→[実行]を選ぶ。

スマートフォンから選ぶ：

本機のメモリーカードに保存されているすべての画像を、まとめてスマートフォンに表示する。

ご注意

- 本機のメモリーカードに保存されていない画像は、スマートフォン転送できません。
- スマートフォンに転送する画像サイズは、[オリジナル]、[2M]または[VGA]から選べます。以下の手順で変更してください。
 - Android搭載のスマートフォンの場合
PlayMemories Mobileを起動し、[設定]→[コピー画サイズ]で変更する。
 - iPhoneまたはiPadの場合
設定内のPlayMemories Mobileを選び、[コピー画サイズ]から変更する。
- RAW画像は、JPEG画像に変換して転送します。
- AVCHD動画は転送できません。
- XAVC S 4K動画や[120p]で記録されたXAVC S HD動画のオリジナル動画はスマートフォンに転送できません。プロキシ動画のみ転送できます。
- スマートフォンによっては、動画を滑らかに再生できなかったり音声が出ないなど、正しく再生できない場合があります。

- 静止画/動画/ハイレームレート動画の形式によっては、スマートフォンで再生できないことがあります。
- 本機は〔スマートフォン転送〕の接続情報を、接続許可した機器と共有します。接続許可した機器を変更したい場合は、MENU→（ネットワーク）→〔Wi-Fi設定〕→〔SSID・PWリセット〕で接続情報をリセットしてください。リセット後は、スマートフォンの再設定が必要です。
- 〔飛行機モード〕が〔入〕のときは接続できません。〔飛行機モード〕を〔切〕にしてください。
- 多くの画像や長時間の動画を転送するときは、ACアダプター（付属）で外部電源から電力を供給しながら転送することをおすすめします。

関連項目

- [PlayMemories Mobileについて](#)
- [Android搭載スマートフォンで操作する（NFCワンタッチリモート）](#)
- [Android搭載スマートフォンで操作する（QRコード）](#)
- [Android搭載スマートフォンで操作する（SSID）](#)
- [iPhoneまたはiPadで操作する（QRコード）](#)
- [iPhoneまたはiPadで操作する（SSID）](#)
- [Android搭載スマートフォンにワンタッチで転送する（NFCワンタッチシェアリング）](#)
- [スマートフォン転送機能：転送対象（プロキシー動画）](#)
- [飛行機モード](#)

スマートフォン転送機能：転送対象（プロキシ動画）

［スマートフォン転送］でXAVC S動画をスマートフォンに転送するときに、低ビットレートのプロキシ動画と高ビットレートのオリジナル動画のどちらを転送するかを設定します。

1 MENU→（ネットワーク）→［スマートフォン転送機能］→**[Px 転送対象]**→希望の設定を選ぶ。

メニュー項目の詳細

プロキシのみ：

プロキシ動画のみ転送する。

オリジナルのみ：

オリジナル動画のみ転送する。

プロキシ+オリジナル：

プロキシ動画とオリジナル動画を転送する。

ご注意

- XAVC S 4K動画や［120p］で記録されたXAVC S HD動画のオリジナル動画はスマートフォンに転送できません。プロキシ動画のみ転送できます。
- 多くの画像や長時間の動画を転送するときは、ACアダプター（付属）で外部電源から電力を供給しながら転送することをおすすめします。

関連項目

- [スマートフォン転送機能：スマートフォン転送](#)
- [プロキシ記録](#)

デジタルスチルカメラ
DSC-RX100M6

パソコン保存

本機の画像を無線アクセスポイントまたは無線対応ブロードバンドルーターにつないだパソコンに転送し、簡単にバックアップを取ることができます。事前にPlayMemories Homeのインストールと、無線アクセスポイントの登録を行ってください。

- 1 パソコンを起動する。
- 2 MENU→（ネットワーク）→【パソコン保存】を選ぶ。

ご注意

- パソコンのアプリケーションの設定によっては、画像の保存が終わった後にカメラの電源が自動で切れます。
- 同時に画像を転送できるパソコンは、1台までです。
- 別のパソコンに転送したい場合は、お使いになりたいパソコンに本機をUSB接続して、PlayMemories Homeに従って操作してください。
- プロキシ動画は保存できません。

関連項目

- [PlayMemories Homeをインストールする](#)
- [Wi-Fi設定：アクセスポイント簡単登録](#)
- [Wi-Fi設定：アクセスポイント手動登録](#)

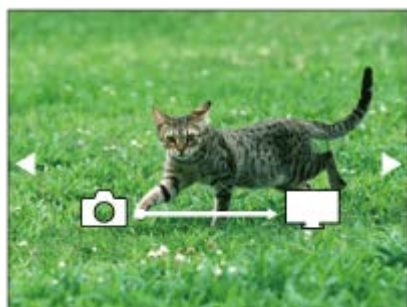
デジタルスチルカメラ
DSC-RX100M6

テレビ鑑賞

本機とテレビをケーブルでつながなくても、本機から画像を転送して、Network対応のテレビで画像を見ることができます。お使いのテレビによってはあらかじめテレビ側の操作も必要になります。詳しくはテレビの取扱説明書をご参照ください。

① MENU →  (ネットワーク) → [テレビ鑑賞] → 接続したい機器を選択する。

② スライドショー形式で再生したい場合は、コントロールホイールの中央を押す。



- 手動で画像を送る場合はコントロールホイールの左/右を押す。
- 接続する機器を変更する場合はコントロールホイールの下を押して、[機器リスト] を選ぶ。

スライドショーの設定項目

コントロールホイールの下を押してスライドショーの設定を変更できます。

再生対象：

再生する画像のグループを設定する。

フォルダービュー（静止画）：

[全て] または [フォルダー内全て] から選択

日付ビュー：

[全て] または [日付内全て] から選択

間隔設定：

[短い] または [長い] から選択

エフェクト*：

[入] または [切] から選択

再生画像サイズ：

[HD] または [4K] から選択

* 対応しているブラビアでのみ設定が有効です。

ご注意

- DLNAレンダラーに対応しているテレビで使えます。
- Wi-Fi Direct対応、またはネットワーク機能（有線含む）に対応しているテレビで見ることができます。
- Wi-Fi Direct以外で接続する場合は、アクセスポイントの登録が必要です。
- 画像をテレビに映すまでに時間がかかることがあります。
- 動画はWi-Fi経由でテレビに転送できません。HDMIケーブル（別売）をお使いください。

関連項目

- [Wi-Fi設定：アクセスポイント簡単登録](#)
- [Wi-Fi設定：アクセスポイント手動登録](#)

4-737-296-01(2) Copyright 2018 Sony Corporation

スマートフォン操作設定

本機とスマートフォンを接続するための条件を設定できます。

- ① MENU→（ネットワーク）→[スマートフォン操作設定]→希望の設定項目を選ぶ。

メニュー項目の詳細

スマートフォン操作：

本機とスマートフォンをWi-Fiで接続するかどうかを設定する。（[入] / [切]）

接続：

本機とスマートフォンを接続するためのQRコードやSSIDを表示する。

常時接続：

本機とスマートフォンを常に接続しておくかどうかを設定する。[入] に設定すると、一度スマートフォンと接続すれば常にスマートフォンと接続された状態になる。[切] に設定すると、スマートフォンとの接続操作を行ったときのみ接続される。

ご注意

- [常時接続] を [入] にすると、[切] のときよりも電力の消費が大きくなります。

関連項目

- [Android搭載スマートフォンで操作する（NFCワンタッチリモート）](#)
- [Android搭載スマートフォンで操作する（QRコード）](#)
- [Android搭載スマートフォンで操作する（SSID）](#)
- [iPhoneまたはiPadで操作する（QRコード）](#)
- [iPhoneまたはiPadで操作する（SSID）](#)
- [スマートフォン転送機能：スマートフォン転送](#)

デジタルスチルカメラ
DSC-RX100M6

飛行機モード

飛行機などに搭乗するとき、Wi-Fiなど無線に関する機能の設定を一時的にすべて無効にできます。

1 MENU→（ネットワーク）→【飛行機モード】→希望の設定を選ぶ。

設定を「入」にすると、モニターに飛行機マークが表示されます。

Wi-Fi設定 : アクセスポイント簡単登録

Wi-Fi Protected Setup (WPS)ボタンがあるアクセスポイントの場合は、簡単にアクセスポイントを登録できます。

- 1 MENU →  (ネットワーク) → [Wi-Fi設定] → [アクセスポイント簡単登録] を選ぶ。
- 2 登録したいアクセスポイントのWPSボタンを押す。

ご注意

- [アクセスポイント簡単登録] は、お使いのアクセスポイントのセキュリティがWPAもしくはWPA2に設定されていて、Wi-Fi Protected Setup (WPS)プッシュボタン方式に対応している必要があります。セキュリティがWEPに設定されている場合やWi-Fi Protected Setup (WPS)プッシュボタン方式に未対応の場合は、[アクセスポイント手動登録]を行ってください。
- お使いのアクセスポイントの対応機能や設定に関しては、アクセスポイントの取扱説明書をご参照いただくか、アクセスポイントの管理者にお問い合わせください。
- 本機とアクセスポイント間の障害物や電波状況、壁の材質など周囲の環境によって、接続できなかったり通信可能な距離が短くなることがあります。本機の場所を移動するか、本機とアクセスポイント間の距離を近づけてください。
- アクセスポイントがAOSSとWi-Fi Protected Setup (WPS)の両方に対応している場合は、AOSSボタンを押してください。

関連項目

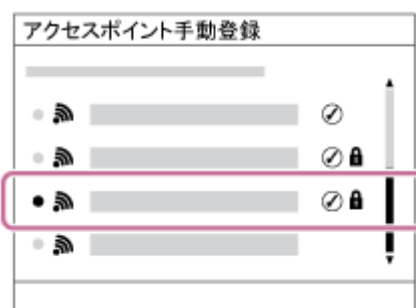
- [Wi-Fi設定 : アクセスポイント手動登録](#)

Wi-Fi設定：アクセスポイント手動登録

手動でアクセスポイントを登録できます。お手持ちのアクセスポイントのSSIDとセキュリティ方式、パスワードをあらかじめご確認ください。機器によってはあらかじめパスワードが設定されている場合があります。詳しくは、アクセスポイントの取扱説明書をご覧ください。アクセスポイントの管理者にお問い合わせください。

① MENU →  (ネットワーク) → [Wi-Fi設定] → [アクセスポイント手動登録] を選ぶ。

② 登録したいアクセスポイントを選ぶ。

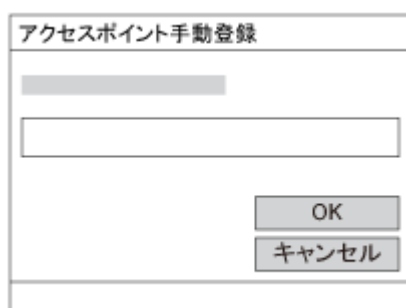


登録したいアクセスポイントが表示される場合：アクセスポイント名を選ぶ。

登録したいアクセスポイントが表示されない場合：[手動設定] を選び、アクセスポイントを設定する。

- [手動設定] を選択した場合は、アクセスポイントのSSID名を入力→セキュリティ方式を選択する。

③ パスワードを入力して、[OK] を選ぶ。



-  がないアクセスポイントは、パスワード入力が必要です。

④ [OK] を選ぶ。

その他の設定項目

アクセスポイントの状態や設定方法によっては、設定を決める項目が増えることがあります。

WPS PIN方式：

接続機器側に入力するPINコードを表示する。

優先接続：

[入] または [切] を選ぶ。

IPアドレス設定：

[オート] または [マニュアル] を選ぶ。

IPアドレス：

手動で入力する場合は、固定アドレスを入力する。

サブネットマスク/デフォルトゲートウェイ：

〔IPアドレス設定〕を〔マニュアル〕とした場合、ネットワークの環境に合わせて入力する。

ご注意

- 登録したアクセスポイントに今後も優先的に接続したい場合は、〔優先接続〕を〔入〕に設定してください。

関連項目

- [Wi-Fi設定：アクセスポイント簡単登録](#)
- [キーボードの使いかた](#)

デジタルスチルカメラ
DSC-RX100M6

Wi-Fi設定 : MACアドレス表示

本機のMACアドレスを表示します。

- 1 MENU→（ネットワーク）→ [Wi-Fi設定] → [MACアドレス表示] を選ぶ。

デジタルスチルカメラ
DSC-RX100M6

Wi-Fi設定 : SSID・PWリセット

本機は「スマートフォン転送」、「 接続」の接続情報を、接続許可した機器と共有します。接続許可した機器を変更したい場合は、接続情報をリセットしてください。

1 MENU→  (ネットワーク) → 「Wi-Fi設定」→ 「SSID・PWリセット」→ 「確認」を選ぶ。

ご注意

- 接続情報のリセット後に再度本機とスマートフォンを接続する場合は、スマートフォンの再設定が必要です。

関連項目

- [スマートフォン転送機能 : スマートフォン転送](#)
- [スマートフォン操作設定](#)

Bluetooth設定

カメラとスマートフォンをBluetooth接続するための設定をします。位置情報連動機能を使うためには、あらかじめカメラとスマートフォンをペアリングする必要があります。
位置情報連動機能のためにペアリングする場合は、「位置情報連動設定」をご覧ください。

1 MENU→（ネットワーク）→【Bluetooth設定】→希望の設定を選ぶ。

メニュー項目の詳細

Bluetooth機能（入/切）：

カメラのBluetooth機能を有効にするかどうかを設定する。

ペアリング：

カメラとスマートフォンをPlayMemories Mobileアプリを使ってペアリングする画面になる。

機器アドレス表示：

カメラのBDアドレスを表示する。

関連項目

- [位置情報連動設定](#)

位置情報連動設定

PlayMemories Mobileアプリを使って、Bluetooth通信で接続しているスマートフォンから位置情報を取得して、画像撮影時に位置情報を記録します。

事前準備

カメラの位置情報連動機能を使用するためには、PlayMemories Mobileアプリが必要です。
PlayMemories Mobileアプリのトップ画面に「位置情報連動」が表示されていない場合は、下記の事前準備が必要となります。

1. お使いのスマートフォンにPlayMemories Mobileアプリをインストールする。
 - PlayMemories Mobileアプリは、お使いのスマートフォンのアプリケーションストアからインストールしてください。すでにインストール済みの場合は、最新版にアップデートしてください。
2. カメラの［スマートフォン転送］を使って、あらかじめ撮影した画像をスマートフォンに転送する。
 - カメラで撮影した画像をスマートフォンに転送すると、PlayMemories Mobileアプリのトップ画面に「位置情報連動」が表示されるようになります。

実際の操作

 : スマートフォンでの操作

 : カメラでの操作

1.  : スマートフォンのBluetooth機能が有効になっていることを確認する。
 - このとき、スマートフォンの設定画面ではBluetooth機能のペアリング操作を行わないでください。手順2～7で、カメラとPlayMemories Mobileアプリを使ってペアリング操作を行います。
 - 手順1でペアリングを行ってしまった場合は、スマートフォンの設定画面でペアリングを一度解除し、カメラとPlayMemories Mobileアプリを使ってペアリング操作を行ってください（手順2～7）。
2.  : カメラで、MENU→（ネットワーク）→［Bluetooth設定］→［Bluetooth機能］→［入］を選ぶ。
3.  : カメラで、MENU→（ネットワーク）→［Bluetooth設定］→［ペアリング］を選ぶ。
4.  : スマートフォンでPlayMemories Mobileアプリを起動して、「位置情報連動」をタップする。
 - 「位置情報連動」が表示されていない場合は、事前準備を参照してください。
5.  : PlayMemories Mobileアプリの［位置情報連動］の設定画面で［位置情報連動］を有効にする。
6.  : PlayMemories Mobileアプリの［位置情報連動］の設定画面で指示に従って操作し、一覧からカメラを選ぶ。
7.  : カメラの画面にメッセージが表示されるので、［確認］を選択する。
 - カメラとPlayMemories Mobileアプリのペアリングが完了します。
8.  : カメラで、MENU→（ネットワーク）→ [ 位置情報連動設定] → [位置情報連動] を [入] にする。

- カメラに （位置情報取得アイコン）が表示され、スマートフォンがGPSなどで取得した位置情報が撮影時に記録されます。

メニュー項目の詳細

位置情報連動：

スマートフォンと連動して位置情報を取得するかどうかを設定する。

自動時刻補正：

スマートフォンと連動した情報を使って、カメラの日付設定を自動で補正するかどうかを設定する。

自動エリア補正：

スマートフォンと連動した情報を使って、カメラのエリア設定を自動で補正するかどうかを設定する。

位置情報取得時のアイコンについて

（位置情報取得）：位置情報を取得できています。

（位置情報取得無効）：位置情報を取得できません。

（Bluetooth接続中）：スマートフォンとBluetooth接続されています。

（Bluetooth未接続）：スマートフォンとBluetooth接続されていません。

ヒント

- スマートフォンの画面がOFFの場合でも、PlayMemories Mobileが起動していれば位置情報連動します。ただし、本機の電源がしばらく切れていた場合、電源を入れても位置情報がすぐには連動しないことがあります。このようなときは、スマートフォンでPlayMemories Mobileアプリの画面を表示させるとすぐに位置情報が連動します。
- スマートフォンの再起動後などPlayMemories Mobileアプリが動作していない場合は、PlayMemories Mobileアプリを起動すると位置情報連動が再開します。
- 位置情報連動機能が正しく動作しないときは以下に従い、再度ペアリング操作を行ってください。
 - スマートフォンのBluetooth機能が有効になっていることを確認する。
 - カメラが他の機器とBluetooth接続中でないことを確認する。
 - カメラの［飛行機モード］が［切］になっていることを確認する。
 - PlayMemories Mobileアプリに登録されているカメラのペアリング情報を削除する。
 - カメラの［ネットワーク設定リセット］を実行する。
- 動画を使ったさらに詳しい説明は、以下のサポートページをご覧ください。
<http://www.sony.net/pmm/btg/>

ご注意

- カメラを初期化するとペアリング情報も削除されます。再度ペアリングするには、PlayMemories Mobileアプリに登録されているカメラのペアリング情報を削除してから、もう一度ペアリングしてください。
- Bluetooth接続が切断されたときなど位置情報が取得できない場合、位置情報が記録されないことがあります。
- カメラはBluetooth機器を15台までペアリングできますが、同時に位置情報連動できるスマートフォンは1台のみです。ほかのスマートフォンと位置情報連動をする場合は、連動中のスマートフォンのPlayMemories Mobileアプリの［位置情報連動］をオフにしてください。
- Bluetooth通信が不安定な場合は、カメラとスマートフォンの間に人体や金属などの障害物がない状態で使用してください。
- カメラとスマートフォンのペアリングは、必ずPlayMemories Mobileアプリの［位置情報連動］メニューから行ってください。

対応するスマートフォン

- Android端末：Android 5.0以降でBluetooth 4.0以降対応*
- iPhone/iPad：iPhone 4S以降/iPad（第3世代）以降

* 最新の情報はサポートページでご確認ください。

* Bluetooth規格のバージョンは、お使いのスマートフォンの製品サイトでご確認ください。

関連項目

- [PlayMemories Homeでできること](#)

- [PlayMemories Mobileについて](#)
- [スマートフォン転送機能：スマートフォン転送](#)
- [Bluetooth設定](#)

4-737-296-01(2) Copyright 2018 Sony Corporation

デジタルスチルカメラ
DSC-RX100M6

機器名称変更

Wi-Fi DirectなどのWi-Fi接続時、Bluetooth接続時の機器名称を変更します。

- 1 MENU→（ネットワーク）→[機器名称変更]を選ぶ。
- 2 入力ボックスを選択して、機器名称を入力→[OK]を選ぶ。

関連項目

- [Wi-Fi設定：アクセスポイント簡単登録](#)
- [Wi-Fi設定：アクセスポイント手動登録](#)
- [キーボードの使いかた](#)

デジタルスチルカメラ
DSC-RX100M6

ネットワーク設定リセット

ネットワークに関する設定をお買い上げ時の設定に戻します。

- 1 **MENU**→（ネットワーク）→**[ネットワーク設定リセット]**→**[実行]**を選ぶ。

画像を保護する（プロテクト）

撮影した画像を誤って消さないように保護（プロテクト）します。プロテクトされた画像には  マークが表示されます。

- 1 MENU → （再生）→ [プロテクト] → 希望の設定を選ぶ。

メニュー項目の詳細

画像選択：

画像を何枚か選んでプロテクトする。

- （1）画像を選び、コントロールホイールの中央を押す。チェックボックスに  マークが付く。解除したいときはもう一度中央を押して  マークを消す。
- （2）ほかの画像もプロテクトするときは、手順1を繰り返す。
- （3）MENU → [確認] を選ぶ。

このフォルダーの全画像：

選択しているフォルダー内すべての画像をまとめてプロテクトする。

この日付の全画像：

選択している日付内すべての画像をまとめてプロテクトする。

このフォルダーを全て解除：

選択しているフォルダー内すべての画像のプロテクトをまとめて解除する。

この日付を全て解除：

選択している日付内すべての画像のプロテクトをまとめて解除する。

この連写の全画像：

選択している連写グループ内すべての画像をまとめてプロテクトする。

この連写画像全て解除：

選択している連写グループ内すべての画像のプロテクトをまとめて解除する。

ヒント

- [画像選択] で連写グループを選ぶと、グループ内のすべての画像がプロテクトされます。グループ内の任意の画像を選んでプロテクトしたい場合は、グループ内の画像を表示させた状態で [画像選択] を実行してください。

ご注意

- [ビューモード] の設定や選択しているコンテンツによって、選べる項目が異なります。

デジタルスチルカメラ
DSC-RX100M6

画像を回転する（回転）

撮影した画像を回転して表示します。

1 回転したい画像を表示して、MENU→（再生）→〔回転〕を選ぶ。

2 コントロールホイールの中央を押す。

画像が左に回転します。中央を押すたびに、回転が繰り返されます。
回転した画像は、本機の電源を切った後も回転した状態のまま保持されます。

ご注意

- 動画は回転できません。
- 他機で撮影した画像は本機では回転できないことがあります。
- パソコンで画像を見ると、ソフトウェアによっては画像の回転情報が反映されない場合があります。

不要な画像を選んで削除する（削除）

不要な画像を選んで削除できます。一度削除した画像は、元に戻せません。削除してよいか、事前に確認してください。

1 MENU→（再生）→〔削除〕→希望の設定を選ぶ。

メニュー項目の詳細

画像選択：

画像を何枚か選んで削除する。

- （1）削除したい画像を選び、コントロールホイールの中央を押す。チェックボックスに✓マークが付く。解除したいときはもう一度中央を押して✓マークを消す。
- （2）ほかの画像も削除するときは、手順（1）を繰り返す。
- （3）MENU→〔確認〕を選ぶ。

このフォルダーの全画像：

選択しているフォルダー内すべての画像をまとめて削除する。

この日付の全画像：

選択している日付内すべての画像をまとめて削除する。

この画像以外の全画像：

連写グループ内の、選択している画像をのぞくすべての画像をまとめて削除する。

この連写の全画像：

選択している連写グループ内すべての画像をまとめて削除する。

ヒント

- プロテクトしてある画像も含めて、すべてのデータを消去するには〔フォーマット〕を行ってください。
- 希望のフォルダーまたは日付を表示するには、再生時に下記の手順で希望のフォルダーまたは日付を選びます。
（一覧表示）レバー → コントロールホイールで左側のバーを選ぶ → コントロールホイールの上/下で希望のフォルダーまたは日付を選ぶ。
- 〔画像選択〕で連写グループを選ぶと、グループ内のすべての画像が削除されます。グループ内の任意の画像を選んで削除した場合は、グループ内の画像を表示させた状態で〔画像選択〕を実行してください。

ご注意

- プロテクトされている画像は削除できません。
- 〔ビューモード〕の設定や選択しているコンテンツによって、選べる項目が異なります。

関連項目

- [表示中の画像を削除する](#)
- [フォーマット](#)

レーティング

撮影した画像に ★ ～ ☆☆☆ でレーティング（ランク分け）を設定することで、画像を探しやすくします。

- 1 MENU → （再生） → **【レーティング】** を選ぶ。
レーティング画像選択画面が表示される。
- 2 コントロールホイールの左/右でレーティングを設定したい画像を表示させ、中央を押す。
- 3 コントロールホイールの左/右で ★（レーティング）の数を選り、中央を押す。
- 4 MENUボタンを押して、レーティング設定画面を終了する。

ヒント

- カスタムキーを使って、画像の再生時にレーティングを設定することもできます。あらかじめ、[ カスタムキー] で希望のキーに [レーティング] を割り当てておき、レーティングを設定したい画像の再生中にキーを押してください。キーを押すたびに ★（レーティング）の数が切り替わります。

ご注意

- レーティングを設定できるのは静止画のみです。

関連項目

- [カスタムキー（静止画/動画/再生）](#)
- [レーティング設定\(カスタムキー\)](#)

デジタルスチルカメラ
DSC-RX100M6

レーティング設定(カスタムキー)

〔 カスタムキー〕で〔レーティング〕を割り当てたキーを使ってレーティングを設定するときに選べる ★ の数を設定できます。

- 1 MENU→ (再生) →〔レーティング設定(カスタムキー)〕を選ぶ。
- 2 有効にしたい ★ の数に ✓ マークを付ける。
✓ マークを付けた値が、カスタムキーを使用して〔レーティング〕を設定するときに選択できるようになる。

関連項目

- [レーティング](#)
- [カスタムキー](#) (静止画/動画/再生)

プリント指定する（プリント指定）

どの静止画をプリントするかを、あらかじめメモリーカード上に指定できます。指定した画像には **DPOF**（プリント予約）マークが表示されます。DPOFとは「Digital Print Order Format」の略です。
DPOF指定は、印刷後も残ったままとなります。印刷が終了したあとは、解除することをおすすめします。

1 MENU→（再生）→【プリント指定】→希望の設定を選ぶ。

メニュー項目の詳細

画像選択：

画像を何枚か選んでプリント指定する。

（1）プリントしたい画像を選び、コントロールホイールの中央を押す。チェックボックスに  マークが付く。解除したいときはもう一度中央を押して  マークを消す。

（2）他の画像もプリントするときは、手順（1）を繰り返す。日付、またはフォルダーのチェックボックスを選択すると、日付、またはフォルダー内の画像をまとめて選択することもできる。

（3）MENU→【確認】を選ぶ。

全画像解除：

すべてのプリント指定を解除する。

印刷設定：

プリント指定した画像に日付を入れて印刷するか設定する。

- 日付の入る場所（画像内/画像外、サイズなど）は、お使いのプリンターによって異なります。

ご注意

- 以下の画像にはプリント予約指定できません。
 - RAW画像
- プリントの枚数指定はできません。
- プリンターによっては、日付プリントの機能に対応していないものもあります。

デジタルスチルカメラ
DSC-RX100M6

ビューティーエフェクト

静止画で撮影した人物がより美しく見えるように、肌を滑らかにする、目を大きくする、歯を白くするなど美容効果をかけることができます。効果はそれぞれ5段階で設定でき、美容効果をかけたファイルは新しいファイルとして記録されます。元の画像はそのまま残ります。

1 MENU →  (再生) → [ビューティーエフェクト] を選ぶ。

2 美容効果をかける顔を選択する。

3 好みのエフェクトを選択し、コントロールホイールで調節する。

 (肌の色調整) :

肌の色を好みに調整する。

1. 上/下で基本となる肌の色を選んでコントロールホイールの中央を押す。
2. 上/下で色の強弱を調節する。

 (なめらか肌) :

肌のしみやしわを見えなくなるよう調整する。

上/下で効果の強弱を調節する。

 (デカリ除去) :

肌のてかりを抑える。肌の色を好みに調整する。

上/下で効果の強弱を調節する。

 (デカ目) :

人物の目を大きくする。

上/下で目の大きさを調節する。

 (歯のホワイトニング) :

人物の歯を白く補正する。画像によっては補正できない場合があります。

上/下で歯の白さを調節する。

複数の効果を続けて使う場合は、効果を設定後、左/右で別の効果を選びます。

ご注意

- 以下の場合、[ビューティーエフェクト] はできません。
 - パノラマ画像
 - 動画
- 小さすぎる顔は美容効果をかけられません。
- 複数の顔に美容効果をかける場合は、一度美容効果をかけた画像を再度選び、別の顔を選んで美容効果をかけてください。
- 画像によっては、美容効果がうまく反映されない場合があります。

デジタルスチルカメラ
DSC-RX100M6

動画から静止画作成

動画から希望のシーンを切り出して、静止画として保存します。はじめに動画で撮影し、動画再生中に一時停止して、静止画では撮影できない決定的な瞬間を切り出して静止画として保存します。

- 1 静止画を切り出したい動画を表示する。
- 2 MENU→（再生）→〔動画から静止画作成〕を選ぶ。
- 3 動画を再生し、一時停止する。
- 4 スロー再生、スロー逆再生、コマ送り、コマ戻しを使って、希望のシーンで停止する。
- 5 （動画から静止画作成）を押して、希望のシーンを静止画として切り出す。
静止画として保存される。

関連項目

- [動画を撮影する](#)
- [動画を再生する](#)

再生画像を拡大する（拡大）

再生した画像を拡大します。写真のピントの具合を確認したいときなどに使います。

- 1 拡大したい画像を表示して、T側にW/T（ズーム）レバーを動かす。
 - W側にW/T（ズーム）レバーを動かして倍率を調整してください。
 - 画像は、撮影時にピントを合わせた位置を中心に拡大されます。ピントの位置情報が得られない場合、画像の中心が拡大されます。
- 2 コントロールホイールの上/下/左/右で表示する場所を移動する。
- 3 MENUボタンまたは、コントロールホイールの中央を押して、拡大再生を終了する。

ヒント

- メニューから拡大再生を行うこともできます。
- MENU → （再生） → [ 拡大の初期倍率] または [ 拡大の初期位置] で、拡大初期倍率や拡大初期位置を変更できます。
- モニターをダブルタップしても、画像を拡大できます。また、拡大位置はモニターをドラッグして動かすこともできます。あらかじめ、[タッチ操作] を[入] に設定してください。

ご注意

- 動画は拡大できません。

関連項目

- [タッチ操作](#)
- [拡大の初期倍率](#)
- [拡大の初期位置](#)

デジタルスチルカメラ
DSC-RX100M6

拡大の初期倍率

画像を再生し拡大表示する（再生ズーム）ときの、拡大の初期倍率を選びます。

1 MENU→（再生）→ [ 拡大の初期倍率] →希望の設定を選ぶ。

メニュー項目の詳細

標準の倍率：

標準の倍率で拡大する。

前回の倍率：

前回の倍率で拡大する。前回の倍率は、再生ズーム画面を終了しても保持される。

関連項目

- [再生画像を拡大する（拡大）](#)
- [拡大の初期位置](#)

デジタルスチルカメラ
DSC-RX100M6

拡大の初期位置

画像を再生し拡大表示する（再生ズーム）ときの、拡大の初期位置を選びます。

1 MENU→（再生）→ [ 拡大の初期位置] →希望の設定を選ぶ。

メニュー項目の詳細

ピント位置：

撮影時にピントを合わせた位置から拡大する。

画面中央：

画面の中央から拡大する。

関連項目

- [再生画像を拡大する（拡大）](#)
- [拡大の初期倍率](#)

デジタルスチルカメラ
DSC-RX100M6

モーションショットビデオ設定

モーションショットビデオの残像の間隔を調整します。

1 MENU→（再生）→〔モーションショットビデオ設定〕→希望の設定を選ぶ。

関連項目

- [モーションショットビデオ](#)

スライドショーで再生する（スライドショー）

画像を自動的に連続再生します。

- 1 MENU→（再生）→【スライドショー】→希望の設定を選ぶ。
- 2 【実行】を選ぶ。

メニュー項目の詳細

リピート：

繰り返し再生する（【入】）か、すべての画像を再生したら停止する（【切】）か選ぶ。

間隔設定：

画像が切り替わる間隔を、【1秒】 / 【3秒】 / 【5秒】 / 【10秒】 / 【30秒】 から選ぶ。

途中で終了するには

MENUボタンを押して終了します。一時停止はできません。

ヒント

- スライドショー再生中に、コントロールホイールの左/右で、画像を戻す/送ることができます。
- 【スライドショー】が実行できるのは、【ビューモード】が【日付ビュー】と【フォルダービュー（静止画）】のときのみです。

デジタルスチルカメラ
DSC-RX100M6

静止画と動画を切り換える（ビューモード）

再生する画像の表示方法（ビューモード）を設定します。

1 MENU→（再生）→〔ビューモード〕→希望の設定を選ぶ。

メニュー項目の詳細

 **日付ビュー：**

日付ごとに表示する。

 **フォルダービュー（静止画）：**

静止画のみを表示する。

 **AVCHD AVCHDビュー：**

AVCHD動画のみを表示する。

 **XAVC S HDビュー：**

XAVC S HD動画のみを表示する。

 **XAVC S 4Kビュー：**

XAVC S 4K動画のみを表示する。

デジタルスチルカメラ
DSC-RX100M6

一覧表示で再生する（一覧表示）

再生時、複数の画像を同時に表示できます。

- 1 W/T（ズーム）レバーをW側にする。
- 2 コントロールホイールの上/下/左/右を押したり、コントロールホイールを回したりして、画像を選ぶ。

表示する枚数を変更する場合

MENU→（再生）→〔一覧表示〕→希望の設定を選ぶ。

メニュー項目の詳細

9枚/25枚

1枚再生画面に戻すには

表示したい画像を選んでいる状態で、コントロールホイールの中央を押す。

希望の画像をすばやく表示するには

コントロールホイールで左側のバーを選び、コントロールホイールの上/下でページを送ることができます。バーを選んでいる状態で、中央を押すと、カレンダー画面、またはフォルダー選択画面が表示されます。アイコンを選んでビューモードを切り換えることもできます。

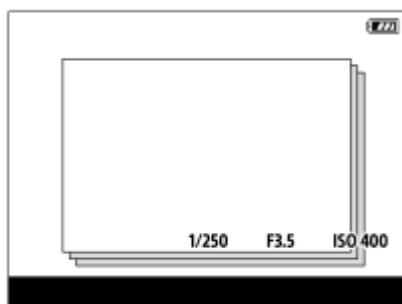
関連項目

- [静止画と動画を切り換える（ビューモード）](#)

連写グループ表示

連続撮影した画像をグループ化して表示するかどうかを設定します。

- 1 MENU→（再生）→[連写グループ表示]→希望の設定を選ぶ。



メニュー項目の詳細

入：

連続撮影した画像をグループ化して表示する。

切：

連続撮影した画像をグループ化して表示しない。

ヒント

- [ドライブモード] が [連続撮影] で撮影された画像がグループ化されます。連続撮影でシャッターボタンを押し続けて撮影されたひと続きの画像が、ひとつのグループになります。
- 一覧表示画面では、連写グループには  が表示されます。

ご注意

- 画像をグループ化して表示できるのは、[ビューモード] を [日付ビュー] にしているときのみです。[日付ビュー] 以外のはきは、[連写グループ表示] を [入] に設定しても、画像はグループ化して表示できません。
- 連写グループを削除すると、グループ内のすべての画像が削除されます。

関連項目

- [連続撮影](#)

デジタルスチルカメラ
DSC-RX100M6

記録画像を自動的に回転させる（記録画像の回転表示）

画像を再生するときの向きを設定できます。

1 MENU→（再生）→〔記録画像の回転表示〕→希望の設定を選ぶ。

メニュー項目の詳細

オート：

本機を回転させると、本機の縦横を判断し、再生している画像が自動で回転する。

マニュアル：

縦位置で撮影した画像を縦向きに表示する。また回転機能で表示する向きを設定した場合はその向きに表示する。

切：

記録画像を常に横向きに表示する。

関連項目

- [画像を回転する（回転）](#)

デジタルスチルカメラ
DSC-RX100M6

モニター明るさ

モニターの明るさを調整します。

- ① MENU→ (セットアップ) → [モニター明るさ] → 希望の設定を選ぶ。

メニュー項目の詳細

マニュアル：

−2 〜 +2の範囲で明るさを選ぶ。

屋外晴天：

屋外の使用に適した明るさに設定する。

ご注意

- 室内で [屋外晴天] にすると明るすぎるため、室内での使用時は [マニュアル] に設定してください。
- 下記の場合は、モニターの明るさは調整できません。最大で [±0] の明るさとなります。
 - − [記録方式] が [XAVC S 4K] のとき
 - − [記録方式] が [XAVC S HD] で、[記録設定] が [120p] のとき
 - − ハイフレームレート撮影時
- Wi-Fi機能を使用して動画撮影を行う際は、モニターの明るさは [−2] に固定されます。

デジタルスチルカメラ
DSC-RX100M6

ファインダー明るさ

ファインダーを使用しているとき、周囲の明るさに合わせて、ファインダーの明るさを調整します。

1 MENU→ (セットアップ) → [ファインダー明るさ] →希望の設定を選ぶ。

メニュー項目の詳細

オート：

自動調整する。

マニュアル：

-2～+2の範囲で明るさを選ぶ。

ご注意

- 下記の場合は、ファインダーの明るさは調整できません。最大で [±0] の明るさとなります。
 - [ 記録方式] が [XAVC S 4K] のとき
 - [ 記録方式] が [XAVC S HD] で、 [ 記録設定] が [120p] のとき
 - ハイフレームレート撮影時

デジタルスチルカメラ
DSC-RX100M6

ファインダー色温度

電子ビューファインダーの色温度を調整します。

① MENU→ (セットアップ) → [ファインダー色温度] →希望の設定を選ぶ。

メニュー項目の詳細

-2～+2 :

－側にすると暖色になり、＋側にすると寒色になる。

ガンマ表示アシスト

S-Logを適用した動画は、広いダイナミックレンジを活用するために、撮影後の編集を前提としています。また、HLGを適用した動画は、HDR対応モニターで表示することを前提としています。このため、撮影時の画像は低コントラストとなりモニタリングがしにくくなりますが、[ガンマ表示アシスト]機能を使うことで、通常のガンマと同等のコントラストを再現することができます。また再生時にも、[ガンマ表示アシスト]を適用した動画をファインダーやモニターで見ることができます。

① MENU→ (セットアップ) → [ガンマ表示アシスト] を選ぶ。

② コントロールホイールの上/下で希望の設定を選ぶ。

メニュー項目の詳細

Assist
OFF 切 :

[ガンマ表示アシスト] を適用しない。

Assist
AUTO オート :

[ピクチャープロファイル] で設定されたガンマが [S-Log2] の場合は [S-Log2→709(800%)] に、[S-Log3] の場合は [S-Log3→709(800%)] に変換して表示する。[ピクチャープロファイル] で設定されたガンマが [HLG]、[HLG1]、[HLG2]、[HLG3] で [カラーモード] が [BT.2020] の場合は [HLG(BT.2020)] に変換して表示する。

[ピクチャープロファイル] で設定されたガンマが [HLG]、[HLG1]、[HLG2]、[HLG3] で [カラーモード] が [709] の場合は [HLG(709)] に変換して表示する。

Assist
S-Log2 S-Log2→709(800%) :

S-Log2をITU709 (800%) 相当に変換して表示する。

Assist
S-Log3 S-Log3→709(800%) :

S-Log3をITU709 (800%) 相当に変換して表示する。

Assist
HLG 2020 HLG(BT.2020) :

[HLG(BT.2020)] に対応したモニターで表示した時と近い画質となるように、本機のモニターやファインダーの画質を調整して表示する。

Assist
HLG 709 HLG(709) :

[HLG(709)] に対応したモニターで表示した時と近い画質となるように、本機のモニターやファインダーの画質を調整して表示する。

ご注意

- 再生している動画のフォーマットがXAVC S 4KまたはXAVC S HDで、ガンマが [HLG]、[HLG1] ~ [HLG3] のときは、動画のガンマ値とカラーモード値によって、HLG(BT.2020)またはHLG(709)に変換して表示します。それ以外の場合は、[ピクチャープロファイル] で設定しているガンマとカラーモードの設定値によって画面を変換して表示します。
- 本機に接続されたテレビやモニターでは、[ガンマ表示アシスト] は適用されません。

関連項目

- [ピクチャープロファイル](#)

デジタルスチルカメラ
DSC-RX100M6

音量設定

動画再生時の音量を設定します。

① MENU→（セットアップ）→【音量設定】→希望の設定を選ぶ。

再生中に音量を変えるには

動画再生中に、コントロールホイールの下を押して、操作パネルから音量設定できます。実際に音量を聞きながら調整できます。

デジタルスチルカメラ
DSC-RX100M6

タイルメニュー

MENUボタンを押したときに、タイルメニューを表示するかを設定します。

1 MENU→ (セットアップ) → [タイルメニュー] →希望の設定を選ぶ。

メニュー項目の詳細

入：
タイルメニュー表示を有効にする。

切：
タイルメニュー表示を無効にする。

デジタルスチルカメラ
DSC-RX100M6

モードダイヤルガイド

モードダイヤルを回したときに撮影モードの説明が表示され、その撮影モード内の項目を変えることもできます。

① MENU→（セットアップ）→[モードダイヤルガイド]→希望の設定を選ぶ。

メニュー項目の詳細

入：
モードダイヤルガイドを表示する。
切：
モードダイヤルガイドを表示しない。

デジタルスチルカメラ
DSC-RX100M6

削除確認画面

削除の確認画面で、[削除] と [キャンセル] のどちらが選択された状態にするかを設定します。

1 MENU →  (セットアップ) → [削除確認画面] → 希望の設定を選ぶ。

メニュー項目の詳細

「削除」が先：

[削除] が選択された状態にする。

「キャンセル」が先：

[キャンセル] が選択された状態にする。

デジタルスチルカメラ
DSC-RX100M6

表示画質

表示画質を変えることができます。

① MENU→ (セットアップ) → [表示画質] →希望の設定を選ぶ。

メニュー項目の詳細

高画質：

高画質で表示する。

標準：

標準の画質で表示する。

ご注意

- [高画質] に設定すると、[標準] に設定した場合よりもバッテリーの消費が多くなります。
- カメラの温度が高くなると、[標準] に固定されることがあります。

デジタルスチルカメラ
DSC-RX100M6

モニター自動OFF

静止画撮影時、一定時間操作が行われないと、自動的に省電力モードに切り替わります。消費電力を抑えたい場合に便利です。

1 MENU→ (セットアップ) → [モニター自動OFF] →希望の設定を選ぶ。

メニュー項目の詳細

切：
自動的に省電力しない。

2秒/5秒/10秒：
設定した秒数の間操作が行われないと、省電力モードに切り替わり、モニターが消える。
[5秒]、[10秒] に設定した場合、設定した時間の2秒前からモニターが暗くなる。

ご注意

- 以下の場合は、[モニター自動OFF] は働きません。
 - モニターを上側に約180度回転したとき
 - 撮影モードが [スイングパノラマ]
 - パワーセーブ機能が働かないとき

デジタルスチルカメラ
DSC-RX100M6

パワーセーブ開始時間

自動的に電源が切れるまでの時間を設定できます。

1 MENU→ (セットアップ) → [パワーセーブ開始時間] →希望の設定を選ぶ。

メニュー項目の詳細

30分/5分/2分/1分

ご注意

- USB給電時、スライドショー中、動画撮影中、パソコンやテレビと接続しているときなどは、パワーセーブ機能は働きません。

デジタルスチルカメラ
DSC-RX100M6

ファインダー収納時の機能

ファインダーの収納時に本機の電源を切るかどうかを、選択します。

① MENU→  (セットアップ) → [ファインダー収納時の機能] → 希望の設定を選ぶ。

メニュー項目の詳細

電源OFFする：

ファインダーの収納時に、電源を切る。

電源OFFしない：

ファインダーの収納時に、電源を切らない。

デジタルスチルカメラ
DSC-RX100M6

タッチ操作

モニターのタッチ操作を有効にするかどうかを設定します。

1 MENU→（セットアップ）→［タッチ操作］→希望の設定を選ぶ。

メニュー項目の詳細

入：
タッチ操作を有効にする。

切：
タッチ操作を無効にする。

関連項目

- [タッチ撮影設定：タッチシャッター](#)
- [タッチ撮影設定：タッチフォーカス](#)
- [タッチパッド設定](#)
- [タッチパネル/タッチパッド](#)

デジタルスチルカメラ
DSC-RX100M6

タッチパネル/タッチパッド

モニター撮影時のタッチ操作をタッチパネル操作と呼び、ファインダー撮影時のタッチ操作をタッチパッド操作と呼びます。タッチパネル操作またはタッチパッド操作の、どちらを有効にするかを設定します。

1 MENU→ (セットアップ) → [タッチパネル/タッチパッド] → 希望の設定を選ぶ。

メニュー項目の詳細

タッチパネル+タッチパッド：

モニター撮影時のタッチパネル操作と、ファインダー撮影時のタッチパッド操作を有効にする。

タッチパネル操作のみ：

モニター撮影時のタッチパネル操作のみを有効にする。

タッチパッド操作のみ：

ファインダー撮影時のタッチパッド操作のみを有効にする。

関連項目

- [タッチ操作](#)

デジタルスチルカメラ
DSC-RX100M6

タッチパッド設定

ファインダー撮影時のタッチパッド操作に関する設定を行います。

1 MENU→ (セットアップ) → [タッチパッド設定] →希望の設定項目を選ぶ。

メニュー項目の詳細

縦持ち時の操作：

縦位置でのファインダー撮影時に、タッチパッド操作を有効にするかどうかを設定する。縦位置での撮影時に鼻などがモニターに触れることによる誤操作を防ぐことができる。

位置指定方法：

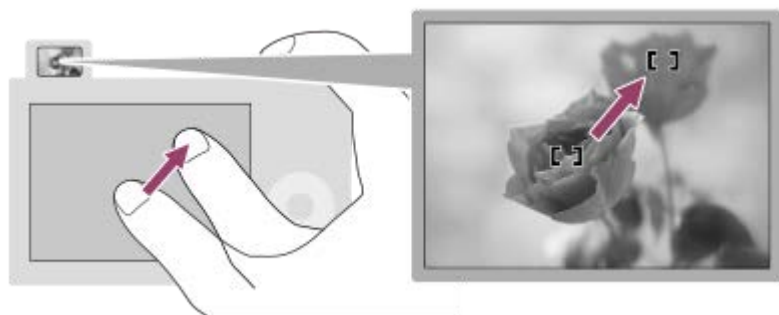
画面でタッチした位置にフォーカス枠を移動する [絶対位置] か、ドラッグの方向と移動量で希望の場所までフォーカス枠を移動する [相対位置] かを設定する。

操作エリア：

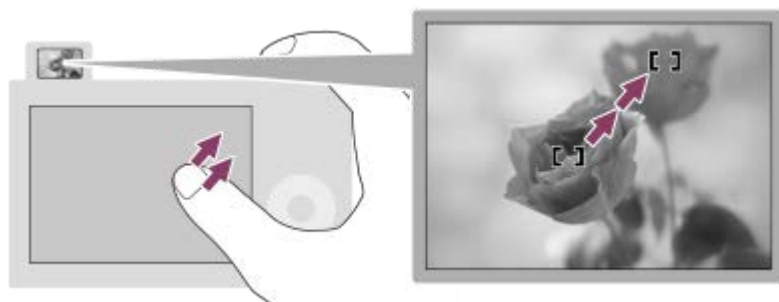
タッチパッド操作で使用するエリアを設定する。操作エリアを制限することで、鼻などがモニターに触れることによる誤操作を防ぐことができる。

位置指定方法について

[絶対位置] に設定すると、フォーカス枠の位置をタッチ操作で直接指定できるため、離れた位置にフォーカス枠をすばやく移動することができます。



[相対位置] に設定すると、広範囲に指を動かすことなく操作しやすい場所でタッチパッド操作ができます。



ヒント

- [位置指定方法] が [絶対位置] のときのタッチパッド操作では、[操作エリア] で設定されているエリアを画面全体と見なします。

デジタルスチルカメラ
DSC-RX100M6

デモモード

本機の「デモモード」とは、一定時間以上の操作をしないと、自動的にメモリーカード内に記録されている動画のスライドショー（デモンストレーション）が始まる機能です。通常は、[切] に設定します。

1 MENU→（セットアップ）→[デモモード]→希望の設定を選ぶ。

メニュー項目の詳細

入：
約1分間操作をしないと、自動的に動画でデモンストレーションが始まる。対象はプロテクトがかかっているAVCHD動画のみ。

[AVCHDビュー] で撮影日時が一番古い動画にプロテクトをかけてください。

切：
デモンストレーションを表示しない。

ご注意

- 付属のACアダプターで接続しているときのみ、設定できます。
- メモリーカード内にプロテクトがかけられたAVCHD動画がないときは、[入] に設定できません。

TC/UB設定

映像に付随するデータとしてタイムコード（TC）とユーザービット（UB）を記録できます。

- 1 MENU→（セットアップ）→ [TC/UB設定] → 変更したい設定値を選ぶ。

メニュー項目の詳細

TC/UB表示設定：

カウンター、タイムコード、ユーザービットの表示を設定する。

TC Preset：

タイムコードを設定する。

UB Preset：

ユーザービットを設定する。

TC Format：

タイムコードの記録方式を選ぶ。

TC Run：

タイムコードの歩進方法を選ぶ。

TC Make：

タイムコードを記録メディアに記録する方法を選ぶ。

UB Time Rec：

時刻をユーザービットコードとして記録する/しないを選ぶ。

タイムコードを設定するには（TC Preset）

1. MENU→（セットアップ）→ [TC/UB設定] → [TC Preset] を選ぶ。
2. コントロールホイールを回して最初の2桁の数値を選ぶ。
 - タイムコードは以下の範囲で設定できます。
[60i] 選択時：00:00:00:00 ～ 23:59:59:29
*24p設定時は末尾2桁を0 ～ 23のうちの4の倍数のフレームで設定できます。
3. 手順2と同様に、他の桁の数値を選び、コントロールホイールの中央を押す。

ご注意

- 自分撮り用にモニターを反転させているとき、タイムコードとユーザービットは表示されません。

タイムコードをリセットするには

1. MENU→（セットアップ）→ [TC/UB設定] → [TC Preset] を選ぶ。
2. （削除）ボタンを押し、タイムコードをリセット（00:00:00:00）する。
別売のリモートコマンダー（RMT-VP1K）でも、タイムコードリセット(00:00:00:00)を行うことができます。

ユーザービットを設定するには（UB Preset）

1. MENU→（セットアップ）→ [TC/UB設定] → [UB Preset] を選ぶ。
2. コントロールホイールを回して最初の2桁の数値を選ぶ。
3. 手順2と同様に、他の桁の数値を選び、コントロールホイールの中央を押す。

ユーザービットをリセットするには

1. MENU→ (セットアップ) → [TC/UB設定] → [UB Preset] を選ぶ。
2.  (削除) ボタンを押し、ユーザービットをリセット (00 00 00 00) する。

タイムコードの記録方式を選ぶには (TC Format)

1. MENU→ (セットアップ) → [TC/UB設定] → [TC Format] を選ぶ。

DF :

タイムコードをドロップフレーム*方式で記録する。

NDF :

タイムコードをノンドロップフレーム方式で記録する。

* タイムコードは30フレームを1秒として処理されますが、実際のNTSC映像信号のフレーム周波数は約29.97フレーム/秒のため、長時間記録しているうちに実時間とタイムコードにズレが生じてきます。これらを補正してタイムコードと実時間が等しくなるようにしたのがドロップフレームです。ドロップフレームでは毎10分目を除く各分の最初の2フレームが間引かれます。このような補正のないものをノンドロップフレームと呼びます。

- 4K/24p、1080/24pで記録するときは、[NDF] に固定されます。

タイムコードの歩進を選ぶには (TC Run)

1. MENU→ (セットアップ) → [TC/UB設定] → [TC Run] を選ぶ。

Rec Run :

記録中のみタイムコードが歩進する。最後に記録した画像上のタイムコードに連続して記録する。

Free Run :

本機の操作に関係なく、連続してタイムコードが歩進する。

- [Rec Run] モードで歩進する場合でも、以下のときはタイムコードが不連続になることがあります。
 - 記録方式を切り換えたとき
 - 記録メディアを取りはずしたとき

タイムコードを記録メディアに記録する方法を選ぶには (TC Make)

1. MENU→ (セットアップ) → [TC/UB設定] → [TC Make] を選ぶ。

Preset :

新たに設定したタイムコードを記録メディアに記録する。

Regenerate :

記録メディアに最後に記録されたタイムコードを読み取り、その値に連続するように記録する。 [TC Run] の設定に関係なく、タイムコードは [Rec Run] モードで歩進する。

デジタルスチルカメラ
DSC-RX100M6

HDMI設定 : HDMI解像度

本機とHDMI端子のあるハイビジョンテレビをHDMIケーブル（別売）で接続して見る場合に、HDMI端子からテレビに出力する解像度を選びます。

1 MENU→（セットアップ）→ [HDMI設定] → [HDMI解像度] →希望の設定を選ぶ。

メニュー項目の詳細

オート :

本機がハイビジョンテレビを自動認識し、出力する解像度を決定する。

2160p/1080p :

2160p/1080pで出力する。

1080p :

HD画質（1080p）で出力する。

1080i :

HD画質（1080i）で出力する。

ご注意

- [オート] で正しく画面が表示されない場合は、接続するテレビに合わせて、[1080i]、[1080p] または [2160p/1080p] を選んでください。

HDMI設定 : 24p/60p出力切換（動画）

〔 記録設定〕で〔24p 50M〕、〔24p 60M〕または〔24p 100M〕を選んでいるときにHDMIで1080/24p、1080/60pのどちらで出力するかを設定します。

1 MENU→（セットアップ）→〔HDMI設定〕→〔HDMI解像度〕→〔1080p〕または〔2160p/1080p〕を選ぶ。

2 MENU→（セットアップ）→〔HDMI設定〕→〔 24p/60p出力切換〕→希望の設定を選ぶ。

メニュー項目の詳細

60p :
60pで出力する。

24p :
24pで出力する。

ご注意

- 手順1、2は順不同で設定可能です。

関連項目

- [記録設定（動画）](#)

HDMI設定 : HDMI情報表示

HDMIケーブル（別売）で本機とテレビを接続したとき、画像情報をテレビに表示するかどうかを切り換えます。

① MENU→（セットアップ）→ [HDMI設定] → [HDMI情報表示] →希望の設定を選ぶ。

メニュー項目の詳細

あり：

テレビに画像情報が表示される。

テレビにはカメラ映像および画像情報が表示されるが、本体のモニターには何も表示されない。

なし：

テレビに画像情報が表示されない。

テレビにはカメラ映像のみ表示され、本体のモニターにはカメラ映像および画像情報が表示される。

ご注意

- 4K対応テレビに接続時は、[なし] になります。
- [ 記録方式] を [XAVC S 4K] に設定し、本機をHDMI機器に接続しながら動画を撮影すると、モニターには画像が表示されません。

HDMI設定 : TC出力（動画）

HDMIを利用して、他の業務用機器にタイムコードを出力するかどうかを設定します。
タイムコード情報をHDMI出力信号に乗せます。画面に出す映像としてではなく、デジタルデータとして伝送し、接続先の機器がそのデータを参照することでタイムデータを知ることができます。

1 MENU→（セットアップ）→ [HDMI設定] → [ TC出力] →希望の設定を選ぶ。

メニュー項目の詳細

入：
タイムコード情報を他の機器に出力する。

切：
タイムコード情報を他の機器に出力しない。

ご注意

- [ TC出力] が [入] のときに、テレビや録画機器に正常に映像が出力されない場合があります。その場合は、 [ TC出力] を [切] にしてご使用ください。

HDMI設定：レックコントロール（動画）

本機と外部録画再生機器をつなぐと、本機の操作で外部録画再生機器へ録画の開始/停止を行えます。

① MENU→（セットアップ）→[HDMI設定]→レックコントロール→希望の設定を選ぶ。

メニュー項目の詳細

入：

STBY 外部録画再生機器へ記録指示を出せる状態

REC 外部録画再生機器へ記録指示を出している状態

切：

本機の操作で外部録画再生機器の録画開始/停止を行わない。

ご注意

- レックコントロール 機能に対応している外部録画再生機器で使用できます。
- レックコントロール 使用時は、撮影モードを （動画）にしてください。
- TC出力 が [切] のときは、レックコントロール は設定できません。
- REC が表示されている場合でも、外部録画再生機器側の設定・状態により、外部録画再生機器が正しく動作しない場合がありますので、事前に動作確認をしてご使用ください。

HDMI設定 : HDMI機器制御

HDMIケーブル（別売）を使ってブラビアリンク対応テレビをつないだ場合に、テレビのリモコンをテレビに向けて、本機を操作できます。

- 1 MENU→ （セットアップ）→ [HDMI設定] → [HDMI機器制御] → 希望の設定を選ぶ。
- 2 ブラビアリンクに対応したテレビと本機を接続する。
テレビの入力が自動で切り替わり、本機の画像が表示される。
- 3 リモコンの「リンクメニュー」ボタンを押す。
- 4 リモコンのボタンで操作する。

メニュー項目の詳細

入：
テレビのリモコンで操作する。

切：
テレビのリモコンで操作しない。

ご注意

- HDMIケーブルで本機とテレビを接続する場合、操作できる項目が制限されます。
- 2008年以降に発売された「ブラビアリンク（リンクメニュー対応）」に対応したテレビで使用できます。また、リンクメニュー操作はお使いのテレビによって異なります。詳しくは、テレビの取扱説明書をご覧ください。
- 他社のテレビとHDMI接続する場合、テレビのリモコン操作で本機が不要な動きをする場合は、MENU→ （セットアップ）→ [HDMI設定] → [HDMI機器制御] を [切] にしてください。

HDMI設定 : HDMI音声出力（動画）

本機をHDMIケーブル（別売）でテレビなどの外部機器と接続して、動画の撮影時やスタンバイ時に、本機のマイクで拾った音声を外部機器へ出力します。撮影しながら、映像と音声の両方を外部機器で確認できます。

動画撮影のスタンバイ時とは

モードダイヤルを （動画）にし、シャッタースピードや絞りなどを設定したあと、MOVIEボタンを押して撮影を開始する前の状態です。画面に、「STBY」が表示されます。

1 MENU → （セットアップ） → [HDMI設定] → [ HDMI音声出力] → 希望の設定を選ぶ。

メニュー項目の詳細

入：
音声を、外部機器へ出力する。

切：
音声を、外部機器へ出力しない。

ご注意

- HDMI音声出力中は、[電子音] を [入] にしていても動画撮影時、終了時の電子音は鳴りません。

関連項目

- [HDMIケーブルを使ってテレビで見る](#)

4K映像の出力先（動画）

本機を4K対応の外部録画再生機器などと接続するときに、どのように記録、HDMI出力するかを設定します。

- 1 モードダイヤルを （動画）にする。
- 2 本機と接続したい機器をHDMIケーブルで接続する。
- 3 MENU→ （セットアップ）→ [ 4K映像の出力先] →希望の設定を選ぶ。

メニュー項目の詳細

メモリーカード+HDMI：

本機のメモリーカードに記録し、外部録画再生機器にも同時に出力する。

HDMIのみ(30p)：

本機のメモリーカードには記録せず、外部録画再生機器に4K動画を30pで出力する。

HDMIのみ(24p)：

本機のメモリーカードには記録せず、外部録画再生機器に4K動画を24pで出力する。

ご注意

- 動画撮影モードで、4K対応機器に接続中のみメニュー設定が可能です。
- [HDMIのみ(30p)] または [HDMIのみ(24p)] に設定したときは、[HDMI情報表示] は一時的に [なし] になります。
- [HDMIのみ(30p)] または [HDMIのみ(24p)] に設定すると、外部録画再生機器に記録中は本機のカウンター（動画の撮影実時間）は進みません。
- [ 記録方式] が [XAVC S 4K] でHDMI接続しているときは、下記の機能は使用できません。
 - － AF時の顔優先
 - － マルチ測光時の顔優先
 - － 中央ボタン押しロックオンAF

関連項目

- [HDMI設定：レックコントロール（動画）](#)
- [記録方式（動画）](#)
- [記録設定（動画）](#)
- [HDMI設定：HDMI情報表示](#)

USB接続

接続するパソコンやUSB機器に合わせてUSB接続の方法を設定します。

あらかじめ、MENU → （ネットワーク）→ [スマートフォン操作設定] → [スマートフォン操作] を [切] に設定してください。

1 MENU → （セットアップ）→ [USB接続] → 希望の設定を選ぶ。

メニュー項目の詳細

オート：

接続するパソコンやその他USB機器に応じて、マストレージとMTPを自動で切り換える。Windows 7、Windows 8.1またはWindows10の場合にはMTPで接続され、特有の機能が使用できる。

マストレージ：

本機とパソコン、その他USB機器と接続するときに使う。

MTP：

本機とパソコン、その他USB機器をMTP接続する。Windows 7、Windows 8.1またはWindows10の場合にはMTPで接続され、特有の機能が使用できる。

PCリモート：

Imaging Edgeを使って、パソコンから撮影したり、撮影した画像をパソコン内に保存したりする。

ご注意

- [USB接続] を [オート] に設定しているときは、接続に時間がかかる場合があります。

関連項目

- [PCリモート設定：静止画の保存先](#)
- [PCリモート設定：RAW+J時のPC保存画像](#)

デジタルスチルカメラ
DSC-RX100M6

USB LUN設定

USB接続の機能を制限して互換性を高めます。

① MENU→  (セッティング) → **[USB LUN設定]** → **希望の設定を選ぶ。**

メニュー項目の詳細

マルチ：

通常は「マルチ」のまま使う。

シングル：

どうしても接続できない場合のみ、「シングル」にする。

デジタルスチルカメラ
DSC-RX100M6

USB給電

本機とパソコン、またはUSB機器をマイクロUSBケーブルで接続するとき、USB給電するかどうかを設定します。

1 MENU→ (セットアップ) → [USB給電] →希望の設定を選ぶ。

メニュー項目の詳細

入：
マイクロUSB ケーブルでパソコンなどと接続したときに給電する。

切：
マイクロUSBケーブルでパソコンなどと接続したときに給電しない。付属のACアダプターをお使いの場合、[切] にしていても給電されます。

USB給電時にできること

USB給電時に行える操作と行えない操作は、以下の通りです。
行える操作は○で、行えない操作は×で表しています。

操作	行える/行えない
撮影	○
再生	○
Wi-Fi/NFC/Bluetooth接続	○
バッテリーの充電	×
バッテリーを入れずにカメラの電源を入れる	×

ご注意

- USB給電を行うには、バッテリーを本機に挿入してください。

PCリモート設定：静止画の保存先

PCリモート撮影中にカメラ本体側にも静止画を保存するかどうか設定します。カメラから離れることなく、カメラ本体で画像を確認したい場合に便利です。

* PCリモートとは：「Imaging Edge」を使って、パソコンから撮影指示を出したり、撮影した画像をパソコン内に保存したりする機能。

1 MENU→（セットアップ）→【PCリモート設定】→【静止画の保存先】→希望の設定を選ぶ。

メニュー項目の詳細

PCのみ：

パソコンのみに静止画を保存する。

PC+カメラ本体：

パソコンとカメラの両方に静止画を保存する。

ご注意

- PCリモート撮影中は、【静止画の保存先】の設定値変更はできません。撮影開始前に設定を行ってください。
- 記録できないメモリーカードをカメラに挿入しているときは、【PC+カメラ本体】を選んでも静止画を撮影できません。
- 【PC+カメラ本体】選択時、カメラにメモリーカードが挿入されていない場合は、【メモリーカードなしリリース】が【許可】になっていてもシャッターは切れません。
- カメラ側で静止画を再生している間は、PCリモートによる撮影はできません。

関連項目

- [USB接続](#)
- [メモリーカードなしリリース](#)
- [PCリモート設定：RAW+J時のPC保存画像](#)

PCリモート設定 : RAW+J時のPC保存画像

PCリモート撮影中に、パソコンに転送する画像ファイルを設定します。

PCリモートで静止画を撮影したとき、パソコン側のアプリケーションは、撮影した画像の転送が終了するまで画像を表示しません。RAW+JPEG撮影を行うとき、RAWとJPEG両方をパソコンへ転送するのではなく、JPEGのみを転送することでパソコン側での表示スピードを上げることができます。

* PCリモートとは : 「Imaging Edge」を使って、パソコンから撮影指示を出したり、撮影した画像をパソコン内に保存したりする機能。

1 MENU→ (セットアップ) → [PCリモート設定] → [RAW+J時のPC保存画像] →希望の設定を選ぶ。

メニュー項目の詳細

RAW+JPEG :

RAWとJPEGをパソコンに転送する。

JPEGのみ :

JPEGのみパソコンに転送する。

RAWのみ :

RAWのみパソコンに転送する。

ご注意

- PCリモート撮影中は、[RAW+J時のPC保存画像] の設定値は変更できません。撮影開始前に設定を行ってください。
- [RAW+J時のPC保存画像] は [ ファイル形式] の設定が [RAW+JPEG] のときのみ設定できます。

関連項目

- [USB接続](#)
- [ファイル形式 \(静止画\)](#)
- [PCリモート設定 : 静止画の保存先](#)

日時設定

日時設定画面は、初めて電源を入れたときや、内蔵バックアップ電池が消耗したときは自動で開きます。2回目以降に設定するとき、このメニューをお使いください。

1 MENU→（セットアップ）→【日時設定】→希望の設定を選ぶ。

メニュー項目の詳細

サマータイム：

サマータイムの【入】 / 【切】を選ぶ。日本国内で使用するときは、【切】を選ぶ。

日時：

日時を設定する。

表示形式：

日付表示順を選ぶ。

ヒント

- サマータイムとは、夏の一定期間、日照時間を有効に使うために時計を標準時刻より進める制度で、欧米諸国では広く採用されています。本機でサマータイムを【入】にすると、時計が1時間進みます。
- 内蔵バックアップ電池を充電するには、本機に充電されたバッテリーを入れ、電源を切ったまま24時間以上放置してください。
- バッテリー充電のたびにリセットされる場合は、内蔵充電式バックアップ電池が消耗している場合があります。相談窓口にお問い合わせください。

デジタルスチルカメラ
DSC-RX100M6

エリア設定

本機を使用するエリアを設定します。

- 1 MENU→ (セットアップ) → [エリア設定] →希望のエリアを選ぶ。

著作権情報

静止画を撮影したとき、ファイルに著作権情報を書き込むことができます。

- 1 MENU→（セットアップ）→〔著作権情報〕→希望の設定項目を選ぶ。
- 2 〔撮影者名設定〕または〔著作権者名設定〕を選ぶと画面にキーボードが表示されるので、希望の名前を入力する。

メニュー項目の詳細

著作権情報書き込み：

静止画に著作権情報を書き込むかどうかを設定する。（〔入〕 / 〔切〕）

- 〔入〕を選ぶと、撮影画面に  が表示されます。

撮影者名設定：

撮影者名を設定する。

著作権者名設定：

著作権者名を設定する。

著作権情報表示：

現在設定されている著作権情報を表示する。

ご注意

- 〔撮影者名設定〕、〔著作権者名設定〕に入力できるのは、アルファベット、数字、記号のみです。最大46文字入力できます。
- 再生時、著作権情報が書き込まれた画像は、画面に  アイコンが表示されます。
- 〔著作権情報〕の不正使用を未然に防ぐため、カメラを貸したり譲渡するときは、〔撮影者名設定〕と〔著作権者名設定〕欄は必ず空欄にしてください。
- 〔著作権情報〕の使用によってトラブルや損害が生じても、弊社では一切の責任を負いかねます。

関連項目

- [キーボードの使いかた](#)

デジタルスチルカメラ
DSC-RX100M6

フォーマット

メモリーカードの動作を安定させるために、メモリーカードを本機ではじめてお使いになる場合には、まず、本機でフォーマット（初期化）することをおすすめします。フォーマットすると、メモリーカードに記録されているすべてのデータは消去され、元に戻すことはできません。大切なデータはパソコンなどに保存しておいてください。

1 MENU→（セットアップ）→【フォーマット】を選ぶ。

ご注意

- フォーマットすると、プロテクトしてある画像や登録情報（M1～M4）も含めて、すべてのデータが消去され、元に戻せません。
- フォーマット中はアクセスランプが点灯します。点灯中はメモリーカードを抜かないでください。
- メモリーカードのフォーマットは、本機で行ってください。パソコンでメモリーカードのフォーマットを行うと、フォーマットの形式によってはメモリーカードが使えなくなることがあります。
- メモリーカードによっては、フォーマットに数分かかる場合があります。
- バッテリー残量が1%未満のときは、フォーマットできません。

デジタルスチルカメラ
DSC-RX100M6

ファイル番号

静止画のファイル番号の付けかたを設定します。

1 MENU→ (セットアップ) → [ファイル番号] →希望の設定を選ぶ。

メニュー項目の詳細

連番：

ファイル番号をリセットせず、9999まで続けてファイル番号を付ける。

リセット：

フォルダーごとにファイル番号を0001から付ける。

(記録フォルダー内にファイルがある場合は、既存の最大番号+1のファイル番号を付ける。)

デジタルスチルカメラ
DSC-RX100M6

ファイル名設定

撮影する静止画のファイル名の先頭3文字を変更します。

- 1 MENU→（セットアップ）→【ファイル名設定】を選ぶ。
- 2 ファイル名の入力欄を選ぶと画面にキーボードが表示されるので、希望の3文字を入力する。

ご注意

- 入力できるのは、大文字のアルファベット、数字、アンダーバーのみです。ただし、1文字目にアンダーバーは使用できません。
- 【ファイル名設定】で設定したファイル名3文字は、設定後に撮影した画像にのみ適用されます。

関連項目

- [キーボードの使いかた](#)

デジタルスチルカメラ
DSC-RX100M6

記録フォルダー選択

〔フォルダー形式〕が〔標準形式〕に設定されていて、フォルダーが2つ以上存在する場合、撮影した画像を保存するフォルダー（記録フォルダー）を選べます。

1 MENU→（セットアップ）→〔記録フォルダー選択〕→希望のフォルダーを選ぶ。

ご注意

- 〔フォルダー形式〕が〔日付形式〕に設定されているときは、記録フォルダーの選択はできません。

関連項目

- [フォルダー形式](#)

デジタルスチルカメラ
DSC-RX100M6

フォルダー新規作成

メモリーカードの中に、静止画を記録するための新しいフォルダーを作成します。既存番号+1のフォルダーが作成されます。次に撮影する画像は新しく作成したフォルダーに記録されます。

1 MENU→（セットアップ）→【フォルダー新規作成】を選ぶ。

ご注意

- 他機で使用していたメモリーカードを本機に入れて撮影すると、自動的に新しいフォルダーが作成される場合があります。
- 1つのフォルダー番号に記録できる画像は最大4000枚です。容量を超えると、自動的に新しいフォルダーが作成される場合があります。

デジタルスチルカメラ
DSC-RX100M6

フォルダー形式

撮影した静止画は、メモリーカードの中のDCIMフォルダーの下に自動生成されたフォルダーに保存されます。そのフォルダー名の付けかたを変更します。

1 MENU→ (セットアップ) → [フォルダー形式] →希望の設定を選ぶ。

メニュー項目の詳細

標準形式：

フォルダー名が、フォルダー番号＋MSDCFになる。

例：100MSDCF

日付形式：

フォルダー名が、フォルダー番号＋年月日（西暦下1桁月日4桁）になる。

例：10080405（100フォルダー、2018年4月5日）

ご注意

- 動画のフォルダー形式は変更できません。

デジタルスチルカメラ
DSC-RX100M6

管理ファイル修復

パソコンでファイル进行操作したなどの原因で、画像を管理しているファイルに何らかの異常が発生すると、メモリーカード内の画像が再生できなくなります。そのような場合に管理ファイルの修復を行います。

1 MENU→（セットアップ）→〔管理ファイル修復〕→〔実行〕を選ぶ。

ご注意

- 十分に充電したバッテリーをお使いください。残量の少ないバッテリーを使用して行くと、データを破損するおそれがあります。

デジタルスチルカメラ
DSC-RX100M6

メディア残量表示

現在撮影できる動画の撮影可能時間を表示します。静止画の枚数も表示されます。

1 MENU→（セットアップ）→【メディア残量表示】を選ぶ。

4-737-296-01(2) Copyright 2018 Sony Corporation

デジタルスチルカメラ
DSC-RX100M6

バージョン表示

お手持ちのカメラのバージョンを表示します。本機のファームウェアのアップデートがリリースされたときなどに確認します。

- 1 MENU→  (セットアップ) → [バージョン表示] を選ぶ。

ご注意

- バッテリー残量が  (残量が3個) 以上でないと、アップデートは行えません。十分に充電したバッテリーをお使いください。

デジタルスチルカメラ
DSC-RX100M6

認証マーク表示

本機が対応している認証表示の一部を確認できます。

- 1 MENU→（セットアップ）→【認証マーク表示】を選ぶ。

デジタルスチルカメラ
DSC-RX100M6

設定リセット

お買い上げ時の設定に戻します。〔設定リセット〕を実行しても、画像は削除されません。

1 MENU→ (セットアップ) →〔設定リセット〕→希望の設定を選ぶ。

メニュー項目の詳細

撮影設定リセット：

主な撮影モードの設定のみを初期値に戻す。

初期化：

カメラのすべての設定を初期化する。

ご注意

- 設定リセット中はバッテリーを抜かないでください。
- 〔ピクチャープロファイル〕で設定した値は、〔撮影設定リセット〕、〔初期化〕のいずれを行った場合もリセットされません。

デジタルスチルカメラ
DSC-RX100M6

項目の追加

MENUの★（マイメニュー）に、お好みのメニュー項目を登録することができます。

- 1 MENU → ★（マイメニュー） → 【項目の追加】を選ぶ。
- 2 コントロールホイールの上/下/左/右で、★（マイメニュー）に追加したい項目を選ぶ。
- 3 コントロールホイールの上/下/左/右で、追加する位置を選ぶ。

ヒント

- ★（マイメニュー）には最大30個の項目を追加することができます。

ご注意

- ★（マイメニュー）には、以下の項目は追加できません。
 - － MENU → （再生）内のすべての項目
 - － [テレビ鑑賞]

関連項目

- [項目の並べ替え](#)
- [項目の削除](#)
- [MENUの使いかた](#)

デジタルスチルカメラ
DSC-RX100M6

項目の並べ替え

MENUの★（マイメニュー）に登録したメニュー項目を並べ替えます。

- 1 MENU → ★（マイメニュー） → [項目の並べ替え] を選ぶ。
- 2 コントロールホイールの上/下/左/右で、並べ替えたい項目を選ぶ。
- 3 コントロールホイールの上/下/左/右で、並べ替え先を選ぶ。

関連項目

- [項目の追加](#)

デジタルスチルカメラ
DSC-RX100M6

項目の削除

MENUの★（マイメニュー）に登録したメニュー項目を削除します。

- 1 MENU → ★（マイメニュー） → **【項目の削除】**を選ぶ。
- 2 コントロールホイールの上/下/左/右で削除したい項目を選び、コントロールホイールの中央を押して削除する。

ヒント

- ページ内のすべての項目を一括で削除するには、MENU → ★（マイメニュー） → **【ページの削除】**を選びます。
- MENU → ★（マイメニュー） → **【全て削除】**を選ぶと、登録したすべてのマイメニュー設定が削除されます。

関連項目

- [ページの削除](#)
- [全て削除](#)
- [項目の追加](#)

デジタルスチルカメラ
DSC-RX100M6

ページの削除

MENUの★（マイメニュー）に登録したメニュー項目を、ページごとに一括で削除します。

- 1 MENU → ★（マイメニュー） → **【ページの削除】**を選ぶ。
- 2 コントロールホイールの左/右で削除したいページを選び、コントロールホイールの中央を押して削除する。

関連項目

- [項目の追加](#)
- [全て削除](#)

デジタルスチルカメラ
DSC-RX100M6

全て削除

MENUの★（マイメニュー）に登録したメニュー項目をすべて削除します。

- 1 MENU → ★（マイメニュー） → 【全て削除】を選ぶ。
- 2 【OK】を選ぶ。

関連項目

- [項目の追加](#)
- [ページの削除](#)

使用上のご注意

取扱説明書（付属）の「お使いになる前に必ずお読みください」もあわせてお読みください。

メモリーカードのバックアップについて

以下の場合など、データが破壊されることがあります。データ保護のために必ずバックアップをお取りください。

- 読み込み中または書き込み中にメモリーカードを取り出したり、USBケーブルを抜いたり、本機の電源を切った場合
- 静電気や電氣的ノイズの影響を受ける場所で使用した場合

管理ファイルエラーについて

管理ファイルが作成されていないメモリーカードを本機に挿入し電源を入れると、メモリーカードの一部の容量を使って自動的に管理ファイルを作成するため、次の操作まで時間がかかることがあります。

管理ファイルエラーが発生したときは、PlayMemories Homeですべての画像をパソコンに取り込んでから、本機でメモリーカードをフォーマットしてください。

使用/保管してはいけない場所

- 異常に高温、低温、または多湿になる場所
炎天下や夏場の窓を閉め切った自動車内は特に高温になり、放置すると変形したり、故障したりすることがあります。
- 直射日光の当たる場所、熱器具の近くでの保管
変色したり、変形したり、故障したりすることがあります。
- 激しい振動のある場所
- 強力な磁気のある場所
- 砂地、砂浜などの砂ぼこりの多い場所
海辺や砂地、あるいは砂ぼこりが起こる場所などでは、砂がかからないようにしてください。故障の原因になるばかりか、修理できなくなることもあります。
- 湿度の高い場所
レンズにカビが発生することがあります。

保管方法

使用後に汚れた場合は、本機を清掃してください。水、砂、ほこり、塩分などが本機に残っていると、故障の原因になります。

持ち運び時のご注意

- 本機に三脚を取り付けたまま、持ち運ばないでください。三脚取り付け部が破損するおそれがあります。
- モニターやフラッシュ部を持ったりレンズ部をぶつけるなど、無理な力を加えないでください。

動作温度についてのご注意

動作温度範囲を超える極端に寒い場所や暑い場所での撮影はおすすめできません。

結露について

- 結露とは、本機を寒い場所から急に暖かい場所へ持ち込んだときなどに、本機の内部や外部に水滴が付くことです。この状態でお使いになると、故障の原因になります。
- 結露を起こりにくくするために本機を寒い所から急に暖かい所に持ち込むときは、ビニール袋に本機を入れて、空気が入らないように密閉してください。約1時間放置し、移動先の温度になじんでから取り出します。

- 結露が起きたときは、電源を切って結露がなくなるまで約1時間放置し、結露がなくなってからご使用ください。特にレンズの内側に付いた結露が残ったまま撮影すると、きれいな画像を記録できませんのでご注意ください。

画像の互換性について

本機は、（社）電子情報技術産業協会（JEITA）にて制定された統一規格“Design rule for Camera File system”（DCF）に対応しています。

他機での動画再生に際してのご注意

XAVC Sの動画は、対応機器以外では再生できません。

モニターおよびファインダーについてのご注意

- 寒いところで使うと、画像が尾を引いて見えることがありますが、故障ではありません。
- モニターを強く押さないでください。モニターにムラが出たり、モニターの故障の原因になります。
- モニターに水滴などがついてぬれてしまった場合は、すぐに柔らかい布でふき取ってください。放置するとモニターの表面が変質したり劣化して故障の原因になります。
- 被写体までの距離が短い場合、レンズに付着したごみや指紋が写り込むことがあります。柔らかい布などを使って、レンズを拭いてください。
- 本機は磁石など磁気がある部品を使用しています。本機にクレジットカードやフロッピーディスクなど磁気の影響を受ける物を近づけないでください。

他社のサービス／ソフトウェアについて

本製品に搭載され、又は本製品で利用可能なネットワークサービス、コンテンツおよびソフトウェア（オペレーションシステム含む）には、各々の利用条件が適用されます。

予告なく提供が中断・終了したり、内容が変更されたり、ご利用に際して別途の登録や料金の支払いが必要になる場合がありますので、ご了承ください。

お手入れについて

レンズやファインダー、フラッシュ発光部をきれいにする

レンズやファインダー、フラッシュ発光部に指紋やゴミが付いて汚れたときは、柔らかい布などを使ってきれいにしてください。

レンズの清掃

- シンナーやベンジンなどの有機溶剤を含むクリーナーは絶対に使用しないでください。
- レンズ面を清掃するときは、市販のブロアーでほこりなどを取り除いてください。汚れがひどい場合は、柔らかい布やレンズティッシュにレンズクリーナーを染み込ませ、レンズの中央から円を描くように軽く拭いてください。レンズクリーナーを直接レンズ面にかけないでください。

表面をきれいにする

水やぬるま湯を少し含ませた柔らかい布で軽く拭いたあと、からぶきします。本機の表面が変質したり塗装がはげたりすることがあるので、以下のことは行わないでください。

- シンナー、ベンジン、アルコール、化学ぞうきん、虫除け、日焼け止め、殺虫剤のような化学薬品類の使用
- 上記が手についたまま本機を扱うこと
- ゴムやビニール製品との長時間の接触

モニターをきれいにする

- ティッシュペーパーなどで強く拭くとコーティングに傷がつくことがあります。
- モニターに指紋やゴミが付いて汚れたときは、表面のゴミなどをやさしく取り除いてから、柔らかい布などを使ってきれいにすることをおすすめします。

静止画の記録可能枚数

メモリーカードを入れて電源を入れると、画面に撮影可能枚数（現在の設定で撮影を続けると、あと何枚撮影できるか）が表示されます。

ご注意

- 撮影可能枚数が「0」でオレンジ色に点滅したときは、メモリーカードの容量がいっぱいです。メモリーカードを交換するか、メモリーカード内の画像を削除してください。
- 「NO CARD」がオレンジ色で点滅したときは、メモリーカードが入っていません。メモリーカードを入れてください。

1枚のメモリーカードで撮影できる枚数

本機でフォーマットしたメモリーカードに記録できる撮影枚数の目安は次のとおりです。当社試験基準メモリーカード使用時の枚数です。

撮影状況および使用するメモリーカードによって記録可能枚数は異なります。

[ JPEG画像サイズ] : [L: 20M]

[ 横縦比] が [3:2] のとき*1

 JPEG画質/ [ ファイル形式]	8GB	32GB	64GB	256GB
スタンダード	1150枚	4800枚	9600枚	37500枚
ファイン	690枚	2800枚	5500枚	22000枚
エクストラファイン	510枚	2050枚	4150枚	16000枚
RAW+JPEG *2	235枚	950枚	1900枚	7500枚
RAW	355枚	1400枚	2850枚	11000枚

*1 [ 横縦比] を [3:2] 以外に設定しているときは、上記の枚数より多く記録できます（RAW設定時は除く）。

*2 [RAW+JPEG] 時の [ JPEG画質] : [ファイン]

ご注意

- 静止画の記録可能枚数が9999枚より多いときでも、「9999」と表示されます。
- 記載の枚数は、当社製メモリーカード使用時の枚数です。

動画の記録可能時間

本機でフォーマットしたメモリーカードに記録できる、動画ファイルを合計したときの最大記録可能時間の目安です。記録時間は、撮影状況および使用するメモリーカードによって異なる場合があります。

〔 記録方式〕が〔XAVC S 4K〕、〔XAVC S HD〕の数値は、〔 プロキシ記録〕を〔切〕にして使用したときの数値です。

	8GB	32GB	64GB	256GB
XAVC S 4K 30p 100M	9分	35分	1時間15分	5時間15分
XAVC S 4K 30p 60M	10分	1時間	2時間5分	8時間35分
XAVC S 4K 24p 100M	9分	35分	1時間15分	5時間15分
XAVC S 4K 24p 60M	10分	1時間	2時間5分	8時間35分
XAVC S HD 120p 100M	9分	35分	1時間15分	5時間15分
XAVC S HD 120p 60M	10分	1時間	2時間5分	8時間35分
XAVC S HD 60p 50M	15分	1時間15分	2時間35分	10時間25分
XAVC S HD 60p 25M	30分	2時間25分	5時間	20時間10分
XAVC S HD 30p 50M	15分	1時間15分	2時間35分	10時間25分
XAVC S HD 30p 16M	50分	3時間50分	7時間45分	31時間30分
XAVC S HD 24p 50M	15分	1時間15分	2時間35分	10時間25分
AVCHD 60i 24M(FX)	40分	2時間55分	6時間	24時間15分
AVCHD 60i 17M(FH)	55分	4時間5分	8時間15分	33時間15分

連続撮影可能時間は、気温約25℃の環境で出荷設定を使って撮影した場合、1回につき最大約29分です。
ただし、XAVC S 4K/XAVC S HD 120p撮影時は約5分です。
(商品仕様による制限)

ご注意

- 撮影シーンに合わせて動画の画質を自動調節するVBR (Variable Bit-Rate) 方式を採用しているため記録時間が変動します。動きの速い映像を記録する場合、メモリーの容量を多めに使用してより鮮明な画像を記録しますが、その分記録時間は短くなります。また、撮影環境や被写体の状態、画質/画像サイズの設定によっても記録時間は変動します。
- 記載の時間は、当社製メモリーカード使用時の時間です。

動画の連続撮影についてのご注意

- 高精細な動画撮影や高速で連写を行うには多くの電力を必要とします。そのため連続して撮影し続けることでカメラ内部、特にイメージセンサーの温度が上昇します。その際、カメラ表面が高温になったり、画質への影響やカメラ内部に対する負荷が生じたりするため、自動的に電源が切れる仕様となっています。
- 連続動画撮影時間は温度環境や動画の記録方式・記録設定、Wi-Fiの接続環境、動画撮影前の使用状況により変動します。カメラの電源を入れ、構図確認や静止画撮影を繰り返し使用していた場合には、カメラ内部の温度が上昇しますので、連続動画撮影時間は短くなります。

- が表示された場合は、本機の温度が上がっています。
- 温度の上昇により動画撮影が停止した場合、電源を切ったまましばらく放置し、カメラの温度が下がってから撮影を再開してください。
- 以下の点に気を付けると、より長く動画を撮影することができます。
 - できるだけ直射日光を避ける
 - 使用しないときはこまめに電源を切る
- 記録方式]が[AVCHD]の場合は、1つの動画ファイルは約2GBで制限されます。連続記録中のファイルサイズが約2GBになると、自動的に新しいファイルが作成されます。

デジタルスチルカメラ
DSC-RX100M6

海外でACアダプター/バッテリーチャージャーを使う

バッテリーチャージャー（別売）やACアダプター（付属）は全世界（AC100V～240V・50Hz/60Hz）で使えます。
ただし、地域によっては壁のコンセントに差し込むための変換プラグアダプターが必要になる場合があります。あらかじめ旅行代理店などでおたずねの上、ご用意ください。

- 主に北米のコンセント形状例：

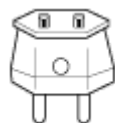


変換プラグアダプターは不要です。

- 主にヨーロッパのコンセント形状例：



変換プラグアダプターが必要です。



ご注意

- 電子式変圧器（トラベルコンバーター）は故障の原因となるので使わないでください。

デジタルスチルカメラ
DSC-RX100M6

AVCHD規格について

「AVCHD」規格は、高効率の圧縮符号化技術を用いて、HD（ハイビジョン）信号を記録するハイビジョンデジタルビデオカメラ用に開発された規格です。映像圧縮にはMPEG-4 AVC/H.264方式を、音声にはドルビーデジタル方式、または、リニアPCM方式を採用しています。

MPEG-4 AVC/H.264方式は、従来の画像圧縮方式に比べ、さらに高い圧縮効率を持った優れた方式です。

- AVCHDは圧縮方式を使用しているため、画面、画角、輝度などが大きく変化する場面では画像が乱れることがありますが故障ではありません。

ライセンスについて

ライセンスに関する注意

本製品には、弊社がその著作権者とのライセンス契約に基づき使用しているソフトウェアが搭載されております。当該ソフトウェアの著作権者様の要求に基づき、弊社はこれらの内容をお客様に通知する義務があります。ライセンス内容(英文)に関しては、本機の内蔵メモリー内に記録されています。本機とパソコンをマストレージ接続し、「PMHOME」 - 「LICENSE」内にあるファイルをご一読ください。

本製品は、MPEG LA, LLC.がライセンス活動を行っているAVC PATENT PORTFOLIO LICENSEの下、次の用途に限りライセンスされています：

(i) 消費者が個人的又は他の報酬を受けていない使用目的で、MPEG-4 AVC規格に合致したビデオ信号（以下、AVC VIDEOといいます）にエンコードすること。

(ii) AVC VIDEO（消費者が個人的又は他の報酬を受けていない使用目的でエンコードしたもの、若しくはMPEG LAよりライセンスを取得したプロバイダーがエンコードしたものに限られます）をデコードすること。

なお、その他の用途に関してはライセンスされていません。プロモーション、商業的に利用することに関する詳細な情報につきましては、MPEG LA, LLC.のホームページをご参照ください。

GNU GPL/LGPL適用ソフトウェアに関するお知らせ

本製品には、以下のGNU General Public License（以下「GPL」とします）または、GNU Lesser General Public License（以下「LGPL」とします）の適用を受けるソフトウェアが含まれております。

お客様は添付のGPL/LGPLの条件に従いこれらのソフトウェアのソースコードの入手、改変、再配布の権利があることをお知らせいたします。

ソースコードは、Webで提供しております。

ダウンロードするには、以下のURLにアクセスしてください。

<http://oss.sony.net/Products/Linux/>

なお、ソースコードの中身についてのお問い合わせはご遠慮ください。

商標について

- メモリースティックおよび  はソニー株式会社の商標または登録商標です。
- XAVC Sおよび  はソニー株式会社の登録商標です。
- AVCHDおよびAVCHDロゴは、パナソニック株式会社とソニー株式会社の商標です。
- Macは米国および他の国々で登録されたApple Inc.の商標です。
- IOSは、シスコの登録商標または商標です。
- iPadは、米国およびその他の国々で登録されたApple Inc.の商標です。
- iPhoneは米国および他の国々で登録されたApple Inc.の商標です。
「iPhone」の商標は、アイホン株式会社からライセンスを受け使用しています。
- Blu-ray Disc™およびBlu-ray™はブルーレイディスクアソシエーションの商標です。
- AOSSは、株式会社バッファローの商標です。
- DLNAおよびDLNA CERTIFIEDはDigital Living Network Allianceの商標です。
- Dolby、Dolby Audio、ドルビー及びダブルD記号はドルビーラボラトリーズの商標です。
- HDMI、High-Definition Multimedia Interface、およびHDMIロゴ は、米国およびその他の国におけるHDMI Licensing Administrator, Inc. の商標または、登録商標です。
- Microsoft、Windowsは、米国Microsoft Corporationの米国およびその他の国における登録商標または商標です。
- SDXCロゴは、SD-3C, LLCの商標です。
- FeliCaプラットフォームマークは、フェリカネットワークス株式会社の登録商標です。
- Android、Google PlayはGoogle Inc.の登録商標または商標です。
- Wi-Fi、Wi-Fiロゴ、Wi-Fi Protected SetupはWi-Fi Allianceの登録商標または商標です。
- NマークはNFC Forum, Inc.の米国およびその他の国における商標あるいは登録商標です。
- Bluetooth®ワードマークおよびロゴは、Bluetooth SIG, Inc.が所有する登録商標であり、ソニー株式会社はこれらのマークをライセンスに基づいて使用しています。
- 「おサイフケータイ」は、株式会社NTTドコモの登録商標です。
- QRコードは株式会社デンソーウェーブの登録商標です。
- その他、本書に記載されているシステム名、製品名は、一般に各開発メーカーの登録商標あるいは商標です。なお、本文中には™、®マークは明記していない場合があります。

困ったときにすること

困ったときは、下記の流れに従ってください。

① モニターに「C/E : □□ : □□」のような表示が出たときは、「自己診断表示」の項目をチェックする。

② バッテリーを取りはずし、約1分後再びバッテリーを入れ、本機の電源を入れる。

③ 設定リセットをする。

④ サイバーショットの最新サポート情報を確認する。

(製品に関するQ&A、パソコンとの接続方法など)

<https://www.sony.jp/support/cyber-shot/>

メモリーカード対応表

使用可能なメモリーカードを確認できます。

また、その他のメモリーカードに関する情報も確認できます。

“メモリースティック”対応表

<http://www.sony.jp/rec-media/memorystick/compatibility/>

SDカード対応表

<http://www.sony.jp/rec-media/sd/compatibility/>

ソフトウェアのサポート情報

<https://www.sony.jp/support/r/disoft/>

⑤ 相談窓口にお問い合わせる。

- 指定宅配便での修理品のお引取り、修理後の製品のお届けまでを一括して行います。WEBサイトをご覧ください。https://www.sony.jp/support/r/cyber-shot/repair_service/

関連項目

- [自己診断表示](#)
- [設定リセット](#)

デジタルスチルカメラ
DSC-RX100M6

自己診断表示

モニターにアルファベットで始まる表示が出たら、本機の自己診断機能が働いています。表示の末尾2桁（□□）の数字は、本機の状態によって変わります。

下記の対処を2、3度繰り返しても正常な状態に戻らないときは、修理が必要な場合があるので相談窓口にご相談ください。

C:32:□□

- ハードウェアの異常です。電源を入れ直してください。

C:13:□□

- データが読めない/書けない状態です。電源を入れ直すかメモリーカードを数回抜き差ししてください。
- フォーマットしていないメモリーカードが入っています。フォーマットしてください。
- 本機では使えないメモリーカードが入っています。またはデータが壊れています。メモリーカードを交換してください。

E:61:□□

E:62:□□

E:91:□□

- 何らかの異常が起きています。設定リセットしてから、電源を入れてください。

E:94:□□

- データの書き込み、消去動作不良です。修理が必要です。相談窓口にご連絡いただき、Eから始まる数字すべてをお知らせください。

関連項目

- [フォーマット](#)
- [設定リセット](#)

デジタルスチルカメラ
DSC-RX100M6

警告表示

エリア/日付/時刻を設定してください

- エリアと日付、時刻を設定してください。長時間使用していない場合は内蔵の充電式バックアップ電池を充電してください。

このメモリーカードは使えません フォーマットしますか？

- パソコンでフォーマットを行ったため、ファイルシステムが変更されています。[実行]を選んでフォーマットを行ってください。本機で使用できるようになりますが、カード内のデータはすべて削除されます。また、フォーマットに多少時間がかかることがあります。それでもメッセージが出る場合は、カードを交換してください。

メモリーカードエラー

- 本機では使えないカードが入っています。
- フォーマットに失敗しています。再度フォーマットを実行してください。

メモリーカードが正しく読めません メモリーカードを入れ直してください

- 本機では使えないメモリーカードが入っています。
- メモリーカードが壊れています。
- メモリーカードの端子が汚れています。

メモリーカードが ロックされています

- 書き込み禁止スイッチまたは誤消去防止スイッチのあるメモリーカードを使用し、スイッチが「LOCK」になっています。解除してください。

メモリーカードが入っていないので シャッターが切れません

- メモリーカードが入っていません。
- 本機にメモリーカードを入れずにシャッターを切る場合は、[メモリーカードなしリリース]を[許可]にしてください。その際、画像は保存されません。

このメモリーカードは 正常に記録・再生できない可能性があります

- 本機では使えないメモリーカードが入っています。

ノイズリダクション実行中

- ノイズリダクションが機能した場合、ノイズ軽減処理を行います。この間は次の撮影はできません。

表示できない画像です

- 他のカメラで撮影した画像や、パソコンで画像を加工した場合は表示できないことがあります。
- パソコンで画像の削除などを行うと、管理ファイルに不整合が発生する場合があります。管理ファイルの修復を行ってください。

DPOF指定できません

- RAW画像をDPOF指定しようとしています。

しばらく使用できません カメラの温度が下がるまで お待ちください

- 連続撮影したため、本機の温度が上がっています。本機の電源を切って、本機の温度が下がり再び撮影可能になるのを待ってから撮影してください。



- 長時間撮影したため、本機の温度が上がっています。



- 本機で日付を管理できる枚数を超えています。



- 本機の管理ファイルへの記録ができません。PlayMemories Homeで、すべての画像をパソコンに取り込み、メモリーカードを修復してください。

管理ファイルエラー

- 管理ファイルに何らかの異常が発生しています。[セットアップ] から [管理ファイル修復] を行ってください。

システムエラー

カメラエラー 電源を入れなおしてください

- バッテリーを一度取り出し、入れ直してください。何度も繰り返す場合は相談窓口にお問い合わせください。

管理ファイルに不整合が見つかりました 修復しますか？

- 管理ファイルが破損しているため、AVCHD動画の撮影、再生ができません。画面の指示に従い修復してください。

拡大できません

回転できない画像です

- 他のカメラで撮影した画像は、拡大/回転できないことがあります。

これ以上フォルダー作成できません

- 上3桁の番号が「999」のフォルダーがメモリーカード内にあります。本機でこれ以上のフォルダーを作成できません。

関連項目

- [メモリーカードについてのご注意](#)
- [フォーマット](#)

デジタルスチルカメラ
DSC-RX100M6

おすすめのページ

-  **画像に位置情報を記録するには**
スマートフォンで取得した位置情報を画像撮影時に記録できます。
-  **タッチフォーカス**
静止画または動画撮影時、ピントを合わせる被写体をタッチ操作で選択できます。
-  **DSC-RX100M6 : サポート情報**
カメラ本体の基本情報や対応アクセサリーの情報、困ったときのQ&Aなどを説明しています。（別ウィンドウで開きます。）